

横壁中村遺跡（2）

ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第5集

2005

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

横壁中村遺跡 (2)

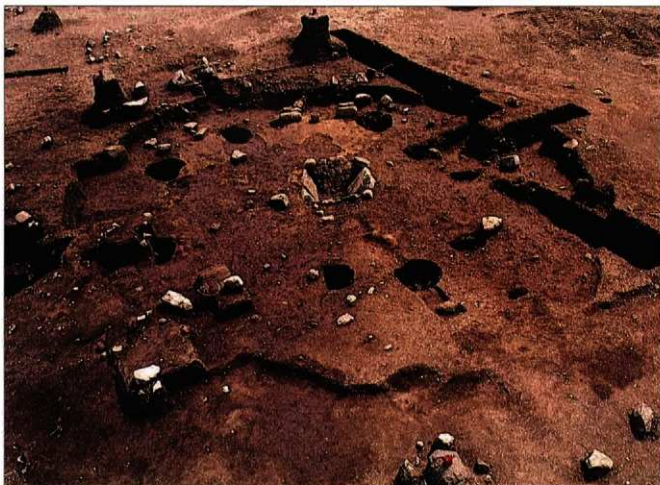
ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第5集

2005

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



横壁中村道跡遠景（北から） 手前を流れる吾妻川との比高差は30m以上ある。



20区34号住居全景（北東から） 炉の奥に黄色いローム質土の貼床が見える。



20区34号住居石囲い炉 左上隅に石枠が立つ。



20区34号住居 南西壁際の長方形配石と伏釜(5)



20区34号住居 柱穴と伏釜(2・9・13)



20区34号住居 東壁際床西の伏釜(1)



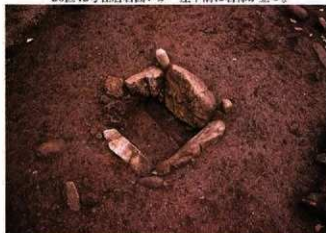
20区42号住居全景(南東から) 主柱穴内側に黄色ローム質土の貼り床を施す。



20区42号住居石囲い炉 左下隅に石棒が立つ。



20区42号住居 石囲い炉の隅に立てた石棒。



20区22号住居石囲い炉 上方隅部に石棒が立つ。



20区56号住居石囲い炉 中央に粗設土器を伴う。



20区8号住居-1



20区6号住居-7



20区34号住居-10



20区34号住居-14



20区5号住居-7



土偶 (20区6号住居-42)



土偶 (20区13号住居-11)



土偶 (20区60号住居-13)



彩文土器 (20区56号住居-36)



彩文土器 (20区10号住居-29)



彩文土器 (20区42号住居-74)



彩色土器 (20区13号住居-10)



彩文土器 (20区8号住居-115)



ヒスイ製大珠 (20区42号住居-100)

序

八ツ場ダムは、首都圏の利水および治水を目的として計画され、現在は吾妻郡長野原町を中心に工事が進められています。

八ツ場ダムの建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、本年度で11年目を迎えます。横壁中村遺跡は平成8年度から発掘調査が開始され、平成17年度以降も調査の継続が予定されており、長期にわたる大規模な調査となりました。また調査された遺構や遺物は本遺跡が縄文時代を中心とする、非常に大きく、また長く続いた集落であることを示しております。これら膨大な資料を整理し報告する作業は平成15年度から開始され、今回は縄文時代中期の住居跡49軒に関する報告を纏めることができました。本書は縄文時代の集落の構造を考える上で、また長野県、新潟県地域との広域な交流を考える上で重要な資料となると考えております。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省八ツ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者のみなさまには、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

また本書が吾妻郡内、ひいては群馬県の歴史を解明する上で末永く活用されることを願い序といたします。

平成17年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野 宇三郎

例言

- 1 本書は、八ッ場ダム建設工事に伴う事前調査として、平成8年度から実施されている「横壁中村遺跡」の発掘調査報告書である。横壁中村遺跡の発掘調査報告書は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第319集『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』として既に刊行されており、天明泥流堆積物下の遺構が報告されている。
本書は横壁中村遺跡20区で検出された縄文時代中期竪穴住居49軒を取り扱っており、横壁中村遺跡の発掘調査報告書2冊目である。
- 2 横壁中村遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字観音堂530地に所在し、長野原町教育委員会と協議の結果、本遺跡名が決定された。
- 3 本発掘調査は、群馬県教育委員会の調整に基づき、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が国土交通省（平成13年1月までは建設省）の委託を受けて実施した。実際の調査において、平成14年度からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団内に八ッ場ダム地域埋蔵文化財調査を目的に設置された八ッ場ダム調査事務所が担当した。
- 4 調査期間は平成8年4月1日から平成17年7月31日であるが、平成17年度以降も調査は継続する見込みである。
- 5 発掘調査組織は下記の通りである。

(1) 発掘調査担当者

平成8年度	主幹兼専門員 綿貫邦男、専門員 榛沢健二、主任調査研究員 関俊明
平成9年度	主幹兼専門員 小野和之、専門員 榛沢健二、主任調査研究員 関俊明、 調査研究員 松原孝志
平成10年度	主幹兼専門員 小野和之、専門員 児島良昌、主任調査研究員 関俊明、 調査研究員 松原孝志
平成11年度	主幹兼専門員 藤巻幸男、主任調査研究員 関俊明、調査研究員 松原孝志、久保学、 石田真
平成12年度	主幹兼専門員 藤巻幸男、専門員 田村公夫、主任調査研究員 関俊明、調査研究員 松原孝志、久保学、石田真、小林大悟
平成13年度	主幹兼専門員 藤巻幸男、主任調査研究員 渡辺弘幸、池田政志、調査研究員 石坂 聡、諸田康成、斎藤幸男
平成14年度	主幹兼専門員 藤巻幸男、専門員 池田政志、主任調査研究員 岡部豊、松原孝志、 阿久津聡、唐沢友之、調査研究員 石田真
平成15年度	専門員 藤巻幸男、廣津英一、渡辺弘幸、池田政志、主任調査研究員 阿久津聡、唐 沢友之、調査研究員 石田真
平成16年度	専門員 渡辺弘幸、主任調査研究員 阿久津聡

(2) 事務担当者

平成8年度	理事長 小寺弘之、常務理事 菅野清、事務局長 原田恒弘、管理部長 蜂巣実、 調査研究第1部長 赤山容造、調査研究第2課長 岸田治男、総務課長 小沼淳、 総務課総務係長 笠原秀樹、経理係長 国定均、主任 須田朋子、吉田有光、柳
-------	--

	宏、主事 宮崎忠司
平成9年度	理事長 小寺弘之、常務理事 菅野清、事務局長 原田恒弘、副事務局長兼調査研究第1部長 赤山容造、管理部長 渡辺健、調査研究第2課長 能登健、総務課長 小沢淳、総務課総務係長 笠原秀樹、経理係長 井上剛、主任 須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、主事 岡島仲昌、宮崎忠司
平成10年度	理事長 菅野清、常務理事兼事務局長兼調査研究第1部長 赤山容造、管理部長 渡辺健、調査研究第2課長 能登健、総務課長 坂本敏夫、総務課総務係長 笠原秀樹、経理係長 小山建夫、係長代理 須田朋子、主任 吉田有光、柳岡良宏、岡島仲昌、主事 宮崎忠司
平成11年度	理事長 小野宇三郎、常務理事兼事務局長 赤山容造、管理部長 住谷進、調査研究第1部長 神保佑史、調査研究第1課長 能登健、総務課長 坂本敏夫、総務課総務係長 笠原秀樹、経理係長 小山建夫、係長代理 須田朋子、吉田有光、主任 柳岡良宏、岡島仲昌、主事 片岡徳雄
平成12年度	理事長 小野宇三郎、常務理事兼事務局長 赤山容造、管理部長 住谷進、調査研究第2部長 能登健、調査研究第5課長 飯島義雄、総務課長 坂本敏夫、総務課総務係長 笠原秀樹、経理係長 小山建夫、係長代理 須田朋子、吉田有光、主任 柳岡良宏、森下弘美、主事 片岡徳雄
平成13年度	理事長 小野宇三郎、常務理事 吉田豊、事務局長 赤山容造、管理部長 住谷進、調査研究部長 能登健、調査研究第4課長 下条正、総務課長 大島信夫、総務課総務係長 笠原秀樹、経理係長 小山建夫、係長代理 須田朋子、吉田有光、森下弘美、主事 片岡徳雄
平成14年度	理事長 小野宇三郎、常務理事 吉田豊、事業局長 神保佑史、管理部長 萩原利通、八ツ場ダム調査事務所長 水田稔、調査研究部長 津金澤吉茂、調査研究課長 下条正、庶務係長 野口富太郎、主事 矢嶋知恵子
平成15年度	理事長 小野宇三郎、常務理事 住谷永市、事業局長 神保佑史、管理部長 萩原利通、八ツ場ダム調査事務所長 水田稔、調査研究部長 津金澤吉茂、調査研究課長 斎藤和之、庶務係長 野口富太郎、主事 丸山知恵子
平成16年度	理事長 小野宇三郎、常務理事 住谷永市、事業局長 神保佑史、管理部長 矢崎俊夫、八ツ場ダム調査事務所長 巾隆之、調査研究部長 佐藤明人、調査研究課長 斎藤和之、庶務係長 野口富太郎、主事 富沢よねこ

6 整理期間は平成15年4月1日から平成17年3月31日である。

7 整理組織は下記の通りである。

(1) 整理担当者

平成15年度 専門員 藤巻幸男

平成16年度 専門員 池田政志

(2) 事務担当者は発掘調査組織と同一である。

8 本報告書作成の担当

編集 藤巻幸男、池田政志

本文執筆 藤巻幸男（序章第5節、第1章第1節）、池田政志（前記以外）

遺構写真撮影 各調査担当者

遺物写真撮影 佐藤元彦

機械実測 富沢スミ江 伊東博子 岸弘子 廣津真希子

委託関係 遺構測量および空中写真 株式会社測研

遺構図デジタル編集 株式会社測研

整理補助 平成15年度 鈴木幹子 水出園江 吉澤新二郎 岡田隆行 茂木恵理子

平成16年度 水出園江 吉澤新二郎 岡田隆行 茂木恵理子 武藤裕子 霜田順子

- 9 本報告書では群馬・埼玉両県教育委員会教育長が取り交わした「埋蔵文化財保護の協力に関する協定書」に基づき、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団がハツ場ダム建設工事に伴う横壁中村遺跡埋蔵文化財整理事業を担当している。

埼玉県埋蔵文化財調査事業団における担当者は、主席調査員 金子直行である。

- 10 出土遺物及び記録図・写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 11 発掘調査及び本書の作成にあたっては、次の機関、諸氏から貴重なご教示やご指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。（敬称省略、五十音順）

国土交通省関東地方建設局ハツ場ダム工事事務所 長野原町教育委員会

飯島義雄 石田真 大竹幸恵 金子直行 小池岳史 佐藤雅一 白石光男 寺内隆夫 富田孝彦

能登健 萩原昭朗 平林彰 福島永 松島榮治 綿田弘実 渡辺清志

凡例

- 挿入中に使用した方位は、座標北を表している。本書で使用する測量図の座標はすべて、2002年4月改正以前の日本測地系を用いている。
- 遺構図の縮尺については、住居の全体にかかる図は1/60、住居内の炉等、個別の図は1/30である。
- 遺構番号は、調査時の番号を用いている。今回の報告は、縄文時代中期の竪穴住居を対象としているため、遺構番号は連続しない。また、発掘調査中、整理作業中に住居と認定できないものもあり、これらも欠番としている。
- 遺構図面中における遺物番号は遺物実測図の番号と一致する。また、●は土器、▲は石器の出土位置を表しており、図示した遺物でこの表示のない遺物、遺構図中に番号のない遺物は出土位置を記録しなかったものである。
- 遺物図の縮尺は土器実測図は1/4、土器拓本は1/3、石器1/3を原則としたが、これ以外の縮尺を用いている場合も多い。その場合は各遺物実測図に記したので参照していただきたい。
- 写真図版中の遺物の縮尺は、概ね遺物実測図と同縮尺とした。
- 遺物観察表、石器計測表の記載方法は下記の通りである。
 - (1) 土器の計測値の単位はcmである。
 - (2) 石器の計測値の単位はmmである。
 - (3) 石器類の重量はすべて残存値であり、単位はgである。
 - (4) 色調については、農林水産省水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修の新版標準土色帖に基づいている。
- 石器実測図における白抜き部は、磨り面を表す。

目次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
図版目次	
表目次	

序章

第1節 発掘に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経過	2
第3節 調査の方法	4
第4節 周辺の環境	
(1) 地理的環境	5
(2) 歴史的環境	5
第5節 遺跡の概要	
遺構、遺物の概要	11
第6節 遺跡の概要	
基本層序	12

第1章 発見された遺構と遺物

第1節 竪穴住居について	13
第2節 遺物観察表	41
第3節 遺構図	91
第4節 遺物実測図	138

抄録

写真図版

挿図目次

第 1 図	年度別調査区 全体図	図 54	20区	5号住居出土遺物
第 2 図	遺跡位置及び周辺遺跡図	図 55	20区	5号住居出土遺物
第 3 図	遺構全体図	図 56	20区	5号住居出土遺物
第 4 図	横断中村遺跡基本土層	図 57	20区	5号住居出土遺物
第 5 図	20区 中期住居出土土器分類グラフ	図 58	20区	5号住居出土遺物
第 6 図	20区 中期住居出土土器起点数	図 59	20区	5号住居出土遺物
		図 60	20区	5号住居出土遺物
図 1	20区 住居全体図	図 61	20区	6号住居出土遺物
図 2	20区 2号、3号、4号住居	図 62	20区	6号住居出土遺物
図 3	20区 5号住居	図 63	20区	6号住居出土遺物
図 4	20区 5号住居遺物出土状況図	図 64	20区	6号住居出土遺物
図 5	20区 6号、7号住居	図 65	20区	8号住居出土遺物
図 6	20区 8号住居	図 66	20区	8号住居出土遺物
図 7	20区 10号住居	図 67	20区	8号住居出土遺物
図 8	20区 10号住居遺物出土状況図	図 68	20区	8号住居出土遺物
図 9	20区 12号住居	図 69	20区	8号住居出土遺物
図 10	20区 13号、14号住居	図 70	20区	8号住居出土遺物
図 11	20区 13号、14号、15号住居	図 71	20区	8号、10号住居出土遺物
図 12	20区 16号、20号住居	図 72	20区	10号住居出土遺物
図 13	20区 17号住居	図 73	20区	10号住居出土遺物
図 14	20区 17号住居遺物出土状況図	図 74	20区	10号、12号住居出土遺物
図 15	20区 18号、21号住居	図 75	20区	12号住居出土遺物
図 16	20区 22号住居	図 76	20区	13号住居出土遺物
図 17	20区 23号住居	図 77	20区	14号、15号住居出土遺物
図 18	20区 24号住居	図 78	20区	16号、17号住居出土遺物
図 19	20区 25号住居	図 79	20区	17号住居出土遺物
図 20	20区 30号、35号、36号住居	図 80	20区	17号住居出土遺物
図 21	20区 34号住居	図 81	20区	17号住居出土遺物
図 22	20区 34号住居遺物出土状況図	図 82	20区	17号住居出土遺物
図 23	20区 34号住居伊	図 83	20区	17号住居出土遺物
図 24	20区 34号住居配石と伏櫛	図 84	20区	17号住居出土遺物
図 25	20区 34号住居配石と柱	図 85	20区	18号住居出土遺物
図 26	20区 37号、38号住居	図 86	20区	18号住居出土遺物
図 27	20区 41号、42号、43号住居重複関係図	図 87	20区	20号、21号住居出土遺物
図 28	20区 41号住居	図 88	20区	22号住居出土遺物
図 29	20区 42号住居	図 89	20区	22号住居出土遺物
図 30	20区 42号住居(伊、埋塞)	図 90	20区	23号住居出土遺物
図 31	20区 43号住居	図 91	20区	24号住居出土遺物
図 32	20区 43号住居遺物出土状況図	図 92	20区	24号住居出土遺物
図 33	20区 43号住居(瀬り方)	図 93	20区	24号、25号住居出土遺物
図 34	20区 44号住居	図 94	20区	25号、30号、34号住居出土遺物
図 35	20区 48号、49号住居	図 95	20区	34号住居出土遺物
図 36	20区 50号住居	図 96	20区	34号住居出土遺物
図 37	20区 51号住居	図 97	20区	34号住居出土遺物
図 38	20区 51号住居遺物出土状況図	図 98	20区	34号住居出土遺物
図 39	20区 53号、54号住居	図 99	20区	35~37号住居出土遺物
図 40	20区 55号住居	図 100	20区	37号、38号住居出土遺物
図 41	20区 56号住居	図 101	20区	38号住居出土遺物
図 42	20区 57号、58号住居	図 102	20区	38号住居出土遺物
図 43	20区 60号住居	図 103	20区	38号住居出土遺物
図 44	20区 60号、62号、64号住居	図 104	20区	41号住居出土遺物
図 45	20区 66号、67号住居	図 105	20区	41号住居出土遺物
図 46	20区 66号住居	図 106	20区	42号住居出土遺物
図 47	20区 65号、69号、76号住居	図 107	20区	42号住居出土遺物
図 48	20区 2号住居出土遺物	図 108	20区	42号住居出土遺物
図 49	20区 2号、3号住居出土遺物	図 109	20区	42号住居出土遺物
図 50	20区 3号、4号住居出土遺物	図 110	20区	42号住居出土遺物
図 51	20区 5号住居出土遺物	図 111	20区	42号住居出土遺物
図 52	20区 5号住居出土遺物	図 112	20区	42号住居出土遺物
図 53	20区 5号住居出土遺物	図 113	20区	43号住居出土遺物
		図 114	20区	43号住居出土遺物
		図 115	20区	43号住居出土遺物

図116	20区	43号住居出土遺物	4	20区	10号住居遺物出土状況(東から)	
図117	20区	43号住居出土遺物	5	20区	10号住居土器を伴う方形配石(北西から)	
図118	20区	43号、44号住居出土遺物	6	20区	10号住居方形配石内の土器	
図119	20区	44号、48号住居出土遺物	7	20区	10号住居遺物出土状況(近接)	
図120	20区	48号、49号住居出土遺物	8	20区	10号住居貯金景(北東から)	
図121	20区	50号、51号住居出土遺物	P L 8	1	20区	12号住居貯金景確認状況
図122	20区	51号住居出土遺物	2	20区	12号住居貯金景(北東から)	
図123	20区	51号住居出土遺物	3	20区	12号住居貯金景(北東から)	
図124	20区	53号住居出土遺物	4	20区	13号住居貯金景(北から)	
図125	20区	53号住居出土遺物	5	20区	13号住居遺物出土状況(北から)	
図126	20区	54~56号住居出土遺物	6	20区	13号住居貯金景(北から)	
図127	20区	56号住居出土遺物	7	20区	14号住居貯金景(北から)	
図128	20区	56号住居出土遺物	8	20区	14号住居貯金景(北から)	
図129	20区	56~58号住居出土遺物	P L 9	1	20区	16号住居確認状況(西から)
図130	20区	60号住居出土遺物	2	20区	16号住居貯金の埋没状況	
図131	20区	60号、62号、64号住居出土遺物	3	20区	16号住居貯金景(北から)	
図132	20区	64号、65号住居出土遺物	4	20区	16号住居貯金景内埋設土器	
図133	20区	65号、66号住居出土遺物	5	20区	20号住居貯金景(西から)	
図134	20区	66号、67号住居出土遺物	6	20区	20号住居貯金景内埋設土器	
図135	20区	67号、76号住居出土遺物	7	20区	17号住居確認状況(南から)	
			8	20区	17号住居覆土層の遺物出土状況(南から)	
			P L 10	1	20区	17号住居覆土層の遺物出土状況(近接)
			2	20区	17号住居覆土層の遺物出土状況(南から)	
			3	20区	17号住居出入口部敷土に伴う墓石の確認状況	
			4	20区	17号住居出入口部埋土	
			5	20区	17号住居出入口部埋土の埋設状況	
			6	20区	17号住居出入口部埋土掘り方	
			7	20区	17号住居貯金景(南東から)	
			8	20区	17号住居貯金景(南東から)	
			P L 11	1	20区	18号住居貯金景(東から)
			2	20区	18号住居遺物出土状況(東から)	
			3	20区	21号住居貯金景(南東から)	
			4	20区	21号住居貯金の埋没状況	
			5	20区	21号住居貯金景(南から)	
			6	20区	21号住居貯金景内埋設土器	
			7	20区	22号住居貯金景(南東から)	
			8	20区	22号住居貯金の埋没状況(南東から)	
			P L 12	1	20区	22号住居貯金景(西から)
			2	20区	22号住居貯金の掘り方と埋設土器	
			3	20区	22号住居貯金景内埋設土器(近接)	
			4	20区	23号住居確認状況(東から)	
			5	20区	23号住居奥壁の礎石(北から)	
			6	20区	23号住居貯金景(北東から)	
			7	20区	23号住居山側の床面敷石(北東から)	
			8	20区	23号住居柱穴確認状況(北東から)	
			P L 13	1	20区	23号住居貯金景内埋設土器
			2	20区	23号住居貯金景内埋設土器の断面	
			3	20区	23号住居貯金景内埋設土器(2号)	
			4	20区	23号住居貯金景内埋設土器(1号)	
			5	20区	24号住居遺物・礎の出土状況(南西から)	
			6	20区	24号住居遺物・礎の出土状況(南東から)	
			7	20区	24号住居貯金景の遺物出土状況(東から)	
			8	20区	24号住居奥壁の遺物出土状況(南東から)	
			P L 14	1	20区	24号住居出入口部敷土と石礎(北東から)
			2	20区	24号住居貯金景(南西から)	
			3	20区	24号住居貯金景確認状況(南西から)	
			4	20区	24号住居貯金景(南西から)	
			5	20区	24号住居出入口部埋土(東から)	
			6	20区	24号住居出入口部埋土(東から)	
			7	20区	25号住居貯金景(北東から)	
			8	20区	25号住居柱穴確認状況(北東から)	
			P L 15	1	20区	25号住居貯金の埋没状況

図版目次

P L 1	1	横塚中村遺跡遺景(北から)
	2	20区 近景(東から)
P L 2	1	20区 近世石垣の調査(西から)
	2	20区 縄文時代の調査状況(北西から)
P L 3	1	20区 2号住居確認状況(北から)
	2	20区 2号住居覆土層の礎石(東から)
	3	20区 2号住居覆土層下の礎石(東から)
	4	20区 2号住居遺物出土状況(南東から)
	5	20区 2号住居遺物出土状況(東から)
	6	20区 2号住居貯金の調査
	7	20区 2号住居貯金の埋没状況(南西から)
	8	20区 3号住居貯金の残存状況(南から)
P L 4	1	20区 4号住居遺物出土状況(北西から)
	2	20区 4号住居貯金景(北から)
	3	20区 4号住居貯金の掘り方(北から)
	4	20区 5号住居覆土層の礎石の状況(西から)
	5	20区 5号住居遺物出土状況(北から)
	6	20区 5号住居埋設土の状況(北から)
	7	20区 5号住居遺物出土状況(西から)
	8	20区 5号住居貯金の埋没状況(西から)
P L 5	1	20区 5号住居貯金景(西から)
	2	20区 5号住居石礎(83)出土状況
	3	20区 6号住居確認状況(東から)
	4	20区 6号住居覆土層の礎石(東から)
	5	20区 6号住居覆土層下の礎石(近接)
	6	20区 6号住居覆土層下の礎石(東から)
	7	20区 6号住居貯金景(北から)
	8	20区 6号住居貯金景(南から)
P L 6	1	20区 6号住居貯金の埋没状況
	2	20区 6号住居貯金景(東から)
	3	20区 6号住居床面に伏せた浅鉢(6)
	4	20区 6号住居石礎(48)出土状況
	5	20区 7号住居貯金景
	6	20区 8号住居確認状況(北東から)
	7	20区 8号住居覆土層の遺物・礎
	8	20区 8号住居遺物出土状況(南東から)
P L 7	1	20区 10号住居確認状況(北から)
	2	20区 10号住居貯金景(西から)
	3	20区 10号住居遺物出土状況(北東から)

	2	20区	25号住居伊 (南から)		P.L.24	1	20区	42号住居全景 (南西から)
	3	20区	30号住居確認状況 (南から)		2	20区	42号住居貼り床状況 (南西から)	
	4	20区	30号住居掘り方調査 (南から)		3	20区	42号住居伊辺の状況 (北東から)	
	5	20区	30号住居伊内埋設土器 (南から)		4	20区	42号住居伊の埋設土	
	6	20区	30号住居伊内埋設土器		5	20区	42号住居伊全景 手前左手角に石棒	
	7	20区	34号住居 住居東側遺物出土状況 (北から)		P.L.25	1	20区	42号住居伊の東角に設置された石棒
	8	20区	34号住居伏裳確認状況 (9-13)		2	20区	42号住居伊内から石棒を見る	
P.L16	1	20区	34号住居遺物出土状況 (西から)		3	20区	42号住居石棒設置状況	
	2	20区	34号住居伏裳確認状況 (9-13)		4	20区	42号住居石棒設置状況	
	3	20区	34号住居伏裳確認状況 (9-13)		5	20区	42号住居石棒設置状況	
	4	20区	34号住居伏裳 (2・9-13) と柱穴		6	20区	42号住居伊掘り方	
	5	20区	34号住居伏裳確認状況 (1)		7	20区	42号住居東側壁の出入り口部埋塞	
P.L17	1	20区	34号住居 住居西側遺物出土状況 (北から)		8	20区	42号住居埋塞の設置状況	
	2	20区	34号住居主要土器 (10-12) 出土状況		P.L.26	1	20区	43号住居土中の礎の確認状況 伊は41住
	3	20区	34号住居主要土器 (10) 出土状況		2	20区	43号住居全形確認状況 (東から)	
	4	20区	34号住居主要土器 (12) 出土状況		3	20区	43号住居土中の礎	
	5	20区	34号住居全景 (北東から)		4	20区	43号住居土中の礎 (2面目)	
P.L18	1	20区	34号住居方形配石確認状況 (北東から)		5	20区	43号住居全景 (南東から)	
	2	20区	34号住居方形配石確認状況		6	20区	43号住居伊 (北東から)	
	3	20区	34号住居1号方形配石 (西から)		7	20区	43号住居伊 (北東から)	
	4	20区	34号住居1号方形配石 (北から)		8	20区	43号住居掘り方 (南東から)	
	5	20区	34号住居伏裳 (5) 確認状況		P.L.27	1	20区	44号住居全景 (北から)
	6	20区	34号住居貼り床面と伏裳 (5)		2	20区	44号住居全景 (東から)	
	7	20区	34号住居主要土器 (14) 出土状況		3	20区	44号住居伊 (北から)	
	8	20区	34号住居1号方形配石と主要土器 (14)		4	20区	44号住居伊 (西から)	
P.L19	1	20区	34号住居貼り床面と方形配石 (北から)		5	20区	48号住居全景 (北東から)	
	2	20区	34号住居1号方形配石 (北から)		6	20区	48号住居伊 (北東から)	
	3	20区	34号住居1号方形配石 (近接)		7	20区	49号住居全景 (北西から)	
	4	20区	34号住居1号方形配石 石下の状況		8	20区	49号住居伊 (北から)	
	5	20区	34号住居2号方形配石 (北から)		P.L.28	1	20区	49号住居掘り方調査状況
	6	20区	34号住居2号方形配石		2	20区	50号住居全景 (北東から)	
	7	20区	34号住居2号方形配石 (近接)		3	20区	50号住居伊確認状況 上の伊は48号住居	
	8	20区	34号住居2号方形配石 石下の状況		4	20区	50号住居伊 (北東から)	
P.L20	1	20区	34号住居伊埋設状況		5	20区	51号住居遺物出土状況 (西から)	
	2	20区	34号住居伊の大きさ		6	20区	51号住居遺物出土状況 (北西から)	
	3	20区	34号住居伊全景 (上から)		7	20区	51号住居遺物出土状況 (10近接)	
	4	20区	34号住居伊全景 (北東から)		8	20区	51号住居遺物出土状況 (10近接)	
	5	20区	34号住居伊の角に設置された石棒 (北から)		P.L.29	1	20区	51号住居土器群の下の礎群
	6	20区	34号住居石棒設置状況 (南から)		2	20区	51号住居全景 (南から)	
	7	20区	34号住居2号伊 (旧伊) 確認状況 (東から)		3	20区	51号住居 住居輪郭に赤ふ礎 (北西から)	
	8	20区	34号住居伊掘り方 (南東から)		4	20区	51号住居伊	
P.L21	1	20区	35号住居確認状況 (西から)		5	20区	51号住居石皿 (20) 出土状況	
	2	20区	35号住居伊埋設土器の確認状況 (南から)		6	20区	53号住居確認状況 (北西から) 手前は60住	
	3	20区	35号住居伊埋設土器内の埋設土		7	20区	53号住居遺物出土状況 (北西から)	
	4	20区	35号住居伊埋設土器の埋設状況		8	20区	53号住居全景 (北から)	
	5	20区	36号住居伊辺の状況 (西から)		P.L.30	1	20区	54号住居確認状況 (北西から)
	6	20区	36号住居伊 (西から)		2	20区	54号住居確認状況 (近接)	
	7	20区	37号住居全景 (南西から)		3	20区	54号住居調査状況 (北西から)	
	8	20区	37号住居伊辺の遺物出土状況 (南から)		4	20区	54号住居全景 (南から)	
P.L22	1	20区	38号住居確認状況 (南西から)		5	20区	54号住居伊確認状況 (南西から)	
	2	20区	38号住居遺物出土状況 (東から)		6	20区	54号住居伊 (南西から)	
	3	20区	38号住居全景 (東から)		7	20区	55号住居全景 (南東から)	
	4	20区	38号住居掘り方 (西から)		8	20区	55号住居伊 (南東から)	
	5	20区	41号住居遺物・礎出土状況 (北西から)		P.L.31	1	20区	56号住居確認状況 (北西から)
	6	20区	41号住居遺物・礎出土状況 (南東から)		2	20区	56号住居遺物出土状況 (北西から)	
	7	20区	41号住居遺物・礎出土状況 (近接)		3	20区	56号住居主要土器 (7) 出土状況	
	8	20区	41号住居伊 (北東から)		4	20区	56号住居主要土器 (1) 出土状況	
P.L23	1	20区	41、42、43号住居確認状況 (南西山麓から)		5	20区	56号住居全景 (北西から)	
	2	20区	42号住居確認状況 (西から)		6	20区	56号住居伊 (北西から)	
	3	20区	42号住居南半部の遺物出土状況 (西から)		7	20区	56号住居伊 (南西から)	
	4	20区	42号住居43号住居との重複部 (南から)		8	20区	56号住居掘り方 (北西から)	
	5	20区	42号住居全景 (南東から)		P.L.32	1	20区	57号住居確認状況 (東から)

	2	20区	57号住居伊確認状況(東から)	P L 63	25号、30号、34号住居出土遺物
	3	20区	57号住居伊全景(南から)	P L 64	34号住居出土遺物
	4	20区	58号住居伊確認状況(西から)	P L 65	34号住居出土遺物
	5	20区	60号住居全景(西から)	P L 66	35～37号住居出土遺物
P L 33	1	20区	60号住居貼り床の状況(西から)	P L 67	38号住居出土遺物
	2	20区	60号住居柱6と貼り床	P L 68	38号、41号住居出土遺物
	3	20区	60号住居土俵(13)出土状況(東から)	P L 69	41号、42号住居出土遺物
	4	20区	60号住居土俵(13)(近接)	P L 70	42号住居出土遺物
	5	20区	60号住居伊(東から)	P L 71	42号住居出土遺物
	6	20区	60号住居伊(東から)	P L 72	42号住居出土遺物
	7	20区	62号住居伊確認状況(西から)	P L 73	42号、43号住居出土遺物
	8	20区	62号住居伊(近接)	P L 74	43号住居出土遺物
P L 34	1	20区	64号住居全景(北から)	P L 75	43号住居出土遺物
	2	20区	64号住居南壁と柱穴(西から)	P L 76	43号住居出土遺物
	3	20区	65号住居確認状況(北から)	P L 77	43号、44号住居出土遺物
	4	20区	65号住居柱穴上の礎	P L 78	44号、48号、49号住居出土遺物
	5	20区	65号住居柱穴確認状況	P L 79	50号、51号住居出土遺物
	6	20区	65号住居柱穴埋没中の炭化材	P L 80	51号、53号住居出土遺物
	7	20区	66号住居確認状況(北西から)	P L 81	53号、54号住居出土遺物
	8	20区	66号住居確認状況(北から)	P L 82	55号、56号住居出土遺物
P L 35	1	20区	66号住居全景(北から)	P L 83	56号住居出土遺物
	2	20区	66号住居全景(東から)	P L 84	57号、58号、60号住居出土遺物
	3	20区	66号住居北東隅の丸石(北から)	P L 85	60号、62号、64号住居出土遺物
	4	20区	66号住居西側の敷石画(東から)	P L 86	64～66号住居出土遺物
	5	20区	66号住居出入り口部埋塞周囲の敷石・丸石	P L 87	66号、67号、76号住居出土遺物
	6	20区	66号住居埋塞を囲う小石列		
	7	20区	66号住居伊		
	8	20区	67号住居全景(東から)		
P L 36	1	20区	67号住居廻り方全景(南東から)		
	2	20区	76号住居確認状況(北から)		
	3	20区	76号住居全景(北から)		
	4	20区	76号住居伊周囲の状況(北から)		
	5	20区	76号住居伊		
	6	20区	76号住居出入り口部埋塞周囲の状況(東から)		
	7	20区	76号住居埋塞確認状況(東から)		
	8	20区	76号住居埋塞(東から)		
P L 37			2号、3号住居出土遺物		
P L 38			3～5号住居出土遺物		
P L 39			5号住居出土遺物		
P L 40			5号住居出土遺物		
P L 41			5号住居出土遺物		
P L 42			5号住居出土遺物		
P L 43			5号住居出土遺物		
P L 44			6号住居出土遺物		
P L 45			6号住居出土遺物		
P L 46			6号、8号住居出土遺物		
P L 47			8号住居出土遺物		
P L 48			8号住居出土遺物		
P L 49			8号住居出土遺物		
P L 50			10号住居出土遺物		
P L 51			10号、12号住居出土遺物		
P L 52			12号、13号住居出土遺物		
P L 53			13～16号住居出土遺物		
P L 54			17号住居出土遺物		
P L 55			17号住居出土遺物		
P L 56			17号住居出土遺物		
P L 57			17号、18号住居出土遺物		
P L 58			18号住居出土遺物		
P L 59			20～22号住居出土遺物		
P L 60			22号、23号住居出土遺物		
P L 61			23号、24号住居出土遺物		
P L 62			24号住居出土遺物		

序章

第1節 調査に至る経緯

ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、建設省関東地方建設局（当時。現在は国土交通省関東地方建設局）と群馬県教育委員会、長野原可教育委員会、吾妻町教育委員会が、その実施に関する協議を重ね、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長が、平成6年3月18日に「ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書」を締結し、ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業の実施計画が決定されたことよって開始されることとなった。実施計画書に示された調査組織等の役割は、調査実施機関は群馬県教育委員会、調査機関は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。

この協定をふまえて、平成6年4月1日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長より発掘調査受託契約を、同日に群馬県教育委員会教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長より発掘調査受託契約を締結し、ハツ場ダム進入路関連遺跡を調査箇所とするハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業がスタートした。平成6年度から実施されている調査は、工事用進入路に関するものが主体となっている。これは、ハツ場ダム建設工事の大規模な工事を円滑に進めるため、機材や重機を搬入・搬出する進入路や仮設道路の整備が先行される状況にあったためである。

平成6年度に締結された協定によると、調査対象の遺跡は48遺跡であり、そのうち本遺跡の位置する長野原町横壁地区の遺跡は7遺跡であった。横壁地区でも工事用進入路を原因とする調査が先行され、平成6年度には協定対象遺跡である横壁勝沼遺跡の調査が実施された。

本遺跡も、平成6年度に締結された協定での対象遺跡であり、平成6、7年度に行われた横壁勝沼遺跡の調査が終了した後、平成8年度から調査が行わ

れることになった。工事用進入路部分の調査は平成11年度に終了し、平成12年度からは横壁地区護岸工事部分の調査に着手した。詳しくは次節「調査の経過」に譲る。

なお、関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長は、平成11年4月1日に「ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書」を締結し、平成11年4月以降は調査実施機関を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に変更し、現在の調査体制に至っている。

また、協定書の対象遺跡で、横壁地区に位置する7遺跡のうち、上野IV遺跡と観音堂遺跡は、長野原町教委との協議の結果、本遺跡に統合されることとなった。

第2節 調査の経過

横壁中村遺跡の調査は平成8年度より行われた。平成8年度から11年度までは工事用進入路部分、平成12年度からは横壁地区護岸工事部分を中心とした調査であるが、これら工事は一体のもので、調査は継続して行われてきた。各年度ごとの調査範囲は、図示したとおりであるが、年度をまたいで調査された範囲もあるので、図示した範囲は調査の終わった年度を表している。各年度ごとの調査の経過を調査日誌を元に抜粋する。

平成8年度 調査事務所を設置、調査区への進入路等の造成工事等を行ったため、本調査は7月1日開始となった。担当者は3名による1班での調査である。本年度は、中グリッドの18区、28区を中心とする調査である。進入路が狭く重機を導入できなかったため、人力による掘削を強いられ調査は困難であった。11月23日に現地説明会を開催し、見学者は157名であった。

平成9年度 前年度の継続である18、28区の調査とともに、その西側に当たる19、20、29、30区の表土掘削を実施し、調査に着手した。担当者は4名の配

置であったが、7月から9月まで1名は久々戸遺跡の調査にまわっている。調査面積は約5,000㎡である。11月3、4日に当事業団主催の平成9年度出土文化財巡回展示会を八ツ場地区で実施にあたり、遺物・パネルを出展した。

平成10年度 平成8、9年度の継続調査である。担当者は年度当初4名の配置であったが、うち1名は林地区及び横壁西久保遺跡の調査を担当することになったため、実質3名による1班体制による調査となった。本年度の調査面積は約6,200㎡であった。

平成11年度 前年までの継続調査と20、30区で調査区を拡張した。担当者は5名、2班の体制であったがうち2名が長野原地区の調査を担当することになったため、10月末までは3名、1班での調査となった。4月29日に前年度に検出された大型敷石住居、環状柱穴列等を現地説明会で公開し、153名の見学者を集めた。さらに、本年度は調査区西側にあたる11区でも調査を行ったが、試掘の結果、遺構は確認できなかった。

また、平成11年8月13日からの豪雨により横壁地区が被災したため、8月22日まで調査を休止した。本年度で工事用進入路部分の調査はすべて終了した。調査面積は約6,200㎡である。

平成12年度 工事用進入路の調査が終了したため、この南側の代替地護岸工事部分の調査を担当者7名による2班体制で開始する予定であったが、1班は林地区の調査に対応することとなり、残る1班も横壁西久保遺跡との掛け持ちとなったため、調査対象面積は当初予定よりも大幅に減少した。本年度の調査は20区の調査が中心となり、一部18区の試掘調査を行った。また、本年度は調査区南側にあるゲートボール場の東側にバンザマスト（気象用観測マスト）設置に伴って42㎡も併せて調査を行い、縄文時代後期の住居、中世の土坑を検出している。本年度の調査面積は約1,800㎡であった。

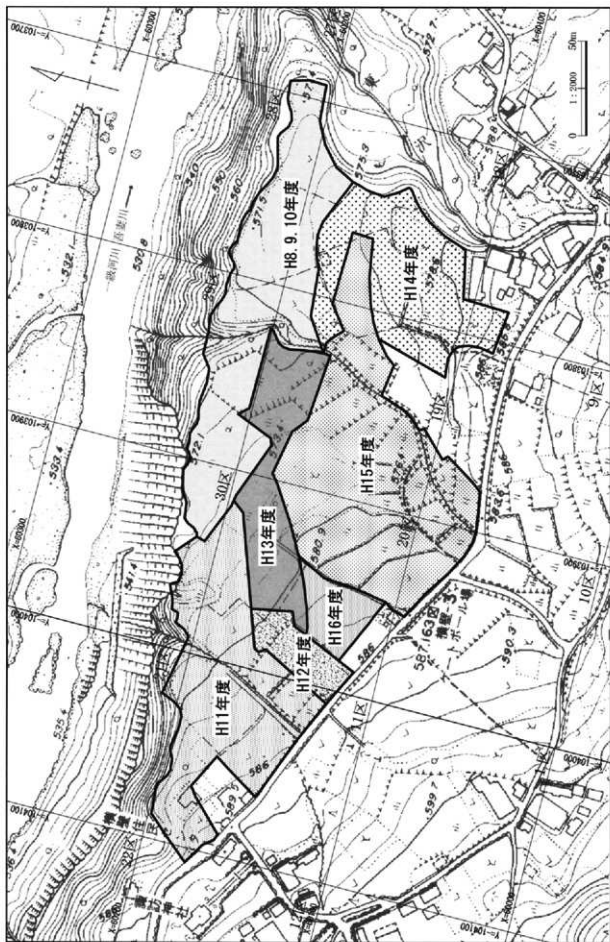
平成13年度 発掘作業員の雇用システム変更により手取り、調査開始が6月4日となった。本年度の調査対象地は遺跡の中央を流れる山根沢の両側にあたり、

18、19、20区にあたる。工事が予定されている山根沢の西側地区は、工事工程にあわせて調査が終了した地区を順次、工事側に引き渡ししながら進められた。11月に国土交通省より希少猛禽類の保護のため対策を講じてほしいとの要請があり、12月1日から調査体制を縮小したため調査の一部は次年度に継続となり、調査面積は年度当初予定の6,100㎡から約5,200㎡となった。

平成14年度 本年度より八ツ場ダム調査事務所が開所し、八ツ場地区の調査を管轄することになった。担当者は7名の2班体制での調査となり、前年度からの継続となった18区を中心に行った。本年度は6月から8月にかけて担当者2名が西ノ上遺跡へ、10月からは担当者4名が上郷岡原遺跡へ移動している。また、前年度と同様に11月下旬からは希少猛禽類保護のため調査体制を縮小しての調査となった。調査面積は約5,400㎡であった。

平成15年度 前年度の継続調査の18区と9、10、19、20区の調査を行った。担当者は年度当初6名の配置であったが、4～6月は担当者2名が久々戸遺跡の調査を行い、7月からは1名が整理事業に異動となった。また11月からは1名が増員となった。調査は前年度からの継続となった埋没河道の調査から開始して、その後19、20区の調査を行った。本年度は平成12、13年度に調査が終了した地区まで終了する予定であったが、用地買収が遅れ、次年度に継続となった。本年度の調査面積は約8,000㎡であった。

平成16年度 前年度に調査未了となった20区の調査を行った。担当者2名による1班体制である。本年度で代替地護岸工事部分の調査は終了の予定であったが、調査区南側の道路沿いの一部が用地買収と墓地移転の遅れにより調査が未了となり、次年度以降に継続となった。本年度の調査面積は約1,400㎡であった。



第1図 年度別調査区全体図

第3節 調査の方法

(1) 調査の手順

調査は初めはバックフォアによる表土掘削を行い、順次作業員による遺構確認、遺構調査へと進んでいった。遺跡地の現況は畑、水田、道路であった。

出土遺物は遺構から出土したものは、その遺構番号を付し、さらに図面上に出土位置を記録したのものについては番号を付し、標高を測定して取り上げた。遺構外から出土した遺物については後述するグリッド単位で取り上げた。さらに出土位置を記録したものは遺構出土のものと同様に取り上げた。遺構測量は作業員によるものと測量会社に委託して測量したものがあつた。細尺については住居・土埃・配石等は1/20、炉・埋裏・埋設土器等は1/10、その他の遺構も1/20を原則としたが、溝・列石等規模の大きい遺構については1/40、全体図は1/100、1/200で作成した。また、列石の一部においては、パルーン撮影による空中写真測量も委託して実施した。

遺構の個別写真は、主に35mmモノクローム及びリバーサル、6×7判モノクロームで撮影し、一部6×7判リバーサルも状況に応じて使用している。

(2) 遺跡の名称

本遺跡は、吾妻郡長野原町大字横壁字観音堂に位置する。発掘調査時の遺跡名称は、群馬県埋蔵文化財調査事業団で行っている遺跡命名の慣例に従うと遺跡所在地の大字名+小字名となり、「横壁観音堂遺跡」となるべきであるが、国土地理院1/25,000地形図「長野原」によると遺跡地には「中村」という小字名が記されているため、平成8年度の発掘調査開始時に「横壁中村遺跡」と命名した。しかし、この「中村」という小字名は行政的には用いられておらず、正確には前述の通り「観音堂」である。また、「長野原町の遺跡一町内遺跡詳細分布調査報告書」(長野原町教委 1990)によると本遺跡は「観音堂遺跡」「上野IV遺跡」の範囲に入っている。さらに群馬県遺跡台帳には「横壁中村遺跡」が記載されているが、記述によるとこれは本遺跡の南西にあつた

り、位置がやや異なる。このように、本遺跡の遺跡名に関しては若干の問題を含んでいるが、長野原町教育委員会との協議により、「横壁中村遺跡」が本遺跡の正式名称として決定されている。

(3) 調査区の設定

調査区の設定に関しては「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集『長野原一本松遺跡(1)』」に詳しいので、詳細はそちらを参照していただきたい。

本遺跡の調査区は、地区(大グリッド)と呼称する、発掘調査対象地全域に設定した1kmグリッドでは「27地区」、その地区を1辺100mの正方形で100分割した「区」(中グリッド)では「9・10・17・18・19・20・27・28・29・30区」に相当している。本遺跡の遺構名称は、区ごとに連続する番号を付し、区をまたぐ遺構の場合は遺構の主体と考えられる区の番号を付している。

第4節 遺跡の環境

八ッ場地区の遺跡の立地する環境については、既刊の(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第287集「長野原一本松遺跡」八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集(諸田2002)および同第303集「八ッ場ダム発掘調査集」八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集(松原 2003)に詳細に記述されているのでそちらを参照していただきたい。ここでは、横壁中村遺跡の立地する地理的環境および今回報告する縄文時代に関する歴史的環境について概観するにとどめたい。

(1) 地理的環境

横壁中村遺跡の位置する長野原町は群馬県の北西部に位置し、草津町、綿糸村、六合村、吾妻町と接するとともに、長野県とも県境をなしている。本遺跡はこの長野原町の北東に位置し、吾妻川の右岸の崖上に立地する。吾妻川は長野県境の鳥居峠付近に源を発し、東流して渋川市付近で利根川と合流する

全長76.2kmの1級河川である。本遺跡はこの合流点から約43km遡った地点である。また、本遺跡から約6km下流には「関東の耶馬溪」の異名を取る国指定名勝である吾妻渓谷がある。

横壁中村遺跡の標高は約570mを測る。吾妻川との比高差は40mほどであり、急峻な崖により隔てられている。調査区は、西は深沢、東に東沢という2本の沢によって形成された扇状地形上に立地する。吾妻川に向かって北東に緩く傾斜しており、調査区内での比高差は約15mである。調査区のはほぼ中央を山根沢が北流しており、小さな谷を形成している。南側には山が迫っており、調査区内にはこの山から押し出されたと思われる夥しい数の礫が存在し、縄文時代の遺構面はこの礫に覆われている。

本遺跡の環境を語る上で欠かせないのが丸岩の存在である。調査区の南南西約1.5kmに位置する標高1,124mをはかる岩峰で、南側を除いた3方が100mにも達する垂直の崖に囲まれ、本遺跡から望むと巨大な円柱状にも見える特徴的な山容を呈している。この崖面には柱状節理による割れ目が顕著に現れており、山の形状と併せ見た独特の景観は、この遺跡に暮らした人々がランドマークとして仰ぎ見たであろうことを推測するに足る奇峰と言えよう。

また、浅間山も長野原町の自然を語る上で重要である。本遺跡の中心となる縄文時代中期から後期にかけては大きな活動はないと考えられているが、本遺跡の立地する吾妻川の段丘面は、浅間山の約2万年前の噴火によって発生した応桑泥流によって形成されたと考えられている。また、今後の報告になるが、本遺跡で検出された平安時代の住居の埋土の中には浅間山起源と思われる火山灰の堆積が認められるものも存在している。

(2) 歴史的環境

横壁中村遺跡のある長野原町は明治22年の町村制実施の際に、川原畑、川原湯、横壁、林、長野原、大津、羽根尾、古森、与喜屋、応桑の旧十ヶ村を合併して成立した。町内での遺跡の調査は、昭和29年に行われた勘場木遺跡の調査を嚆矢とし、昭和38、

47、48年には群馬県による分布調査が行われ、昭和53年には石畑岩陰遺跡が発掘調査された。昭和62年からは八ッ場ダム建設に先行して、町教委による埋蔵文化財詳細分布調査が実施され、183の遺跡が確認された。(調査が進み、平成17年3月現在では214遺跡に増加している。)これ以降、町教委による発掘調査が行われている。さらに平成6年からは八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業が当事業団によって進められている。これらの調査をもとに横壁中村遺跡の歴史的環境を概観してみる。

旧石器時代 現在までの調査では旧石器時代の遺跡は確認されていない。吾妻川流域は前述したように応桑泥流堆積物や浅間一草津黄色軽石(As-YPk)によって厚く覆われており、この下位を調査することは掘削方法や安全上の問題などから難しいのが現状である。従って山間部の遺跡などでこれらの堆積物の下位の調査が可能になれば、当該期の遺跡が確認される可能性は否定できない。

縄文時代 長野原町による埋蔵文化財詳細分布調査によれば現在までに214の遺跡が確認されており、このうち、約半数の105遺跡で縄文時代の遺構、遺物の存在が確認されている。

まず、草創期の遺跡としては石畑岩陰遺跡(10)があげられる。奥行4m、幅40mを測るかなり大規模な岩陰遺跡であり、草創期から前期、そして晩期にわたる遺物、獣骨が出土している。旧石器の遺跡は確認されていないが、縄文時代草創期には長野原町域に人間が生活していたことを証明する遺跡である。早期では、楡木Ⅱ遺跡(20)で多くの撚糸文土器、表裏縄文土器、スタンプ形石器とともに、堅穴住居が31軒検出されている。この住居の中には石囲炉を持つものがあるとともに、重複関係を示すものもあることから、同時期の集落における定住性について新たな視点を与えるものと思われる。また、立馬遺跡(18)でも撚糸文期の住居と戸下層式期の住居が検出されている。この立馬遺跡では早期から晩期までのほぼ全ての時期の遺物が出土している。山間の狭隘な谷に位置するこの遺跡からこのように

長い時期にわたって遺物が出土していることはこの地域の縄文時代の環境を復元する上で興味深い事実である。さらに同時期の遺物は坪井遺跡(9)、長野原一本松遺跡(5)、幸神遺跡(6)でも出土が確認されている。

前期の遺跡は、坪井遺跡で花積下層式期の住居と土坑が検出されているほか、長野県域を主体とする塚田式、北陸地方の樞楽寺式と関連すると思われる遺物が出土している。また、暮坪遺跡(12)では二ツ木式期の住居が検出されている。さらに長畝Ⅱ遺跡(13)では黒浜式期の住居が検出されている。本遺跡でも関山式、あるいは黒浜式期と思われる遺物が出土しているが、量は少なく、遺構も確認されていない。前期後半では、楡木Ⅱ遺跡で諸磯式期の住居が、川原湯勝沼遺跡(23)で同時期の土坑が検出されており、本遺跡でも同時期の土坑が確認されている。

中期になると遺跡数、遺構量とも大幅に増加する。本遺跡ではこれまでのところ、最も古い勝坂式期の住居から中期末までで150軒以上の住居が確認されている。長野原一本松遺跡でも本遺跡と同様に大集落が形成されている。ただ、その始まりは本遺跡よりも若干時期が下り、中期後半の加曾利E式期になってからと思われる。この時期の特徴としては他地域との密接な交流がうかがえる点である。本遺跡の出土遺物でも、関東系の土器とともに中部高地系、特に長野県東部との関連が強く感じられる土器が多く、さらに新潟県方面から持ち込まれたと思われる土器も少なくない。これは長野原一本松遺跡でも新潟県方面から伝播したと思われる大木系の土器が出土していることや、坪井遺跡でも新潟県域で主体的な「柵倉類型」などの資料が出土していることから確認できよう。

後期になると長野原一本松遺跡の集落はやや縮小の傾向にあるが、本遺跡は加曾利B式期まで継続する。この時期の住居では、柄鏡形敷石住居の検出例が多く、本遺跡や長野原一本松遺跡の他、棚Ⅱ遺跡(11)、向原遺跡(7)、滝原Ⅲ遺跡(16)、古屋敷遺

跡(17)、上原Ⅳ遺跡(21)、林中原Ⅰ遺跡(22)、上郷岡原遺跡(26)などで確認されている。

晩期になると遺跡数は減少する傾向にあり、前述した石畑岩陰遺跡以外ではほとんど確認されていないが、最近の調査により、検出例が増加している。本遺跡でも遺物は出土していたが、平成15年度の調査で晩期終末期から弥生時代初頭と思われる埋設土器、土坑が確認された。また川原湯勝沼遺跡では、米Ⅱ式土器による再葬墓と思われる土坑が検出された。久々戸遺跡(8)では水式土器の鉢形土器、立馬遺跡でも長野県北部を主体とする女鳥羽川式土器の浅鉢が出土している。

弥生時代になると、本遺跡では中期の遺物が少量出土しているほかは、立馬遺跡で前期から中期の住居と中期の甕棺墓が検出されている程度で、極めて希薄な状況を呈している。



第2図 遺跡位置及び周辺地形図 (国土地理院 1/50000地形図「草津」使用)

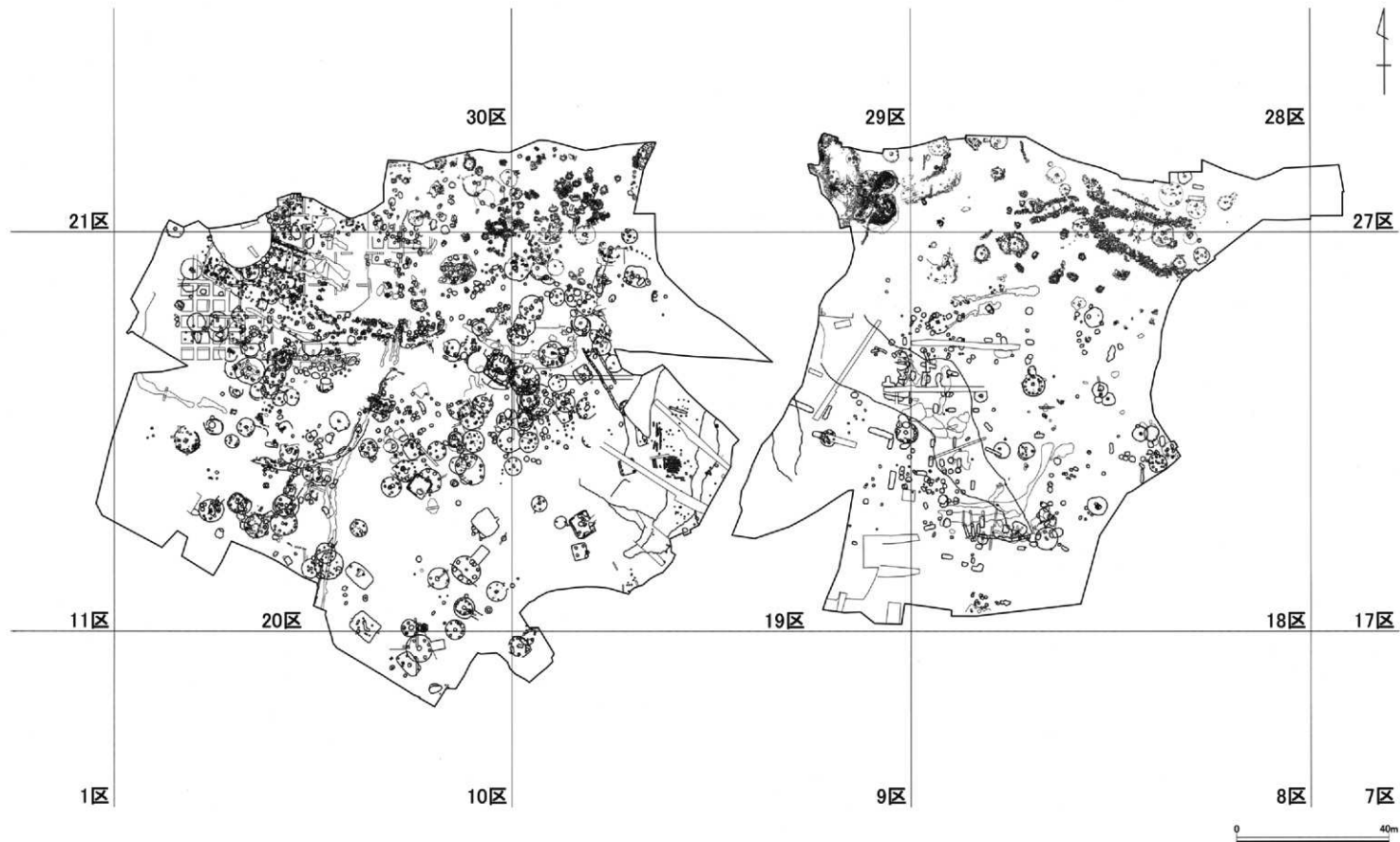
序章

周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の内容	文献
1	横壁中村	長野原町横壁	本遺跡	
2	横壁勝沼	長野原町横壁	中期から後期の土器片、槍先形尖頭器が出土。事業団平成6、7年度調査。	1
3	山根Ⅲ	長野原町横壁	中期後半の住居、土坑。事業団平成10、13年度調査。	2
4	西久保Ⅰ	長野原町横壁	中期末葉の敷石住居、土坑。中期の水溝遺構。事業団平成6、10、12年度調査。	1
5	長野原一本松	長野原町長野原	縄文時代中期後半から後期初頭にかけての拠点集落。事業団平成6年度調査。中。	3
6	幸神	長野原町長野原	中期中葉から後半の住居。事業団平成8、9年度調査。	4
7	向原	長野原町長野原	中期後半から後期にかけての集落。敷石住居2軒。町教委平成5年度調査。	5
8	久々戸	長野原町長野原	晩期終末期（水式期）の鉢形土器が出土。事業団平成15年度調査。	6
9	坪井	長野原町大津	前期前半、中期後半、中期末の住居。敷石住居3軒。町教委平成3、10年度調査。	7・8
10	跡場木石器時代住居	長野原町大津	中期後半の住居。昭和29年調査。	9
11	標Ⅱ	長野原町大津	後期前半の敷石住居4軒。町教委昭和63年度調査。	10
12	暮坪	長野原町羽根尾	前期前半の住居。町教委平成12年度調査。	11
13	長谷Ⅱ	長野原町与喜屋	前期前半、中期後半の住居。町教委平成2年度調査。	7
14	外輪原Ⅰ	長野原町与喜屋	前期後半の土器出土。町教委平成7年度試掘調査。	12
15	上ノ平	長野原町与喜屋	中期・後期の土器、石器類出土。	12
16	滝原Ⅲ	長野原町応桑	中期後半の住居、中期末の敷石住居。町教委平成8年度調査。	13
17	古畑Ⅱ	長野原町応桑	後期前半の敷石住居。昭和34年発見。	12
18	立馬	長野原町林	早期初頭～晩期の住居。早期から晩期にかけての土器。事業団平成13、14年度調査。	2・14
19	立馬Ⅱ	長野原町林	中期初頭から中期後半の住居。中期中葉の土器。事業団平成14年度調査。	14
20	楢木Ⅱ	長野原町林	早期初頭の集落。前期前半、前期後半、中期初頭の住居。事業団平成12、13年度調査。	15・2
21	上原Ⅳ	長野原町林	後期前半の敷石住居。晩期後半の土器。事業団平成15年度調査。	16
22	林の中Ⅰ	長野原町林	後期前半の敷石住居。町教委平成15年度調査。	17
23	川原湯湯沼	長野原町川原湯	前期後半の土坑。晩期終末期の再葬墓。事業団平成9、16年度調査。	1・18
24	石畑Ⅰ岩陰	長野原町川原湯	草創期から晩期の遺物と獣骨が出土。町教委昭和53年度調査。	9
25	石畑	長野原町川原湯	前期後半の土坑。事業団平成9、10年度調査。	1
26	上郷岡原	吾妻町三島	中期後半の住居。後期前半の敷石住居。事業団平成14年度調査。	14
27	上郷A	吾妻町三島	縄文時代のものと思われる陥穴。押形文土器片出土。事業団平成15年度調査。	6
28	広滝	六合村赤岩	中期後半の住居。群馬大学昭和44年度調査。	19

参考文献

1. 「ハツ場ダム発掘調査成果」ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集 群雑文 2003
2. 年報21 群雑文 2002
3. 「長野原一本松遺跡」ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集 群雑文 2002
4. 年報17 群雑文 1998
5. 「向原遺跡」長野原町教育委員会 1996
6. 「久々戸遺跡(2)・中標Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡」ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第4集 群雑文2005
7. 「長谷Ⅱ遺跡・坪井遺跡」長野原町教育委員会 1992
8. 「坪井遺跡Ⅱ」長野原町教育委員会 2000
9. 『群馬県史 資料編』1 群馬県史編纂委員会 1988
10. 「標Ⅱ遺跡」長野原町教育委員会 1990
11. 「暮坪遺跡」長野原町教育委員会 2001
12. 「長野原町誌」上巻 長野原町 1976
13. 「滝原Ⅲ遺跡」長野原町教育委員会 1997
14. 年報22 群雑文 2003
15. 年報20 群雑文 2004
16. 年報23 群雑文 2005
17. 「町内遺跡Ⅳ」長野原町教育委員会 2004
18. 「遺跡44号」13 群雑文 2004
19. 「六合村誌」六合村 1973



第3图 通桥全体图

第5節 遺跡の概要

横盤中村遺跡は、縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落遺跡で、平成14年までの調査で堅穴住居190軒以上が確認されており、県内でも有数の大規模集落であることが判明しつつある。

遺跡は、その中央を流下する通称「山根沢」の両側に展開しており、東側は「丸岩」の足下から流れる「東沢」までを範囲としている。北側及び西側の範囲は今後の調査に負うところとなるが、冬には午後3時で日が山に入る北向きの台地に、これほどの大規模集落が維持されたのは、周辺にこれらの沢があったからであろう。

この地で人々の生活が始まるのは縄文時代早期からで、19区の山根沢沿いで燃糸土器が少量出土している。前期では、初頭の花積下層式から諸磯c式までの土器が断続的に出土しているが、この時期の住居はまだ確認されていない。中期では、五領ヶ台式から勝坂式にかけての土器がかなり広範囲で出土しており、土坑はいくつか確認されているが、この時期も住居は未確認である。中期後半は集落が最大規模となり、その後も集落はやや規模を縮小しながら継続し、列石遺構や配石遺構、掘立柱建物等が伴う集落が後期前半まで認められる。後期後半になると、山根沢の西側に配石墓群が形成される。この時

期の集落の構成はまだはっきりしない。後期後半以後の様子を示す材料はまだ少ないが、晩期終末期の遺物は多量に出土しており、本地域の主要遺跡の一つと良いだろう。

弥生時代中期前半期の遺物も比較的多く出土しているが、県内で稲作農耕が始まる中期後半になると、活動の痕跡は途絶えてしまう。この状況は本遺跡に限らず、西吾妻地域全体に認められる傾向であり、詳細は別稿に譲りたい。その後、本地域に集落が戻るのは約千年後の9世紀代からで、本遺跡でも平安時代の住居が数軒確認されている。

中世になると、本地域には海野一族が支配する「三原荘」が成立し、戦国時代にはその一系でもある真田氏が、甲斐武田氏の指示で本地域を掌握するようになる。本遺跡の南西には柳沢城と丸岩城があり、遺跡内では20区を中心に鍛冶場を伴う中世の館が確認されている。また、その他に中世～江戸期の墓や、天明3年の浅間山噴火に伴う泥流で埋没した畠も検出されている。

以上が本遺跡の概要であるが、遺跡の内容は多岐にわたるため、今回は平成14年度までに発掘調査された縄文時代の住居のうち、20区で確認された中期段階の住居49軒を対象とした報告であり、資料編的な内容と捉えて頂きたい。

表1 横盤中村遺跡 縄文時代の調査遺構集計（平成8年度～平成14年度）

	10区	18区	19区	20区	28区	29区	30区	合計
堅穴住居	1	29	39	70	20	23	13	195
土坑	4	291	140	441	16	38	204	1,134
掘立柱建物		2	1	8		1		12
埋没土器		25	3	16	6	1	11	62
配石遺構		51	9	20	17	53	22	172
列石遺構		7	1	4	13	5		30
集石遺構		1		4				5
柱穴列						1	1	2
埋没河道		1	1					2

第6節 基本土層 (第4図)

本遺跡が乗る段丘面は、岩盤の上に吾妻川が運んだ段丘礫層を基盤としており、その上に南側の岩塊を核とする山地からの崩落土と礫が繰り返して堆積して形成された、北向きの緩傾斜地に遺跡は立地している。台地上の基本土層は、図に示したⅠ～Ⅹ層まで確認しているが、この10層が1箇所で全て揃う断

面は今のところ認められない。また、各土層の層厚は地区によって異なっているため、敢えて記入していない。

今回の報告対象となる縄文時代中期の遺構は、土層としてはⅥ層に該当するが、第1章本文中で「地山の黄色砂質土」と呼んでいるのは、Ⅷ層に該当する。

Ⅰ	Ⅰ層	表土 (耕作土)
	Ⅱ a 層	浅間A泥流
	Ⅱ b 層	浅間A軽石
Ⅱ a	Ⅱ c 層	浅間A軽石下島の耕作土
	Ⅱ b	
Ⅱ c	Ⅲ層	淡褐色土 軟質で炭化物を含む。中世に比定される土壌で、20区1号館付近では炭化物を多量に含み、黒土化していた。
Ⅲ	Ⅳ層	灰黒褐色土 やや軟質で均質。古代に比定される土壌であるが、本遺跡では大半が混土化されて、層としてはほとんど残っていない。
Ⅳ	Ⅴ層	黄褐色土 やや軟質。縄文時代後期後半頃の土壌で、加曽利B式期の遺構と関連する。今のところ、山根沢周囲に認められることから、Ⅷ層ないしはローム層の2次堆積の可能性が高い。
Ⅴ	Ⅵ層	灰褐色土 締まりのある土壌で、黄色軽石や白色粒子を多く含む。縄文時代に比定される土壌で、中期から後期前半の遺構・遺物はこの土層中に含まれる。なお、下半部を中心に多量の礫 (山石) を含む。
Ⅵ	Ⅶ層	くすんだ黄褐色粘質土 黄・茶・灰の地山土粒 (2~10mm) を多量に含む。山根沢の西側縁辺に特有な土壌で、層位はⅧ層と同じであり、沢沿いに流れたものかもしれない。この土層の上層部には縄文時代前期前半の土器が包含され、この土層で埋没した土坑も確認されている。
Ⅶ	Ⅷ層	黄褐色粘質土 崩落したローム層の2次堆積土で、多量の礫・砂礫を含む部分が多い。本遺跡では20区の西半部でのみ確認されており、現在の山根地区集落はこの土層の高まりの上に立地していると考えられる。供給源は山根集落南側の沢上流部、つまり丸岩の北麓で、崩落時期は縄文時代早期後半頃と思われる。
Ⅷ	Ⅸ層	黒褐色粘質土 硬質で粘性が強く、黄色軽石と白色粒子を多量に含む。
Ⅸ	Ⅹ層	黄色砂礫層 吾妻川が運んだ段丘砂礫層で、本遺跡北側の崖面では15m以上の堆積が確認できる。この下層は基盤の岩塊となる。
Ⅹ		

第4図 横盤中村遺跡基本土層

第1章 発見された遺構と遺物

第1節 遺構

先述のとおり、ここでは20区で確認された縄文時代中期の住居49軒を対象に報告する。報告は、発掘調査時に認定した遺構名を使用しているため、調査時あるいはその後の検討で欠番になったものも多く、また今回は中期以外の住居は扱わないため、遺構番号がとんでいる。表4に今回報告する住居の一覧を掲載したので、参照して頂きたい。

本遺跡での住居の認定は、基本的には炉の確認をもって決定した。幸い本遺跡では後期に至るまで石囲い炉が主流であったが、炉内に焼土が残っていない住居が多く、また地山の中にも組んだような状態の礫がかなり認められるため、炉石は水洗いし、変色・劣化・剥落・亀裂・煤付着等の被熱痕跡を確認した上で決定した。そのため、たとえ完形に近い土器等が出土しても、炉が確認できない場合はグリッド扱いにした。

また、本遺跡では地山の黒褐色土を切り込んで住居が構築されており、地山と住居覆土の見分けは困難であった。そのため、大半の住居は覆土上層がグリッド扱いになっており、整理作業で接合したものはその住居に帰属させた。

以下、住居毎に報告する。

2号住居

位置 V-24グリッド

確認 黒褐色土確認面で多量の礫が土器と共に一定範囲に集中することから、住居を想定した。礫は住居内に詰め込んだような状態でぎっしり入り、床面付近まで及んでいた。

重複 4号住居と重複し、これに切られる。

形状 隅丸方形を呈する。谷側の壁は未検出だが、山側ではほぼ直立する壁が55cmの高さで確認された。規模は長軸3.85m、短軸3.80mである。

床面 地山の黄色砂質土を床面とし、谷側にやや傾斜するが、ほぼ平坦な面を保っている。

炉 土器埋設方形石囲い炉で、住居中央に位置する。炉石は板状の大形礫4石を使用していたと見られるが、2石は抜き取られ、残る2石も上面が打ち欠かれていた。埋設土器は、小形深鉢の上半部を転用したもので、やや北西に寄った底面に正位に埋設されていた。炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石の内側と埋設土器の口縁部には、変色・劣化等の被熱痕跡が認められた。

柱穴 南東側で2本を確認した。

遺物 多量の礫に混在、あるいはその下部から、少量の土器破片・石器が出土した。

時期 炉内埋設土器と出土土器から、加曾利E3式期に比定する。

3号住居

位置 V-24グリッド

確認 地山付近まで下げた段階で、炉が確認された。本住居は炉のみの確認に止まった。

重複 2号・4号住居の南側に隣接しており、本来は両住居の一部を切って構築されたのであろう。

炉 長軸1.5mほどの楕円形の浅い掘り込みで焼土が残り、その付近に被熱で変色・劣化して割れた板状の礫が散在していたことから、本来は石囲い炉だったと考えられる。

遺物 炉内とその周囲から、少量の土器片・石器が出土している。

時期 出土土器から、加曾利E4式期に比定する。

4号住居

位置 V-23グリッド

確認 2号住居の調査に伴って確認されたが、本住居は礫の量が少なく、南東側の壁面に沿って礫が集中していた。

重複 2号住居と重複し、これを切る。

形状 やや歪んだ円形を呈する。規模は長軸3.47m、短軸3.25mで、山側では確認面からの深さ55cm

である。

床 面 2号住居と同様に地山の黄色砂質土を床面とし、谷側にやや傾斜するが、ほぼ平坦な面を呈する。

炉 住居中央よりやや北東寄りに位置する。炉は一辺70cm、深さ30cmの方形状の掘り方のみで、底面にわずかに焼土が残っていた。炉石はすべて抜き取られていたが、2号住居とはほぼ同規模の石囲い炉であったと想定される。

柱 穴 確認されていない。

遺 物 覆土中から少量の土器破片と石器が出土している。

時 期 出土土器から加曾利E3式期に比定する。

5号住居

位 置 R-18グリッド

確 認 黒褐色土確認面で礫と土器が一定範囲に集中することから、住居を想定した。遺物の集中箇所が広いので、当初は数軒の住居が重複しているものと想定したが、遺物の年代と出土レベルが揃っていること、同一レベルで確認された炉が1箇所、しかもほぼ中央に位置することから、1軒の住居と認定するに至った。

重 複 10号・12号・16号・20号・42号・43号住居と重複し、これらを切る。このうち、16号・20号住居は、本住居の床下から炉が確認されている。ほかに、15号・18号・41号とも縁辺部を重複するが、切り合い関係ははっきりしない。

形 状 壁が明瞭に確認できた部分はないが、床面や出土遺物の状況から、長軸8.20m、短軸7.90mのほぼ円形を呈するものとする。

床 面 山側の一部は地山まで切り込んでいるが、大半は黒色土中に床面を構築しており、不明瞭な部分が多い。炉の南東側にはローム質土と焼土の貼り床が部分的に認められたが、このうち炉に隣接する直径1mほどの焼土は、16号住居の炉を埋めたものである。

全体としては、山側から谷側に向かって緩やかに

傾斜しているため、図3では谷側縁辺の遺物が床面断面図の下方に入っている。

炉 大形の板状礫4石で組んだ方形石囲い炉と認定した。規模は、炉石の端部で幅90cm、深さは35cmである。

炉石は相対する2石以外は抜き取られており、その一部と見られる被熱した板石や板状礫の破片は炉の周囲にも認められた。炉内に焼土はほとんど残っていないが、2石の炉石には煤の付着・変色・劣化・ひび割れなどの被熱痕跡が、明瞭に認められる。

柱 穴 確認できなかった。

遺 物 覆土上部は礫が主体であったが、床面付近を中心に多量の土器と石器が出土した。なかでも大形の礫石器の出土量が多く、磨面のある台石や多孔石が目立っている。また、炉の東側床面付近から、有頭石棒の欠損品が出土している。出土土器は地元の地城色を色濃く持っており、なかには越後地域の特徴を持つ土器も散見される。

時 期 出土土器から、加曾利E3式期中段階に比定する。

6号住居

位 置 S-20グリッド

確 認 黒褐色土確認面で多量の礫と遺物が一定範囲に集中することから、住居を想定した。礫は、山側から投げ込まれたような状態で中央部を中心に集中しており、中央部では床面付近までぎっしり入っていた。これを取り除くと、炉とその周囲の床面が直接確認できた。

また、山側の床面に、炭化材が混じる炭化層が面的に散布していた。屋根材、あるいは床の敷物を想定して詳細に調査したが、依存状態が悪く確定できなかった。

重 複 南側で18号住居と重複し、これを切る。また、西側で7号住居と接するが、重複関係は不明である。

形 状 長軸5.05m、短軸4.90mのほぼ円形を呈する。壁がほぼ全周する稀な事例で、壁の高さは山側

で50cm、谷側で5cmである。

床面 山側から谷側に向かって緩やかに傾斜するが、ほぼ平坦な面に構築されている。床面は地山まで掘削されているが、硬化面は認められない。

炉 長方形石囲い炉で、住居中央よりやや北側に寄せて設置している。炉の主軸は南北方向に一致しており、住居の長軸線上とも一致した位置に設置されている。炉石は小さな板石や板状礫を縦位に並べて囲っているが、現況を留めているのは全体の3割ほどで、他の3割は押しつぶされ、その他は抜き取られている。炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石には被熱痕跡が認められる。

柱穴 確認できなかった。

遺物 住居縁辺部を中心に、礫群の下から多量の土器が出土した。そのうち、住居西側の壁下から、浅鉢の完存品(6)が床面に伏せた状態で出土しており、注目しておきたい。特殊な遺物としては、土偶の胴部(42)が炉の南側床面付近から出土しており、また有頸石棒の欠損品(48)が炉の南側の礫群下から出土している。なお、土偶(42)は2点の接合資料であり、その一つは西側で一部を接する17号住居の覆土から出土した。

出土土器は曾利式の特徴が色濃く、土偶の出土もそれに合致しているように思える。

時期 出土土器から、加曾利E2式期新段階に比定する。

7号住居

位置 U-20グリッド

確認 黒褐色土礫設面で多量の土器と礫が一定範囲に集中することから、住居を想定した。覆土中の多量の土器を取り上げた段階で、扁平な礫と山石で方形に組んだ石組みが確認されたため、これを炉と認定し、床面や柱穴・壁の確認調査を実施したが、いずれも判然としなかった。

床面下から土器も出土することから、床下の調査に移行した段階で、直下から明瞭な石囲い炉、及び同一面で埋戻も確認された。当初は2軒の住居の重

複と見てこれらを17号住居としたが、あらためて先に見された炉を詳細に確認すると、炉内に焼土はなく、炉石に明瞭な被熱痕跡は認められない。また、今回の報告では扱っていないが、本遺跡28区の中期住居のなかには、柱穴の上面に方形の石組みを伴う事例が認められる。

以上の経過から、7号住居はいったん欠番として17号住居に一本化したが、7号住居の炉の下から柱穴が確認できないため、炉の石組みだけを7号住居の名称で報告しておく。

炉 板石2枚と扁平な礫2個を縦位に使って方形の石組みをつくり、その角部や周囲に丸みのある礫を組み合わせている。石組みの内側は1辺20cmしかなく、他の住居の炉に比べて明らかに小さい。底面に焼土はなく、石組み内面に被熱痕跡は認められない。

8号住居

位置 U-22グリッド

確認 一定範囲に多量の礫と土器が集中することから、住居を想定したが、炉をはじめ、床面や壁・柱などの各施設が確認できなかった。礫や土器の集積は5mほどの範囲にはばおさまっており、その集積状況が他の住居の状態と一致すること、出土土器の時期が一致していることから、異例ではあるが住居と認定することにした。

重複 北側の一部を13号・14号住居と重複し、これに切られる。

遺物 土器の多くは、礫群下からまとまって出土した。出土土器は加曾利E1式期古段階を主体にしており、これに焼町系と越後系の土器が加わっている。それより古い段階の土器もいくつか見られるが、なかでも越後系と思われる浅鉢類は注目しておきたい。

時期 出土土器から、加曾利E1式期古段階に比定する。

10号住居

第1章 発見された遺構と遺物

位置 R-19グリッド

確認 地山面に近いレベルで石囲い炉が確認されたことから、住居と認定した。

重複 南側の一部を5号・12号住居と重複し、北側の一部を21号住居と重複するが、切り合い関係は確認できていない。

形状 明確な壁は確認できなかったが、山側の遺物出土状況と床面の状況から、直径6.50～6.60mの円形を呈するものとする。

床面 谷側の一部は失われているが、山側から谷側に緩やかに傾斜する、ほぼ平坦な床が認められた。なお、炉の周辺で一部に硬化面が認められた。

炉 土器埋設方形石囲い炉であるが、炉石の多くは抜き取られていた。板石を縦位に組んだ炉石の一部が残っており、掘り方から1辺70cmの方形であったと想定される。炉内の埋設土器は、直径30cmほどの深鉢の上半部を転用したもので、炉の中央よりやや北東隅に寄せて設置している。炉内の底面に焼土が一部残っており、炉石の内面にも明瞭な被熱痕跡が認められた。

柱穴 依存状態の良い山側の床面で、5本の柱穴が確認できた。大きさはいずれも直径30cm前後、深さ30～40cmである。このうち、柱2～4の3本は、柱間が芯々で1.7mほどの間隔で揃っている。

遺物 山側の縁辺に沿って、土器がまとまって出土した。これらの土器は、床面から浮いた状態で出土したものが多く、

一方、それとはまったく違った状態で出土した土器がある。本住居では地山の傾斜が、柱3と炉の中央を通したエレベーションAからA'の方向に傾斜しているが、柱3とその山側の壁との間に曾利系小形深鉢の上半部(4)を正位に置き、それを中心に長辺1m、短辺50cmの長方形の四隅に板状礫が配置されていた。土器と礫はいずれも床面に接している。当初はこれらが意図して配置されていたことに気付かなかったが、34号住居で同様の配置が確認され、一連の構造であることが判明した。

なお、炉内埋設土器は、その後所在が不明となっ

てしまった。見つかった段階で補足したい。

時期 出土遺物から、加曾利E2式期新段階に比定する。

12号住居

位置 Q-18グリッド

確認 5号・10号住居などの重複する住居の調査に伴って、炉が確認された。

重複 5号・10号・42号住居と重複し、それらに切られる。

形状 明確な壁は確認されていないが、床面・柱と出土遺物の状況から、4.50～4.70mの円形を呈するものとする。

床面 山側から谷側に向かって緩やかに傾斜するが、ほぼ平坦な床面を呈する。硬化面は認められない。

炉 長辺50cm、短辺46cm、深さ17cmの長方形石囲い炉で、住居のほぼ中央に位置する。炉石は、小さな板状礫を数多く使用して縦位に並べて組んでおり、短軸の一方にあたる西側の炉石は抜き取られている。形態は6号住居の炉と近似しているが、本住居の炉は長軸を地山の傾斜に直行する方向で設置している。なお、炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石の内面には被熱痕跡が認められる。

柱穴 炉の南東側で3本の柱穴が確認された。規模は直径40～50cm、深さ30～45cmである。

遺物 床面付近からまとまった状態で土器が出土した。舟形の釣り手土器(3)は、炉のすぐ東側の床面からまとまって出土している。

時期 出土土器から、加曾利E1式期新段階に比定する。

13号住居

位置 U-23グリッド

確認 黒褐色土中の一定範囲に土器と礫が集中することから、住居を想定した。

重複 8号・14号住居と重複し、これらを切る。

形状 直径5.30mほどの円形を呈する。谷側の北

東部は確認できなかったが、その他はやや傾斜して立ち上がる壁が確認できた。高さは山側で20cmほどである。

床面 ほほ平坦な床面を呈する。14号住居とほとんどの部分が重複しているが、貼り床は施されていないため、硬化面は認められない。

炉 大きな板状礫4石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央に設置されている。炉石は谷側（北東側）の1石が抜き取られ、南東側の1石は打ち割られていた。炉内底面にわずかに焼土が残り、炉石内面には明瞭な被熱痕跡が認められた。規模は1辺55cm、深さ22cmである。

柱穴 確認できなかった。

遺物 住居内の南東側を中心に、床面から浮いた状態で遺物が出土した。板状土偶の腕部と見られる11は、本住居の時期とは合わないものであり、あるいは南側で重複する8号住居からの混在かもしれない。

時期 出土土器から、加曾利E3式期新段階に比定する。

14号住居

位置 U-23グリッド

確認 13号住居の炉の掘り方調査に伴って、炉石の一部が確認された。

重複 8号・13号住居と重複し、8号住居を切り、13号住居に切られる。

形状 直径4.80mほどの円形であろう。谷側（北東側）の一部は確認できなかった。その他ではほほ直立に立ち上がる壁がめぐり、高さは山側で30cmである。

床面 ほほ平坦な床で、硬化面は認められないが、炉辺を中心に炭化材の小片や炭化物の散布が認められた。

炉 大形の板状礫4石で組んだ方形石囲い炉で、住居のほほ中央に設置されている。炉石は、上方がやや開いた状態で設置しており、各隅部には小礫で根詰めが施されている。炉石は使用時の状況をほほ

留めているが、北側の1石は抜けて反っており、意図的に変更されたのかもしれない。炉内底面に残る焼土はわずかだが、炉石内面には明瞭な被熱痕跡が認められる。規模は1辺80cm、深さ18cmである。

柱穴 確認できなかった。

遺物 覆土中から少量の土器片と石器が出土している。

時期 出土土器から、加曾利E3式期中段階に比定する。

15号住居

位置 S-19グリッド

確認 5号住居の確認調査に伴って、覆土中出土遺物と同レベルで炉様の石組みが発見され、15号住居と命名した。その後、住居としての確認調査を実施したが、石組み以外は認められなかった。配石遺構の可能性もあるが、石組みの一部にわずかな被熱痕跡が認められることから、石組みだけを本住居として報告しておく。

重複 石組みは、5号住居と18号住居の重複部分に位置しているが、両住居との切り合い関係は不明である。

炉 数個の板状礫が方形に組まれており、周囲にも数個の礫が散乱していた。組まれた礫は1辺70cmほどであり、本遺跡の石囲い炉の規格内におさまっている。石組み内に焼土は認められないが、礫の一部に被熱痕跡がわずかに認められる。

遺物 本遺構に伴う遺物は確認できないが、礫の一部に腐り面を伴うものが1つあった。

時期 不明。

16号住居

位置 R-18グリッド

確認 5号住居の炉の南東側床面に、直径1mほどの焼土混じりのローム質土があり、これを断ち割ると、炉の掘り方が確認された。その後、床面や柱穴の調査を行ったが、確認できなかった。

重複 5号住居と重複し、これに切られる。

第1章 発見された遺構と遺物

炉 1辺70cmの方形で、深さ20cmの掘り方の底面に、中央よりやや南西に寄せて埋設土器が設置されていた。使われた土器は越後地域の小形深鉢で、胴下半を打ち欠いて正位に埋設されていた。打ち欠かれた胴部の欠け口を研磨し、口縁の波頂部も取り去った丁寧な扱いが施されていた。炉石は全て抜き取られ、炉内に焼土はほとんど残っていなかったが、埋設土器の口縁部には明瞭な被熱痕跡が認められた。

遺物 炉内埋土中から少量の土器片と石器が出土した。

時期 炉内埋設土器から、加曾利E3式期中段階に比定する。

17号住居

位置 T-20グリッド

確認 黒褐色土中の一定範囲に、多量の土器と礫が集中することから、住居を想定した。当初は7号住居として扱ったが、調査が進む中で炉と埋窆が同一面で確認され、混乱を避けるために17号住居とした。その後の整理作業で出土土器の接合関係や型式的検討、および各施設の位置関係などを検討した結果、当初7号住居として取り上げた遺物も17号住居で一本化することにした。

重複 東側で6号・18号住居と接近するが、重複には至らない。

形状 長軸5.95m、短軸5.10mの楕円形を呈する。調査時に確認された壁を前提にしたが、実際は不明瞭な部分も多く、6m前後の円形を呈する可能性もある。壁の高さは、山側で20cmほどである。

床面 本地区は地山の黄色砂質土がなく、床面は黒褐色土になっている。そのため、炉と埋窆を基準に床面を検出した。

炉 大形の板状礫4石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央に設置されている。規模は1辺60cm、深さ22cmで、対向する南北の隅部には、小礫の根詰めが施されている。炉内に焼土はほとんど残されていないが、炉石内面には明瞭な被熱痕跡が認められた。

柱穴 確認された柱穴は、埋窆の北側にある1本

のみである。規模は直径30cm、深さ35cmであった。埋窆 炉の南東側の壁際に位置する。直径70cm、深さ24cmの円形の掘り方上位に、深鉢の上半部を逆位に埋設し、その上に板石が置かれていた。埋設土器内に内容物等は入っていない。

なお、この埋窆の位置が入り口にあたる考えると、本住居は地山の傾斜に対して横方向に入り口があったことになる。

遺物 床面から浮いた状態で多量の土器が出土した。出土土器は関東系が主体であり、それに当地域の土器が加わっている。18・42～48は本住居より古式の土器群であり、18号住居の一部が混在した可能性が高い。

なお、埋窆に転用された土器は現在所在が不明である。確認した段階で補足したい。

時期 出土土器から、加曾利E3式期新段階に比定する。

18号住居

位置 S-19グリッド

確認 6号住居の調査に伴って確認された。出土遺物は少ないが、出土レベルと時期が揃っており、壁も低いながらもめぐることから、住居と認定した。

重複 5号・6号住居と重複し、これらに切られる。

形状 直径6.10mの円形を呈するであろう。6号住居に切られた部分以外は壁がめぐっており、山側で10～15cmの高さである。

床面 掘り込みがやや浅く、黄色の地山まで達していないが、平坦な床面が確認できた。硬化面は確認されていない。

炉 住居中央部に炉石と見られる小さな礫が数個あり、この付近にあったと考えられるが、6号住居で削平されて残っていない。

柱穴 確認できなかった。

遺物 覆土上層の遺物は特定できなかったため、出土量は少ないが、同一個体の土器片が数カ所にまとまった状態で、床面付近から出土している。時期

的にもよくまとまった資料が得られている。

時期 出土土器から、加曾利E1式期に比定する。

20号住居

位置 R-18グリッド

確認 5号住居の掘り方調査に伴って確認された。5号住居炉の下に本住居の炉が位置しており、16号住居炉と接近するが、本住居炉のほうがより下位で確認されている。

本住居も16号住居と同様に、炉のみの確認に止まった。

重複 5号・16号住居と重複し、これらに切られる。

炉 長さ75cm、幅30～35cmの長方形に焼土が確認され、その中央部より東側に寄った位置で埋設土器が検出された。埋設土器は、口縁部上半と胴部下半を打ち欠いた深鉢で、西側半分を焼土にかかった状態で確認されており、その周囲の焼土は強い被熱痕跡を示していることから、これらは原位置を保持していると言って良い。焼土の形状は長方形の石囲い炉を想定させるが、焼土と埋設土器の位置関係は、大形方形石囲い炉の東側がなんらかの理由で失われたことを示していると言えよう。その場合、本住居は5号住居と同じくらいに大形の住居だったことが想定される。

なお、埋設土器には口縁部上半と胴部下半を打ち欠いた、やや小型の深鉢が使用されていた。

遺物 本住居に確実に伴う遺物は、炉内埋設土器1点のみである。本土器は口縁部の隆帯が剥落している。

時期 炉内埋設土器から、加曾利E3式期古段階に比定する。

21号住居

位置 R-20グリッド

確認 覆土中の出土遺物は少なく、石囲い炉の確認により、住居と認定した。

重複 南側で10号住居と重複し、同住居を切る。

形状 床面や柱穴の位置などから、直径4.1mほどの円形と想定した。山側を中心に壁の確認を試みたが、明瞭な壁は検出できなかった。

床面 山側を中心に平坦な床も部分的に確認できたが、全体に不明瞭であった。

炉 土器埋設円形石囲い炉とみられる。やや大形の埋設土器を取り囲むように板状礫を平坦面に平置きし、その内側に3つの小礫を縦列に置いて、五徳状に配置している。炉内に焼土はほとんどないが、炉石には微かに被熱痕跡が認められた。炉石は南側の一部をトレンチで失ったが、直径70cmほどの円形に配置されていたものと思う。

他の住居の炉とは礫の使い方が明らかに異なっており、埋設土器に伴う配石遺構の可能性も検討したが、炉石の被熱痕跡の確認をもって住居と判断した。

なお、炉内埋設土器には、口縁部と底部を打ち欠いたやや大形の深鉢（1）が使われ、炉石の一つに多孔石（7）が使用されていた。

柱穴 合計9本を確認したが、主柱に該当するのは柱2・3・4・5・6の5本であろう。柱穴の大きさは直径15～25cm、深さ10～30cmである。

遺物 ほは床面のレベルで確認したため、出土遺物は少ないが、炉の北側床面から少量の土器が出土した。

時期 出土土器から、加曾利E3式期中段階に比定する。

22号住居

位置 V-25グリッド

確認 黒褐色土中の一定範囲から、多量の土器・礫がまとまって出土することから、住居を想定した。炉は30区側に位置しており、住居の南側の一部は調査区外にある。

重複 なし。

形状 明瞭な壁は確認できなかったが、炉の大きさ、柱穴の位置、遺物の出土状況などから、直径6.5mほどの円形を呈するものと思われる。

床面 炉の周囲2m前後の範囲では平坦な床が認

第1章 発見された遺構と遺物

められたが、その外周部は不明瞭ではっきりしない。

炉 大形の扁平礫4石で組んだ方形石囲い炉で、大きさは1辺90cmと大形である。炉石の4隅に礫を設置していたと見られるが、現状では3隅に礫が残っており、西隅に小円礫、南隅には棒状円礫を立て、東隅には石棒が立てられていた。北隅は乱されており、北西と北東の炉石の上端部は意図的に打ち欠かれていた。また、東隅に立てた石棒の頭部にも打ち欠いた痕が残っており、住居を廃絶する際に機能を停止させたのかも知れない。炉内底面には焼土が残っており、炉石内面にも被熱痕跡が明瞭で、劣化・ヒビ割れが認められる。

なお、炉の底面は突き固めたように硬化していたが、掘り方調査で硬化面の下から埋設土器が確認された。使われていた土器は、越後地方との交流が窺える小形深鉢の胴上半部で、炉の中央に正位に埋設されていた。以上の状況から、この炉は当初は埋設土器を伴っていたが、最終使用時には使われていなかったと判断した。

柱 穴 確認できたのは2本のみである。いずれも炉の西側1.5mほどの位置にあり、平坦な床面の確認できる範囲内にある。大きさは長軸60～70cm、短軸35～45cm、深さ40～50cmと大形であり、楕円形を呈する点に特徴がある。

遺 物 覆土上層は削平されており、覆土下層の土器が中心である。土器は加曾利E式が主体だが、炉内埋設土器は越後地方との交流を窺わせる地元の土器を使用している。

時 期 炉内埋設土器及び覆土出土土器から、加曾利E3式期中段階に比定する。

23号住居

位 置 O-22グリッド

確 認 敷石住居に使用される板石の集中と埋設土器との関連から、住居を想定した。覆土の大半は中世の館によって削平されており、現況を留めているのは山側の一部のみである。

重 複 南西側で25号住居と2号配石、東側で1号

掘立柱建物重複し、25号住居を切り、2号配石と1号掘立柱建物に切られる。

形 状 山側で数cmの壁をかろうじて確認したが、その他は中世館造成時に削平されていた。その後の掘り方調査で柱穴が確認され、炉内埋設土器と板石の配置等から、各隅に柄部が付く柄鏡形敷石住居を想定した。規模は長軸6.1m、短軸5.9mである。

床 面 山側の一部で、板石と小さな扁平円礫を敷いた敷石面を確認した。敷石に使用されていたと見られる礫のうち、人為的に運び込まれたと考えている板石と円礫について、スクリーントーンを替えて平面図に示した。

炉 住居の中央に埋設土器があり、その口縁部まで削平が及んでいた。埋設土器の口縁部は周囲に散らばっていたが、その一部を復元すると、炉の埋設土器としてはやや大きな深鉢に復元できた。この埋設土器の周囲には、炉石片と見られる被熱痕跡が認められる礫片も散らばっており、本来は土器埋設方形石囲い炉であったと思われる。

柱 穴 想定される住居範囲内から15本の柱穴を確認したが、このうち番号を付けた11本が本住居の主柱穴にあたるものとする。規模は直径40～80cm、深さ30～60cmとまちまちで、そのうち5本の柱穴では、底面に直径20cm前後の柱痕掘り込みを伴っていた。

遺 物 大半が掘り方からの出土であり、いたって少ない。

時 期 炉内埋設土器から、加曾利E4式期に比定する。

24号住居

位 置 Q-23グリッド

確 認 礫と土器が一定範囲に集中することから、住居を想定した。中世館造成による削平は住居上層のみで免れたが、北側を崩落地で失っている。礫は覆土中に大量に投げ込まれており、床面付近まで達していた。

重 複 30号住居と重複し、これを切る。

形状 直径4.6mの円形を呈する。壁は崩落地を除いて全周しており、壁高は山側で30cmである。炉から見て谷側にあたる北東方向に、出入り口部を示す埋堯と一対の柱穴があり、柄鏡形住居に特有の配置を示しているが、柄部は確認されていない。また、炉辺や埋堯の周囲に大形の扁平円礫や板石が散在しており、敷石住居であった可能性もある。

床面 平坦な床面を呈するが、軟弱であり、やや荒れている。また、床面には山側を中心に多量の大型礫が散在していた。

炉 大形の扁平礫と板石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央よりやや山側に寄った位置にある。北東と北西の炉石は大半が抜き取られており、その部分に大形の扁平円礫が敷き詰められたような状態で置かれていた。炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石内面は被熱痕跡を示す変色・劣化が著しく、ひび割れが生じていた。

柱穴 東半部で4本の柱穴を確認したが、このうち、柱1と柱4は埋堯をはさむように並んでおり、出入り口部に伴う柱穴と考えてよいだろう。この2本の柱穴は規模も直径45cm前後、深さ40cm前後で揃っている。柱2は直径60cm、深さ40cm、柱3は直径75cm、深さ45cmである。

埋堯 谷側にあたる住居の北東側で確認された。炉の主軸方向の延長上にあり、その先の壁までの距離は70cmである。その間に埋堯をはさむように柱1と柱4が位置し、その柱間は芯々で75cmである。埋堯は加曾利E3式期の大形深鉢の上半部(2)を逆さに伏せて埋設されていた。その上面には2つの小さな板石が置いてあり、蓋石があった可能性が高い。また、埋堯の南西20cmの床面から有頭の小形石棒(25)が出土している。

遺物 土器の多くは、礫群中からその下部を中心に出土した。出土土器は加曾利E3式系が主体である。

時期 埋堯と覆土出土土器から、加曾利E3式期新段階に比定する。

25号住居

位置 P-22グリッド

確認 石囲い炉の確認により、住居と認定した。覆土上面と北側を中世館の造成で削平されており、館に伴う礫群を取り外した段階で石囲い炉が確認された。

重複 北東側で23号住居及び2号配石と重複し、両遺構に切られる。

形状 東西長4.6mの隅丸方形あるいは台形状を呈するものと思われる。山側では25cmほどの高さで壁が確認できたが、谷側では柱穴が2本の確認に止まった。

床面 山側から谷側に緩やかに傾斜するが、ほぼ平坦である。

炉 大きな厚手の板状礫数個で組んだ台形状の石囲い炉で、住居のほぼ中央に位置する。規模は長辺90cm、短辺70cm、幅80cmである。炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が明瞭に認められた。炉石は抜き取られていないが、炉内に大きな礫が数個投げ込まれていた。

柱穴 5本の柱穴を確認した。規模は直径40~50cm、深さ35~50cmである。

遺物 床面付近から少量の土器・石器が出土した。16は釣り手土器の一部であり、本住居の時期よりも古式になるであろう。

時期 出土土器と重複関係等から、加曾利E3式期に比定する。

30号住居

位置 P-23グリッド

確認 24号住居の掘り方調査で埋設土器(1)が確認され、その周囲で柱穴も数本見つかったことから、住居を想定した。その後の調査で、埋設土器の北側から小形の埋設土器(2)がもう一つ確認された。いずれも掘り方状態での確認ではあるが、当初発見された埋設土器(1)の口縁部に被熱痕跡が認められることから、これを炉内埋設土器と想定すると、24号住居と同様に、谷側に埋堯(2)を埋設した住居を想定することができる。

第1章 発見された遺構と遺物

重複 24号住居と重複し、これに切られる。

形状 不明。

床面 不明。

炉 土器埋設石囲い炉と想定する。炉の掘り方は、長軸96cm、短軸80cmの隅九角形状を呈し、そのほぼ中央に土器が埋設されていた。使われていた土器(1)は、やや大形の地元系深鉢の上半部で、掘り方に焼土は残っていないが、埋設土器の口縁部には被熱痕跡が認められる。大形の掘り方から、石囲いが存在したと思われる。

柱穴 本住居に伴うものとして3本の柱穴を認定した。柱1は直径60cm、柱2は直径30cm、柱3は直径40cmであるが、深さはいずれも40cmほどである。

埋壺 炉の谷間にあたる北北東方向1.9mに位置する。炉と埋壺(2)の距離は24号住居のそれよりやや長い。炉の掘り方の大きさから、24号住居よりやや大きな住居形状を想定することができる。

遺物 出土遺物は炉内埋設土器(1)に添えてあった2片の土器片(3・4)のみである。

時期 炉内埋設土器と埋壺から、加曾利E3式期中段階に比定する。

34号住居

位置 U-13グリッド

確認 多量の礫と土器片が一定範囲に集中することから、住居を想定した。調査が進む中で、住居北側ではほぼ完形の土器2個体(10・12)が、横倒し状態で出土した。さらに東側で逆位の埋設土器2個体(1・13)を確認した。当初は単独の埋設土器と判断したが、その後の調査で床面倒置の土器であることが判明した。

重複 なし。

形状 山側にあたる北西側の壁は未確認であるが、長軸推定6.4m、短軸6mのほぼ円形を呈するものと考えられる。壁高は山側で40cmである。

床面 貼り床が施されており、ほぼ平坦な床面を呈する。貼り床は、黄色ローム質土と地山の黒褐色土を主体に使用しており、かなり硬化しているが、

一部に地山の黄褐色土も使用されており、この部分はやや軟質になっている。貼り床の厚さは、黄色ローム質土の部分が2cm前後、黒褐色土部分は不明瞭である。図21にそれぞれの分布状況を示したが、本来は柱穴の内側全面に黄色ローム質土を貼り床した住居だったと考えられる。

また、壁と床が確認できなかった谷側の北西部以外では、周溝が確認された。規模は幅15~25cm、深さ8~12cmで、これも本来は全周していたと見てよいだろう。

炉 大形の扁平礫4石で組んだ方形石囲い炉で、規模は1.1m×1mである。各隅部に礫を加えて固定しているが、そのうち南側隅部には有頭石棒(30)が立てられていた。石棒は体部直径12cm、長さ28cmの大きさのもので、欠損した下端面には調整痕が認められる。また、体部は全体に研磨を施して平滑に仕上げられており、一部に砥石様の研磨面が認められる。炉内底面にはわずかに焼土が残っており、炉石内面にも明瞭な被熱痕跡が認められる。また、石棒も炉内に面する部分に明瞭な被熱痕跡が認められ、炉の使用時に設置されていたことを明示している。

なお、炉の掘り方調査の段階で、古い炉の掘り方が確認された。この炉は東西に軸を合わせており、埋土中から焼土と炉石の破片が確認された。土器の出土がないため、時期差の有無は明確ではないが、その位置関係から本住居の旧炉と見ておきたい。

柱穴 本住居に伴うものとして15本の柱穴を確認した。このうち壁に沿って円形に並ぶ柱1~7の7本が主柱穴となるであろう。規模は直径50~60cm、深さ40~60cmである。この他に、住居の南東の壁際に大小7本の柱穴が集中しており、そのうちの大きな4本は台形状に配置されている。この4本の柱穴は炉の軸線とも一致しており、出入り口に伴う柱穴と考えられる。この想定が正しいとすれば、本住居は地山の傾斜に対して東側面に出入り口があったことになる。

遺物 比較的多くの土器が礫と共に出土した。礫は、出入り口部を想定した南東側に集中する傾向が

窺え、土器片もこの地点から数多く出土している。また、本住居では完存品あるいはそれに近い状態の土器が、住居周縁部から数多く出土している。まず、住居北西縁辺から2個体の深鉢(10・12)が横倒しの状態で出土、西側縁辺では2箇所から床面伏壺(1・2・9・13)が出土、さらに山側にあたる南側縁辺から床面伏壺(5)と転倒した土器(14)が出土している。このうち、特異な出土状況を示す南側と東側の2箇所について、詳細な図を作成した。

図24は南側の出土状況図で、柱2と3の間の床面に大形の扁平礫4個(網掛けの礫)を長軸100cm、短軸35cmの長方形に配置し、住居内面側の長辺上の中央の床面に伏壺が置かれていた。伏壺に使用された土器は曾利式系の小形深鉢(6)で、胴下半部は打ち欠かれていた。転倒した土器(14)は、この長方形配石の礫に口縁部が接し、底部を壁にもたせかけたような状態で出土している。この長方形配石と同様の配石は東側の柱1と2の間でも確認された。使用された礫(網掛け)はやや小さく、長方形の配置も長軸70cm、短軸30cmとやや小形になっており、伏壺は認められない。

図25は東側の出土状況で、出入り口部に近い柱7の掘り方に接して床面伏壺が設置されていた。伏壺に使用された土器は、曾利式系の大形深鉢2個体(9・13)と加曾利E式系の小形深鉢1個体(2)で、9と13は入れ子の状態で置かれ、それに接して2が置かれていた。いずれの土器も胴下半部は打ち欠かれており、9は口縁部も欠損している。

また、柱6と7の間の床面に伏壺1個体が置かれていた。伏壺に使用された土器は曾利系の小形深鉢(1)で、その左右には壁に沿って2つの扁平礫が床に置かれていた。その間の距離は90cmである。伏壺と礫の位置はややずれているが、壁に沿って長軸をとる配置は長方形配石と一致している。

時期 伏壺及び出土土器から、加曾利E3式期中段階に比定する。

35号住居

位置 W-15グリッド

確認 直径2mほどの範囲に礫と土器片が集中する箇所があり、礫を取り除くとその下から埋設土器が確認された。礫は埋設土器の直上に面的に集中しており、周囲ではなにも確認できなかったが、埋設土器の周囲に板石や扁平礫が散在しており、焼土粒と炭化物粒が認められることから、住居と認定した。

重複 なし。

形状 不明。

床面 礫や土器はほぼ同一平面で出土したが、明瞭な床面は確認できない。

炉 埋設土器の周囲に散在する板石と扁平礫には、明瞭な被熱痕跡は認められないが、礫と共に焼土粒と炭化物粒が比較的多く散布しており、石囲い炉があった可能性もある。埋設土器は、加曾利E式系の大形深鉢の胴下半部を使用しており、これを正位に埋設していた。

柱穴 確認できない。

遺物 礫といっしょに少量の土器が出土している。時期 炉の埋設土器及び出土土器から、加曾利E2式期新段階に比定する。

36号住居

位置 T-11グリッド

確認 少量の礫と土器が散布する黒褐色土面の一角から、小さな石囲い炉を確認し、床面や柱穴の検出を試みたが、発見できなかった。

重複 なし。

形状 不明。

床面 検出できない。

炉 やや小ぶりの礫数個で組んだ方形の石囲い炉で、西側の一部は炉石が乱れていた。規模は1辺55cmほどと小さく、炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が認められた。

柱穴 確認できない。

遺物 炉の周囲から少量の土器と石器が出土した。時期 出土土器から、加曾利E3式期に比定する。

37号住居

位置 T-13グリッド

確認 礎と土器破片が一定範囲に集中することから住居を想定し、炉の確認をもって認定した。

重複 東半部を38号住居・298号土坑と重複し、38号住居を切り、298号土坑に切られる。

形状 直径3.5mほどの円形を呈する。谷側にあたる北東側の壁と床は不明瞭だが、掘り方調査で壁に相当する立ち上がりの一部が確認できた。壁高は山側で35cmである。

床面 山側にあたる南西部分では平坦な床面が残っていたが、北東側は不明瞭であった。硬化面は確認できない。

炉 大形の板石と扁平暖4石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央に位置する。規模は1辺80cmほどである。炉石の組み方が歪んでいるのは、おそらく廃絶時に手加えられたためだろう。炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石内面には明瞭な被熱痕跡が認められる。

柱穴 住居南東壁際で1本確認した。規模は直径28cm、深さ30cmである。

遺物 出土遺物は少ないが、炉内から深鉢の胴下半部(1)が1個体、炉の北側で床面からやや浮いた状態で半分が割れた鉢形土器(3)が1個体出土した。また、炉石に口縁部を掛けた状態で、口縁部と底部が欠損した小形深鉢が1個体出土しているが、所在が不明となっている。

時期 覆土出土の土器から、加曾利E3式期に比定する。

38号住居

位置 S-13グリッド

確認 重複する37号住居の掘り方調査で壁の一部を確認し、続いて貼り床が確認されたことから住居と認定した。

重複 37号住居及び298号・299号土坑と重複し、これらに切られる。

形状 東西に長軸をとる楕円形の住居で、規模は

長軸4.35m、短軸4mである。

床面 ほぼ平坦で、中央部付近に黄色ローム質土による貼り床が施されていた。貼り床部分は硬化している。貼り床に残っている箇所は本住居でも柱穴の内側であり、34号住居の事例と共通している。

また、本住居では西側の一部を除いて壁が確認でき、壁に沿ってめぐる周溝も検出された。周溝は断続的にめぐっており、西側では確認できなかった。壁高は山側で40cm、周溝は幅が15~25cm、深さ5~10cmである。周溝は掘り方調査でも確認され、その走行はやはり断続的であったが、床面の周溝とは途切れる位置が異なっており、本住居は改築をしている可能性が高い。

なお、谷側にあたる東壁の一部に礎を集積した箇所があり、この部分で周溝も途切れることから、出入り口部の可能性がある。

炉 住居中央より北東に寄った位置に楕円形を呈する濃密な焼土があり、これを炉としたが、この焼土には掘り込みがなく、貼り床の一部が面的に焼土化した状態にも見える。本遺跡ではこの時期の炉は大半が石囲い炉であり、これまでの調査で明確な地床炉は見当たらないことから、疑問が残る。なお、掘り方調査で住居中央部付近から浅い掘り込みの土坑が確認されており、建て替え前の住居の炉であった可能性がある。

柱穴 床面で5本、掘り方調査で7本、合計12本の柱穴を確認した。床面の5本はほぼ等間隔に配置されており、6本あるいは7本の主柱だったことが想定される。その場合、東側に想定した出入り口部には柱4が接近しており、柱穴配置から見れば、出入り口は柱1と5の間としたほうが妥当であろう。

遺物 覆土中から比較的多くの遺物が出土している。土器は加曾利E式系が主体である。

時期 覆土出土土器から、加曾利E3式期中段階に比定する。

41号住居

位置 R-17グリッド

確認 多量の礫と土器が一定範囲に集中することから住居を想定し、炉の確認をもって認定した。

重複 北側を大きく42号・43号住居と重複し、両住居を切る。また、重複関係は確認できないが、北側で5号住居、南側で57号住居と一部を重複する。

形状 本住居は黒褐色土中にあり、また周囲を多くの住居と重複しているため、覆土と地山の見分けは困難を極めた。掘り方調査の所見では直径5.4mの円形と判断したが、主柱が4本柱と想定されることから、隅丸方形となる可能性もある。なお、壁高は山側で20cmである。

床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できない。

炉 大形の扁平礫4石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央部に位置する。対向する南北の隅に礫を加えるが、南側ではそれに多孔石(21)が使用されていた。規模は1辺54cm、深さ12cmで、炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が認められた。

柱穴 床面の調査では確認できなかったが、掘り方調査で3本の柱穴が確認できた。規模は直径65～80cm、深さ35～45cmで、いずれも石囲い炉の隅部に対応していることから、4本柱の主柱が想定される。

遺物 覆土中から多量の礫と土器が出土したが、土器は小片が多く接合するものは少ない。礫は山側から流れ込んだような状態で大量に出土しており、大形のものや板状のものが多量。なお、炉の東側の床面から石棒の欠損品(18)が出土している。

時期 覆土出土の土器から、加曾利E3式期新段階に比定する。

42号住居

位置 Q-17グリッド

確認 礫と土器が一定範囲に集中することから住居を想定し、炉の確認をもって認定した。

重複 5号・12号・41号・43号・59号・60号住居と一部を重複し、12号・43号・60号住居を切り、5号・41号・59号住居に切られる。

形状 本地区ではトップクラスの大型住居であり、

貼り床が施されていることもあって、形状等の把握は容易であった。谷側の一部は壁の確認ができなかったが、長軸7.80m、短軸7.75mのほぼ円形を呈するものと推定する。壁高は山側で40cmである。

床面 柱穴がめぐる内側の範囲に貼り床が確認された。貼り床には黄色ローム質土が使用されており、厚さは1～2cmほどで、34号住居に較べてやや軟質であった。

南東壁際の一部にも同様の貼り床を施した部分があり、貼り床の下から埋塞が確認された。埋塞に使用された土器は、口縁部と底部を打ち欠いた浅鉢(10)で、正位に埋設されていた。この位置は炉の主軸とも一致しており、出入り口にあたると考えてよいだろう。その場合、本住居でも34号住居と同様に、地山の傾斜に対して南東側の横方向に出入り口があったことになる。また、炉からこの出入り口に向かって1mのところには貼り床が焼土化した部分があり、その上に小さな板石が置かれていた。焼土は明瞭であり、この場所で火を焚くか「おき」を置いたものと思われる。

なお、南西側の壁際床面に小礫が集中する部分が2箇所あった。いずれも長さが3mほどで、1mの間隙を置いて対峙している。寝間等の施設の可能性を考えたい。

炉 大形の扁平礫4石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央部に位置する。1辺1mの大形の炉で、隅部には円礫や棒状礫が根詰めされており、東側隅部には有頭石棒(102)が立てられていた。使用された石棒は直径11cm、長さ19cmのもので、体部を欠損しているが、欠損部には研磨による調整が施されていた。また、頭部には炉の内面側を中心に被熱痕跡が明瞭に認められ、その一部は欠損していた。石棒の位置は、出入り口から見て手前右手にあたる。

炉の底面には焼土が残っており、炉石は被熱痕跡が著しく、亀裂が生じていた。なお、炉の掘り方調査で最終使用面の下から焼土面がもう1面見つかり、改修されていることが判明した。出入り口の埋塞の上に貼り床が施されていたことも加味すると、本住

第1章 発見された遺構と遺物

居は一度改修が行われたと考えたほうがよいだろう。

柱 穴 柱穴は10本確認されたが、主柱穴は1～5・7の6本が該当するであろう。柱1と8、柱7と6が隣接しているのは、本住居が改修されていることを示していると考ええる。

遺 物 多量の礫とともに数多くの土器・石器が出土した。覆土の上層が失われているためか、土器の接合資料は少ないが、石織をはじめとする実用石器類がまとまって出土している。また、床面付近に板状礫や大形礫が数多く分布していたが、34号住居で確認された長方形配石と認定できるものはなかった。

なお、北東よりの床面付近から、数個の礫とともに翡翠製大珠(100)が出土している。出土位置は床面が不明瞭な部分にあたるが、本住居出土として扱っておきたい。

時 期 覆土中出土土器と出入り口部埋塞から、加曾利E3式期中段階に比定する。

43号住居

位 置 R-17グリッド

確 認 重複する41号・42号住居の調査時に、多量の礫が集積する箇所があり、土器も伴っていることから住居を想定した。

重 複 5号・41号・42号住居と重複し、これらに切られる。

形 状 床面確認の段階では円形状の形状を想定したが、掘り方調査で周溝が確認され、長軸5.8m、短軸5.25mの南北に長い楕円形の形状が判明した。

床 面 硬化した部分はないが、ほぼ平坦な床面を呈する。壁高は山側で35cmである。なお、掘り方調査で山側をめぐる周溝が確認された。

炉 石敷きを伴う石囲い炉で、住居の中央に位置する。南側以外の辺に小さな扁平礫を立てて方形状に組み、10～20cmほどの扁平礫を南側から炉の中央部に向かって傾斜するように敷き込んでいる。規模は長軸1.3m、短軸は石囲い部で90cm、石敷き部で1m、深さは20cmほどで、炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石の内面と石敷き面には被熱に

よる変色と煤の付着が認められた。

このような炉は、本遺跡では今のところ例がないが、小さな礫を使用する点や石敷きの方法は、越後地方との関係を想定させる。

柱 穴 床面調査の段階では3本の柱穴の確認に止まったが、掘り方調査で8本の柱穴を確認し、合計11本となった。このうち柱1～7が主柱穴にあたり、柱8と9が出入り口部に伴う柱穴になるであろう。主柱穴は7本柱の亀甲形に配置され、出入り口部に1対の柱穴が伴うものと考ええる。

この場合、地山の傾斜に対して南東側の横方向に出入り口が付くことは34号住居及び42号住居とも共通しており、炉の石敷き部は出入り口部の正面にあたることになる。

遺 物 柱穴に囲まれた住居中央部に、大小多量の礫が詰め込まれたような状態で集積しており、その下部は石囲い炉を覆っていた。明らかに人為的に埋め戻された状況と判断する。土器等の遺物はその下から出土したものが多く、比較的多量に資料が得られている。なお、破片資料では本住居より古い段階の土器も意図的に選定した。

時 期 覆土下層出土の土器から、加曾利E3式期古段階に比定する。

44号住居

位 置 L-18グリッド

確 認 本住居のあるグリッド18ラインには近世の石垣が位置しており、石垣を取り外した段階で石囲い炉の一部を確認し、住居と認定した。

重 複 縄文時代の遺構との重複関係はない。

形 状 谷側(北側)に柄が付く柄鏡形住居で、主体部は直径4mほどの円形状を呈する。

床 面 本来はほぼ全面に敷石が施されていたと思われるが、敷石の大半は近世の石垣の構築等により消失していた。ただし、床面をよく観察すると、敷石の一部と見られる板石(斜線で表示)と、敷石の根詰めに使われた小さな円礫(黒塗りで表示)が列状に残っており、ほぼ全面にわたる敷石の状況が想

定できた。なお、掘り方調査で南壁と東壁の内側をめぐる周溝が検出された。

炉 大形の扁平礫4石で組んだ方形の石囲い炉で、住居の中央に位置する。南側の炉石と他の一部を失っているのは、近世の石垣の構築による可能性が高い。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には明瞭な被熱痕跡が認められた。規模は1辺60cm、深さは18cmである。

柱 穴 床面の調査段階では確認できなかったが、掘り方調査で7本の柱穴が検出された。柱1～6は炉を中心に対峙する位置にあり、柱7は出入り口部の対柱となるであろう。

遺 物 出土遺物はいたって少なく、山側の床面付近から少量の土器片と石器が出土している。

時 期 覆土出土の土器から、加曾利E4式期に比定する。

48号住居

位 置 O-16グリッド

確 認 礫や遺物の出土量は少なく、事前に想定する材料はなかったが、床面が高い位置にあるため、早期に石囲い炉が確認された。

重 複 42号・50号・52号・65号住居と重複し、42号・50号・65号住居を切り、52号住居に切られる。このうち、50号住居とはほとんどの部分が重なっており、切られる52号住居は縄文時代後期の住居である。

形 状 直径3.95mの円形を呈する。確認できた壁高は10cmほどであるが、全周にわたって検出することができた。

床 面 本住居の床は黒褐色土中にあり、不明瞭と言わざるを得ない。確認は炉と礫や遺物の底面を基準に精査したが、硬化面は確認できなかった。

炉 大形の扁平礫4石で組んだ方形の石囲い炉で、住居の中央に位置する。炉内にわずかに焼土が残っており、炉石内面には被熱による変色・劣化及びび煤の付着が認められた。規模は1辺60cm、深さ15cmである。

柱 穴 確認できない。

遺 物 床面付近から少量の遺物が出土している。
時 期 覆土出土の土器から、加曾利E3式期中段階に比定する。

49号住居

位 置 O-15グリッド

確 認 重複する住居も含めて多量の礫が集積しており、その礫の下から石囲い炉が確認された。

重 複 51号・52号・65号住居と重複し、51号・65号住居を切り、後期の52号住居に切られる。

形 状 重複部分では明瞭な壁が確認できなかったが、山側では25cmほどの高さで壁が円形状にめぐっており、炉の位置関係や礫・遺物の分布状況などから、直径3.5mほどの円形を呈するものと想定した。

床 面 48号住居と同様。

炉 大形の扁平礫5石で組んだ5角形状の石囲い炉で、住居の中央に位置するものと想定する。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱による変色・劣化及びび煤の付着が認められた。また、炉石の一部は意図的に打ち欠かれており、炉内には礫が数多く投げ込まれていた。規模は東西70cm、南北60cm、深さ10cmである。

柱 穴 確認できない。

遺 物 床面及び炉内から少量の遺物が出土した。

時 期 出土土器から、加曾利E3式に比定する。

50号住居

位 置 Q-15グリッド

確 認 48号住居の掘り方調査で石囲い炉が確認された。

重 複 48号・52号・65号住居と重複し、48号・52号住居に切られる。65号住居との切り合い関係は不明。

形 状 壁の確認は一部に止まるが、覆土の状況や遺物の出土状況などから、長軸4.35m、短軸4.15mほどの円形状を呈するものと思われる。

床 面 床面は黒褐色土中にあり、特に硬化した部

部分は認められなかった。

炉 大形の板石と扁平礫敷石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央に位置する。規模は1辺60cm前後、深さ7～10cmである。炉の北西に48号住居の炉が重なっており、その部分の炉石を失っている。その他の炉石も傾いているものがあり、廃絶時に手を加えていると想定する。炉内に焼土が残り、炉石の内面には被熱による変色・亀裂が認められた。

柱 穴 3本確認された。直径は35～50cm、深さは32～47cmである。

遺 物 床面からわずかに浮いた状態で、少量の土器片と石器が出土した。

時 期 覆土出土の土器から、加曾利E3式期に比定する。

51号住居

位 置 N-15グリッド

確 認 この地区は全面に大量の礫が集積しており、その下から一定範囲に集中した状態で多量の土器が出土した。土器は時期的にもまとまりが認められることから住居を想定し、炉の確認をもって確定した。

重 複 西側に49号住居と重複し、これに切られるが、床面レベルが異なるため、本住居周囲の地山礫は失われていない。

形 状 明瞭な壁は確認できなかったが、炉の位置と住居周囲の地山礫との関係から、長軸3.9m、短軸3.6m前後の楕円形あるいは隅丸方形状を呈するものと想定した。

床 面 判然としない。

炉 中央部に集積した土器の下から、焼土が残る楕円形の浅いくぼみが確認された。掘り方は長軸60cm、短軸50cmの楕円形状を呈する。本来は石囲い炉であった可能性が高い。

柱 穴 確認できない。

遺 物 住居覆土中に多量の礫が集積しており、その礫を取り除くと、中央部の床面付近に多量の土器が集積されていた。土器は接合率が高く、一括投棄されたものと解釈できる。土器では、台付土器の脚

部(3)や浅鉢(9)が越後地域との関連で注目される。石器では、縁部に弧状文を施した足付石皿(20)が、炉の北側長軸線上の床面から出土している。

時 期 出土土器から、加曾利E1式期古段階に比定する。

53号住居

位 置 O-16グリッド

確 認 縄文時代後期の47号・52号住居の調査に伴って住居の存在が想定され、南側の壁と周溝の確認をもって認定した。

重 複 47号・52号・60号・65号住居と重複し、65号住居を切り、後期の47号・52号住居に切られる。65号住居との切り合い関係は不明である。

形 状 輪郭が確認できたのは南側の壁と周溝の一部だけだが、掘り方調査で検出した柱穴と炉の掘り方から、長軸6.7m、短軸5.4mの楕円形の形状を想定した。確認された南壁は高さは35cmで直立し、周溝は幅18～25cm、深さ14～18cmである。

床 面 南側の一部で、平坦な床面が明瞭に確認できた。本住居の床は、重複する60号住居の床より10cm高く、隣接する51号住居の床より25cm低い。

炉 重複する60号住居の調査で、本住居の炉と想定される楕円形の土坑が確認された。この土坑は長軸70cm、短軸55cm、深さ14cmの楕円形状を呈するもので、焼土等は残っていないが、想定される本住居の形状と長軸が一致している。

柱 穴 重複する住居も含めて、本住居の柱穴と想定されるものが6本確認され、そのうち柱1～4が主柱穴にあたと想定した。亀甲形の配置は重複する60号住居を参考にした。柱穴の規模はいずれも直径40cm前後、深さは32～38cmである。

遺 物 覆土中から比較的まとまった量の土器が出土している。主体は本地域特有の樽形を呈する沈線文系の土器であり、加曾利E式は少ない。

時 期 覆土出土の土器から、加曾利E3式期古段階に比定する。

54号住居

位置 P-14グリッド

確認 中世遺構の調査段階で、黒褐色土中から敷石面が確認され、住居と認定した。

形状 敷石面は炉の周囲の一部だけが残っており、その他の手懸かりは掘り方調査でも得られなかった。なお、山側（南側）の高い位置に礫が集積しており、この位置が壁となる可能性もある。その場合、主体部の大きさは直径3.5m前後となる。

床面 炉の周囲に板石と扁平礫を水平に敷き詰めるが、周囲の敷石は失われている。

炉 大形の扁平礫4石で組んだ方形石囲い炉だが、南半部を中世掘立柱建物の柱穴で破壊されていた。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面は被熱による変色と煤の付着が認められた。

柱穴 確認できない。

遺物 出土遺物は数片の土器細片と使用痕が残る礫だけである。

時期 本住居の時期認定が可能な土器の出土はないが、全面敷石の状況から、加曾利E4式期に比定しておきたい。

55号住居

位置 Q-13グリッド

確認 本住居は多量に礫を含む地山を掘り込んで構築しており、遺物の出土はほとんど見られなかったが、硬化した床面があり、それを追跡することで炉と壁を確認できた。

重複 なし。

形状 一辺4.3mほどの隅丸方形を呈する。山側の半分は壁が確認できたが、谷側では確認できない。壁高は山側で40cmである。

床面 床の一部は地山の黄色砂質土に達しており、山側では硬化面が確認できた。

炉 大形の扁平礫で組んだ土器埋設方形石囲い炉で、住居の中央に位置する。炉石は半数以上が抜き取られており、残っているものも端部が打ち欠かされていた。埋設土器は、口縁部と胴下半部を打ち欠

いた樽形の小形深鉢（5）を使用し、炉内中央より北東隅にやや寄せて埋設されていた。転用された土器は53号住居の2・3と近似した形態のものであるが、劣化が著しく、大半が崩れてしまった。

炉内に焼土は残っていないが、炉石は被熱で劣化し、亀裂が生じている。

柱穴 山側で4本の柱穴を確認した。

遺物 本住居も出土遺物はいたって少ない。

時期 出土遺物等から、加曾利E3式期に比定する。

56号住居

位置 R-12グリッド

確認 本住居は地山に礫を多量に含む地区にあり、当初は全面が礫で覆われていたが、本住居の部分にだけ少量の土器が混在しており、数回にわたって礫を取り外したところ、一括状態の土器と石囲い炉の一部が確認された。覆土中には、床面付近までごしりと礫が詰め込まれていた。

重複 なし。

形状 長軸3.64m、短軸3.26mの楕円形の住居で、地山の傾斜に長軸を直行するように配置している。壁は全周にわたって確認できており、壁高は山側で60cmを計る。小形ではあるが、定形化した楕円形住居の代表例と言える。

床面 ほほ水平で、炉の周囲ではやや硬化した床が認められた。

炉 小ぶりでも細長い扁平礫を立てて開いた楕円形の土器埋設石囲い炉で、住居の長軸線上北西寄りに位置する。炉の形状は住居形状とも一致しており、炉石の運び方やその作りに端正さが窺える。規模は長軸65cm、短軸45cm、深さ7cmである。

炉の中央には胴上半部を打ち欠いた深鉢が正位に埋設されていた。使用された土器は、胴下半部がソロバン玉状に張る小形の深鉢（3）で、上端部には被熱痕跡が認められた。

炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱による変色・劣化と煤の付着が認められた。

第1章 発見された遺構と遺物

柱 穴 床面で5本、掘り方で3本、合計8本の柱穴を検出した。主柱は判然としなない。

遺 物 覆土中には礫がぎっしりと詰まっており、その中に少量の土器が混在して出土した。また、礫を取り除いた下からややまとまって土器が出土しており、床面付近では炉の上から大形の深鉢（7）、炉の南西側から深鉢（1）が出土している。

時 期 炉内埋設土器及び覆土出土の土器から、加曾利E1式期古段階に比定する。

57号住居

位 置 R-15グリッド

確 認 一定範囲に礫と土器が集中することから住居を想定し、炉の確認をもって認定した。

重 複 住居の中央部に297号土坑が重複し、これを切る。

形 状 直径3.4mほどの円形状を呈する。山側にあたる南半部では壁が確認できたが、谷側では確認できなかった。

床 面 ほほ平坦だが、297号土坑の範囲では床が落ち込んでいた。

炉 大形の扁平礫4石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央に位置する。炉はちょうど297号土坑の部分にあたるため、落ち込んでやや傾いている。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が明瞭に認められた。

柱 穴 確認できない。

遺 物 覆土中から少量の遺物が出土している。

時 期 覆土出土の土器から、加曾利E3式期に比定する。

58号住居

位 置 S-16グリッド

確 認 遺構確認調査の最終段階で、石囲い炉が確認された。周囲を再確認したが、その他の施設は認められなかった。

重 複 なし。

炉 大形の扁平礫1つが縦位に設置してあり、そ

の片側に数個の礫が敷いたように置かれていた。焼土は認められないが、礫の一部に被熱痕跡が認められたことから、炉と認定した。

遺 物 炉の確認調査時に数片の土器と石皿（3）が出土した。

時 期 出土土器から、加曾利E3式期に比定する。

60号住居

位 置 O-17グリッド

確 認 重複する住居の掘り方調査に伴って確認された。礫を多く含む地山を掘り込んで構築しており、覆土中にも多量の礫が認められた。

重 複 42号・47号（後期）・52号（後期）・53号住居と重複し、これらに切られる。また、掘り方調査で床下から356号土坑を確認した。

形 状 長軸5.38m、短軸5.00mの楕円形で、長軸は地山の傾斜に直行する。

床 面 床は地山の黄色砂質土に連しており、一部に黄色砂質土を使って平坦面を構築しているが、34号住居の貼り床のような硬化面は見られない。また、山側では壁下をめぐる周溝が検出された。

炉 大形の扁平礫数個で囲った長方形石囲い炉で、住居中央の長軸線上やや西寄りに設置している。炉石は東側の1辺が抜き取られている。炉内に焼土がわずかに残り、炉石内面は被熱で変色・劣化し、亀裂が生じていた。

柱 穴 床面で亀甲形に配置された6本の主柱穴を確認した。また、掘り方調査で小さなピットが数本検出されたが、そのうち西側周溝内の2本は出入り口部に伴う柱穴と考えられる。

遺 物 覆土中には礫が多く認められたが、その下からややまとまった遺物と多量の焼骨（50g）が出土している。なかでも、床面近くから出土した土偶（13）は注目される。また、8・10は後期の遺物であり、重複する47号・52号住居のいずれかに所属するであろう。

時 期 覆土出土の土器から、加曾利E2式期新段階に比定する。

62号住居

位置 O-13グリッド

確認 中世以降の構造物を調査中に石囲い炉が確認されたが、その他の施設は検出できなかった。

重複 なし。

炉 大形の扁平礫で組んだ方形石囲い炉であるが、炉石の一部は失われていた。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が認められた。遺物 炉の調査時に数片の土器が出土した。

時期 時期判定に使用できる材料はないが、加曾利E式期の住居と想定する。

64号住居

位置 L-16グリッド

確認 中世以後の石垣等の造作を調査中に、土器が出土する平坦面が確認された。炉は検出できないが、大形の地山礫がめぐる楕円形の形状が判明したため、住居と認定した。

重複 なし。

形状 長軸4mほどの楕円形になると想定した。山側の壁には大形の地山礫が並んでおり、壁高は50cmを計る。谷側は中世以降の石垣等の造作で攪乱されている。

床面 山側ではほぼ平坦な床が確認できた。

炉 確認できない。

柱穴 山側の壁に沿って大小10本の柱穴を確認した。このうち、等間隔に並ぶ大きな柱穴が主柱になるであろう。

遺物 床面近くから少量の遺物が出土している。2は越後地域の浅鉢で、混在の可能性がある。

時期 覆土出土の土器から、加曾利E1式期新段階に比定する。

65号住居

位置 P-15グリッド

確認 後期の52号住居の調査で、南側に重複する浅い掘り込みと柱穴が確認された。

重複 48号・49号・50号・52号(後期)・53号住

居と重複し、52号住居に切られる。その他の住居との切り合い関係は判然としない。

形状 不明。

床面 52号住居の南でわずかな平坦面が確認された。床面付近には多量の焼骨と炭化物が出土したが、硬化面は確認できない。壁は山側で15cmほどである。

炉 確認できない。

柱穴 床面で重複する6本の柱穴を確認し、52号住居をはじめとする重複住居で確認した柱穴を合わせて検討し、6本柱亀甲形の配置を想定した。柱穴は重複するものが多く、建て替えを行った可能性が高い。

遺物 覆土中から多量の焼骨(71g)のほかに、少量の土器・石器が出土している。

時期 覆土出土の土器等から、加曾利E3式期に比定する。

66号住居

位置 D-18グリッド

確認 調査の早い段階で敷石の一部と炉が確認された。

重複 67号・70号(後期)住居と重複し、67号住居を切り、70号住居に切られる。

形状 谷側(北側)に柄杓が付く柄鏡形敷石住居であるが、輪郭は判然としない。

床面 西側の縁辺と出入り口部埋塞の付近に、板石と扁平礫を使用した敷石の一部が残るが、かなり乱されている。また、北側に付く柄杓も攪乱を受けており、確認できなかった。なお、床面には住居北西隅に1個、出入り口部埋塞の西側に2個の大きな丸石が置かれていた。

炉 大形の板石と扁平礫4石で組んだ土器埋設方形石囲い炉で、住居中央部よりかなり出入り口部寄りに位置する。炉石は南東隅付近が抜き取られていた。埋設土器には口縁部を打ち欠いた小形の深鉢(2)が使われ、炉内南東隅に寄せて正位に埋設されていた。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が認められた。

第1章 発見された遺構と遺物

柱 穴 敷石面に沿って7本の柱穴を調査したが、いずれも不明確であった。また、出入り口部埋塞の前に付く大きな対柱も確認できなかった。

埋 塞 炉の北側65cmに近接して埋塞が確認された。使用されていた土器は、底部を打ち欠いた樽形の両耳蓋土器(1)で、正位に埋設され、口縁に沿って小さな円礫で縁取りし、その周囲には敷石が施されていた。また、埋塞のすぐ西側の床面には、大きな丸石が2つ置かれていた。なお、埋塞の中からは何も検出されなかった。

遺 物 出土遺物はいたって少ない。

時 期 炉内埋設土器及び埋塞から、加曾利E4式期に比定する。

67号住居

位 置 D-18グリッド

確 認 重複する66号住居の調査に伴って確認された。

重 複 66号・70号(後期)住居と重複し、これらに切られる。

形 状 山側の一部のみ確認であるが、円形状を呈するものと想定する。壁高は山側で20cmである。

床 面 不明瞭。

炉 確認できない。

柱 穴 床面では不明瞭であったが、掘り方調査で数多くの柱穴を確認した。主柱穴は6本柱亀甲形となる可能性が高い。

遺 物 覆土中から少量の遺物が出土した。

時 期 覆土出土の土器から、加曾利E3式期新段階に比定する。

69号住居

位 置 M-13グリッド

確 認 この地区は地山が高いために耕作が地山まで及んでおり、遺構が確認できない地区になっている。本住居は耕作土下で炉のみが確認された。

重 複 363号土坑と重複するが、切り合い関係は不明である。

炉 小さな礫数個で囲った楕円形状の石囲い炉で、規模は長軸50cm、短軸40cmである。炉内に焼土は残っていないが、炉石の内面には被熱による変色・劣化が認められた。

遺 物 炉の調査に伴って土器片が数個出土した。

時 期 時期判定の材料はないが、炉の状況等から加曾利E式期の住居と認定したい。

76号住居

位 置 B-19グリッド

確 認 図に掲載しなかったが、本住居の南側の一部に後期段階の列石遺構が重複しており、本住居は列石遺構の掘り方調査で敷石と炉が確認された。

重 複 4号列石(後期)と重複し、これに切られる。

形 状 谷側(北側)に柄部が付く柄鏡形敷石住居で、主体部は東西3.6m、南北3.5mの隅丸形状を呈すると想定した。壁が確認できたのは山側の一部のみで、壁高は20cmである。

床 面 敷石には板石と扁平な円礫が使用されており、原位置で残っているのは炉の周辺のみであった。

炉 大形の板石で組んだ方形石囲い炉であるが、炉石の多くが失われていた。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が明瞭に認められた。

柱 穴 主軸線上の南側の1本のみ確認できた。また、埋塞の北側70cmのところで、直径80cm、深さ40cmの大きな円形土坑が確認された。出入り口に伴う施設と考えられる。

埋 塞 炉の南側50cmに近接する。使用されていた土器は胴下半部を打ち欠いた樽形の深鉢(1)で、正位に埋設されていた。土器の中からは何も検出されなかった。

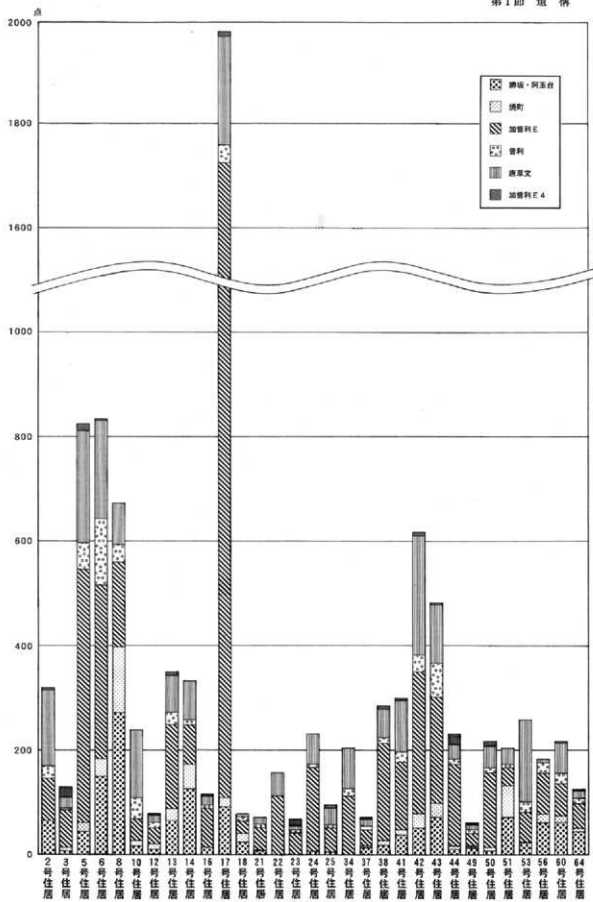
遺 物 出土遺物はいたって少ない。

時 期 埋塞と出土土器から、加曾利E4式期古段階に比定する。

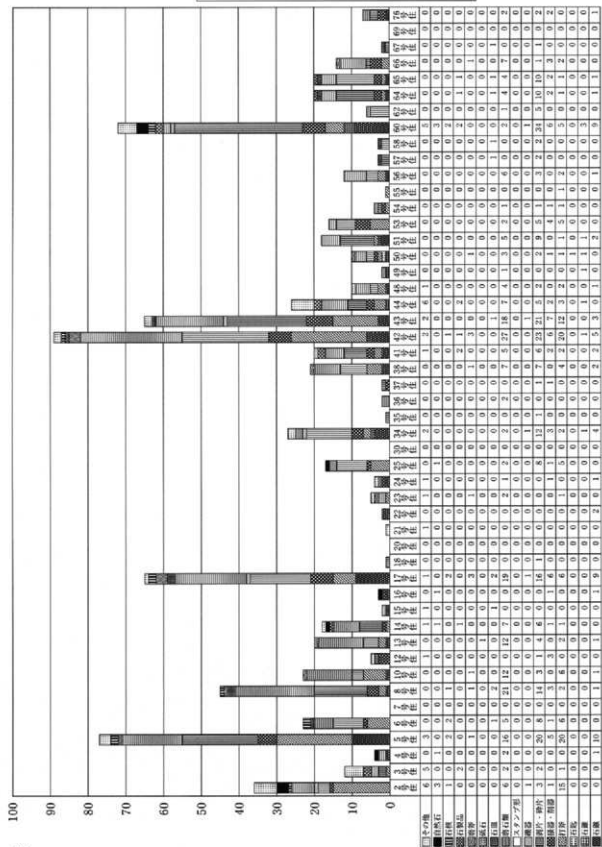
第1章 発見された遺構と遺物

	勝坂・阿玉台	焼 町	加曾利E	曾 利	唐 草 文	加曾利E4	合 計
2号住居	64	0	81	22	147	2	316
3号住居	8	2	81	1	18	18	128
4号住居	1	2	5	2	28	0	38
5号住居	45	15	484	51	217	11	823
6号住居	148	32	335	123	191	1	830
8号住居	271	124	147	30	97	0	669
10号住居	14	12	44	36	128	0	234
12号住居	11	7	33	8	16	1	76
13号住居	69	20	158	20	75	3	345
14号住居	122	49	75	7	76	0	329
15号住居	0	0	0	0	0	0	0
16号住居	12	0	75	3	21	1	112
17号住居	91	15	1619	41	210	8	1984
18号住居	24	17	24	3	8	0	76
20号住居	1	0	2	1	4	0	8
21号住居	6	0	49	1	14	0	70
22号住居	0	0	111	0	42	0	153
23号住居	0	0	40	3	9	15	67
24号住居	3	0	163	3	59	0	228
25号住居	2	0	54	2	32	3	93
30号住居	0	0	0	0	3	0	3
34号住居	0	0	111	11	78	0	200
35号住居	0	0	9	0	4	0	13
36号住居	0	0	0	0	4	0	4
37号住居	14	1	33	6	15	1	70
38号住居	16	7	189	9	57	4	282
41号住居	34	10	134	18	99	1	296
42号住居	52	23	274	31	228	6	614
43号住居	67	24	206	62	115	1	475
44号住居	8	6	158	5	31	19	227
48号住居	0	0	0	0	0	0	0
49号住居	15	1	28	2	12	1	59
50号住居	13	3	141	6	41	8	212
51号住居	87	39	39	3	31	0	199
53号住居	24	0	58	17	155	0	254
54号住居	1	0	5	1	5	0	12
55号住居	3	0	5	1	12	0	21
56号住居	59	16	78	19	7	0	179
57号住居	0	0	2	1	2	0	5
58号住居	0	2	1	0	3	0	6
59号住居	5	0	37	0	22	1	65
60号住居	58	15	65	16	57	2	213
62号住居	0	0	0	0	0	0	0
64号住居	44	4	48	9	15	3	123
65号住居	0	0	0	0	0	0	0
66号住居	0	0	0	0	0	0	0
67号住居	0	0	0	0	0	0	0
69号住居	0	0	0	0	0	0	0

表3 20区中期住居出土土器分類表



第5図 20区中期住居出土土器分数グラフ



第6図 20区中新住居出土石器総点数

表4 横峯中村遺跡20区縄文時代中期の住居一覧

住居番号	グリッド 女番	時期	形状(座)	形状	長	幅	壁 厚	柱	柱 間隔(点)	切合関係(節)	備 考
1号住居	V-24	加 E 3 式	円形	365	380	55	上部埋設方形石函印 石函印小	3本 4号住居			
2号住居	V-24	加 E 4 式	—	—	—	—	—	—			
3号住居	V-24	加 E 4 式	—	—	—	—	—	—			
4号住居	V-23	加 E 3 式	円形	347	325	55	石函印中	—	10-12-16-20-42-43号住居	2号住居	石函印土。
5号住居	V-18	加 E 3 式中	4	—	—	—	—	—	37号・40-43号土坑		北西向きに連続の住居。土間・石礎土土。
6号住居	S-20	加 E 2 式副	円形	505	490	50	長方形石函印	—	17号住居		
7号住居	U-20	中層 Ⅱ 平	—	—	—	—	方形石函印	—			
8号住居	U-22	加 E 1 式古	20	—	—	—	不明	—	13号・14号住居		
9号住居	欠番	—	—	—	—	—	—	—			
10号住居	R-19	加 E 2 式副	—	—	—	—	土間埋設方形石函印	5本	5号住居		山側に長方形配石を伴う住居。
11号住居	U-21	無名1式	—	—	—	—	土間埋設方形石函印	—	22号土坑		
12号住居	Q-18	加 E 1 式副	—	—	—	—	長方形石函印	3本	5号・10号・42号・43号住居		
13号住居	U-23	加 E 3 式副	13	円形	535	525	方形石函印	—	4号・8号・14号住居		
14号住居	U-23	加 E 3 中	10	円形	510	470	方形石函印	—	8号住居		土間土土。
15号住居	S-19	中層 Ⅱ 平	—	—	—	—	方形石函印小	—	13号住居		
16号住居	R-18	加 E 3 式副	—	—	—	—	土間埋設方形石函印	—	5号住居		
17号住居	T-20	加 E 3 式副	2	楕円形	595	510	方形石函印	1本	7号住居		東面入り口側に臺石を伴う住居。
18号住居	S-19	加 E 1 式	—	円形	510	20	不明	—	6-15号住居・42-43-46-54号土坑		
19号住居	U-21	縄之内2式	—	—	—	—	土間埋設石函印小	—	5号住居		
20号住居	R-18	加 E 3 式古	—	—	—	—	土間埋設石函印中	—			
21号住居	R-20	加 E 3 式中	1	—	—	—	土間埋設石函印	2本	石函印中に石礎を立てる。		
22号住居	V-25	加 E 3 式中	2	—	—	—	土間埋設方形石函印	9本	2号配石・1号配石		輪縁部を石柱とする。
23号住居	Q-22	加 E 4 式	1	—	—	—	土間埋設石函印小	11本 25号住居	4本 30号住居		北東面入り口側に埋蔵。石礎土土。
24号住居	Q-23	加 E 3 式副	4	円形	460	30	方形石函印	—			
25号住居	P-22	加 E 3 式	—	楕円形	435	400	方形石函印	5本	23号住居・2号配石		
26-29号住居	欠番	—	—	—	—	—	—	—			
30号住居	P-23	加 E 3 式中	1	—	—	—	土間埋設石函印小	3本	24号住居		
31-33号住居	欠番	—	—	—	—	—	—	—			
34号住居	U-13	加 E 3 式古	—	円形	640	600	方形石函印	7本柱	9号壁土		跡地。石函印中に石礎を立てる。長方形配石30所。穴敷30所。
35号住居	W-15	加 E 2 式副	—	—	—	—	土間埋設印中	—			
36号住居	T-11	加 E 3 式	—	—	—	—	方形石函印	—			
37号住居	T-13	加 E 3 式	—	円形	350	340	方形石函印	—	38号住居		
38号住居	S-13	加 E 3 式	—	楕円形	435	400	33	不明	12本		37号住居・298号・299号土坑
39号住居	欠番	—	—	—	—	—	—	—			
40号住居	M-18	縄之内1式	2	—	—	—	—	—			

・女番と中期以外の住居は斜明けで表示した。

・長軸、短軸の単位はcmである。〈 〉内の数字は測定値を表す。

・埋蔵面から床までの深さは、山側の最深部で測った数値を示す。

・柱穴のうち、●本は確認した柱数、◆本柱は測定できた柱数を示した。

・切合関係の(古)はその住居が切られているもの、(新)は切られていることを示す。

第1章 発見された遺構と遺物

在居番号	グリッド	時期	遺構の 説明	形状	長さ	幅	厚さ	高さ	石	柱	切欠関係(点)	切欠関係(部)	備考
41号住居	R-17	加E 3式新	2	円形	545	540	35	540	方彫石圓炉	3本	42号・43号住居	5号・41号・49号住居	石壁出土。
42号住居	Q-17	加E 3式新	20	円形	780	775	40		方彫石圓炉	10本	12号・43号・60号住居	5号・41号・49号住居	足塚、石廊・9号石廊を含む。東側出入口部に遺構。石が出土。
43号住居	R-17	加E 3式古	14	円形	580	525	35		高脚形石圓炉	7本柱		5号・41号・42号住居	
44号住居	L-18	加E 4式	5	円形	400	400	35		方彫石圓炉	7本			駒籠形石住居。
45号住居	次書												
46号住居	次書												
47号住居	O-17	加E 2式	30										
48号住居	O-16	加E 3式		円形	395	395	16		方彫石圓炉	-	60号住居	52号住居	
49号住居	O-15	加E 3式	2	円形	590	545	40		五角形石圓炉	-	51号・53号・65号住居	52号住居	
50号住居	Q-15	加E 3式	6	-	435	415	20		方彫石圓炉	3本		48号・52号・65号住居	
51号住居	N-15	加E 1式古	9	-	390	360	40		楕円形石圓炉少	5本		49号住居	
52号住居	P-16	加E 3式	48										
53号住居	O-16	加E 3式古	10	楕円形	665	540	35		不明	6本	60号住居	49号・65号住居	駒籠形石住居。
54号住居	P-14	加E 4式小	1	-			60		方彫石圓炉	-			
55号住居	Q-13	加E 3式		楕円形	435	420	40		土器埋没方彫石圓炉	4本			
56号住居	R-12	加E 1式		楕円形	364	326	60		土器埋没楕円形石圓炉	8本			
57号住居	R-15	加E 3式新		-		340	25		五角形石圓炉少	-	297号土坑		
58号住居	3-16	加E 2式		-					石圓炉	-			
59号住居	次書												
60号住居	O-17	加E 2式新	50	円形	538	500	27		楕円形石圓炉	6本柱		42号・53号・65号住居	隔り床。土製出土。
61号住居	L-18	加E 2式古	2	-									
62号住居	O-14	加E 3式小		-					方彫石圓炉	-			
63号住居	次書												
64号住居	L-16	加E 1式古	2	楕円形	400		50		不明	9本			
65号住居	P-15	加E 3式	71	-					不明	6本柱	50号・53号住居	48号・49号・52号住居	
66号住居	D-18	加E 4式古	6	-	380	320	35		土器埋没方彫石圓炉	-	67号住居	70号住居	駒籠形石住居。南出入口部に遺構。
67号住居	D-18	加E 3式中	2	-			20		不明	-		66号住居	
68号住居	次書												
69号住居	M-13	中		-					楕円形石圓炉	-			
70号住居	C-19	加B 1式	1										
71号住居	A-17	加B 2式	2										
72号住居	I-15	加E 1式		楕円形					方彫石圓炉				
73号住居	次書												
74号住居	A-20	晩											
75号住居	C-17	後	1										
76号住居	B-19	加E 4式古		楕円形	560	350	20		方彫石圓炉	2本		70号住居、4号住居	駒籠形石住居。南出入口部に遺構。

第2節 遺物観察表

20区2号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁一部上半 口縁15.5		黒雲母を含む砂粒を多く含む。普通。明赤褐色。	4単位の波状口縁。波頂部には渦巻文の文様と取5字状の文様を隆帯で交互に描出する。口縁部には貫注工具による刺突文を羽状に施す。胴部には隆帯を垂下させるとともに、蛇行する沈線も1条垂下させる。その間にはやや彎曲する沈線を施文する。	
2	深鉢	口縁一部1/4		小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	4単位の波状口縁か。一つの波頂部からは横状把手が付くものと思われる。口縁部の下位には円環状の突起が付き、端部が縦手状を呈する隆帯を垂下させる。その後、厚体Lの単筋斜縄文を施文する。	
3	深鉢	口縁突起		砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	口縁に付く斜先状の突起。胴面に沈線で文様を描出する。	
4	深鉢	口縁突起		白色軽石をやや多く含む。普通。明赤褐色。	口縁に付く両角状の突起。側面と上面に沈線文を施し、中央に径8mmほどの孔をうがつ。	
5	鉢形土器	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。浅黄褐色。	胴部の下位を肥厚させ、胴部に段を作り出す。沈線で八字状の区画をなし、区画内に厚体Lの単筋斜縄文を縦位に施文する。	
6	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。やや不良。褐色。	断面半円の隆帯で帯の文様帯を区画し、内部に細い沈線を縦位に施文する。	
7	深鉢	口縁部片		石英を含む砂粒を少量含む。良好。浅黄褐色。	口唇部下位に断面半円の隆帯を1条描らし、その下位に楕円形の文様帯を区画する。区画内には沈線を縦位に施文した後、隆帯に沿った沈線を施文する。	
8	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面三角の隆帯を弧状に施文し、そこから隆帯を1条垂下させる。	
9	深鉢	胴部片		黒雲母、石英をわずかに含む砂粒を多く含む。普通。明赤褐色。	断面半円の隆帯2条を八字形に施文した後、棒状工具による斜沈線を施文する。	
10	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	浅い沈線を縦位に施文した後、3条の沈線を弧状に施文し、蛇行する沈線を垂下させる。	
11	浅鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口唇部は内外に肥厚する。無文で内面に赤色塗彩の痕跡。	
12	浅鉢か	口縁部片		石英、黒雲母をわずかに含む。良好。褐色。	口唇部は内折する。隆帯で渦巻き状の文様を描出し、外面に赤色塗彩の痕跡。	

20区2号住居土器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
13	石皿	先端部欠	21	18	3	0.9	黒曜石	
14	ドリル	先端部欠	20	7	4	0.4	黒曜石	
15	打斧	完	122	59	19	67.5	細粒輝石安山岩	
16	打斧	完	89	55	16	80.0	細粒輝石安山岩	刃部摩滅
17	打斧	完	91	54	10	48.4	細粒輝石安山岩	
18	打斧	完	110	47	17	78.9	細粒輝石安山岩	
19	打斧	基部欠	96	50	16	90.5	黒色頁岩	
20	打斧	基部欠	105	57	25	166.0	細粒輝石安山岩	
21	打斧	基部欠	111	47	20	137.1	細粒輝石安山岩	
22	打斧	完	116	54	21	149.5	細粒輝石安山岩	
23	凹石	完	105	70	46	457.8	細粒輝石安山岩	一方の端部に磨打痕
24	凹石	一部欠	106	70	57	551.7	細粒輝石安山岩	一方の端部に磨打痕

20区3号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		小礫をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	無文の口縁はやや強く外反する。胴部に断面三角の低い隆帯で文様を区画し、その中には厚体不明の縄文を施文する。その後、隆帯に沿って沈線を施文する。	
2	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。褐色。	波状口縁を呈すると思われる。波頂部に向けて横状把手が付くものと思われる。無文の口縁の下位に沈線と断面三角の低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には厚体Lの単筋斜縄文を施文する。	
3	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	厚体Lの単筋斜縄文を施文した後、沈線と磨り消し文を弧状に施す。	
4	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	厚体Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	粘土・焼成色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
5	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	原形R1の単筋斜縄文を縦位に施した後、磨り消し文を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	低い隆帯で文様を区画し、区画内に原形R1の単筋斜縄文を縦位に施文する。	
7	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	波状口縁の波頂部。口唇部に沿った沈線を施文後、波頂部から開く沈線を施文する。	
8	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	口唇部は外折する。その下位に向かい合う弧状の沈線を施文し、それらをつなぐ短沈線を横位に施文する。	
9	深鉢	胴部片		金雲母を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	彫刻工具による刺突文を山形に施文した後、隆帯を貼付したと思われるが、隆帯は脱落している。	
10	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	沈線を八字状に施文後、彫刻工具によるものと思われる縦沈線を施文する。	
11	深鉢小	環状突起		砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	「の」字状を呈する環状突起。内面に段を持つ。	
12	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。普通。灰褐色。	口唇部内面はやや肥厚し、外面は内傾する。その後から下位に原形不明の縄文を施文した後、沈線を1条垂下させる。	
13	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。浅黄褐色。	円形の刺突文を弧状に施文する。	
14	深鉢	口縁部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。やや不良。黄褐色。	無文の口縁部の下位に断面三角に隆帯で文様を区画する。区画内は器面が荒れて文様は不明である。	

20区3号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
15	磨石	空	134	71.0		58.0	806.6	燧石
16	石製品	一部欠か	65	30.0		21.5	13.1	軽石
17	石製品	完か	38	44.5		23.5	10.5	軽石

20区4号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	粘土・焼成色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴上半1/4 横定口径14.4		黒雲母をわずかに含む。普通。赤褐色。	隆帯で口縁部に彫刻の文様帯を区画する。区画内は棒状工具による縦位の沈線。区画する隆帯の波頂部には隆帯による渦巻き文。そこから1条の隆帯を垂下させる。施文は沈線を斜位に施文する。	
2	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	口唇部は内外にやや肥厚する。隆帯によって口縁部文様帯を区画するものと思われる。区画内は原形R1の単筋斜縄文を縦位に施文する。	
3	深鉢	胴部片		石英を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	原形R1の単筋斜縄文を方向を変えて、羽状に施文する。	
4	深鉢	口縁部片		白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	波状口縁の波頂部。隆帯で渦巻き状の文様を描出し、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
5	深鉢	胴部片		石英を含む細砂粒を少量含む。普通。褐色。	隆帯で渦巻き状の文様を描出し、棒状工具による沈線を斜位に施文する。その後隆帯に沿って沈線を施す。	
6	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	棒状工具による沈線で渦巻き状の文様を描出す。	
7	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	断面三角の隆帯で渦巻き状の文様を描出す。	
8	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	口唇部から横行する隆帯を貼付し、その後棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
9	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	波状口縁に沿った隆帯と八字状の隆帯を貼付する。その後棒状工具による沈線を施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
10	深鉢	口縁部片		黒雲母を含む砂粒を多く含む。普通。にぶい褐色。	口唇部は内側に肥厚する。口縁に沿った沈線の下位に2条の隆帯を返らす。その下位に交互刺突文と縦位の沈線を施文する。	
11	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	断面平円の隆帯を2条垂下させた後、棒状工具による横形文を施す。	

20区4号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
12	石磨	空	17	14		3	0.5	黒曜石
13	磨石	一部欠	105	65		59	427.8	燧石

20区5号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	彫形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～底部2/3	推定口径40.3	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	縦いキョリバー状の彫形を呈する。口縁部は無文で、そこから弧状に断面三角の隆帯を貼付し渦巻き状の区画をなす。区画内には沈線が放射状に施文する。胴部は棒状工具による浅い沈線を縦位に施文する。	
2	深鉢	底部	直径5.0	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	2条1単位の隆帯と1条の隆帯を交互に垂下させた後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
3	深鉢	口縁部1/4	推定口径19.5	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	口唇部に隆帯を1条添わせ、渦巻き状の突起を貼付し、平行沈線を6条垂らす。平行沈線上には交互斜刺文を2条施す。その下位には棒状工具による押し引き文と平行沈線を施文する。	
4	深鉢	胴部1/4	推定最大径24.8	白色軽石粒を含む砂粒をやや多く含む。やや不凡。赤褐色。	胴上位に断面台形の隆帯を貼付して文様を区画し、区画内には原体Lの複筋斜刺文を縦位に施文する。その下位には隆帯を弧状に貼付する。	
5	浅鉢	胴部1/3	推定最大径44.5	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	胴曲面の上位には渦巻き文が付属する楕円形の文様帯を区画し、区画内には原体Lの単筋斜刺文を縦位に施文する。その後、区画に沿って沈線を施文する。胴曲面の下位は無文で磨きされる。	
6	深鉢	口縁～底部1/4	推定口径43.0 推定高44.0 底径7.0	砂粒、小礫を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	底部から直線的に開く器形。口縁部には楕円形の文様帯が区画されるものと思われる。胴部は楕円状工具による条痕を縦位あるいは斜位に施文し、沈線を2条垂下させる。	
7	深鉢	口縁～胴部	口径22.2	黒雲母をわずかに含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	S字状の隆帯から2条の隆帯を垂下させるモチーフと、円形の刺突文が施された隆帯から2条の隆帯を垂下させるモチーフを交互に配する。その後、棒状工具による斜沈線を横位に施文する。	
8	深鉢	口縁～胴部1/3	推定口径44.4	砂粒を多く含む。普通。暗灰褐色。	4単位の波状口縁。口縁部には渦巻き文を持つ2条の隆帯で半円形の区画をなす。区画内には斜沈線を充満する。胴部は縦位、斜位および乾すける沈線文を施す。	
9	深鉢	口縁～胴部1/3	推定口径23.5	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	4単位の波状口縁を呈するものと思われる。隆帯を大きく乾かして貼付した後、棒状工具による沈線を横位に施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
10	深鉢	口縁～胴部1/3	推定口径32.8	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	4単位の波状口縁と思われる。波頂部には楕円形の透かし穴を持つ。口縁部文様帯は渦巻き文を含み、区画内には原体Lの単筋斜刺文を縦位に施文する。胴部は原体Lの単筋斜刺文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させ、縄文の上には乾すける沈線を垂下させる。	
11	深鉢	口縁～胴上手	口径14.0	砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	4単位の波状口縁を呈するが、すべての波頂部を人為的に打ち欠いているものと思われる。口縁部文様帯は長楕円形で渦巻き状文と楕円の突起を持つ。区画内は無文である。胴部は原体Lの複筋斜刺文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
12	台付鉢	鎌合部片 推定鎌合部径7.6		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明褐色。	6単位の透かし穴を持つものと思われる。2条1単位の隆帯を垂下させ、隆帯の間は沈線文を施す。	
13	浅鉢	口縁～胴部1/4	推定口径39.2	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	無文で口唇部下位に浅い沈線が1条添る。内外面とも丁寧な磨きとともに赤色塗彩の痕跡が認められる。特に内面には赤色塗彩による渦巻き状の文様が重敷できる。	
14	台付鉢	台部片 推定台径9.5		砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	胴部がわずかに広がる器形。4単位の透かし穴を持つものと思われる。	
15	深鉢	口縁把手		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	胴部から機状の把手が伸びるものと思われる。口縁部には楕円形の区画がなされ、区画内にはLの単筋斜刺文が施文されるものと、無文のものがある。	
16	浅鉢	口縁部1/4	推定口径38.0	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁はやや内傾し、角筒状を呈する。外面は棒状工具によるものと思われる整形痕が縦位、斜位に認められる。	
17	深鉢	口縁把手		細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	筒状の平縁から伸びる機状の把手。背割りにS字状の沈線が施される。胴部には原体Lの単筋斜刺文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し、赤色塗彩の痕跡が認められ、筒状の部分にφ3mmほどの孔が割けられていることから、有孔筒付の鉢形土器と思われる。	
18	深鉢	口縁部片		小礫を含む砂粒を少量含む。普通。黒褐色。	断面台形の隆帯で楕円形と方形の文様帯を区画し、区画内には原体Lの単筋斜刺文を充満する。胴部は同様の縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
19	深鉢	口縁部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口縁に1条の沈線を添わせ、胴部には胴部が横手状を呈する沈線と白字形の沈線を垂下させ、区画内には原体Lの単筋斜刺文を充満する。	
20	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面台形の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体Lの無筋斜刺文を施文する。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
21	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	緩やかな波状口縁。口縁部に沈線をもととし、原形Rの単節斜縄文を方向を変えて羽状に施文する。その他八字状の沈線を施文する。	
22	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。褐色。	原形L Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線による八字状の区画と磨り消し文を施文する。	
23	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	口縁部に隆帯を1条高らせ、そこから隆帯を1条垂下させる。原形L Rの単節斜縄文を方向を変えて施文し、隆帯に沿って磨り消す。	
24	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	原形L Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させ、縄文の上には蛇行する沈線を施文する。	
25	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	断面台形の低い隆帯を貼付して文様を描出した後、原形L Rの単節斜縄文を縦位に施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
26	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	原形L Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、同心円状と八字状の沈線を施文し、中を磨り消す。	
27	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	断面台形の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原形L Rの単節斜縄文を縦位に施文する。	
28	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。明褐色。	弧状の沈線で文様を描出し、その下位には原形L Rの単節斜縄文を縦位に施文する。	
29	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯を貼付した後、原形L Rの単節斜縄文を縦位に施文し、沈線と磨り消し文を施文する。	
30	深鉢	胴部片		黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	原形Rの熱糸文を縦位に施文した後、隆帯を貼付して背割り状の沈線によって楕円形のモチーフを描出する。	
31	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	0段多糸Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	
32	深鉢	口縁部片		石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	断面三角の隆帯を貼付して腕骨文状の文様を描出した後、口縁部には浅い沈線で文様帯を区画し、区画内には緩やかに彎曲する沈線を充塞する。胴部には彎曲する沈線と弧状の沈線を施文する。	
33	深鉢	口縁部片		黒雲母、白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。黒褐色。	断面台形の隆帯を貼付して、文様帯を区画し、区画内には沈線を縦位に施文する。その後、隆帯に沿って沈線を施す。胴部は彎曲する沈線と垂下する沈線を施文する。	
34	深鉢	口縁部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	断面三角の隆帯で楕円形の文様帯を区画し、区画内には沈線を縦位に施文した後、隆帯に沿って磨り消し。区画外は斜位の沈線を施文する。	
35	深鉢	口縁部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。褐色。	斜位の沈線と垂下する沈線を施文する。	
36	深鉢	口縁部片		石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	刻みを付した断面台形の隆帯で文様を描出する。口縁部上面に沈線が1条走る。	
37	深鉢	口縁部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。赤褐色。	原形Lの熱糸文を縦位に施文した後、2条1単位の隆帯を楕円状に貼付する。口縁部は内頸状を呈し、隆帯が1条高る。	
38	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。原形不明の縄文を施文した後、沈線と磨り消し文を施文する。	
39	深鉢	口縁部片		粒のやや大きい白色鉱物をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を貼付して、その上に棒状工具による刻みを付す。やや横なり作り。	
40	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	原形不明の縄文を施文した後、沈線で文様を区画する。	
41	深鉢	口縁部片		小塵を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	波状口縁。原形Lの無節斜縄文を縦位に施文した後、口縁に沿った沈線と、八字形の沈線を施文する。	
42	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	断面三角の隆帯を貼付して棒状工具による刻みを付す。棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
43	深鉢	口縁部片		黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を返らし、その間に沈線と斜位の短沈線を施文する。胴部には沈線を縦位に施文した後、隆帯に沿って沈線を施す。	
44	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。暗褐色。	断面半円の隆帯を貼付して文様を描出した後、隆帯に沿って沈線と刺突文を施文する。	
45	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	低い隆帯で楕円形の区画をなし、区画内には原形L Rの単節斜縄文を施文する。区画の下位にも原形不明の縄文を施文する。	

第2節 遺物観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
46	深鉢	口縁部片		白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	断面平円の隆帯を彫付して渦巻き状の文様を描出した後、縦位の浅沈線と斜位の沈線を施文する。	
47	深鉢	口縁部片		石英、金雲母を含む砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	隆帯を彫付して渦巻き状の文様を描出した後、沈線を横位に施文する。口唇部内面に断面三角の隆帯を彫付する。	
48	有孔埴付土器	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	口は断面三角でやや低い。口縁部外面に丁寧な磨き。	
49	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部に原体L1の単筋斜縄文を横位に施文した後、押し引文、沈線を横位に施文する。	
50	深鉢	口縁突起		細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	沈線による渦巻き文を内外面とも施文する。	
51	深鉢	口縁突起		石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	内外面とも断面三角の隆帯を彫付して渦巻き文を描出する。	
52	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	胴部に渦巻状の沈線文を並らし、刺突文を交互に付す。胴部は磨削状工具による沈線を斜位に施文し、蛇行する沈線を施文する。	
53	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	波頭部あるいは口縁突起と思われる。隆帯を彫付して渦巻き文を描出し、そこから2条の隆帯を垂下させる。	
54	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。紅色。	2条1単位の縦位の隆帯から、3条1単位の隆帯による胸背文を垂下させる。その後、棒状工具による沈線を縦斜位に施文する。	
55	深鉢	胴部片		石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。	瘤状の突起から彎曲する平縁沈線を垂下させる。	
56	深鉢	胴部片		黒雲母、小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	断面三角の隆帯を彫付して文様を描出した後、彎曲する沈線を施文する。	
57	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	断面台形の隆帯をT形に彫付し、交点付近には刻みを付す。隆帯の外に三角斜削文を施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
58	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	棒状工具による沈線を横位、縦位に施文して文様を描出する。右下には三叉文か。	
59	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	断面平円の隆帯を並らした後、沈線を垂下させ、斜沈線、波状の沈線を施文する。	
60	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	3条1単位の隆帯による胸背文を垂下させた後、棒状工具による沈線を縦斜位に施文する。	
61	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	断面平円の隆帯を彫付してS字状の文様を描出した後、匙状工具による沈線を斜位に施文する。その後、隆帯に沿って沈線を施す。	
62	深鉢	胴部片		石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	断面平円の隆帯を彫付して文様を描出した後、棒状工具による沈線を斜位に施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
63	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面平円の隆帯を2条垂下させた後、匙状工具による沈線を斜位に施文する。	
64	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	刻みを付した隆帯を2条垂下させた後、棒状工具による沈線を縦斜位に施文する。	
65	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体L1の単筋斜縄文を縦位に施文した後、3条の沈線と磨り消し文を垂下させる。	
66	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	磨削状工具による沈線を斜位に施文する。	
67	深鉢	胴部片		白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	隆帯を彫付して渦巻き状の文様を描出した後、彎曲する沈線を施文する。	
68	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	彎曲する浅い沈線と、大きく蛇行する浅い沈線を施文する。	

206区5号位陪石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
69	石磯	完	18.0	14	3	0.8	黒曜石	
70	石磯	基部欠	17.5	13	4	0.5	黒曜石	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考	
71	石皿	完	19 13 2.5	0.4	黒曜石	
72	石皿	完	14 12 3	0.3	黒曜石	
73	ドリル	先端部欠	20.5 22 5.5	0.9	黒曜石	
74	ステレイドパーカ	完	13 12 5	0.7	黒曜石	
75	打斧	完	125 57 26	175.6	細粒輝石安山岩	
76	打斧	完	115 57 16	93.7	黒色頁岩	
77	打斧	基部欠	109 53 17	122.7	細粒輝石安山岩	
78	打斧	基部欠	78 65 24	149.1	灰色安山岩	
79	打斧	基部欠	137 57 19	225.1	細粒輝石安山岩	
80	磨斧	基部欠	64 44 14.5	79.1	松紋岩	
81	磨石	完	117 68 40	488.9	実質安山岩	
82	磨石	3/4	180 205 78	445.3	粗粒輝石安山岩	内みあり
83	石拂	基部欠	240 115 100	35.30	緑泥片岩	
84	多孔石	完小	315 224 100	9000	粗粒輝石安山岩	
85	磨石	完	422 339 117	24590	石英閃緑岩	
86	磨石	完	214 241 118	8400	粗粒輝石安山岩	
87	磨石	完	303 296 117	15600	石英閃緑岩	
88	磨石	完	375 258 92	12250	石英閃緑岩	
89	磨石	完	536 220 156	28120	粗粒輝石安山岩	
90	多孔石	完	297 205.5 189	11420	粗粒輝石安山岩	
91	多孔石	完	222 173 146	6370	粗粒輝石安山岩	
92	多孔石	完	167 181 120	3400	粗粒輝石安山岩	
93	多孔石	完	376 275 135	17150	粗粒輝石安山岩	

20区6号住居土器調査表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴下平 2/3 口径30.8 残存高41.0		雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は内側にやや肥厚する。口縁部は斜位の沈線を描文する。胴部は断面半円の2本の隆帯で渦巻き文を施した後、上部に斜光文を持つ総行する隆帯を垂下させる。その後、地文の沈線文を縦位に施す。	
2	深鉢	一部欠 口径15.2 器高20.5 底径7.0		黒雲母、白色軽石粒を少量含む。普通。赤褐色。	ゆるやかなキャリバー型の器形。口縁部には2本の隆帯によって弧状の文様帯を5単位に区画する。区画内は原体R Lの単筋斜縄文を一部に施す。胴部は原体R Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、U字状になる沈線を5単位垂下させるとともに、総行する沈線を垂下させる。	
3	深鉢	胴部1/4		黒雲母と白色軽石粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	原体L Rの単筋斜縄文を縦位に施文した後、胴部には2本の沈線を並らし、胴部は弧状の文様を描出した後、総行する沈線を垂下させる。	
4	深鉢	口縁部1/4 假定口径19.3		石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	口唇部上面に沈線を1条高らす。口縁部下に背割り状に沈線を持つ隆帯で区画をなす。区画内は弧状の隆帯、縦位の渦巻き文、横位の斜光文を施す。その後、屈沈線で横位の線形文を施す。	
5	深鉢	胴部1/2		石英を少量と軽石粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。一部に黒泥。	やや粗れたU字状把手を持つ。隆帯で弧状の腕管文をはじめ、文様を描出すとともに、円環状突起を胴部に附行する。その後、やや弧状を呈する屈沈線を充填する。	
6	浅鉢	ほぼ完 口径26.2 器高12.9 底径8.0		小礫、白色軽石粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。一部に黒泥。	断面台形の隆帯による連弧文を5単位附行するが、1つは弧をなさない。内外面とも磨きを施す。	
7	深鉢	口縁～胴下平 口径42.4 残存高47.3		砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	キャリバー型の器形で口縁はやや内彎する。口縁部胴部とも地文には縦位の沈線が施されるが、口縁部の沈線の方が深く深い。口縁部は隆帯で半円形に区画をなす。また区画の間に短い腕管文を施す。胴部には2本の沈線を並らし、胴部は断面台形の低い隆帯で渦巻き文を描出し、さらに腕管文を垂下する。隆帯の間には細長い楕円形の沈線文を配置する。	
8	深鉢	胴下平～底部 底径8.0		砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	細い沈線を縦位に施文した後、2条1単位の隆帯と総行する隆帯をそれぞれ3単位垂下させる。	
9	台付鉢小	複合部片		砂粒を多く含む。やや不明。明赤褐色。	台付鉢の複合部と思われる。体部は隆帯でU字状の文様を描出し、上部は隆帯を垂下させる。	
10	台付鉢	台部片 底径10.5		砂粒をわずかに含む。良好。褐色。	φ13mmの円形の透かし穴を持つ。表面は無文で磨きを施す。	
11	浅鉢	口縁部片		黒雲母、石英を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で、渦巻き文を持つ楕円形の区画をなす。区画内は原体R Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、隆帯に沿った沈線で磨り消し。	
12	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	口縁部には2本の隆帯で連弧状の区画をなし、区画内は屈沈線を縦位に施文する。胴部は原体R Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、胴子の沈線を垂下する。	

第2節 遺物観察表

番号	群種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
13	深鉢	一部欠	口径21.0 器高32.6 底径9.0	金雲母を少量含む。良好。明赤褐色。	口縁が内彎するキャリバー形の器形。口縁部は沈線を斜位に施す。頸部には隆帯を貼付後、2条の沈線を高らす。胴部には上面に2条の沈線が施される隆帯によって、円形あるいは渦巻き状の文様を描出す。その後、腹位の沈線および横行する沈線を垂下させる。	
14	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	原体Lの単節斜縄文を縦位に施した後、3条1単位の沈線によって文様を描出す。	
15	深鉢	胴部片		金雲母、石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体Lの単節斜縄文を縦位に施した後、平行沈線を縦位あるいは横行して施す。	
16	深鉢	胴部片		石英を少量含む。良好。黒褐色。	隆帯および沈線で文様を描出した後、原体Rの単節斜縄文を隆帯の間に充填する。	
17	深鉢	胴部片		金雲母、石英をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	原体Lの単節斜縄文を縦位に施した後、横行する沈線を縦位に施す。	
18	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で文様を描出す。その下位には原体Rの懸糸文を縦位に施す。	
19	深鉢	胴部片		砂粒をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	浅い沈線を縦位に施した後、2条の隆帯で文様を描出すとともに、横行する沈線を垂下させる。	
20	深鉢	口縁部片		金雲母を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	口唇部は外側に折り返す。細い沈線を縦位に施した後、2条の沈線を高らす。その後、断面半円の隆帯を十字形に貼付する。	
21	深鉢	口縁部片		金雲母、石英を少量含む。良好。明赤褐色。	旗状口縁を呈する。口縁部に断面半円の隆帯で文様帯を区画する。区画内には半截竹管状工具による平行沈線を充填する。胴部にも平行沈線を施す。	
22	深鉢	口縁部片		軽石粒を少量含む。石英をわずかに含む。普通。にぶい黄褐色。	口縁の内側にわずかに肥厚する。断面三角の隆帯で渦巻き文と口縁部文様帯をなす。区画内は浅い沈線を斜位に施す。	
23	深鉢	口縁部片		黒雲母を少量含む。普通。にぶい褐色。	断面台形の低い隆帯で文様を描出す。沈線でS字文を施す。	
24	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	口縁部は内折し内側に鋭い縁を持つ。2条の隆帯で口縁部に文様帯を区画する。区画内には短沈線による横線文を充填する。	
25	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	口唇部は内側に縁を持つ。口縁部には斜交文によって半円形の文様を描出す。有刺隆帯を貼付するとともに、短沈線による横位の横線文を施す。	
26	深鉢	口縁部片		石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	口唇部は内折し、ゆるい縁を持つ。沈線による半円状の文様を描出し、頸部には輪状工具による斜交文を施す。	
27	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	旗状口縁を呈すると認められる。断面半円の隆帯を高らし、その上位には斜交文、下位には沈線文を施す。	
28	深鉢	口縁部片		黒雲母を少量含む。良好。にぶい褐色。	内彎する口縁。胎文で内外面とも磨きを施す。	
29	深鉢	胴部片		金雲母、石英を少量含む。普通。にぶい褐色。	半隆起線を斜位に施した後、断面半円の隆帯を貼付し、それに沿って沈線を施す。	
30	深鉢	胴部片		砂粒を多く含む。普通。にぶい褐色。	胴部には3条の沈線を高らす。胴部は縦位および旗状の沈線文を施す。	
31	浅鉢	胴部片		白色軽石粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	屈曲部上位は沈線と隆帯で文様帯をなし、区画内には沈線を縦位に施した後、隆帯に沿って磨り消し。屈曲部下位は無文で緩やかな磨き。	
32	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	渦巻き文を持つ隆帯を貼付した後、腹位の沈線とリ字状の沈線文を施す。	
33	深鉢	胴部片		金雲母、石英を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯を3条垂下させる。細い沈線を縦位に施す。	
34	深鉢	胴部片		砂粒を多く含む。普通。明赤褐色。	3条の隆帯による輪状文を垂下させた後、沈線を斜位に施す。	
35	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。黒雲母と石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	3条の隆帯による輪状文を垂下させるとともに、横位に施した後、沈線を斜位に施す。	
36	深鉢	胴部片		砂粒、小礫を少量含む。普通。明赤褐色。	隆帯で旗状あるいは葉手状の文様を描出した後、沈線文を充填する。	
37	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	細い斜交文を施した後、沈線で文様を描出す。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
38	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	沈線を描くあるいは弧状に施文する。	
39	深鉢	胴部片		白色軽石粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	2条の隆帯で渦巻文を施した後、沈線を充填し、隆帯に沿った沈線で磨り出し。	
40	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	2条の隆帯による騎背文を施す。隆帯に沿って刺突文を施し、沈線文を斜めに施す。	
41	深鉢	胴部片		石英をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を2条高らし、それに沿って爪形の連続刺突文を施す。胴部は原形R Lの単脚斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線を垂下させる。	
42	土鍋	作部 残存高6.7 最大幅6.1 最大厚3.0		石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	沈線で文様を描出す。底部前面には脚の位置に倒落の痕跡あり。胴部の折損部は折損後に書きを施している。胴部と胴部に径2mmほどの細い穴が連続直に空けられているが、貫通していない。	
43	深鉢か	口縁突起		金雲母、石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁に付く円環状の突起。外面には沈線を垂下させる。	

20区6号住居土器計測表

番号	器種	残存状態	計測値	①長さ(m)	②幅(m)	③厚さ(m)	④重量(g)	石材	備考
44	打斧	完	100	41	16	88.9		粗粒輝石安山岩	
45	打斧	完	99	42	18	83.3		黒色頁岩	
46	四石	完	128	87	39	564.8		粗粒輝石安山岩	
47	四石	完	126	86	63	810.7		粗粒輝石安山岩	
48	石穂	基部欠	191	134	112	3880		粗粒輝石安山岩	

20区8号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴下半2/3 口徑39.2 残存高45.5		軽石粒をやや多く含む。良好。灰黄褐色。	口唇部は内折し、内側に縁を持つ。口縁部は無文。胴部に沈線と交互刺突文を施す。胴部の上は上半部で屈曲する。屈曲部の上は原形R Lの熱赤文を縦位に施文した後、平行沈線で区画をなし、断面半円の隆帯で横位のS字状文を描出す。この隆帯の上にも熱赤文が施される。このS字の凹部が半円形に磨り消され周囲に爪形の刺突文が走る。胴下半部は原形R Lの熱赤文を縦位に施文した後、隆帯でU字形とJ字状の文様を描出す。隆帯に沿って平行沈線が施文される。	
2	深鉢	胴部1/2		白色軽石粒をやや多く含む。普通。褐色。	円筒状の器形。断面半円の隆帯で斜位に区画をなし、区画内にはベン先状工具、平砥竹管状工具による刺突文を施す。胴下部には隆帯を1条高らし、隆帯上にも刻みを付す。	
3	深鉢	口縁～胴下半2/3 最大口徑16.4 残存高23.3		金雲母、黒雲母を少量含む。良好。淡赤褐色。	原形R Lの単脚斜縄文を縦位に施文した後、刻みと背割り状の沈線を持つ蛇行する隆帯を附付する。	
4	深鉢	胴部1/2		白色軽石粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	原形R Lの単脚斜縄文を縦位に施文した後、断面三角の細い隆帯およびそれに沿った磨り出しによって八字形の文様を描出す。	
5	深鉢	口縁部1/3 最大口徑17.2		砂粒をやや多く含む。黒雲母を少量含む。普通。にぶい褐色。	環状の突起を持つ。断面台形の隆帯によって方形ないし半円形の区画をなす。区画内にはキャピラウ、ベン先状工具による連続刺突文を施す。その内部には三叉文を彫刻する。	
6	深鉢	胴部1/4		砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	胴部に3条の沈線を描させた後、その沈線を長橋門に区画。地文は原形R Lの熱赤文を縦位に施文。	
7	深鉢	胴部1/3		砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	胴部に背割り状の沈線を描き隆帯を附付。地文は原形R Lの熱赤文を縦位に施文。	
8	深鉢	胴部1/2		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	原形R Lの単脚斜縄文を多方向に施文した後、胴部に隆帯を1条高らし、そこから圧隆帯を垂下させる。	
9	深鉢	胴部1/3		砂粒を含む。普通。にぶい褐色。	地文に原形R Lの単脚斜縄文を縦位に施文した後、3条の沈線を垂下する。上部には断面三角の隆帯を高らし、この隆帯と沈線に沿って刺突文を施す。胴下半は加文で、地文との境界に幅広で低い隆帯を施す。この隆帯の上には原形R Lの単脚斜縄文を縦位に施文する。	
10	深鉢	胴部1/2 最大径27.7 残存高8.5		雲母を少量含む。普通。明赤褐色。	沈線で同心円とJ字形の文様を描出し、外側に磨り出しを付す。	
11	深鉢	口縁部片		雲母をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁は縁やかに内折し、口唇部上には沈線が走る。地文は原形R Lの熱赤文を縦位に施文し、低い隆帯で文様を描出す。胴部にも低い隆帯を高らし。	
12	深鉢	口縁部片		砂粒を多く含む。普通。褐色。	口縁部はやや内折する。地文に原形R Lの熱赤文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯で渦巻状の文様を描出す。胴部には沈線文を施文する。	

番号	母種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	彫形・文様の特徴等	時期・備考
13	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。普通。黒褐色。	口唇部は内折し、内側に轆を持つ。口唇部直下に沈線を1条画らす。断面半円の隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内には原形Rの熟赤文を縦位に施文。	
14	深鉢	口縁部片		石英粒を含む。普通。にぶい赤褐色。	口唇部下に沈線を1条画らす。地文、及び口縁部文様帯の中は原形不明の熟赤文。	
15	深鉢	口縁部片		大きめの砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	口唇部は内折し、内面に轆を持つ。口唇部直下に断面半円の隆帯を画らし、地文は原形Rの熟赤文を縦位に施文。	
16	深鉢	口縁部片		雲母をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は内側にわずかに肥厚する。口唇部下に半截竹管状工具による平行沈線を画らした後、交互刺突文を施文。地文に原形Rの熟赤文を施文した後、半截竹管状工具による平行沈線で文様を抽出する。	
17	深鉢	口縁部片		砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	わずかに内彎する口縁。口唇部は角筒状。口唇部下に浅い沈線を2条画らした後、ごく浅い沈線を縦位に施文。	
18	深鉢	口縁部片		石英粒を含む。普通。明赤褐色。	波状口縁を呈す。隆帯による渦巻状の文様を抽出する。地文には原形不明の熟赤文を縦位に施文。	
19	深鉢	口縁部片		雲母を少量含む。良好。明赤褐色。	内彎する口縁。断面半円の隆帯で口縁部文様帯を区画する。区画内には原形Rの熟赤文を横位に施文。	
20	深鉢	口縁部片		雲母、砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部直下に隆帯を画らす。地文に結節沈線を施文した後、断面半円の隆帯を貼付し、文様を抽出する。	
21	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	口唇部は内折し、内面にゆるい轆を持つ。断面半円の隆帯で文様を区画し、区画内は原形不明の熟赤文を施文。	
22	深鉢	胴部片		砂粒を含む。良好。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で文様を抽出し、ゆるやかな稜の下位には原形Rの熟赤文を縦位に施文。	
23	深鉢	口縁部片		2～5mmの小礫を含む砂をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原形Rの熟赤文を横位あるいは斜位に施文した後、2条の隆帯によって文様を区画する。その後、隆帯に沿って沈線を施文する。	
24	深鉢	胴部片		石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の隆帯で文様を区画し、区画内には原形Rの単節斜縄文を横位に施文する。胴部の下位は原形Rの単節斜縄文を縦位に施文する。	
25	深鉢	口縁部片		棘石粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	口唇部は外側に折り返す。2条の隆帯によって珣円形の区画を抽出する。区画内は無文。	
26	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯とそれに連続する渦巻状の突起で口縁部文様帯を区画し、区画内には横位の沈線を充填する。	
27	深鉢	口縁部片		砂粒を含む。良好。明赤褐色。	口唇部はやや内折する。半截竹管状工具による平行沈線を2条画らす。	
28	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	口唇部は内側に肥厚する。交互刺突文と沈線を交互に施文する。地文は原形Rの熟赤文を縦位に施文する。	
29	深鉢	胴部片		石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	横位の沈線が並び、中段には交互刺突文が施される。区画する隆帯には幾何状工具による網目が付される。緩やかな稜の下位には原形不明の熟赤文を縦位に施文。	
30	深鉢	胴部片		石英を含む。普通。明赤褐色。	棒状工具による沈線を縦位に施文。	
31	深鉢	胴部片		石英を含む。普通。明赤褐色。	棒状工具による沈線を縦位に施文。30と同一個体と思われる。	
32	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	胴部に右側隆帯を画らす。地文は原形Rの熟赤文を縦位に施文する。	
33	深鉢	胴部片		石英、金部母を含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の低い隆帯に沿って2条の沈線が高まる。その上下には原形Rの単節斜縄文を縦位に施文。	
34	深鉢	胴部片		砂粒を多く含む。普通。にぶい赤褐色。	胴部に断面台形の隆帯を画らす。地文は原形Rの単節斜縄文を縦位に施文する。	
35	深鉢	胴部片		砂粒を含む。良好。明赤褐色。	胴部に棒状工具による沈線を3条画らす。地文は原形Rの単節斜縄文を縦位に施文する。	
36	深鉢	胴部片		雲母、石英を少量含む。にぶい赤褐色。	原形Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、半截竹管状工具による平行沈線を画らす。	
37	深鉢	胴部片		雲母、石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	地文に原形Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、棒状工具による沈線を4条画らす。山形の副沈線を施文する。	
38	深鉢	胴部片		雲母を少量含む。普通。にぶい褐色。	原形Rの熟赤文を縦位に施文した後、波状沈線を2条、横位に施文する。	
39	深鉢	胴部片		雲母を少量含む。普通。明赤褐色。	原形Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、一部順直する隆帯を重下させる。隆帯に沿って沈線を施す。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
40	深鉢	胴部片		雲母を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で文様を提出した後、帯体Rの熱赤文を施文する。さらに隆帯に沿って沈線を描く。	
41	深鉢	胴部片		石英を少量含む。普通。にぶい褐色。	帯体R上の早期斜縄文を縦位に施文した後、棒状工具による沈線で、同心円状の文様を提出する。	
42	深鉢	胴部片		雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	帯体R上の早期斜縄文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯で文様を提出する。	
43	深鉢	胴部片		黒砂粒を含む。普通。黄褐色。	施文に帯体R上の早期斜縄文を縦位に施文した後、断面三角の隆帯を垂下させ、それに沿って沈線を描く。	
44	深鉢	胴部片		雲母を少量含む。良好。赤褐色。	帯体R上の早期斜縄文を縦位に施文した後、胴部に平截竹管状工具による平行沈線を3条並らすとともに、胴部に文様を提出する。近状沈線を垂下する。	
45	深鉢	胴部片		砂粒、石英を含む。普通。にぶい褐色。	帯体不明の熱赤文を縦位に施文した後、沈線を垂下させ、その間に弧状の沈線をつなぐ。	
46	深鉢	胴部片		石英、大きめの砂粒を含む。普通。褐色。	帯体Rの熱赤文を縦位に施文した後、棒状工具による沈線で大柄な渦巻き文を施文する。	
47	深鉢	口縁把手		石英を少量含む。普通。褐色。	「の」字状の把手。背割り状に有割隆帯を付す。	
48	深鉢	口縁突起		雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	三角形の突起。頂部から隆帯が垂下し、環状突起が鋭く。その下位には任意的な施された隆帯で文様を提出する。	
49	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	口唇部は内側に肥厚し、口唇部上に沈線を並らす。外面はペン先状工具で削みを縦位に施し、それに沿って沈線を並らす。	外面に異化動物番。
50	深鉢	口縁部片		石英を少量含む。普通。褐色。	口唇部の下位に沈線を3条並らし、それに沿ってペン先状工具による削みを付す。	
51	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口縁に内側に屈曲し、その上側には隆帯を貼付していたものと思われる。口縁部には平行沈線を縦位に施文する。	
52	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	断面半円の隆帯を貼付して文様を提出した後、沈線を縦位に施文する。	
53	深鉢	胴部片		砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の隆帯を縦位に並らせた後、2条の隆帯を垂下。隆帯の間に沈線文を施文。	
54	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口唇部は内折し、内側に稜を持つ。隆帯とそれに沿った沈線で文様を提出する。	
55	深鉢	胴部片		石英をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	断面半円の隆帯およびそれに沿った沈線で同心円、渦巻き状の文様を提出する。	
56	深鉢	口縁部片		黒雲母をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	背割り状の沈線を持つ隆帯と有割隆帯で文様を提出する。無文の部分は磨きを施す。	
57	深鉢	口縁部片		黒雲母を少量含む。良好。にぶい褐色。	内彎する口縁。断面台形の隆帯を3条貼付する。	
58	深鉢	口縁部片		雲母を少量含む。良好。にぶい褐色。	口唇部はやや外側に肥厚し、角筒状を呈す。有割隆帯の間に沈線文を施文し、中には三叉文。	
59	深鉢	口縁部片		石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	角筒状の口縁。無文で胴部にはペン先状工具による削り文を並らす。	
60	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	有割隆帯で口縁部に文様帯を区画する。区画内には短沈線を縦位に充填する。	
61	深鉢	胴部片		金雲母を少量含む。にぶい黄褐色。良好。	断面半円の隆帯で区画し、区画内には沈線でおそらく三叉文と思われる文様を提出する。	
62	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	胴部下に延びる断面円形の隆帯を貼付する。	
63	深鉢	胴部片		砂粒を多く含む。黒雲母・石英を少量含む。普通。にぶい褐色。	隆帯を3条並らし、観背文を垂下させる。横位の隆帯の一部が断先状に屈曲する。	
64	深鉢	胴部片		雲母、石英をやや多く含む。普通。明赤褐色。	断面半円の隆帯を縦位に並らせた後、沈線で文様を提出する。	
65	深鉢	胴部片		軽砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を貼付した後、沈線とそれに沿わせ、その内側には放射状の短沈線文。施文は帯体R上の早期斜縄文を縦位に施文する。	
66	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。黒雲母を少量含む。普通。褐色。	帯体R上の早期斜縄文を縦位に施文した後、弧状の沈線を施文し、その間に短沈線を充填する。	
67	深鉢	胴部片		石英を含む。普通。褐色。	断面台形の隆帯で円形の文様を貼付した後、近状工具による沈線で文様を提出する。その後、ペン先状工具による削みを付す。	
68	深鉢	胴部片		石英を少量含む。普通。褐色。	断面台形の低い隆帯で文様帯を区画する。弧状の隆帯の上には棒状工具による押圧文を施文する。区画内には短沈線および三叉文を充填する。	

第2節 遺物観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
69	深鉢	胴部片		黒雲母、石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面平円の隆帯を垂下させ、それに沿って沈線と2条と縦帯状の沈線を垂下させる。地文は棒状工具による刺突文。	
70	深鉢	胴部片		黒雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	沈線で文様を描出する。	
71	深鉢	胴部片		雲母を少量含む。普通。赤灰色。	胴体R1の単節斜縄文を縦位に施した後、棒状工具による沈線で文様を描出する。	
72	深鉢	口縁部片		石英、白色鉱物粒を含む。普通。明赤褐色。	口唇部は縦帯状を呈し、外反する。隆帯による文様を描出した後、頸部に沈線を3条垂らす。地文は胴体Rの熱赤文。	
73	深鉢	口縁部片		雲母、石英を含む。普通。にぶい褐色。	口唇部は縦帯状を呈し、外反する。口唇部下に凹線が1条走る。その下位には匙状工具による沈線が3条走る。	
74	深鉢	口縁部片		雲母、石英を含む。普通。暗赤褐色。	折り返し口縁で、口唇部は縦帯状を呈し、外反する。口唇部下位から匙状工具による沈線を縦位に施す。	
75	深鉢	口縁部片		石英をやや多く含む。良好。褐色。	断面平円の隆帯で渦巻文を描出し、それに沿って弧状に沈線文を描す。渦巻文の中には円形の刺突文を充填する。	
76	深鉢	胴部片		金雲母をやや多く含む。良好。褐色。	円形の透かし穴を持つ突起が付すと思われる。波頭部から隆帯が環状の突起を形成する。半隆起線を縦位、あるいは横位に施す。	
77	深鉢	口縁突起		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁に付く環状の突起。その下位に横状の把手が付く。断面三角の高い隆帯によって文様が区画され、区画内には半隆起線が縦位あるいは斜位に施文される。突起上端の内外面にも半隆起線が縦位に施文される。口縁内側には隆帯が走り、この隆帯が突起の透かし穴の周囲に連続する。	
78	深鉢	口縁部片		雲母、石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	半隆起線による文様を描出し、環状突起を付す。口唇部は内側に隆帯が走る。	
79	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	右側隆帯と断面平円の隆帯およびそれに沿った沈線で文様を描出する。	
80	深鉢	胴部片		雲母、石英を少量含む。良好。暗灰色。	半隆起線で文様を描出する。その内部に三角刺突文と思われる文様を描す。	
81	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	半隆起線で楕円形、あるいは弧状の文様を描出する。楕円の中に三叉文を描す。	
82	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	半隆起線を弧状に施す。81と同一個体か。	
83	深鉢	胴部片		黒雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	環状突起を持ち、その周囲を浅い沈線で囲む。突起の上位に刺突文を添らす。	
84	深鉢	胴部片		金雲母を少量含む。良好。褐色。	つまみ状の突起から半隆起線を垂下させる。81、82と似る。	
85	深鉢	胴部片		砂粒、黒雲母を少量含む。良好。褐色。	断面平円の隆帯とそれに沿った沈線を弧状に施す。	
86	深鉢	口縁部片		雲母、石英を含む。普通。明赤褐色。	断面平円の隆帯で文様を描出した後、棒状工具による沈線を施す。	
87	深鉢	胴部片		雲母、石英を少量含む。普通。明赤褐色。	断面三角の隆帯の一部が突起状になり、上面に短沈線を描す。その上位には横位および斜位の沈線を描す。沈線の一部が連続刺突文になる。	
88	深鉢	胴部片		石英を少量含む。良好。明赤褐色。	87と同一個体と思われる。	
89	深鉢	口縁部片		白色軽石粒をやや多く含む。石英を少量含む。普通。にぶい褐色。	形体不明の熱赤文を縦位に施した後、平行沈線と浅い沈線で文様を描出する。	
90	深鉢	胴部片		石英を多く含む。普通。灰褐色。	地文に胴体R1の単節斜縄文を縦位に施した後、隆帯で文様を区画する。区画の下位には半柱竹管状工具による平行沈線を描す。	
91	深鉢	胴部片		石英を多く含む。普通。にぶい褐色。	胴体R1の単節斜縄文を縦位に施した後、3条1単位の平行沈線を垂下させる。	
92	深鉢	胴部片		石英を多く含む。普通。にぶい褐色。	胴体R1の単節斜縄文を縦位に施した後、平行沈線で弧状の文様を描出する。91と同一個体か。	
93	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	右側隆帯と断面平円の隆帯を描した後、沈線で渦巻状の文様を描出する。	
94	深鉢	胴部片		雲母、石英を含む。普通。灰褐色。	断面平円の隆帯による円形の区画内に、沈線による渦巻状の文様を描出する。	
95	深鉢	胴部片		細かい軽石粒を多く含む。普通。明赤褐色。	断面台形の隆帯で渦巻状の文様を描出する。隆帯の一部には匙状工具による刻みを付す。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・地成・色調	器形・文様の特徴等		時期・備考
96	深鉢	胴部片		石英を少量含む。普通。にぶい橙色。	断面平円の隆帯で褐色き文を露出する。		
97	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	有別隆帯で文様を露出した後、沈線文と刻文を施す。下半部はていねいな磨き。		
98	深鉢	口縁把手		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口唇部は内側に稜を持つ。楕円把手を持ち、その上面に隆帯による文様を施す。		
99	深鉢	口縁部片		雲母、石英を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	口唇部は内折し、内側に沈線を1条巡らす。外面には原形Rの単筋斜縄文を横位に施文する。		
100	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。やや不良。明赤褐色。	直立する口縁。口唇部は無文。その下位に原形Rの熟赤文か？		
101	台付鉢	台部片		雲母を含む。良好。にぶい赤褐色。	丸い透かし穴を持つ。地文には原形Rの単筋斜縄文を縦位に施文する。		
102	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	口縁は屈曲して外反する。流状口縁か。原形Rの単筋斜縄文を縦位に施文する。		
103	深鉢	口縁部片		石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部に行く溝巻状の突起か。沈線で文様を露出する。		
104	浅鉢	口縁部片		石英をやや多く含む。良好。灰白色。	角筒状の口縁。半環起線を横位あるいは縦位に施文する。		新海系か
105	浅鉢	胴部片		金雲母を少量含む。良好。灰白色。	浅鉢の屈曲部か。沈線が1条巡り、胴下半には原形不明の単筋斜縄文を施文する。		新海系か
106	浅鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁はわずかに外反する。口唇部上面には沈線を1条巡らす。胴部は横位の沈線文を施す。ていねいな磨き。		
107	深鉢	胴部片		砂粒をわずかに含む。良好。橙色。	浅い沈線を横位に施文し、ペン先状工具による磨きを巡らす。		
108	浅鉢	胴部片		石英をやや多く含む。金雲母を少量含む。良好。灰白色。	原形LRの単筋斜縄文を縦位に施文する。		新海系か
109	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	西面台形の低い隆帯でドーナツ状の文様を露出し、これに沿って沈線を巡らす。隆帯の左右には流状の沈線。		
110	深鉢	把手		砂粒をわずかに含む。良好。黒褐色。	環状の把手。把手上に高い隆帯で褐色き文、流状文を施文する。赤色塗彩の痕跡が良好に残る。		
111	深鉢	口縁部片		石英を少量含む。良好。にぶい橙色。	口唇部は内折し、内面にゆるい稜を持つ。沈線を1条巡らす。		
112	浅鉢	口縁部片		石英をわずかに含む。良好。にぶい橙色。	内側に肥厚し、外側には稜を持つ。ていねいな磨きで、内面と外面の一部、口唇部上面に赤色塗彩の痕跡あり。		
113	浅鉢	口縁部片		雲母を含む。良好。黒褐色。	口縁はやや内折し、口唇部は内側にわずかに肥厚する。口唇部には浅い凹線による横円形の区画を施文。		
114	浅鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	内側に肥厚し、外側には稜を持つ。ていねいな磨きで、内面と外面の一部、口唇部上面に赤色塗彩の痕跡あり。		
115	浅鉢	口縁部片		白色軽石粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	わずかに外反する角筒状の口縁。ていねいな磨きで、内外面に赤色塗彩の痕跡あり。		
116	浅鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は内側に肥厚する。無文の口唇部の下位にごく浅い凹線が通る。		

20区6号住居石部計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
117	石皿	完	15.5 13 3 0.5	黒曜石	
118	磨芥	刃部片	52 59 26 111.1	灰質玄武岩	
119	石皿	1/4	172 180 71 2800.0	粗粒輝石安山岩	
120	凹石	完	112 72 45 401.1	粗粒輝石安山岩	
121	磨石	完	192 194 128 3000.0	粗粒輝石安山岩	
122	多孔石	一部欠か	234 209 125 6000.0	粗粒輝石安山岩	
123	多孔石	完	277 196 129 9580.0	粗粒輝石安山岩	

第2節 遺物観察表

20区10号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部	1/2	砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	渦巻状の突起が付く隆帯を2条、弧状に高らす。胴部には2条の隆帯による鬘骨文を施文した後、頸部の沈線と棒状工具による刺突文を施文する。	
2	深鉢	胴部	1/2	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	口縁は緩やかな波状口縁。1あるいは2単位の波頂部に突起が付すものと思われる。口唇部に沿って隆帯を貼付する。そこからS字状に隆帯を施し、その下部から2条の隆帯を垂下させる。その後、沈線を縦位に貼付し、隆帯をつなぐように弧状の沈線を施す。	
3	深鉢	口縁～胴上半	1/2 口径19.8	金雲母、砂粒を含む。良好。暗褐色。	口唇部は内側に屈曲し上面が平らになる。口縁部には斜位の半段起線が口唇部まで施文される。胴部は3条の半段起線を高らせた後、純行する隆帯と4単位と思われる突起状を貼付する。胴部は細い沈線を垂下させた後、純行する沈線を貼付し、2条の隆帯で渦巻文を施文する。	
4	深鉢	口縁～胴上半	口径18.6	砂粒を少量含む。普通。にびい赤褐色。	内壁する口縁には、棒状工具による沈線を斜位に施文した後、沈線で渦巻状の文様を描出する。胴部に原形Lの半段斜縄文を施文した後、胴部には5単位の輪帯状の突起を付し、これをつなぐように純行する粘土紐を貼付する。突起からは隆帯を1条垂下させ、この間には純行する沈線を1条施文する。	
5	深鉢	胴部片		金雲母をやや多く含む。良好。褐色。	3条の隆帯による鬘骨文を垂下させ、その間には2条の沈線による鬘骨文を垂下させる。地文は棒状工具による斜沈線を施文する。	
6	深鉢	胴部片		金雲母を少量含む。良好。褐色。	3条の隆帯による鬘骨文を垂下させ、棒状工具による沈線で横杉文と刺突文を施す。	
7	台付鉢か	台部か		砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	胴部に3条の隆帯を施文する。底部は上げ版を型する。	
8	深鉢	胴部片		黒雲母、石英をわずかに含む。普通。褐色。	原形Lの半段斜縄文を縦位に施文した後、沈線を施文する。	
9	深鉢	胴部片		金雲母、石英をわずかに含む。普通。褐色。	原形Lの半段斜縄文を縦位に施文した後、沈線を施文する。	
10	深鉢	口縁部片		白色紅粒粒、黒雲母をわずかに含む。良好。暗赤褐色。	無文でやや外反する口縁で、口唇部は外側する。胴部に細い沈線を高らす。内外面とも磨き。	
11	浅鉢	口縁部片		黒雲母をわずかに含む。良好。赤褐色。	口唇部はわずかに外反する。口縁部には沈線で楕円形の文様帯を区画し、内部には沈線を縦位に施文する。胴部外面には隆帯を貼付し、物を作り出す。胴下縁外面、及び内面は磨き。	
12	深鉢	口縁部片		白色紅粒粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口唇部は外側する。そこから3条の沈線を垂下させる。	
13	深鉢	口縁部片		石英、白色軽石粒をやや多く含む。良好。褐色。	口唇部は内側に肥厚し、口唇部上には沈線を1条高らす。胴部には原形Lの半段斜縄文を縦位に施文した後、純行する沈線と2条の沈線を垂下させる。	
14	深鉢	口縁部片		金雲母、石英を少量含む。良好。褐色。	口唇部は外側に肥厚し、上部に沈線を1条高らす。2条の隆帯による鬘骨文を貼付した後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
15	深鉢	口縁部片		金雲母、石英を少量含む。良好。褐色。	文様の構成は14に近似的。同一個体と思われる。	
16	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にびい褐色。	口唇部は内外に肥厚する。沈線で渦巻状、弧状の文様を描出した後、縦位に沈線を施文し、棒状工具による刺突文を施す。	
17	深鉢	口縁部片		石英、金雲母を少量含む。良好。褐色。	無文の口縁で、口唇部は内側に肥厚する。胴部に隆帯が高まるものと思われる。	
18	深鉢	胴部片		黒雲母をわずかに含む。良好。褐色。	断面半円の隆帯を高らし、そこから半段起線を垂下させる。一部に棒状工具による刺突文を施文。	
19	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面三角の隆帯を3条垂下させた後、浅い沈線を縦位に施す。その後、中に横線の入る楕円形と三角形の文様を沈線で描出する。	
20	深鉢	胴部片		白色紅粒粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	文様の構成は19に近似的だが、垂下する隆帯が2条で、断面が半円である。	
21	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を少量含む。良好。明赤褐色。	断面台形の太い隆帯を施文した後、棒状工具による刺突文と沈線で文様を描出する。	
22	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を少量含む。良好。明赤褐色。	文様の構成は21に近似的。同一個体と思われる。	
23	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面半円の隆帯を弧状に施文した後、緩やかに彎曲する斜沈線を施文する。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
24	深鉢	胴部～胴部片		石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	胴部には横位の陶管文を施す。胴部は3条の隆帯を弧状に施した後、棒状工具による沈線を縦位に施す。	
25	深鉢	胴部片		石英、金雲母をやや多く含む。良好。黒色。	断面平円の隆帯を3条、横位あるいは弧状に施す。棒状工具による沈線で横文を施す。その後隆帯に沿って沈線を施す。	
26	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面台形の低い隆帯とそれに沿った平行沈線を施した後、浅い沈線と隆帯上に筋みを施す。	
27	深鉢	胴部片		黒雲母、石英をわずかに含む。良好。褐色。	棒状工具による沈線を平行に施した後、その間にペン先状工具による刺突文を施す。	
28	深鉢	胴部片		金雲母、石英をやや多く含む。良好。明赤褐色。	棒状工具による沈線を縦位に施した後、蛇行する隆帯と渦巻き状の隆帯を貼付する。渦巻き状の隆帯に沿って沈線を施す。	
29	浅鉢	口縁部片		細砂粒をわずかに含む。良好。ぶい褐色。	口唇部は外側に肥厚し、角頭状を呈する。内面と口唇部外面に赤色塗彩の痕跡が認められ、特に内面は弧状の文様が重畳できる。	

20区10号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値(1)長さ(mm)	(2)幅(mm)	(3)厚さ(mm)	(4)重量(g)	石材	備考
30	石礫	完	16	12	3	0.5	黒曜石	
31	磨芥	破片	69	32	22	63.8	安賀安山岩	
32	打芥	完	104	43	15	64.8	黒色頁岩	
33	四石	完	116	79	37	521.9	粗粒輝石安山岩	
34	打芥	完	96	46	25	123.8	粗粒輝石安山岩	
35	四石	完か	107	72	35	447.4	粗粒輝石安山岩	
36	四石	完	109	89	52	770.1	粗粒輝石安山岩	
37	四石	完	122	75	54	726.5	粗粒輝石安山岩	
38	台石か	完	191	222	90	5000	粗粒輝石安山岩	

20区12号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部片		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	隆帯を貼付して文様を区画し、区画内には棒状工具による沈線を斜位に施す。	
2	深鉢	胴部～底部1/2		砂粒を僅かに含む。良好。赤褐色。	やや胴のはる円筒状の器形。胴部には刺突文の施された隆帯が通っていたものと思われる。胴部には原体Rの熟赤文を縦位に施す。	
3	釣手土器	口縁部2/3 釦定 短径19.0 釦定 長径26.0		砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁には隆帯による渦巻き文と棒状工具による沈線を施す。釣手の複合部は横状を呈する。内面の残存部には炭化物の付着は見られない。	
4	深鉢	口縁～胴下半 釦定 口径15.5		砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	平口縁に円形の突起が付くものと思われる。口縁部は2条の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を横位に施す。頸部は磨り消しによって無文。その下位には沈線を3条施す。胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施した後、3条の沈線によって「田」字状区画をなす。	
5	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体Rの熟赤文を縦位に施した後、胴部に沈線を施す。	
6	深鉢	口縁部片		石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	弧状口縁の波頭部。隆帯を貼付して区画をなす。区画内は無文。胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施す。	
7	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施した後、横位の沈線と縦位の沈線で方形の区画をなす。	
8	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	斜位の沈線と隆帯を貼付して龍文を描出した後、横位の隆帯を貼付する。胴部は棒状工具による沈線を斜位に施した後、隆帯に沿って沈線を施す。	
9	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。ぶい赤褐色。	原体Rの熟赤文を縦位に施した後、平行沈線を施す。	
10	深鉢	口縁部片		石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。ぶい褐色。	断面平円の隆帯を弧状に貼付した後、半截竹管状工具で文様を描出すとともに、隆帯に刺突文を付す。	
11	深鉢	口縁部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	断面平円の隆帯を貼付した後、平行沈線と交互刺突文を施す。口縁は内折し、突起が付いたものと思われる。	
12	深鉢	底部 底径10.5		砂粒をやや多く含む。良好。	無文の底部。磨きが施され、底面に磨き痕の痕跡。	

第2節 遺物観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
13	浅鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	内外面とも丁寧な磨きを施し、赤色地彫の痕跡が認められる。	
14	浅鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。褐色。	器底部の上位には棒状工具による沈線を描いた後、角筒状の工具による刻文を施す。器底部には棒状工具による刻文を施す。	

20区12号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考			
15	石製品	完	37	34	16	7	軽石	

20区13号住居石器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	両耳壺	口縁～胴部片 推定	口径36.0	細砂粒をやや多く含む。普通。淡黄褐色。	楕状把手は2単位と思われる。頸部には楕状把手とつながる隆帯を巡らす。胴部は器面が荒れるが、単体Rしの単筋斜縄文を縦位に施した後、八字形の沈線と磨り消し文を施しているものと思われる。	
2	深鉢	口縁部片		砂粒をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	底文の口縁部の下位に沈線を縦位に施した後、沈線を1条巡らす。無文部と内面は磨き。	
3	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	棒状工具による浅い沈線を弧状あるいは同心円状に施す。	
4	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	太い隆帯と沈線で文様を区画し、区画内には原単体Rしの単筋斜縄文を縦位に施す。	
5	深鉢	口縁部片		白色軽石粒を少量含む。良好。褐色。	波状口縁の波頂部から太い沈線を左右に施す。その下位には文様帯が区画され、区画内は原単体Rしの単筋斜縄文を施す。	
6	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。普通。明黄褐色。	筋みを付した隆帯を溝巻き状に貼付し、その周りを沈線と施す。	
7	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。褐色。	棒状工具による浅い沈線を溝巻き状あるいは波状に施す。	
8	深鉢	口縁部 1/3 推定 口径24.5		砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	口縁部の下位に波状の沈線と交互刻文を施す。頸部には2条の沈線を巡らす。	
9	深鉢	口縁把手		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	透かし穴を縦方向、横方向に3ヶ所穿つ。外面に太い沈線。	
10	深鉢か	胴部片		石英、黒雲母をわずかに含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	隆帯と沈線で文様を描出し、外面の隆帯部分と内面の一部に赤色地彫の痕跡が認められる。	
11	土偶	胴部		石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄色。	土偶の腕と思われる。沈線で文様が描出され、φ3mmの孔がかけられる。	

20区13号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考			
12	磨石	完	155	246	83	3800	粗粒輝石安山岩	

20区14号住居石器計測表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	中央に円形の透かし穴を持つ口縁部突起。頸部から隆帯を垂下させ、溝巻き状に施文。それに沿った沈線も頸部が兼手状を呈する。口縁部に隆帯で楕円形と思われる区画をなし、区画内に交互刻文と沈線を施す。文様帯からは筋みを付した隆帯を垂下させる。地文には棒状工具による斜沈線を施す。	
2	深鉢	胴部片		石英、金雲母を含む砂粒を少量含む。良好。灰赤色。	弧状に施した沈線から2単位1単位の沈線を垂下する。沈線間は原単体Rしの単筋斜縄文を縦位に施す。	
3	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原単体Rしの単筋斜縄文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
4	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。褐色。	原単体Rしの単筋斜縄文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
5	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	断面三角の隆帯を2条垂下させた後、浅い斜沈線を施す。その後、隆帯に沿って沈線を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	断面平円の隆帯の下位に棒状工具による縞文を施す。	
7	深鉢	胴部片		石英、金雲母を少量含む。普通。赤褐色。	細い沈線を4条垂下させる。地文には縄文を施していると思われるが不明である。	
8	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい黄色。	磨面状工具による条状文を縦位に施す。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	粘土・地皮・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
9	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	無文の口縁部の下位に隆帯を1条巡らし、そこから隆帯を垂下させる。その後斜沈線を施す。(紋付文か。)	

20区14号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
10	打鉢	完	113 51 18	101.1	楕円形石安山岩
11	凹石	一部欠	114 75 63	673.9	楕円形石安山岩
12	凹石	完	109 94 50	678.8	楕円形石安山岩
13	凹石	完	105 35 24	141.7	楕円形石安山岩
14	凹石	完	168 62 54	750.1	楕円形石安山岩
15	石製品	完	51.5 61 19	16.1	軽石

20区15号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
1	凹石	完か	240 328 115	12800	楕円形石安山岩

20区16号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	粘土・地皮・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部～胴下半 口径12.8		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	緩やかな4単位の波状口縁を呈するものと思われる。隆帯を貼付して、胴部にはU形の、胴部には楕円形の区画をなす。口縁部の区画内には交互刺突文を施す。胴部には棒状工具による沈線を楕円の波状に施す。胴部の区画には大小の差を付けて正面を意味しているものと思われる。正面の区画内には紋付文の上に蛇行する沈線を施している。口縁部は2次のな沈線。	
2	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯で文様帯を区画し、区画内は原形R.Lの単部斜刺突文を縦位に施す。その後、隆帯に沿って磨り消し。	
3	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	波状口縁の破片。沈線で口縁部文様帯を区画し、区画内には原形L.Lの単部斜刺突文を縦位に施す。区画の上に「J」字状の沈線文。	
4	深鉢	口縁部片		石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	口縁部は内側に肥厚する。断面半円の隆帯で文様帯を区画し、区画内は沈線による紋付文。区画外に隆帯で文様を挿出する。	
5	深鉢	口縁部片		石英を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	無文の口縁部の下位に沈線を1条巡らし、その下に斜沈線と円形の刺突文を施す。	
6	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面台形の低く幅広い隆帯で文様を区画する。	
7	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒を多く含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯を垂下させ、隆帯の間は沈線による紋付文を施す。	
8	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。やや不具。褐色。	口縁部文様帯の破片と思われる。区画内には原形不明の刺突文を施す。	

20区16号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
9	石皿	完	20.5 17 2.5	0.6	黒曜石

20区17号住居石器計測表

番号	器種	残存状態	計測値	粘土・地皮・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴部 1/3 釐定口径48.2		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	口縁部に浅い波状楕円形の文様帯を区画する。区画内及び胴部には原形L.Lの単部斜刺突文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
2	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。褐色。	断面台形の隆帯を弧状に貼付した後、棒状工具による浅い沈線を弧状あるいは縦位に施す。	
3	台付鉢	台部接合部		細砂粒を少量含む。普通。褐色。	透かし穴が開くため、4脚状の台部を呈すると思われる。胴部は原形R.Lの単部斜刺突文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
4	台付鉢	台部接合部		小礫を含む砂粒を少量含む。普通。褐色。	4単位の透かし穴が開くものと思われる。胴部には原形R.Lの単部斜刺突文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
5	深鉢	口縁～胴部 1/2 口径30.5 残存高30.1		砂粒、小礫を少量含む。良好。暗赤褐色。	5単位の波状口縁。口縁部は断面三角の隆帯で円形の区画を含む半徑の文様帯を区画する。区画内には原形L.L.Lの複部斜刺突文を充填する。胴部は断面三角の低い隆帯で渦巻文を施した後、原形L.L.Lの複部斜刺突文を縦位に施す。	
6	深鉢	口縁部 口径20.7		砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	4単位の波状口縁と思われる。波頂部はわずかに外反する。口唇部まで原形L.Lの単部斜刺突文を施した後、円字状の沈線と垂下する沈線を施す。	
7	深鉢	口縁～胴部 1/2 釐定 口径13.0		細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	蛇行する沈線を巡らすとともに、円字状および垂下する沈線を施し、原形L.Lの単部斜刺突文を縦位に施す。	

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
8	深鉢	口縁～胴部 1/2 口径24.0		小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	原形Lの単節斜縄文を口唇部は縦位に施文し、それよりも下位は縦位に施文した後、大きく蛇行する沈線と磨り消し文を施文する。磨り消し部には線部が楔手状を呈する沈線を施文する。	
9	台付鉢	一部欠 口径16.0 器高24.6 底径5.6		細砂粒を少量含む。良好。褐色。	直線的に開く器形に、径の小さい台が付く。原形Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、大きく蛇行する沈線で5単位に分割する。そこから八字状の沈線を垂下させる。分割された1単位のみの沈線が垂下される。	
10	深鉢	口縁～胴部 2/3 口径30.5 残存高30.2		砂粒をやや多く含む。普通。灰黄褐色。	口唇部には円形の刺突文と沈線を1条高らす。口縁部は無節の斜縄文を施文した後、2条の沈線で大きく蛇行する横位の沈線を高らし、その間には蛇行する沈線を垂下させる。胴部には沈線を2条高らし、その間に円形の刺突文を施す。胴部は無節の斜縄文を施文した後、磨り消し文と蛇行する沈線を垂下させる。	
11	深鉢	口縁～胴上平 1/3 器定口径38.5 残存高19.5		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	原形Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、口縁部は沈線と横円形の文様帯を区画する。胴部も同じ原形を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
12	深鉢	底部 底径7.0		砂粒、小礫を少量含む。良好。褐色。	原形Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、深い沈線を3条垂下させ、間を磨り消す。	
13	浅鉢	底部 器定径8.2		砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	原形Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
14	鉢形土器	口縁～胴下平 1/4 器定口径38.5 器定最大径39.0		小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	口縁部は無文で横位の整形痕が認められる。隆帯で横円形の区画をなし、区画内には原形Lの単節斜縄文を縦位に施文する。区画の下位には寛状工具による沈線を縦位に施文する。	
15	深鉢	口縁部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	原形Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、八字形の沈線と線部が楔手状を呈する沈線と磨り消し文を垂下させる。	
16	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	原形Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線を高らすとともに、線部が楔手状を呈する沈線を垂下させる。口唇部の横文は横位に施文され、一部が欠損する。	
17	深鉢	口縁部片		細砂粒をわずかに含む。普通。にぶい黄褐色。	原形Lの単節斜縄文を口唇部は横位に、その下位は縦位に施文した後、口唇部に棒状工具による刺突文を施し、その下位に沈線を1条高らす。胴部には蛇行する沈線を高らすとともに、線部が楔手状を呈する沈線を垂下させる。	
18	浅鉢	口縁部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	口唇部は内傾し、口唇部上に沈線を高らす。胴部は原形Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、口唇部に沿って平行沈線を施す。内面は磨きを施す。	
19	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	断面三角の隆帯を垂下させた後、原形Lの単節斜縄文を縦位に施文し、隆帯に沿って磨り消し。	
20	深鉢	口縁～胴下平 1/2 口径33.5 残存高43.9		砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	底部からやや直線的に開く器形。口縁は緩やかな流状口縁を呈すると思われる。断面半円の隆帯で口縁部に横円形の文様帯を区画する。文様帯の内側は原形Lの単節斜縄文を方向を変えて充満する。胴部は無節の単節斜縄文を縦位に施文した後、垂下する沈線と横位の楔手状の文様を施文する。	
21	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	流状口縁の波頂部。内外面ともに隆帯で渦巻きの文様を描出する。口縁部文様帯の中には原形Lの単節斜縄文を充満する。	
22	深鉢	口縁突起		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	円形の口縁突起。内外面に隆帯で渦巻きの文様を描出する。隆帯の間に原形不明の横文を施文する。	
23	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	断面台形の低い隆帯で文様を区画し、区画内には原形Lの単節斜縄文を方向を変えて施文する。その後、隆帯に沿った沈線で磨り消し。	
24	深鉢	口縁突起		白色粒石粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	内外面と両側面ともに隆帯で渦巻きの文様を描出する。内面の一部に赤色の曲線が認められる。	
25	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面台形の隆帯で文様を区画し、区画内には原形Lの単節斜縄文を縦位に施文する。その後、隆帯に沿って磨り消し。隆帯の交点に円形の刺突文。	
26	深鉢	口縁部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	隆帯で口縁部に湾形の文様帯を区画し、区画内には原形Lの単節斜縄文を縦位に施文する。その後口縁に沿った沈線で磨り消し。胴部は無節の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させるとともに口縁部文様帯に沿った沈線でも磨り消す。この沈線が延長して渦巻きの文様を描出する。	
27	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	断面三角の隆帯を貼付して区画をなした後、原形Lの単節斜縄文を施文し、隆帯に沿った沈線で磨り消し。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
28	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	口縁部には沈線と帯形の文様を提出する。その下位には円形の文様を提出し、その中には沈線を放射状に施文する。	
29	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	無文の口縁部の下位に沈線と帯形の文様を提出し、内部には斜沈線を施文する。その下位にも沈線を施文する。	
30	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	垂下する沈線と渦巻きの沈線を施文した後、彎曲する短沈線を斜位に施文する。	
31	深鉢	口縁部片		白色軽石粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	渦巻きの円環状突起が付く。交互斜文と斜沈線を交互に施文する。	
32	深鉢	口縁部片		白色軽石粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	文様の構成が31に似る。同一個体と思われる。	
33	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	沈線を斜位に施文した下位に沈線を1条巡らし、円形の沈線文内部に彎曲する沈線と蛇行する沈線を施文する。	
34	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	沈線を2条垂下させた後、帯形沈線の沈線を施文する。	
35	深鉢	胴部片		黒雲母、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面台形の隆帯を貼付した後、塊状工具による短沈線を帯形に施文する。	
36	深鉢	胴部片		黒雲母をわずかに含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面台形の低い隆帯を貼付した後、浅い沈線で渦巻きの文様を提出する。	
37	深鉢	口縁部片		金雲母を含む細砂粒を少量含む。やや不具。にぶい赤褐色。	口縁部の下位に細沈線と円形の刺突文を巡らす。	
38	深鉢	口縁部片		白色軽石粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	刻みを付した断面台形の隆帯を弧状に貼付する。	
39	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	沈線を横位に巡らし、その間に棒状工具による刺突文を巡らす。	
40	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。灰黄色。	隆帯の上位に塊状工具による刺突文を蛇行させて施文する。	
41	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	やや外反する無文の口縁。口唇部に細棒状を持つ。	
42	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。	断面三角の隆帯を貼付し、それに沿った平行沈線と、渦巻きの平行沈線を施文する。	
43	深鉢	胴部片		小塵を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	断面半円の隆帯を貼付して文様を提出した後、隆帯に沿って沈線を施文する。	
44	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	沈線を斜位に施文した後、棒状工具による沈線で文様を提出する。	
45	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒を少量含む。普通。褐色。	棒状工具による沈線で三叉文を含む文様を提出する。	
46	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	扇形の腕手状を呈する隆帯を貼付した後、沈線を縦位に施文する。	
47	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の隆帯を弧状に貼付した後、沈線で文様を提出し、隆帯に刻みを付す。	
48	深鉢か	口縁突起小		金雲母を含む細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	縦定径3cmほどの透かし穴を持ち、頂部は角錐状を呈する。内外ともに丁寧な磨きを施す。	

20区17号住居石計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(m)	②幅(m)	③厚さ(m)	④重量(g)	石材	備考
49	石皿	基部欠	31	19	8.5	3.3	黒曜石	
50	石皿	基部欠	24	18	3	0.8	黒曜石	
51	石皿	基部欠	24.5	15	6	1.5	黒曜石	
52	石皿	完	15	12	3	0.4	黒曜石	
53	石皿	基部欠	20	11.5	3	0.5	黒曜石	
54	ドリル	先端部欠	21	14	3	0.6	黒曜石	
55	スプレイベーカー	完	28	46.5	12	11.8	黒色安山岩	
56	打斧	完	102	44	19	92.1	デイサイト	
57	打斧	完	115.5	44.5	20	114.1	緑輝石安山岩	

番号	器種	残存	計測値①長さ(m)②幅(m)③厚さ(m)④重量(g)	石材	備考			
58	打斧	完	138	58	24	246.9	粗粒輝石安山岩	中央付近で折損
59	打斧	基部欠	123	49	13	107.1	粗粒輝石安山岩	刃部摩滅
60	磨斧	刃部のみ	60	64	25	138.8	安山岩	
61	石製品	完	29	41	18	5.8	軽石	
62	磨斧	ほぼ完	122	46	21	198.7	安山岩	
63	四石	完	95	70	34	343.1	粗粒輝石安山岩	
64	四石	完	99	69	49	422.1	粗粒輝石安山岩	
65	多孔石	完	305	162	115	5800	粗粒輝石安山岩	磨り面あり
66	石皿	破片	86.5	64	27.5	138.8	粗粒輝石安山岩	
67	多孔石	完小	233	265	89	5800	粗粒輝石安山岩	
68	磨石	一部欠	174	126	45	1400	粗粒輝石安山岩	
80	多孔石	完	202	261	125	7000	粗粒輝石安山岩	

20区18号住居石器計測表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴上部 口径19.0 残存高11.9		白色軽石粒をやや多く含む。普通。褐色。	キャリバー形の彫り。4単位の底状口縁を呈すると思われる。口縁部はこの波面部をつなぐように隆帯を貼付する。口縁部から胴部にかけては原形Rの熱赤文を縦位に施文した後、口縁部に2条1単位の隆帯で横S字状の文様を4単位貼付する。胴部には沈線で長機四の文様を描出する。	
2	深鉢	口縁～底部1/3 鑑定口径11.8 残存高19.5 底径8.0		黒雲母を含む砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	機形の器形で口縁には突起が1単位付くと思われる。突起の下位には有肩隆帯で渦巻状の突起をなし、そこから左右に弧状の沈線を描する。その沈線から区画するように口縁部には2条の沈線が高とともに、半円形の文様帯を区画する。胴部には棒状工具による沈線を斜位に施文した後、沈線によって、八字形あるいは腕状の文様を描出する。	
3	深鉢	口縁～胴上部 鑑定口径13.4		砂粒を少量含む。良好。褐色。	口縁は内脣し。無文で磨きを施す。胴部に断面三角の隆帯を4条巡らし、上の3条の間に粘土線を波状に貼付する。下の1条からは連続して2条が垂下する。この垂下する隆帯の上には連続刺突文が施される。隆帯を垂下した後、沈線を縦位に施文する。	
4	深鉢	口縁部1/3 鑑定口径16.6		石英を少量含む。普通。明赤褐色。	口縁部上面に沈線を1条巡らし、原形Rの熱赤文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯で口縁部に文様を区画し、区画内には2条の隆帯による渦巻き状の突起を描出する。胴部には沈線で1条巡らして1条と区画される。口縁部の沈線内に赤色彫影の痕跡あり。	
5	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	原形Rの断面斜機文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯を2条1単位で2段にわたって巡らし、隆帯の間には断面台形の低い隆帯を横行して貼付する。この隆帯の上には円形の刺突文を施す。	
6	深鉢	胴上部～胴下部		黒雲母を少量含む。普通。明赤褐色。	直線的な器形で、上部でわずかに開く。原形Rの熱赤文を縦位に施文した後、2条1単位の隆帯で、鼠歯状の文様を貼付する。この文様に沿って沈線を描す。	
7	深鉢	胴部片		石英、白色軽石粒をやや多く含む。普通。明褐色。	柄みを付した断面台形の隆帯を垂下させた後、赤黄文を縦位に施す。	
8	深鉢	底部 底径10.0		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	原形Lの断面斜機文を縦位に施文した後、3条1単位の沈線を8単位垂下させる。この沈線の間には横行した沈線を垂下させていると思われる。底面にRの断面斜機文の正横文。	
9	深鉢	胴部片		石英を少量含む。良好。明赤褐色。	原形Rの熱赤文を縦位に施文した後、平行沈線で八字状の文様を描出する。	
10	深鉢	胴部片		黒雲母を含む砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	原形Rの熱赤文を縦位に施文した後、平行沈線で弧状の文様を描出する。	
11	深鉢	胴部片		黒雲母を少量含む。普通。黒褐色。	原形Rの熱赤文を縦位に施文した後、平行沈線を縦位、あるいは弧状に施文する。	
12	深鉢	胴部片		石英を少量含む。普通。褐色。	原形Rの断面斜機文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯を弧状に施文し、隆帯に沿って沈線を描す。	
13	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を少量含む。普通。暗赤褐色。	柄みを付した隆帯を1条巡らし、その上位には原形Rのゆるい熱赤文を縦位に施文する。	
14	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を少量含む。普通。褐色。	柄みを付した隆帯を1条巡らし、その下位には原形Rのゆるい熱赤文を縦位に施文する。13と近似。	
15	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を少量含む。普通。明赤褐色。	柄みを付した隆帯を1条巡らし、その上位には原形Rのゆるい熱赤文を縦位に施文する。	
16	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	棒状工具による沈線を縦位に施文した後、断面半円の隆帯を弧状に施文する。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	粘土・焼成・色調	形状・文様の特徴等	時期-備考
17	深鉢	胴部片		石英を少量含む。砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	原形Rの熱赤文を縦位に施した後、平行沈線が弧状あるいは同心円状の文様を楕出す。	
18	深鉢	胴部片		黒雲母を少量含む。良好。暗褐色。	原形Rの熱赤文を縦位に施した後、平行沈線を楕位、あるいは弧状に施文する。	
19	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原形Lの熱赤文と棒状工具による沈線文が併せて施文される。	
20	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原形Rの熱赤文を縦位に施した後、胴部に平行沈線を楕位に施文する。その後、平行沈線を弧状に施し、これと胴部の沈線をつなぐように沈線を縦位に施文する。	
21	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	手載竹管状工具による平行沈線を縦位に施文する。一部が同様の工具による連続斜交文になる。	
22	深鉢	胴部片		白色軽石粒を少量含む。良好。褐色。	連続斜交文の施された隆帯をU字状に貼付した後、沈線を縦位に施文する。	
23	深鉢	胴部片		砂粒をわずかに含む。良好。赤褐色。	手載竹管状工具による平行沈線を縦位に施した後、棒状工具による圧痕を施した隆帯を2条並下させる。	
24	浅鉢	口縁部片		赤色軽石粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	口唇部上面に沈線を1条並下し、口縁直下に平行沈線を楕位に施文する。内外面とも着きを施す。	
25	深鉢	口縁部片		石英、黒雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は一旦内傾し、小さく外反する。胴部に断面中円の隆帯が巡ると思われる。無文で、外面は磨きを施す。	
26	浅鉢	口縁部片		黒雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗褐色。	無文で、器面はやや荒れるが磨きが施されていたものと思われる。	
27	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。普通。暗褐色。	平行沈線を楕位に施文する。一部に交互斜交文を施す。	
28	深鉢	口縁部片		小礫を含む砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	隆帯で口縁部に文様帯が区画されているものと思われる。区画の端部は渦巻き状の突起になり、区画内には沈線と連続斜交文が楕位に施文される。胴部は原形Rの赤文に細い熱赤文を縦位に施文する。	
29	深鉢	口縁部片		白色軽石粒をやや多く含む。普通。褐色。	波状口縁の波頭部と思われる。無文で断面中円の太い隆帯を縦行に貼付する。	
30	深鉢	口縁部片		石英をやや多く含む。良好。暗褐色。	刻みを付した隆帯を弧状に施文し、それに沿って沈線を施す。さらに4条の沈線を並下させる。	
31	深鉢	口縁部片		石英をやや多く含む。良好。褐色。	刻みを付した隆帯を弧状、楕位、縦位に施文し、その間に沈線を光環する。30と同一体か。	
32	深鉢	胴部片		黒雲母、石英をやや多く含む。普通。赤褐色。	沈線で三角状の文様を楕出す。内側に三叉文。	
33	深鉢	胴部片		黒雲母、石英をやや多く含む。普通。赤褐色。	沈線で渦巻き状の文様を楕出し、端部でX字状の突起をなす。	
34	深鉢	胴部片		黒雲母を少量含む。良好。明褐色。	隆帯を弧状に施文し、その間に沈線文を施す。	
35	深鉢	胴部片		石英、黒雲母をやや多く含む。良好。褐色。	断面中円の太い隆帯を並下させた後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
36	深鉢	胴部片		黒雲母をわずかに含む。良好。暗褐色。	断面三角の隆帯がY字状に貼付され、そこから沈線が楕位に施文される。一部にはキャタビウ文を呈する。	
37	深鉢	胴部片		黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。やや不具。黒褐色。	沈線を楕位、L字状に施文する。	
38	深鉢	胴部片		白色軽石粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	隆帯を弧状に施文し、それに沿った沈線で文様を楕出し、その間には三叉文を施す。	
39	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面三角の隆帯を4条並下し、上3条の間に蛇行する粘土粒を貼付する。内面は磨きを施す。	
40	深鉢	胴部片		白色軽石粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	断面三角の隆帯で区画をなし、区画内には半隆起線と粘土粒による縦目文を施す。区画の間に熱線状の突起。その下位には小さな幾何形の把手が付く。	
41	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	断面中円の隆帯で区画をなし、区画内には半隆起線と粘土粒による縦目文を施す。それに並するよう熱線状の把手を貼付する。胴部は沈線を斜位に施文し、その後、把手から2条の隆帯を並下させる。	

第2節 遺物観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
42	深鉢	胴部片		白色軽石粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	中央の突起から前面半円の隆帯を弧状、あるいは横位に施す。	
43	深鉢	口縁部片		黒雲母を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	波状口縁の波頂部と思われる。胴縁状の横状突起が付き、その周囲には沈線を縦位に施す。	
44	深鉢	胴部片		黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	胴縁状の横状突起が付き、その下位には縦帯口縁の突起。沈線を縦位に施した後、刻みを付した隆帯を弧状に施し、それに沿って沈線を施す。縦位の沈線との間には三又文を施す。	

20区20号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部		砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	口縁部には楕円形、あるいは弧状に沈線を施し、中には縦帯不明の縄文を施す。胴部は原形Rの単節斜縄文を縦位に施した後、沈線で方形の6単位に区画する。上部は2次のなめ肌。	

20区21号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部		砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	原形Rの単節斜縄文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
2	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	原形Rの単節斜縄文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
3	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	無文の口縁部と思われる。口唇部は内湾するのであろう。前面台形の2条の隆帯で籃手状の文様を露出し、一方の隆帯には刻みを付す。そこから、刻みを付した隆帯を1条垂下させる。	
4	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	藍い隆帯で楕円形の文様帯を区画し、区画内には原形不明の縄文を施す。胴部も同様の縄文を施した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
5	鉢形土器	胴部片		石英、黒雲母をわずかに含む砂粒を少量含む。良好。黒色。	前面半円の隆帯を貼付して文様を区画した後、原形Rの単節斜縄文を施し、隆帯に沿って磨り消し。	

20区21号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
6	石製品	完	36.5	32	27.5	8	軽石	
7	多孔石	完	210	239	106	6550	横紋輝石安山岩	

20区22号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁・胴部1/2 測定口径33.0		砂粒、小礫をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	4単位の波状口縁を呈する。波頂部には隆帯で渦巻き状の文様を露出し、縁には円形の刺突文を2単位施す。口縁部は楕円形の文様帯を区画し、原形Rの単節斜縄文を充填する。胴部も同じ原形を縦位に施した後、2条の沈線と蛇行する沈線を垂下させる。	
2	深鉢	口縁部1/3 測定口径20.0		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	4単位の波状口縁を呈するものと思われる。隆帯と沈線で文様を区画し、区画内には原形Rの単節斜縄文を施す。胴部も同じ原形を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
3	深鉢	口縁・胴部1/2 最大径19.4		砂粒をやや多く含む。やや不直。にぶい褐色。	4単位の波状口縁を呈するものと思われる。無文の口唇部の下位に楕円形の口縁部文様帯を区画する。前面半円の隆帯をS字状に貼付した後、直線的に垂下する2条の隆帯と蛇行する隆帯を貼付する。その後、縦や斜に彎曲する短沈線を施す。	
4	深鉢	口縁・胴部1/5 測定口径33.5		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部には隆帯と沈線で渦巻き文と文様帯を区画する。区画内は原形Rの単節斜縄文を施す。胴部は同じ原形を縦位に施した後、2条の沈線と磨り消し文を垂下させるとともに、蛇行する沈線を施す。	
5	深鉢	口縁・胴部1/4 測定口径12.0		白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	口唇部に隆帯が湾状に高む。胴部は沈線を2条垂下させた後、彎曲する沈線を横位に施す。	
6	浅鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。灰褐色。	短筒部に隆帯を貼付して渦巻き文を露出するとともに、文様帯を区画し、区画内には楕円工具による沈線を縦位に施す。	
7	深鉢	胴部突起		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	籠状の把手の接合部と思われる。隆帯を貼付して渦巻き文を露出する。	
8	深鉢	胴部1/3		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	原形Rの単節斜縄文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させるとともに、蛇行する沈線を施す。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成色調	彫形・文様の特徴等	時期・備考
9	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原形R1の単筋斜縄文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させるとともに、蛇行する沈線を施文する。	
10	深鉢	口縁部片		石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。口縁は外側に肥厚し、その下位には凹形の刺突文が施文される。	
11	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。黄褐色。	断面三角の隆帯を胎付して楕円形の区画をなす。区画内には楕状工具による沈線を斜位に施文する。	
12	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	波状口縁の波頭部付近。断面台形の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原形R1の単筋斜縄文を施文する。	
13	鉢形土器	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	断面三角の隆帯を胎付して波帯を抽出するとともに楕円形の区画をなし、区画内には原形R1の単筋斜縄文を施文する。	
14	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	隆帯を胎付して区画をなし、区画内には楕状工具による沈線を斜位に施文する。区画の外は浅い沈線を乱雑に施文する。	
15	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原形L1の筋文を縦位に施した後、隆帯を胎付して渦巻き文を抽出する。	
16	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を垂下させた後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
17	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	背割り状の沈線が施文された隆帯を冠らせ、棒状工具による沈線を縦位に施した後、蛇行する沈線と楕円形のセーフを抽出する。	
18	深鉢	口縁突起		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	角形の突起。外面は半環状で渦巻き文を抽出し、内面には断面三角の隆帯を山形に胎付する。	

20区22号住居土器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
19	石碑	1/2 ?	328	120	108	6260	ひん岩	

20区23号住居土器計測表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成色調	彫形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁・底部2/3 推定口径23.2 器高 34.5 底径5.0		白色粗物粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	4単位の波状口縁。波頂部をつなぐように沈線を施す。原形R1の単筋斜縄文を縦位に施文した後、沈線でU字状、U字状に区画し、間を磨り消し。	
2	深鉢	口縁部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。無文の口唇部の下位に断面三角の隆帯を胎付するとともに、胴部には弧状に胎付する。その後、原形L Rの単筋斜縄文を縦位に施文し、隆帯に沿って磨り消す。	
3	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。明褐色。	口唇部の下位に沈線を1条施す。原形L Rの単筋斜縄文を縦位に施文した後、沈線を波状に施文する。	
4	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。明褐色。	断面半円の隆帯を1条垂下させた後、原形R1の単筋斜縄文を縦位に施文する。	
5	深鉢	胴部片		石英、黒雲母をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	原形L1の単筋斜縄文を縦位に施文した後、沈線で文様を抽出する。	
6	深鉢	胴部片		黒雲母、石英をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	原形R1の単筋斜縄文を縦位に施文した後、沈線でU字形の文様を抽出するとともに、楕円形の刺突文を施す。	
7	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒を少量含む。良好。浅黄褐色。	原形L Rの単筋斜縄文を縦位に施文し、断面三角の低い隆帯を横位に施文する。その後、隆帯に沿って磨り消し。	
8	深鉢	口縁部片		石英、黒雲母を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	無文の口唇部。口唇部の下位にごく浅い沈線を施す。	
9	浅鉢	口縁部片		砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	口唇部は角頭状を呈する。屈曲部に交互刺突文を施す。刺突文の施された隆帯を垂下させる。	
10	深鉢か	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	パン先状工具による刺突文を施す。その下位に沈線による文様帯を区画しているものと思われる。区画内は斜位の沈線のみ。	
11	深鉢	口縁把手		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口縁に付く円環状の突起。上部から楕状の把手が付くものと思われる。	
12	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を胎付して楕円形の区画をなし、区画内には楕状工具による沈線を斜位に施文する。区画する隆帯の一部には楕状工具による圧痕文。	

第2節 遺物観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
13	深鉢	胴部片		石灰、黒炭等をわずかに含む。良好。明赤褐色。	浅い沈線を弧状に施文する。	
14	深鉢	胴部片		白色軽石粒を少量含む。良好。褐色。	浅い沈線を八字形に施文する。無文部は磨き。	
15	深鉢	胴部片		石灰を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の低い隆帯を2条巡らす。	

20区23号住居土器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
16	磨鉢	刃部のみ	32 36.5 14.5 25.9	砂岩	
17	打差	完	118 84 18 110.7	細粒輝石安山岩	
18	門石	完	125 110 48 991.1	粗粒輝石安山岩	破き痕か

20区24号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴部1/3 器定口径34.5		砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	原体Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、大きく蛇行する沈線と磨り消し文を施文する。胴部には八字形の沈線を施文する。口唇部の縄文は方向変えて施文している。	
2	深鉢	口縁～胴部1/3 口径38.0		小塵、砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	口縁部に断面半円の隆帯で、渦巻き状文を含む楕円形の文様を区画する。区画内には原体Rの単節斜縄文を完成する。胴部は原体Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文と2条の沈線を垂下する。	
3	深鉢	口縁～胴部1/2 器定口径37.8 残存高26.0		小塵、砂粒を少量含む。普通。暗灰黄褐色。	キャリバー形の器形。口縁部には断面三角の隆帯で楕円形および円形の文様を区画する。区画内には原体Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯にそった沈線と磨り消し文を施文する。胴部は原体Rの単節斜縄文を施文した後、磨り消し文と沈線を垂下する。	
4	台付鉢	台部片 底径6.0		砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	径約2cmの透かし穴を3か所に空ける。	
5	浅鉢か	胴部片		砂粒を少量含む。普通。浅黄褐色。	隆帯を附けて大柄な渦巻き文を露出した後、磨鉢状工具による条痕文と原体Rの単節斜縄文を施文する。	
6	深鉢	胴部片		小塵を含む砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	原体Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線文と磨り消し文を施文する。	
7	深鉢	口縁部片		黒炭等を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を附けて口縁部に文様帯を区画する。区画内には原体不明の縄文を施文する。胴部には八字形の沈線を垂下させる。	
8	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	原体Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、口唇部に1条の沈線を巡らす。胴部には2条1単位の沈線を八字形に施文する。内面に胎土工具による磨きが施される。	
9	深鉢	胴部片		黒炭等を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	原体Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線とU字形の区画をなし、区画外は磨り消し。	
10	深鉢	胴部1/3		砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	磨鉢状工具による沈線を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させるとともに、蛇行する沈線を垂下させる。	
11	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	原体Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、2条1単位の沈線を八字形に施文する。	
12	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	原体Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、断面三角の隆帯と磨り消し文を垂下させる。	
13	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で区画し、区画外は磨り消し。	
14	深鉢	底部片		小塵を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	原体Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
15	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	低い弧状口縁を呈する。断面半円の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体Rの単節斜縄文を施文する。	
16	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	浅い沈線で文様を露出する。	
17	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。普通。暗褐色。	断面半円の隆帯を附けて区画をなした後、沈線を横位に施文し、隆帯に沿って磨り消し。	
18	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	弧状口縁を呈する。波頂部から2条の隆帯を垂下させ、帯は磨り消し。口縁に沿って沈線を1条巡らし、その下位には磨鉢状工具による割突文を施文する。	
19	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。普通。浅黄色。	弧状口縁を呈するものと思われる。口縁に沿って沈線を巡らし、その下位には沈線を弧状に施文する。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	部種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	彫形・文様の特徴等	時期・備考
20	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	縁部が靴手状を呈する沈線を施文する。	
21	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	断面半円の隆帯を貼付して渦巻状の文様と区画をなした後、浅く緩やかに彎曲する沈線を斜位に施文する。	
22	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	浅い沈線を2条垂下させた後、棒状工具による沈線を縦斜位に施文する。	

20区24号住居土器計測表

番号	部種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
23	石鉢	基部欠	171	54	45	6.11	緑泥片岩	
24	石皿	基部、先端部欠	18	17.5	4.5	1.2	黒曜石	
25	スタレイバー	完	19	20.5	4	1.1	黒曜石	
26	石製品	完	65	60	33	21.9	軽石	一部に磨り面

20区25号住居土器観察表

番号	部種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	彫形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		石英をわずかに含む。普通。褐色。	施文の口縁部の下に沈線を1条巡らし、原体Rの単筋斜縄文を縦位に施文する。	
2	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	沈線で八字状の区画をなし、区画内には原体Rの単筋斜縄文を縦位に施文する。	
3	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	幅広い隆帯を弧状に施文した後、原体Rの単筋斜縄文を縦位に施文する。	
4	深鉢	胴部片		黒雲母、石英をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の隆帯で三角形の区画をなし、区画内には原体Rの単筋斜縄文を施文する。	
5	鉢形土器	胴部片		石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の隆帯を1条巡らし、そこから径2mmほどの孔をあけた突起が付く。	
6	深鉢	胴部片		白色軽石粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原体Rの単筋斜縄文を縦位に施文した後、横位の沈線を施文する。	
7	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体Rの単筋斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させ、さらに靴手状の沈線を施す。	
8	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯を貼付した後、原体Rの単筋斜縄文を縦位に施文し、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
9	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	棒状工具による沈線を縦位に施文した後、棒状工具による沈線を施文する。	
10	深鉢	胴部片		金雲母、石英を多く含む。普通。赤褐色。	棒状工具による沈線を斜方向に乱雑に施文する。	
11	深鉢	胴部片		金雲母をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯で渦巻状の文様を描出した後、棒状工具による短沈線、および刺突文を施文する。	
12	深鉢	口縁突起		石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。普通。黄褐色。	外面に短沈線を横位、縦位に施文し、肩部と基部に渦巻状の沈線を施文する。	
13	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	細い沈線を斜位に施文した後、平砥竹管状工具による平行沈線を弧状に施文する。	
14	深鉢	胴部片		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。灰褐色。	筋みを付した隆帯を貼付した後、原体Rの単筋斜縄文の押捺文と亀甲状の沈線を施文する。	
15	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。灰褐色。	断面台形の隆帯の上に刺突文を施し、隆帯に沿って沈線を施文する。	
16	釣手土器	釣手部		砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	脱落している部分が多いが、残存部には断面半円の隆帯とそれに沿った沈線が描出される。	

20区25号住居土器計測表

番号	部種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
17	打芥	基部欠	124	54	17	56.3	細粒輝石安山岩	
18	打芥	完	149	65	25	294.7	細粒輝石安山岩	
19	打芥	基部破片	60	44	11	36.4	細粒輝石安山岩	

第2節 遺物観察表

20区30号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁→胴部 指定口径23.0 残存高24.0		砂粒を多く含む。普通。暗赤褐色。	口縁を僅かに欠く。口唇部に流状の沈線を1条廻らす。胴部には断面半円の隆帯をU字状に連続させ、頂部に傘手状文を付す。地文は棒状工具によるやや湾曲する沈線を施す。	
2	深鉢	口縁→胴部1/2 指定口径16.3		石英、黒雲母を少量含む。普通。暗赤褐色。	口縁部に高巻き状文を含む楕円形の区画をなす。区画内と胴部には原形土及の単筋斜織文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下す。	
3	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	浅い沈線を横位に廻らし、彎曲状工具による沈線を縦位に施す。沈線の上位と内面に赤色遊影の痕跡あり。	
4	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	彎曲状工具による沈線を縦位に施す。内外面ともに赤色遊影の痕跡あり。3と同一個体と思われる。	

20区34号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁→胴上半 口径22.5		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	胴部に2条の隆帯を貼付して、そこから2条1単位の隆帯を垂下させて胴部を7単位に区画する。胴部の隆帯との交点には輪積み目の突起を付す。垂下する隆帯は左右に分かれ渦巻文を描出し、これらをつなぐように胴先に隆帯を貼付する。これらの後、口縁には沈線を縦位に施した後、胴部には沈線を縦位に施した後、横位の沈線を施す。最先状文の中には沈線を縦位に施す。	
2	深鉢	口縁→胴上半 口径19.1		細砂粒を少量含む。良好。褐色。	口縁には瘤状の突起が5単位付く。隆帯で楕円形の文様帯を区画し、区画内には原形土及の単筋斜織文を縦位に施す。胴部は原形土及の単筋斜織文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させるとともに、弧状の沈線を施す。	
3	深鉢	底部	底径8.8	小粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原形土及の単筋斜織文を縦位に施した後、沈線を2条垂下させる。	
4	深鉢	口縁部1/2 指定口径29.0		小粒を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	口縁部に沈線で楕円の文様帯を区画し、区画内には原形土及の単筋斜織文を口縁付近は横位に、その下位は縦位に施す。胴部は沈線と磨り消し文を施す。	
5	深鉢	口縁→胴部1/3 指定口径34.0 残存高27.6		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の低い隆帯で口縁部に円形、あるいは楕円形の文様帯を区画する。区画内は原形土及の単筋斜織文を充ちし隆帯に沿って磨り消す。胴部は原形土及の単筋斜織文を縦位に施した後、縦位に磨り消し、内面は磨る。	
6	深鉢	口縁→胴上半 口径15.7 残存高12.6		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	口唇部には棒状工具による削突文が5条。胴部に断面台形の隆帯を廻らした後、U字形の隆帯と1条の隆帯を3単位垂下させる。その後、棒状工具による沈線を縦位に施す。	
7	浅鉢か	口縁→底部 指定口径13.5 底高8.6 底径11.5		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁は流状口縁、なしいは突起が付すものと思われる。原形土及の単筋斜織文を縦位に施した後、口唇部に半輪竹管状工具による平行沈線を施す。	
8	深鉢	口縁部1/2 口径37.9		砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	無文の口縁部。口唇部は内折する。胴部に断面台形の隆帯を1条廻らす。	
9	深鉢	胴部1/4 指定最大径42.0		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	2条1単位の隆帯を貼付して渦巻文を描出し、その内部には放射状に沈線を施す。その後、3条1単位の隆帯と2条1単位の隆帯を貼付し、浅い沈線を胴部には縦位に、胴部には横位に施す。文字状の隆帯が割差しているものと思われる。	
10	深鉢	口縁部 口径22.8 底径6.4 器高29.7		砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	縦いキャリバー形の器形。口縁部には断面三角の隆帯で楕円の文様帯を区画する。隆帯の頂部は渦巻状。区画内には沈線で文様を描出す。胴部は庄直を付した隆帯を1条垂下させるとともに、上部が傘手状をなす蛇行する隆帯を垂下させる。その後、縦やかに彎曲する短沈線を縦位に施す。	
11	浅鉢	口縁→底部1/5 底径8.2		石英、黒雲母を含む細砂粒をわずかに含む。良好。赤褐色。	原形土及の縦い帯文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文で文様を描出す。内面は丁寧な磨きを施す。	
12	深鉢	口縁→底部 指定口径23.2 底径5.8 器高27.7		石英をやや多く含む。金雲母を少量含む。普通。赤褐色。	口縁の横位の突起は2単位と思われる。無文の口唇部に沿って円形の削突文が連続する。そこから2条1単位の隆帯を垂下させた後、やや彎曲する短沈線を縦位に施す。その後隆帯に沿った沈線と磨り消す。	
13	深鉢	口縁→胴上半 口径39.0 残存高31.7		金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	無文の口縁部の下位に隆帯を2条廻らせ、それをつなぐように縦位の隆帯を貼付する。隆帯の間に浅い棒状工具による沈線を横位の楕円状に施す。胴部は3条1単位の隆帯による縦帯文を貼付した後、半輪竹管状工具による平行沈線を縦位に施す。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
14	深鉢	口縁～底部		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁は楕円形を呈する。大突起と小突起が2単位ずつ付き、口縁に沿って棒状工具による刻みと陰帯を施文する。大突起からは刺突文を施した陰帯と断面三角の陰帯を垂下させ、小突起からは刺突文を施した陰帯のみを垂下させる。口縁部には2条1単位の陰帯によって變形のモチーフを露出し、この区画内は無文にする。胴部は刺突文の施された陰帯を垂下させた後、棒状工具による短比線を縦斜状に施文する。	
15	浅鉢	胴部片		白色軽石粒、φ2～5mmの小礫を含む。良好。暗赤褐色。	浅鉢の屈曲部。上位は沈線で文様を区画し、区画内には原形R1の単節斜縄文を充填する。下位は無文。赤色塗彩の痕跡あり。	
16	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	原形L1Rの単節斜縄文を横位あるいは縦位に施文した後、沈線で煎手状の態態文を露出する。	
17	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	断面台形の幅広で低い陰帯で渦巻き文を施文し、その陰帯上に沈線を施文する。陰帯の間には原形R1の単節斜縄文を充填し、陰帯に沿って沈線で磨り削す。	
18	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	口縁は内側に折り返し、口縁上部に渦巻き文を作り、ここから2条の陰帯を垂下させる。	
19	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。やや不貞。にぶい褐色。	無文の口縁の下位に沈線で区画をなすと思われる。区画内は浅い沈線を縦位に充填する。	
20	深鉢	口縁部片		金雲母、石英を少量含む。良好。明赤褐色。	口唇部はわずかに外反する。沈線を斜位に施文する。	
21	深鉢	口縁～胴部1/5 推定口径17.0		砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	断面平円の陰帯で口縁部に区画をなす。区画内は円形の刺突文を充填する。胴部は陰帯で円字形の区画をなすとともに沈線で煎手状文を露出する。区画内には口縁と同様、円形の刺突文を充填。	
22	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。やや不貞。にぶい赤褐色。	断面平円の陰帯で口縁部に区画をなす。区画内は原形R1の単節斜縄文を充填する。	
23	深鉢	胴部片		石英をやや多く含む。普通。褐色。	2条の陰帯を垂下させるとともに渦巻き文を露出した後、斜沈線を施文する。	
24	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面平円の陰帯で文様を露出した後、沈線を縦位に施文する。その後、陰帯に沿って比線を施文する。	
25	深鉢	胴部1/2		砂粒をやや多く含む。やや不貞。暗赤褐色。	断面三角の陰帯で口縁部に文様を区画し、区画内はホerringによる垂直文を充填する。	

20区34号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(m)	②幅(m)	③厚さ(m)	④重量(g)	石材	備考
26	石灘	扇形欠	20	13	3	0.6	黒曜石	
27	石灘	完	14.5	12	3	0.3	黒曜石	
28	石灘	先端部欠	18	15.5	4	0.7	黒曜石	
29	スケレバー	完	78	104	35	348.4	輝粒輝石安山岩	
30	石撈	基部欠か	282	162	130	7400		

20区35号住居土器計測表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部～底部 口径12.0 残存高27.0		軽石粒、砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	原形L1Rの単節斜縄文を施文した後、3条1単位の陰帯を垂下させ、その間に細く繞行する沈線を垂下させる。	
2	深鉢	口縁～胴部		砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	4単位の並立口縁を呈するものと思われる。口唇部には背割り状の沈線を持つ陰帯を貼付する。胴部は原形L1の単節斜縄文を縦位に施文する。	
3	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	断面三角の陰帯を貼付した後、原形R1の単節斜縄文を横位に施文し、陰帯に沿って沈線を施文する。	
4	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	陰帯で變形の口縁部文様等を区画し、区画内には沈線を斜位に施文する。陰帯が縦断している。	
5	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	波状口縁。断面三角の陰帯で口縁部文様等を区画し、区画内には比線を縦斜状に施文する。	
6	深鉢	底部片		石英を含む砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	2条1線の陰帯を垂下させた後、沈線を縦斜状に施文する。	
7	深鉢	底部片		金雲母をわずかに含む。良好。暗赤褐色。	無文で、丁寧な磨きを施す。	

第2節 遺物観察表

20K36号住居石器計測表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・地色・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴上半～底部 底径6.5		砂粒をやや多く含む。 普通。にぶい赤褐色。	浅い沈線で渦巻状の文様を施した後、3条の沈線を垂下させる。地文には浅い沈線による縞模様。	
2	深鉢	胴部 1/3		小礫を含む砂粒をやや 多く含む。良好。褐色。	蛇行する隆帯、S字状の隆帯を貼付した後、彎曲する沈線を交互の斜位に 施し、隆帯に沿って沈線を施す。	
3	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。 普通。褐色。	縦位の沈線を施した後、沈線を巡らす。	
4	深鉢	胴部片		石英、金雲母を少量含 む。良好。黒褐色。	浅い沈線を縞模様状に施す。上位には割れたとと思われる隆帯の痕跡あり。	

20K36号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考			
5	四石	完	129	90	50	767	粗粒輝石安山岩	

20K37号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・地色・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴上半～底部 底径7.0 残存高20.4		白色灰物粒を含む細砂 粒をやや多く含む。良 好。にぶい褐色。	縦やかに彎曲する沈線を数回貼付した後に、2条1単位の沈線を垂下 させ、縞模様状の沈線を施す。	
2	深鉢	胴部 1/4		細砂粒を少量含む。良 好。にぶい赤褐色。	原形R Lの単筋斜縄文を縦位に施した後、刻みを付した横状の突起を持つ 隆帯を弧状に貼付し、その隆帯に沿って半軌竹管状工具による平行沈線を施 す。	
3	浅鉢	口縁～底部 2/3 口径21.0 底径8.0 器高12.4		砂粒を少量含む。普 通。にぶい褐色。	原文の口縁部、胴部に原形R Lの単筋斜縄文を縦位に施した後、口縁部下 位に沈線を1条巡らす。口縁部と沈線間に赤色塗彩の痕跡。	
4	深鉢	胴部片		石英、金雲母を含む細 砂粒を少量含む。良 好。褐色。	断面半円の隆帯を垂下させた後、沈線を縞模様状に施し、蛇行する沈線、U 字状の沈線を施す。その後、隆帯に沿って沈線を施す。	
5	深鉢	胴部片		金雲母を含む細砂粒を 少量含む。良好。黒褐 色。	2条1単位の隆帯で腕骨文を施した後、沈線を縞模様状に施し、隆帯に沿 って沈線を施す。	
6	深鉢	口縁突起		細砂粒をわずかに含 む。良好。暗褐色。	円錐状の口縁突起。横状把手に沈線を施し、内面から孔をあける。 丁寧な磨きを施す。	
7	深鉢	胴部片		白色軽石粒を少量含 む。良好。黒褐色。	刻みを付した断面台形の隆帯で三角形の文様を区画し、区画内には三叉文を 施す。その後、隆帯に沿って沈線を施す。	
8	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普 通。にぶい黄褐色。	沈線を渦巻状、弧状、斜位に施す。	

20K37号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考			
9	磨斧	基部片	29	47	21	44.3	粘板岩	
10	打斧	完	124	47	23	182	粗粒輝石安山岩	
11	多孔石	完	220	255	116	8600	粗粒輝石安山岩	

20K38号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・地色・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部 1/5		赤色灰物粒を含む砂粒 を少量含む。良好。に ぶい褐色。	口縁部は原文。胴部に断面台形の隆帯を1条巡らす。原形R Lの単筋斜縄文 を縦位に施した後、沈線をU字状に施す。	
2	深鉢	胴部～底部 底径7.4		石英を少量含む。良 好。明赤褐色。	底部から直線的に開く。原形R Lの単筋斜縄文を縦位に施した後、2条1 本の沈線を垂下させるとともに、蛇行する隆帯を貼付する。	
3	深鉢	口縁部 1/3 確定口径27.0		小礫を含む砂粒を少量 含む。良好。明赤褐 色。	隆帯で口縁部に楕円形の文様帯を区画し、区画内には原形R Lの単筋斜縄文 を横位に施した後、区画に沿って沈線を施す。胴部は原形R Lの単筋斜縄 文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
4	深鉢	胴部 1/2		黒雲母をわずかに含 む。良好。にぶい黄褐 色。	原形R Lの単筋斜縄文を縦位に施した後、口縁部には楕円形の文様帯を区画 し、胴部にはU字状の沈線と垂下する沈線を施す。	
5	両耳壺	胴部 1/3		砂粒を少量含む。良 好。にぶい赤褐色。	背割り状に沈線を施した大きな横状把手が付く。胴部には沈線による渦巻 き状の文様を施す。	
6	深鉢	口縁部 1/3 確定口径16.0		細砂粒を少量含む。良 好。灰褐色。	原形R Lの単筋斜縄文を縦位に施した後、口縁部には沈線で楕円形の文様帯 を区画し、胴部にはU字状の沈線と磨り消し文を垂下させる。口縁部文様帯 の周には円形の圧重文。	
7	深鉢	胴上半～底部 底径6.0		小礫をやや多く含む。 良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯で4単位の大きなU字状の区画をなし、その区画内をさらに 4単位の区画する。区画内と区画間には縞状工具による斜沈線を充満する。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
8	深鉢か	把手か		石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	粘土線を貼り合わせたような模状把手に円形の把手が付いているものと思われる。内面をゆるい面に平行沈線を施文する。	
9	台付鉢	台部片		細砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	器面が見れるが、器体不明の縄文を施文しているものと思われる。端部は角流状を呈し、造かし穴を持つ。	
10	鉢形土器	口縁部1/4		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	やや内彎する口縁は無文。断面半円の高い隆帯で円形及び長方形の文様帯を区画し、区画内には内形の刺突文を施す。胴部は原形Rの器余文を縦位に施文する。	
11	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原形R Lの単筋斜縄文を、口縁部には横位に、胴部には縦位に施文した後、口縁部は沈線で楕円形の文様帯を区画する。胴部は沈線を八字状に施文する。	
12	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	流状口縁の波頂部付近。隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内には原形不明の縄文を施文する。	
13	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	隆帯と刺突文を画らした後、原形L Rの単筋斜縄文を縦位に施文する。	
14	深鉢	口縁部片		細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	角流状の口唇部から原形L Rの単筋斜縄文を横位に施文した後、一部に腰流状工具による条痕文を施文する。	
15	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	原形L Rの単筋斜縄文を方向を変えて流状に施文した後、細径の沈線で文様を届出する。	
16	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	原形L Rの単筋斜縄文を、口縁部には横位に、胴部には縦位に施文した後、口縁部は沈線で楕円形の文様帯を区画する。	
17	深鉢	胴部片		金雲母、石英をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯を渦巻状に貼付した後、原形L Rの単筋斜縄文を縦位に施文する。	
18	浅鉢	口縁部片		細砂粒をわずかに含む。良好。黒褐色。	口縁は屈曲して外反する。断面台形の隆帯を弧状に貼付する。口唇部内面と隆帯上に赤色塗彩の痕跡あり。	
19	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	口唇部上には沈線が1条走る。口縁部には隆帯で文様帯が区画され、区画内には斜沈線を施文した後、沈線で磨り消す。胴部も斜沈線を施文した後、沈線で文様を届出する。	
20	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	断面半円の隆帯を八字状に貼付した後、沈線を縦位に施文し、隆帯に沿った沈線を施す。	
21	深鉢	胴部片		金雲母を少量含む。良好。褐色。	隆帯を貼付して渦巻状の文様を届出した後、棒状工具による沈線を施文する。	
22	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。浅黄褐色。	浅い沈線で横線文を施した後、沈線を垂下させる。内面は滑潤。	
23	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	隆帯を垂下させた後、横やかに屈曲する沈線を施文する。	
24	深鉢	口縁突起		白色鉱物粉を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	流状口縁の波頂部から隆帯をS字状に貼付した後、長状工具による刺突文を施す。	
25	鉢形土器	口縁部片		細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	鐔状の隆帯にφ3mm程の孔を穿つ。内外面とも赤色塗彩の痕跡がある。	

20区38号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考			
26	石皿	完	19	13.5	3	0.4	黒曜石	
27	石皿	完	14	12.5	3	0.4	黒曜石	
28	打斧	完	113	34	15	59.9	黒色安山岩	
29	多孔石	完	184	200	124	566.5	楕形輝石安山岩	
30	打斧	完	118	50	33	145.1	黒色頁岩	
31	磨斧	刃部欠	138	56	25	266	実質玄武岩	
32	磨斧	基部欠	93	64	22	204.7	テイスサイト	
33	凹石	完	122	82	54	694.9	楕形輝石安山岩	
34	凹石	完	133	73	37	437.6	楕形輝石安山岩	
35	凹石	一部欠	114.1	63.2	33	355.7	楕形輝石安山岩	
36	磨石	完	170	156	128	4820	石英閃緑岩	
37	石皿	一部欠	176	212	92	4910	楕形輝石安山岩	

第2節 遺物観察表

20区41号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部1/4 底定口径34.0		砂粒をやや多く含む。 良好。にぶい褐色。	口縁部は厚体Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、浅い沈線によって文様帯を区画する。胴部は同じ厚体Lを縦位に施文した後、半字形及び蛇行する沈線と磨り消し文を施文する。	
2	深鉢	口縁部片		石灰を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	楕圓状の把手が伸びると思われる。隆帯と沈線で渦巻きの文様を描出し、厚体Lの単筋斜縄文を施文する。	
3	深鉢	口縁から胴下平 口径17.5		石灰を含む細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	4単位の波状口縁で、正面と裏面の波頂部には円環状の突起が付す。それぞれの波頂部には、隆帯を貼付した後、背割り状に沈線と磨り消し文を施文する。そこから口縁によって前面三角の隆帯を貼付する。胴部は磨きを施した後、磨削状工具による整形の痕跡。内面には炭化物が付着する。	
4	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。黄褐色。	厚体Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を重下させる。	
5	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	厚体Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を施文する。	
6	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	厚体Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、弧状の沈線と垂子状の沈線を施文する。その上には横位の沈線と円形の刺突文を施す。	
7	深鉢	口縁部片		石灰、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	隆帯を貼付して渦巻きの文様を描出すとともに、楕圓形の区画をなし、区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
8	深鉢	口縁部片		石灰、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	彎曲する沈線と縦位の沈線で文様を描出す。	
9	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	前面三角の隆帯を弧状に貼付した後、弧状の沈線と円形の刺突文を施文し、その間に彎曲する沈線を施文する。	
10	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	2条の隆帯を重下させた後、そこから延びる2条の沈線を施文し、縦位の沈線を施文する。	
11	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。明褐色。	3条の隆帯による縦骨文を重下させる。	
12	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	横位の圧縮隆帯文の下位には彎曲する沈線を施文する。	
13	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	2条の隆帯による縦骨文を重下させる。	
14	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	細い沈線を弧状に施文した後、斜に蛇行する沈線と斜位の短沈線を施文する。	
15	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	2条の沈線を重下させた後、やや彎曲する沈線を縦位に施文する。	

20区41号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
16	石皿	先端部欠	22	16.5	4	1	凝灰岩	
17	四石	一部欠	133	92	48	716.3	粗粒輝石安山岩	
18	石棒	基部・先端部欠	191.5	84	70.5	1812.1	緑色片岩	
19	多孔石	完	172.5	216	89.5	4401.7	石英閃緑岩	
20	多孔石	一部欠	402	242	185	13110	粗粒輝石安山岩	
21	多孔石	完	193	248	123	6390	粗粒輝石安山岩	

20区42号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部1/3 底定口径30.6		黒雲母を少量含む。良好。暗赤褐色。	4単位の波状口縁か。横位の沈線と断面台形の低い隆帯で口縁部文様帯を区画する。区画内には厚体Lの単筋斜縄文を充填し、隆帯に沿って磨り消す。胴部は同じ厚体Lを縦位に施文した後、磨り消し、沈線を重下させる。磨り消しの間には蛇行する沈線を重下させていると思われる。	
2	深鉢	口縁部1/3 底定口径20.4		白色粒石粒をやや多く含む。普通。褐色。	円環状の突起と半円の区画が口縁部に交互に8単位配される。突起と突起は断面半円の隆帯で連続される。半円の区画内には棒状工具による沈線で横位の線状文が充填される。胴部は厚体Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、3条1単位の沈線と蛇行する沈線を交互に重下させる。	
3	深鉢	胴部1/4		4〜5mmの小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	厚体Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、沈線を重下させる。沈線の間には磨り消し。これが8単位施文されると思われる。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態 計測値	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴等	時期・備考
4	深鉢	口縁～胴上半1/3 鑑定口径16.7	砂粒を少量含む。やや不良。にぶい褐色。	縦やかな4単位の波状口縁。断面半円の隆帯で半楕円形の口縁部文様帯を区画する。区画の端部は隆帯による渦巻文。区画内は沈線と斜位に施文する。胴部は沈線で横砂文を施文した後、2条1単位の沈線を垂下させる。	
5	深鉢	胴部片	金雲母、石英を少量含む。良好。褐色。	原形R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、2条1単位の沈線を弧状に施文する。	
6	深鉢	胴部片	金雲母をやや多く含む。良好。赤褐色。	棒状工具による沈線で横砂文を施文する。2条1単位の隆帯でU字状の区画をなし、区画内には同様の隆帯による渦巻文を施文し、ここから隆帯を垂下させる。	
7	鉢形土器	口縁部1/4 鑑定口径33.5	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	無文の口縁はやや円弧する。断面半円の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原形R Lの単節斜縄文を充填する。胴部には櫛歯状工具による条状文を施す。	
8	鉢形土器	口縁部1/4 鑑定口径19.0	砂粒をやや多く含む。良好。灰黄褐色。	無文の口縁は直立気味に立ち上がる。胴部には浅い沈線で文様を描出する。池し穴は6単位分。	
9	鉢形土器	胴下半部1/3	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	沈線で渦巻状の文様を描出し、そこに円形の刺突文を充填する。	
10	浅鉢	胴部2/3 最大径39.8 残存高17.5	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。黒炭多い。	胴上半で屈曲する。胴上半には断面台形の隆帯で渦巻文と楕円形の区画が成される。区画内には原形R Lの単節斜縄文を充填し、隆帯に沿った沈線で磨り消す。胴下半は無文だが、ていねいな磨き。	
11	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。黒褐色。	口唇部は内側にわずかに肥厚する。原形R Lの単節斜縄文を横位に施文する。	
12	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。灰褐色。	原形R Lの単節斜縄文を横位に施文した後、2条の沈線を垂下させる。	
13	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	口唇部が内側に肥厚する。原形R Lの単節斜縄文を横位に施文した後、2条の沈線を垂下させる。	
14	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	原形R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、U字状の沈線を垂下させる。	
15	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をわずかに含む。良好。暗赤褐色。	原形R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、2条1単位の隆帯で文様を描出する。その後、隆帯に沿って沈線を施す。	
16	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯で口縁部に文様を区画した後、原形R Lの単節斜縄文を縦位に施文し、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
17	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部文様帯の中に原形R Lの単節斜縄文を横位に施文する。	
18	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面三角の隆帯で文様を区画し、区画内には原形R Lの単節斜縄文を横位に施文する。その後隆帯に沿って磨り消し。	
19	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	原形R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
20	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原形R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
21	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	原形R Lの単節斜縄文を横位に施文した後、沈線で文様を描出する。	
22	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	原形R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で文様を描出する。内面に灰化物付着。	
23	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	原形R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を1条画らす。	
24	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	原形R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、弧状の沈線と蛇行する沈線を施文する。	
25	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	原形R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、櫛歯状工具による条状文を施文し、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
26	深鉢	胴部片	白色鉱物粒を含む砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	浅い隆帯を貼付して文様を描出した後、原形R Lの単節斜縄文を縦位に施文する。その後、隆帯に沿って磨り消し。	
27	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。褐色。	隆帯で口縁部に楕円の文様帯を区画し、区画内には縦位の短沈線を充填する。文様帯の下位は無文。	
28	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部に1条の隆帯を画らし、その下位に2条の隆帯による横位の縦帯文を施文する。その間には沈線を斜位に施文する。縦帯文の下位には原形不明の縄文を施文する。	
29	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	断面半円の隆帯で口縁部に文様帯を区画し、区画内には沈線を斜位に施文する。その後、隆帯に沿って沈線を施す。	

第2節 遺物観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
30	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯を2条貼付して、口縁部に文様帯を区画する。区画内には縦位の沈線を充填する。隆帯の下位には櫛歯状工具による渦巻文を施文する。	
31	深鉢	口縁部片		石英、金雲母をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	2条1単位の隆帯を巡らし、その下位には隆帯を貼付して剣先文に似たモチーフを描出する。巡らした隆帯を剣先文に沿って剣先文を施す。その後沈線で楕円状の文様を描出する。	
32	深鉢	口縁部片		白色軽石を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	断面半円の隆帯で口縁部に文様帯を区画し、区画内には沈線を縦位に施文する。	
33	深鉢	口縁部片		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	流状口縁を呈するものと思われる。口唇部内側に断面三角の隆帯を貼付する。外面は隆帯を2条巡らし、その上位に剣先文を施文する。	
34	深鉢	口縁部片		白色軽石粒をやや多く含む。良好。褐色。	口唇部は内折する。無文の口唇部の下位に隆帯を2条巡らし、それに沿って剣先文を施文する。	
35	深鉢	口縁部片		白色軽石粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	やや彎曲する口縁。棒状工具による沈線を縦位、あるいは斜位に施文する。口唇部は内側に肥厚する。	
36	深鉢	口縁部片		白色軽石粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	やや彎曲する口縁。棒状工具による沈線を縦位、あるいは斜位に施文する。口唇部は内側に肥厚し、上端が平になる。	
37	深鉢	口縁部片 測定口径18.9		白色軽石粒をやや多く含む。良好。褐色。	口唇部は内折し屈曲する口縁。外面は棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
38	深鉢	口縁部片		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口唇部の内外面に断面三角の隆帯を貼付する。その下位に沈線を横位に施文する。	
39	深鉢	口縁部片		金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口唇部は内折する。口縁部に沈線で楕円の文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
40	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口唇部に沈線を1条巡らせ、その下位に沈線を縦位に施文した後、弧状の沈線を施文する。	
41	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は内折する。2条の隆帯で楕円形の文様帯を区画し、区画内には沈線を横位の線状に施文する。隆帯の下位には弧状の沈線を施文する。	
42	深鉢	口縁部片		石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	流状口縁を呈するか、突起が付するものと思われる。断面半円の隆帯を巡らした後、沈線および原形不明の縦文を施文する。	
43	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	隆帯による渦巻文を貼付した後、口縁部に3条の沈線を巡らせ、匙状工具による線状文を横位に施文する。	
44	深鉢	口縁部片		石英を含む砂粒を少量含む。良好。紫帯赤褐色。	流状口縁の波頂部と思われる。沈線文を斜位に施文した後、半隆帯で渦巻状の文様を描出する。	
45	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。紫帯赤褐色。	流状口縁の波頂部と思われる。断面三角の隆帯で渦巻状文を描出し、そこから沈線を1条高らす。	
46	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	2条1単位の隆帯で楕円形の文様帯を区画し、区画内には沈線を斜位に施文する。区画の下位には沈線による線状文を施文する。	
47	浅鉢	口縁部片		金雲母を含む細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は内側に肥厚を持ち、外面はごくわずかに肥厚する。内外面とも磨きを施す。	
48	深鉢	口縁部片		細砂粒をわずかに含む。良好。明赤褐色。	無文の口縁部。やや内折する。内外面とも丁寧な磨きを施す。	
49	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	流状口縁の波頂部。沈線で渦巻状文を施し、口縁部に文様帯を区画する。区画内には原形不良の半円斜線文を横位に施文する。区画の下位は無文。	
50	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	隆帯で剣先状の文様を描出した後、棒状工具による浅い沈線を施文する。	
51	深鉢	胴部片		黒雲母をわずかに含む細砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	断面半円の隆帯を貼付して弧状の文様を描出した後、棒状工具による沈線を施文し、隆帯に沿って磨り出す。	
52	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を貼付して楕円形の文様帯を区画し、区画内には彎曲する沈線を施文する。区画する横位の沈線には棒状工具による刻みを付す。隆帯の下位は無文。	
53	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	横位の2条の沈線の下位に、匙状工具による沈線を線状に施文する。	
54	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	棒状工具による浅い沈線を線状に施文する。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	彫刻・文様の特徴等	時期・備考
55	深鉢	胴部片		石灰、金雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	隆帯を重下させた後、棒状工具による沈線を縦状に施文する。	
56	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	棒状工具による沈線を縦状に施文する。	
57	深鉢	胴部片		石灰、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	沈線を横位に施文した後、その間をつなぐように縦位の沈線を施文する。	
58	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	棒状工具による縦沈線を斜位に施文し、その間に横位の沈線を施す。	
59	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。内面は黒色。	無文で丁寧な磨きを施す。外面に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
60	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	浅い沈線が1条ある。内外面とも丁寧な磨きを施す。	
61	鉢形土器	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	屈曲部には隆帯を貼付し、楕円形あるいは「の」字状の文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を施文する。その後磨り消し。	
62	深鉢か	把手		白色軽石粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	太い横状の把手。背割り状にS字状の沈線が施される。	
63	深鉢	口縁突起		白色軽石粒をやや多く含む。普通。明褐色。	内状の突起。沈線と隆帯で高色き状の文様を突出する。中央にφ2cmほどの透かし穴を持つ。内面は口唇部に沿って隆帯を貼付する。	
64	深鉢	胴部片		石灰を含む砂粒を少量含む。良好。明褐色。	隆帯を弧状に貼付した後、弧状の沈線、三叉文を施文する。	横町か
65	深鉢	胴部片		石灰、金雲母を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	平隆帯縁で楕円形の文様を区画し、区画内には円形の刺突文を充填する。	横町か
66	深鉢	口縁部片		石灰、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	内外に肥厚する口唇部の下位には原形LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	
67	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	原形LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、弧状の沈線と磨り消し文を施す。	
68	深鉢	胴部片		砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	原形LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯を管帯貼付し、磨り消し文を施す。	
69	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の低い隆帯と磨り消し文を重下させる。	
70	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。褐色。	原形LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯を管帯貼付し、磨り消し文を重下させる。	
71	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	原形LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行隆帯と磨り消し文を施す。	
72	浅鉢	口縁部片		細砂粒をわずかに含む。良好。黒色。	口唇部下位に段を持つ。内外面とも赤色塗彩の痕跡が認められる。口唇部上縁は特に良好に残る。	彩色土器
73	浅鉢	胴部片		白色軽石粒をわずかに含む。良好。黒褐色。	内面に赤色塗彩の痕跡が認められる。	彩色土器
74	浅鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面台形の隆帯を弧状に貼付する。隆帯の上面に赤色塗彩の痕跡があり、隆帯の側は黒色塗彩か。内面も赤色塗彩の痕跡が認められる。	彩色土器
75	深鉢か	把手		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	環状の突起。内外面とも赤色塗彩の痕跡が良好に残る。	

20区42号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(m)②幅(m)③高さ(m)④重量(g)	石材	備考
76	石皿	完	28 20 7	2.7	柱状安山岩
77	石皿	完	23 17 3	0.9	黒曜石
78	石皿	完	18.5 15 3.5	0.7	黒曜石
79	石皿	完	13 15 4	0.7	黒曜石
80	石皿	先端部欠	23 18 5	1.6	地質頁岩
81	石皿	完	17 15 3	0.6	黒曜石
82	石皿	先端部欠	19 17 6	1.1	黒曜石
83	石皿	基部欠	20 14 3	0.7	黒曜石
84	石皿	完	18 12 3	0.4	黒曜石

第2節 遺物観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
85	石籠	基部欠	18.5 14.5	4	流紋岩
86	石籠	基部欠	13 14.5	4.5	黒曜石
87	石籠	先端部欠	22 18	5	1.5 黒曜石
88	石籠	先端部欠	18 18	4	0.7 黒曜石
89	石籠	先端部欠	14 13	5	0.6 黒曜石
90	石籠	完	18 11	4	0.6 黒曜石
91	ドリル	先端部欠	24 11	4	0.8 黒曜石
92	石籠	先端部欠	23 17	5	1.4 黒曜石
93	打斧	完	111.5 54	21	138.6 粗粒輝石安山岩
94	打斧	完	107 50	17	104.9 粗粒輝石安山岩
95	打斧	基部欠	109.5 52.5	29.5	182.3 粗粒輝石安山岩
96	磨斧	ほぼ完	73 54	24	158.8 黒色安山岩
97	磨斧	完小	80 41	22	160.5 輝緑岩
98	磨斧	完	45 15	5	6.9 鉄玉
99	磨斧	基部・先端部欠	124 62.5	39.5	504.6 輝緑岩
100	撚動	完	53 35	22	67.8 ヒスイ
101	石棒	先端部欠	180 105	109	3070 デイヤイト
102	磨石	完	45 42.5	32.5	68.1 粗粒輝石安山岩
103	磨石	完	115 59	37	361.7 粗粒輝石安山岩
104	石製品	完	102.5 71	65.5	94.1 輝石
105	石製品	完	75 51	32	32.9 輝石
106	凹石	完	117 84	44	566.9 粗粒輝石安山岩
107	凹石	完	113 67	47	472 粗粒輝石安山岩
108	多孔石	完	296 229	113	7900 粗粒輝石安山岩
109	石籠	1/2	201 230	97	3296 粗粒輝石安山岩
110	多孔石	完	292 296	80	10680 粗粒輝石安山岩
111	磨石	完	201 175	61.5	3209.7 粗粒輝石安山岩
112	磨石	完	178 209	51.5	2742.4 粗粒輝石安山岩
113	打斧	基部欠	114 40	14	63.2 実質安山岩

20区43号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴上半2/3 磨定口径32.8 残存高22.9		砂粒をやや多く含む。 良好。にぶい褐色。	渦巻状の突起が付く2条の隆帯で、口縁部に縞形の文様帯を区画する。区画内には短沈線を描状に施文する。胴部は無文で、胴部は厚体Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、沈線で短先文と渦巻文を提出する。	
2	深鉢	口縁～胴上半1/3		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	3条1単位の隆帯を胎付して渦巻文を提出する。隆帯によって区画された口縁部には沈線と棒状工具による連続斜縄文を施文する。胴部は批状工具による沈線を横位の縦線状に施文する。	
3	深鉢	口縁部1/4 磨定口径37.0		砂粒をやや多く含む。 良好。にぶい褐色。	隆帯を胎付して口縁部に長楕円形の文様帯を区画する。区画の端部には渦巻文。区画内には棒状工具による沈線を横位の縦線状に施文する。胴部は厚体Lの単筋斜縄文を縦位に施文する。	
4	深鉢	口縁～胴上半1/4 磨定口径22.2		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯を胎付して、渦巻文を含む文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。胴部は厚体Lの無筋斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線と十字形の沈線を垂下させる。	
5	深鉢	底部、胴部一部欠 口径29.3 磨高36.2 底径9.8		砂粒、小礫を少量含む。良好。明赤褐色。	口縁は無文で外反し、口唇部は内側に厚厚する。胴部には2条の沈線を巡らし、突起を付す。胴部は厚体Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯を垂下させる。	
6	台付鉢	複合部破片 磨定接合部径7.0		砂粒をやや多く含む。 普通。褐色。	台部は胎り付け。透かし穴を持つが単位は不明。蛇行する沈線の縦線がわずかに認められる。	
7	深鉢	底部 磨定底径6.5		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	細棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
8	深鉢	底部欠 口径17.1 残存高18.4		砂粒をやや多く含む。 良好。明赤褐色。	円形の刺突を付した断面台形の隆帯を4単位、垂下させた後、厚体Lの単筋斜縄文を縦位に施文し、滑り消し。その後、批状工具による沈線を2条1単位で4単位垂下させる。口縁にも批状工具による沈線と円形の刺突文を巡らす。	
9	深鉢	口縁～胴下半		白色底物粒、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。 普通。にぶい赤褐色。	垂下する隆帯と楕円形のモチーフを持つ2条1単位の隆帯を胎付した後、横位の沈線を施文し、その間をつなぐように縦位の沈線を施文する。	
10	浅鉢か	胴部1/4		砂粒をやや多く含む。 良好。にぶい赤褐色。	内外面とも丁寧な磨きを施す。表面の1か所に縄文の圧痕文。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
11	深鉢	口縁～胴部		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口縁に4単位の小突起が付す。原体LRの単筋斜縄文を縦位に施文した後、2条1単位の沈線と3条1単位の沈線を交互に垂下させる。	
12	浅鉢	胴下部1/3		石英、金雲母を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	内外面とも丁寧な磨きを施す。内面に赤色塗彩による文様の痕跡が認められる。	
13	深鉢	口縁～胴下半1/3		白色泥物粒を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	原体Rの単筋斜縄文を縦位に施文する。横状把手と思われる接合部痕が認められる。	
14	浅鉢	口縁部1/3 測定口径37.4		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口縁は外折する。内外面とも丁寧な磨きが施され、外面に赤色塗彩の痕跡がわずかに認められる。	
15	釣手土器	釣手部		金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	側面には沈線で渦巻文、楕円形のモチーフを演出する。背面には背割り状に経過しを作り出し、6単位の経過し孔が付くものと思われる。	
16	深鉢	口縁部片		石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	断面三角の隆帯を貼付した後、沈線で文様を描出し、隆帯には修状工具による刻みを付す。	
17	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	同心円状の沈線、三叉文、円形の刺突文を施文する。	
18	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を弧状に貼付した後、沈線で文様を描出すとともに、隆帯に沿って刺突文を施文する。	
19	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。褐色。	平截竹管状工具による平行沈線を縦位に施文する。つまみだしたような小突起が口縁に付く。	
20	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。灰褐色。	断面円形の隆帯を垂下させた後、沈線で文様を描出す。	
21	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	隆帯を貼付して円環状の突起を作り出した後、ごく浅い沈線で文様を描出す。	
22	深鉢	胴部片		細砂粒をわずかに含む。良好。灰褐色。	胴部の隆帯から弧状に隆帯を貼付した後、渦巻状の沈線を施文する。胴部の隆帯には交互刺突文を施文する。	
23	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を貼付して、円字形の区画をなし、区画内には彎曲する浅い沈線を縦位に施文する。その後隆帯に沿って沈線を施す。	
24	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	浅状口縁を呈するものと思われる。口縁に沿って交互刺突文を施文する。	
25	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	深い平行沈線を縦位に施文する。	
26	深鉢	胴部片		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	平行沈線を縦位、横位に施文した後、横位の平行沈線に沿って沈線を施文する。	
27	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体Lの熟赤文を縦位に施文した後、横位の平行沈線を施文し、熟赤文の上に縦位と横位の沈線を施文する。	
28	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	原体Lの熟赤文を縦位に施文した後、沈線で文様を描出す。	
29	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	原体LRの単筋斜縄文を縦位に施文した後、垂下する平行沈線と弧状の平行沈線を施文する。	
30	釣手土器	把手		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	側面、外面とも隆帯を貼付して文様を描出す。	
31	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒を多く含む。普通。にぶい褐色。	原体LRの単筋斜縄文を縦位に施文する。	
32	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	隆帯を垂下させた後、原体Rの単筋斜縄文を乱雑に施文した後、細い沈線を垂下させる。	
33	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	原体Rの単筋斜縄文を乱雑に施文した後、太い隆帯に沈線を引いて3条の隆帯を描出す。縄文の上には沈線で文様を描出す。	
34	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	太い隆帯を貼付して、その上に沈線を施文することで2条の隆帯を描出す。その後、原体Rの単筋斜縄文を縦位に施文し、沈線を2条垂下させる。	
35	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	刻みを付した隆帯を巡らした後、原体Rの熟赤文を縦位に施文する。	

第2節 遺物観察表

番号	部種	残存状態	計測値	胎土・施色・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
36	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原形RⅠの早期斜縄文を縦位に施した後、隆帯を貼付して楕円形の区画をなす。その後隆帯に沿って沈線を施す。	
37	深鉢	口縁部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	隆帯を貼付して渦巻き文とともに文様帯を区画し、区画内には原形RⅠの早期斜縄文を縦位に施文する。内外面とも赤色塗彩の痕跡が認められる。	
38	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	断面平円の隆帯で区画をなし、区画内には原形RⅠの早期斜縄文を縦位に施文する。	
39	深鉢	口縁部片		小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
40	深鉢	口縁突起		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	管割り状の沈線をはじめ、沈線で文様を描出し、頂部にも沈線で渦巻き文を描出する。胴部は原形LⅡの早期斜縄文を縦位に施文する。	
41	深鉢	口縁部片		白色珪物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	断面平円の隆帯を貼付して扇形の区画をなし、区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。その後隆帯に沿って沈線を施す。	
42	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	原形LⅡの早期斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。縄文の上には扇状の沈線を施文する。	
43	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原形RⅠの早期斜縄文を縦位に施文した後、扇状の沈線を垂下させる。	
44	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	原形不明の縄文を乱雑に施文した後、3条1単位の沈線と大きく蛇行する沈線を垂下させる。	
45	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	原形LⅡの早期斜縄文を縦位に施文した後、沈線で磨り消し文の文様を描出した後、蛇行する沈線を施文する。	
46	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	3条1単位の隆帯を貼付して腕背文を垂下させる。胴部には隆帯が2条走る。胴部は原形LⅡの早期斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	
47	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口唇部上面に沈線が1条走る。胴部には沈線を弧状に施文する。	
48	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	浅い沈線を通らせ、その下にU字形の沈線を施文する。	
49	深鉢	口縁部片		白色珪物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	平行沈線を斜位に施文する。	
50	深鉢	口縁部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	口唇部は内折する。隆帯を縦位に貼付した後、横位の隆帯を貼付する。	
51	深鉢	口縁部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	50と同様。同一器体の可能性が高い。	
52	深鉢	胴部片		石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	隆帯を貼付して縦目文を描出する。	
53	深鉢	胴部片		石英を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	隆帯を貼付して縦目文を描出すとともに、渦巻き状の突起をなす。縦目文の上下には半載竹管状工具による刺突文を施す。	
54	深鉢	胴部片		石英を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	隆帯を貼付して縦目文を描出すとともに、楕円形の区画をなし、区画内には半載竹管状工具による刺突文を施文する。その下位には縦位の沈線を施文する。	
55	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	胴部には隆帯を斜位に貼付する。胴部は原形RⅠの早期斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する隆帯を貼付するとともに沈線で文様を描出する。	
56	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	渦巻き状の隆帯から2条の隆帯を垂下させた後、匙状工具による沈線を垂下させる。	
57	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	2条の隆帯を垂下させた後、匙状工具による沈線を垂下させる。56と同一器体と思われる。	
58	浅鉢	口縁部片		白色珪物粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部に隆帯を1条通らせ、その上に棒状工具による刺突文を施す。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成色調	彫形・文様の特徴等	時期・備考
59	浅鉢	口縁部片		石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁は内折する。外面は丁寧な磨きを施す。	
60	深鉢	口縁部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	棒状工具による沈線が斜位に施文した後、口縁に沿って浅い沈線を1条施らす。	
61	深鉢	口縁部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	陰帯を附付して彫形の区画をなし、区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。胴部も斜沈線を施文した後、陰帯に沿って沈線を施す。	
62	深鉢	胴部片		石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	陰帯を附付して胸骨文を垂下させた後、棒状工具による沈線を横線状に施文する。その後、陰帯に沿って沈線を施す。	
63	深鉢	胴部片		石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	沈線でU字形の区画をなし、区画の内外には縦線の沈線を施文する。	
64	深鉢	口縁部片		石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁の内外面に陰帯を附付する。その下位には交互刺突文とキョウチビウを縦位に施文する。	
65	深鉢	胴部片		白色鉱物粒を含む細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	陰帯を1条施した後、棒状工具による沈線を縦線状に施し、その後、沈線を1条施らす。	
66	深鉢	胴部片		石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	2条の陰帯による胸骨文を垂下させた後、塗状工具による沈線を横線状に施文する。	
67	深鉢	胴部片		石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	2条の陰帯による胸骨文を垂下させた後、棒状工具による沈線を横線状に施文する。	
68	深鉢	胴部片		石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面台形の低い陰帯を胴部に施す。その下位には沈線を垂下させる。沈線の間に交互に刻みを付す。陰帯の上位も斜位の沈線の間に刻みを付す。	
69	有孔罍付土器	口縁部片		石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口縁はやや外湾する。φ5mmの孔がやや下方に向けて空けられる。	
70	鉢形土器	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。褐色。	口唇部下位に陰帯と沈線を施す。その下位には原形R.Lの単筋斜線文を施文する。沈線の内部と口唇部内部に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
71	有孔罍付土器	胴部破片		白色鉱物粒を含む細砂粒を少量含む。普通。褐色。	罍は薄く、肩部は角頭状を呈する。罍の上位は無文。下位は原形R.Lの単筋斜線文を横位に施文する。罍部と孔内部に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
72	有孔罍付土器	胴部・胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原形R.Lの単筋斜線文を横位に施文した後、沈線で文様を区画する。罍部と胴部の一部に赤色塗彩の痕跡が認められる。孔の径は約3mm。	
73	浅鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。褐色。	口唇部は角頭状を呈する。断面台形の陰帯で文様を演出する。	
74	浅鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	断面台形の上位には沈線で文様を演出する。沈線内に赤色塗彩の痕跡がわずかに認められる。	
75	浅鉢	口縁部片		細砂粒をわずかに含む。良好。灰褐色。	口唇部は外側に肥厚する。内外面とも丁寧な磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
76	浅鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。褐色に黒斑。	口縁は外反し、角頭状を呈する。内外面とも丁寧な磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
77	浅鉢	口縁部1/2		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	口縁は角頭状を呈する。内外面とも丁寧な磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が良好に残る。	

2043号住居石罍計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
78	石罍	完	17	10	3	0.3	黒曜石	
79	石罍	ほぼ完	22.5	14	5	1	黒曜石	
80	石罍	完	30.5	19	7	2.1	玉髄	
81	打拵	基部欠	116	57	18	119.5	粗粒輝石安山岩	
82	スクレイパー	完	84	69	20	111.8	粗粒輝石安山岩	
83	凹石	完	79	71	47	280.6	粗粒輝石安山岩	
84	石製品	完	91.5	80	59	142.4	輝石	
85	石皿	1/3	184	281	80	4604.7	粗粒輝石安山岩	

第2節 遺物観察表

20区44号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	台付鉢	複合部片		砂粒を少量含む。良好。褐色。	外面に縦方向の溝で、底部の底部が極めて薄い。	
2	深鉢	口縁部片		砂粒を僅かに含む。普通。にぶい黄褐色。	原体R Lの単筋斜縄文を方向を変えて施文する。磨り消し文を並下させる。	
3	深鉢	口縁部片		φ2~5mmの小礫を含む。普通。灰黄褐色。	波状口縁と思われる。原体L Rの単筋斜縄文を方向を変えて施文し、口唇部に沿って円形の刺突文を施す。	
4	深鉢	口縁部片		砂粒を僅かに含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁は内彎する。原体R Lの単筋斜縄文を方向を変えて施文し、口縁に沿った沈線と割部の沈線で磨り消す。	
5	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	やや内彎する口縁。口唇部下には崩れた交互刺突文を施す。割部は原体R Lの単筋斜縄文を縦位に施文後、沈線を施文する。	
6	深鉢	口縁部片		黒雲母、石英を少量含む。良好。灰オリーブ色。	波状口縁と思われる。口縁と割部を断面三角の隆帯で区画し、割部は原体L Rの単筋斜縄文を方向を変えて施文した後、沈線と磨り消しで白字文を露出する。	
7	深鉢	胴部片		黒雲母、石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体L Rの単筋斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線でハ字状の文様を露出する。	
8	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。やや不良。にぶい黄色。	原体R Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線で三角の文様を露出。	
9	深鉢	胴部片		黒雲母、石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体R Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線で弧状の文様を露出。	
10	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	原体L Rの単筋斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線で縦位の区画。	
11	深鉢	胴部片		黒雲母を少量含む。良好。明赤褐色。	原体R Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線で弧状の文様を露出。	
12	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。普通。赤褐色。	原体R Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、断面三角の隆帯を2条垂下。隆帯に沿って磨り消し。	
13	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	外面はていねいな磨き。断面三角の低い隆帯を垂下。隆帯の右側に赤色塗彩の痕跡あり。	
14	深鉢	胴部片		黒雲母、石英を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	原体L Rの単筋斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。断面三角の低い隆帯を垂下。	
15	深鉢	胴部片		赤色顔料砂粒を含む。普通。黄褐色。	原体R Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、断面三角の隆帯を2条垂下。隆帯に沿って磨り消し。	
16	深鉢	胴部片		砂粒をわずかに含む。やや不良。にぶい黄褐色。	断面三角の低い隆帯を2条垂下。	
17	深鉢	胴部片		砂粒をわずかに含む。やや不良。灰色。	原体不明の単筋斜縄文を施文した後、磨り消し。横い比較で縦位の区画。	
18	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	原体L R—Lの反巻の縄文を縦位に施文する。	
19	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	原体L R—Lの反巻の縄文を縦位に施文する。18と同一個体か。	
20	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。黄褐色。	無文の口縁。口唇部上面に爪形の刺突文を施す。外面は縦方向の溝で、内面は横方向の溝で。	
21	浅鉢	口縁部片		石英をわずかに含む。普通。明黄褐色。	無文の口縁。口唇部は内側に丸く肥厚する。	
22	浅鉢小	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は角張った形状を呈する。内外面とも磨き。口縁部下位に沈線が1条走る。	
23	鉢形土器	胴部片		砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	断面三角の隆帯を1条走り、断面台形の隆帯で弧状の文様を露出する。	
24	浅鉢	胴部片		石英を僅かに含む。砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	断面円形の隆帯で文様を区画していると思われる。区画内には細い沈線を充填し、隆帯に沿った沈線で磨り消し。	
25	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。普通。明黄褐色。	棒状工具による沈線で捺捺文を露出する。	
26	有孔筒付土器	筒部破片		黒雲母、石英を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	孔の直径は約4mm。内外面ともていねいな磨き。	
27	浅鉢	口縁部片		白色顔料砂粒を少量含む。普通。灰色。	無文の口縁。口唇部には沈線が1条走り、その下位には横やかな線を付す。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	粘土・焼成・色調	形状・文様の特徴等	時期・備考
28	深鉢	胴部片		φ2~5mmの小礫を含む。普通。にぶい褐色。	上位に円形の刺突文が順に並ぶ。原形Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、沈線が弧状の文様を抽出する。	
29	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	原形Lの単筋斜縄文を横位に施文した後、磨り消し。沈線でU字あるいは八字状の文様を抽出する。	
30	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。暗オリーブ色。	原形Lの単筋斜縄文を横位に施文した後、磨り消し。沈線で文様を抽出する。29と同一個体か。	
31	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	沈線を垂下。あるいは弧状の文様を抽出する。	
32	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。灰オリーブ色。	圧痕を持つ隆帯で文様を抽出する。	

20区44号住居土器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
33	ドリル	完	35	16	5	2.7	凝結輝石安山岩	
34	打棒	完	110	45	15	79.6	地質管	
35	打棒	完	109	60	27	177.1	凝結輝石安山岩	
36	スタレイバー	完	124	83	34	435.5	凝結輝石安山岩	
37	四石	完	77	53	29	173.2	安山岩	

20区48号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	粘土・焼成・色調	形状・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。普通。灰黄色。	口唇部はやや丸みを持ち、内側に肥厚する。断面台形の幅広の隆帯で横円形と思われる口縁部文様帯を区画し、区画内には原形Lの単筋斜縄文を横位に充填する。その後、隆帯に沿った浅い沈線で磨り消す。	
2	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原形Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線を垂下させる。一部の沈線の端部は傘手状になる。	
3	深鉢	口縁部片		砂粒を含み、φ2~5mmの小礫を含む。普通。褐色。	低い隆帯で口縁部文様帯を区画するものと思われる。区画内には原形Lの太い単筋斜縄文を充填し、隆帯に沿って磨り消す。区画間の隆帯上には円形の押圧文と縄文を施す。胴部には原形Lの単筋斜縄文を縦位に施文後、沈線を垂下。沈線端部は傘手状。	
4	深鉢	口縁部突起		砂粒をわずかに含む。良好。灰オリーブ色。	口縁に付く円環状の突起。突起上面には沈線文φ13mm、深さ21mmの孔を施す。突起基部には沈線を1条並らす。区画内には原形Lの単筋斜縄文を方向を変えて施文した後、山形の沈線で磨り消し。上段には沈線に沿って刺突文を施す。	
5	深鉢	胴部片		無骨母を少量含む。良好。にぶい褐色。	幅広の隆帯で文様を区画する。区画内には原形Lの単筋斜縄文を斜位に施文した後、隆帯に沿った沈線で磨り消す。	
6	深鉢	口縁部片		砂粒、小礫を少量含む。普通。明黄褐色。	幅広の隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内には原形Lの単筋斜縄文を充填する。その後、隆帯に沿って磨り消し。胴部には原形Lの単筋斜縄文を縦位に施文後、磨り消し。	
7	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	棒状工具による短沈線で、複線文を抽出する。	
8	台付鉢	複合部		砂粒を少量含む。普通。褐色。	4単位の高さの六つを持つと思われる。台部には八字状の文様を垂下。	
9	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	水っ溜りと思われる工具による細い複線文を地文とする。	

20区48号住居土器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
10	石鏝	基部欠	26	18.5	3.5	1	黒曜石	
11	石製品	完	64	48	34	18.8	緑石	

20区49号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	粘土・焼成・色調	形状・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	浅状口縁を呈する。断面三角の隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内には原形Lの単筋斜縄文を充填する。その後、隆帯に沿って磨り消し。	
2	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	浅状口縁を呈する。口唇部は内側に大きく肥厚する。低い隆帯を背割り状にして文様を抽出する。	
3	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。普通。褐色。	原形Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線を垂下させる。地文の上には能行する沈線を垂下させる。	
4	深鉢	口縁部片		石灰、骨母を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	断面平円の隆帯で文様を抽出し、隆帯の一部に沿って刺突文を施す。隆帯の間には隆帯に沿った沈線と波状の沈線で文様を抽出する。	
5	深鉢	口縁部突起		砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	隆帯で渦巻き状の突起をなす。裾みを付した隆帯を垂下させ、沈線で横位の傘手状の文様を抽出する。	
6	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	断面平円の隆帯で文様を区画し、区画内には棒状工具による沈線を充填する。その後、隆帯に沿った沈線で磨り消す。	

第2節 遺物観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
7	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	浅い沈線で、横移文を施す。	

20区49号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(m)②幅(m)③厚さ(m)④重量(g)	石材	備考			
8	ドリル	完	19.5	9.5	4	0.6	黒曜石	
9	四石	完	242	128	120	5400	粗粒輝石安山岩	

20区50号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原形Rの単筋斜縄文を縦位に施した後、沈線で磨り消し。	
2	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	幅の広い隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内に原形Lの単筋斜縄文を縦位に施した後、隆帯に沿った沈線で磨り消し。隆帯の交点に直径15mmの円形文。	
3	深鉢	口縁部片		砂粒をわずかに含む精製された粘土。良好。にぶい黄褐色。	波状口縁を呈すると思われる。原形Lの単筋斜縄文を方向を変えて施した後、沈線で渦巻き状の文様を擦り出す。口唇部には赤褐色の痕跡。	
4	深鉢	胴部片		石英を少量含む。良好。褐色。	原形Lの単筋斜縄文を縦位に施した後、沈線で磨り消し。磨子状の沈線を垂下させる。	
5	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。褐色。	原形Lの単筋斜縄文を縦位に施した後、磨り消し文を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	原形Lの単筋斜縄文を縦位に施した後、つまみ出した断面三角の隆帯に沿って磨り消し文を垂下させる。	
7	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。やや不良。にぶい黄褐色。	原形Lの単筋斜縄文を縦位に施した後、磨り消し文を垂下し、それに沿って沈線を2条垂下させる。	
8	深鉢	胴部片		黒雲母をわずかに含む。良好。黒褐色。	原形Lの単筋斜縄文を縦位に施した後、入念な磨り消し。沈線を磨り消し部に沿って施す。	
9	深鉢	口縁部片		砂粒をわずかに含む。良好。褐色。	波状口縁を呈すると思われる。幅広の隆帯と沈線で口縁部文様帯を区画するものと思われる。	
10	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	断面半円の隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内には斜沈線を充填する。隆帯に沿って磨り消し。	
11	深鉢	胴部片		砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の低い隆帯をつまみ出した後、丁寧な磨り消し。	
12	深鉢	胴部片		石英をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	低い隆帯で上下に区画され、上段には沈線文を垂下させ、下段には縦位と横位の沈線文を施す。	
13	深鉢	口縁部把手		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	波状口縁頂部に付く楕形の把手。背割り状に幅広の沈線が施される。原形Lの単筋斜縄文を縦位に施した後、磨り消し文を垂下させる。	
14	深鉢	口縁部把手		4.3～4mmの砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口縁部に付く2段の楕形把手。	

20区50号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(m)②幅(m)③厚さ(m)④重量(g)	石材	備考			
15	ドリル	完	22.5	15.5	4.5	0.9	チャート	
16	石砲	完	15	23	7.5	1.7	玉髄	
17	四石	一部欠	123	85	52	737.4	安山安山岩	

20区51号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部1/3 溝定口縁19.7 残存高10.4		砂粒と少量の石英を含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は削みを持つ。無文の口縁部の下に隆帯で横切りの文様を区画し、区画内には半隆起線の連続文。施文は沈線を垂下させる。	
2	深鉢	胴部1/4 溝定径13.2		雲母、石英を少量含む。普通。赤褐色。	施文には原形Lの単筋斜縄文を方向を変えて施す。半軌竹管状工具による平行沈線で方形の文様を擦り出す。	内面に灰化付着。
3	合付鉢	合部1/2 溝定径15.0		砂粒をわずかに含む。良好。黄褐色。	胴部は削面して筒き、角筒状を呈する。内面には強い隆帯を持つ。胴部には刺突文と平行沈線を巡らす。また、平行沈線で方形の区画をなし、区画に沿って刺突文を施す。区画内には三叉文。	
4	深鉢	口縁部片		雲母、石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁はやや内彎し、口唇部内側に断面三角の隆帯を貼付する。外面は半隆起線による平行、及び同心円状の文様を擦り出す。内面内面には刺突文。	
5	深鉢	胴部片		軽石粒を少量含む。良好。灰オリーブ色。	幅広の低い隆帯で区画をなし、区画内には沈線を垂下し、あるいは渦巻き状の文様を擦り出す。隆帯の一部には刺突文を施す。	
6	深鉢	胴部片		石英を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で横切りの文様を区画した後、半隆起線で文様を擦り出す。半隆起線の上に刺突文を施し、その間には三叉文を入れる。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
7	深鉢	口縁～胴下半	口径46.4 推定底径15.0 器高79.3(突起を除く)	石英を含む磁砂粒を少量含む。良好。にぶい棕色。	平口縁で総状突起を持つ。口縁部は環状突起を持つ隆帯で横位に区画される。区画内は無文。環状突起の部にはびく状の突起が付く。胴部は3段に区画される。上位は横位の隆帯と刻みの付く垂下する隆帯で方形に区画され、区画内は半隆起線による渦巻文と垂下する沈線を充填する。中段は区画内に垂下する沈線と蛇行する沈線を充填する。下段は無文。上段と中段の間にびく状の突起が付く。	
8	深鉢	口縁部片		黒雲母を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	外反する口縁部は無文。口唇部は内側にやや肥厚する。胴部には沈線を巡らし、胴部には原形R Lの単筋斜縄文を縦位に施文する。	
9	浅鉢	胴部片		金雲母、石英をやや多く含む。良好。黄灰色。	浅鉢の屈曲部。胴部には原形L Rの単筋斜縄文を横位に施文する。屈曲部には平敷竹管状工具による刺突文を施し、その上位には沈線文が施される。	
10	深鉢	口縁部片		砂粒をわずかに含む。良好。明赤褐色。	角底状の口縁で、内側にわずかに肥厚する。口唇部直下に交互刺突文と沈線を交互に巡らし、胴部には原形不明の縄文を施文する。	
11	深鉢	胴部片		黒雲母を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	筒状工具による刻みの付いた隆帯を垂下し、一部は環状をなす。隆帯の間は半隆起線による文様を充填する。	
12	深鉢	胴部片		石英をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯で文様を区画し、区画内には棒状工具による沈線で文様を指示する。	
13	深鉢	胴部片		砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	浅い沈線で渦巻状の文様を施す。	
14	深鉢	口縁部突起		金雲母をやや多く含む。良好。明褐色。	口縁に付く環状の突起と思われる。環状の部分の一部には類似縄文を施文する。周りには深い沈線文を施す。	
15	浅鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	角底状の口縁で内側に肥厚する。口唇部外面には低い隆帯を巡らし、この隆帯の一部が環状にさがる。内外面ともよく磨かれ、両面とも赤色塗彩が施される。	
16	浅鉢	口縁～底部1/3	推定口径40.8 推定高21.2	砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	胴上位で屈曲し、内湾した後口縁は外反する。口唇部は角底状を呈する。内外面とも無文で、丁寧な磨きが施され、内外面とも赤色塗彩の痕跡が残る。	

20[E5]号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(m)	②幅(m)	③厚さ(m)	④重量(g)	石材	備考
17	石皿	完	14.5	12.5	4	0.4	玉髓	
18	ドリル	完	30	11.5	7	1.9	黒曜石	
19	ステレィパー	完	81	81	23	163	細粒輝石安山岩	
20	石皿	1/3	217	225	68	2600	細粒輝石安山岩	裏面凹み穴

30[E5]号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴上半	口径26.4	砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	無文の口唇部の下位に断面三角の隆帯で横S字状文を連続する。地文は原形1の無筋斜縄文を縦位に施文する。沈線と帯り消し文を垂下。	
2	深鉢	口縁～胴上半1/3		白色軽石粒をやや多く含む。良好。にぶい棕色。	口縁部に隆帯で輪形部の文様帯を区画し、区画内には棒状工具による刺突文を充填する。口唇部から隆帯をS字状に肥厚し、その後、沈線による環状文を施文する。	
3	深鉢	口縁～胴上半1/3		砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口縁部に隆帯を2条巡らし、その間を輪形部に区画する。区画内には沈線を斜位に施文した後、横位に2条の沈線を施す。平行する隆帯をつなぐように縦起状の突起を肥厚する。口縁部からS字状に隆帯を肥厚し、そこから隆帯を1条垂下させる。また蛇行する隆帯も肥厚させ、隆帯施文後に沈線を斜位に施文する。	
4	深鉢	胴部1/3		白色軽石粒を少量含む。良好。浅黄褐色。	断面平円の隆帯を横位の縦帯文に肥厚し、輪形の文様帯を区画する。区画内、および隆帯の間には刺突文と縦位の沈線を施文する。	
5	深鉢	口縁～胴下半		石英、金雲母を少量含む。良好。明赤褐色。	口唇部は内外にびくす。原形L Rの単筋斜縄文を縦位に施文した後、2条1組の沈線を垂下させる。	
6	深鉢	口縁～胴部1/5	推定口径12.0	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口唇部は内側にわずかに肥厚する。帯りが縦起状の原形L Rの単筋斜縄文を縦位に施文する。	
7	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原形R Lの単筋斜縄文を縦位に施文した後、棒状工具による沈線を施文する。	
8	深鉢	胴部片		石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を縦位に肥厚し、原形R Lの単筋斜縄文を縦位に施文する。隆帯と縄文の前後は不明。	
9	深鉢	口縁部片		石英、黒雲母をわずかに含む。良好。明赤褐色。	断面平円の隆帯を肥厚し、輪形の文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文し、その後口唇部に沿った沈線を施す。	
10	深鉢	口縁部片		白色軽石粒を含む砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	口唇部は内側に、口唇部から断面平円の隆帯を肥厚し、輪形の文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
11	深鉢	口縁部片		砂粒を多く含む。普通。褐色。	浅鉢口縁と思われる。口唇部下位に沈線を1条巡らし、その下位に沈線で渦巻状の文様を指示する。	

第2節 遺物観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
12	深鉢	口縁部片		黒雲母を含む砂粒をわずかに含む。良好。明赤褐色。	強く屈曲し外反する口縁。屈曲部から半截竹管状工具による平行沈線を縦位に施文する。	
13	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	浅状口縁か。無文の口縁部の下位に沈線を斜位に施文し、口縁部に沿って沈線を施す。	
14	深鉢	胴部片		白色炭化物を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	高い隆帯を渦巻状に貼付し、交互斜突文を縦位に高らすとともに、沈線を縦位、横位に施文する。	
15	浅鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。普通。暗褐色。	口唇部外面に隆帯を貼付して肥厚させる。無文で磨きの痕跡が残る。	
16	深鉢	胴部片		白色軽石粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面半円の隆帯で渦巻状の文様を抽出するとともに、隆帯を垂下させる。その後、浅い沈線を横状に施文する。	
17	深鉢	胴部片		石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	沈線による腕背文を垂下させた後、沈線による横状文を施文する。	
18	深鉢	胴部片		砂粒をわずかに含む。良好。褐色。	隆帯を2条貼付した後、棒状工具による沈線を斜位に施文し、隆帯に沿った沈線で磨り消す。	
19	浅鉢か	胴部片		白色軽石粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面三角の隆帯で文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を充填する。その後、隆帯に沿って沈線を施す。	
20	深鉢	胴部片		白色軽石粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面半円の隆帯による斜突文を貼付する。その後、横位の沈線を2条高らし、縦位に沈線を施文する。	
21	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	台付鉢の複合部か。垂下する沈線と斜位の沈線を施文する。	
22	深鉢	胴部片		金雲母をやや多く含む。良好。黒褐色。	断面三角の隆帯を垂下させた後、沈線と斜突文を弧状に施文する。その後、沈線を斜位に施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
23	深鉢	胴部片		石英をわずかに含む。良好。暗赤褐色。	文様の構成は22に近似するが、斜突文が小さく、胎土が異なる。	
24	深鉢	胴部片か		白色軽石粒を少量含む。良好。暗褐色。	沈線を同心円状に施文し、屈曲部には棒状工具による斜突文を高らす。	
25	深鉢	胴部片		金雲母をやや多く含む。良好。黒褐色。	断面三角の隆帯を八字状に貼付し、それに沿って円形の斜突文を施文する。	
26	深鉢	胴部片		砂粒をわずかに含む。良好。明赤褐色。	断面半円の隆帯で山形の区画をなし、区画内を垂下する隆帯でさらに区画する。区画内には棒状工具による沈線で横状文を施文する。	
27	深鉢	胴部片		金雲母、石英をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	隆帯で文様帯を区画し、区画内に交互斜突文を施す。外面に炭化物が付着する。	

20区53号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
28	スクレイパー	完	17	18	8	2.2	黒曜石	
29	打棒	完	98	40	20	63.3	黒色頁岩	
30	打棒	完	106	46	21	119.1	細粒輝石安山岩	
31	打棒	基部欠	97	45	23	123.7	細粒輝石安山岩	
32	磨石	完	286	253	141	14200	粗粒輝石安山岩	
33	凹石	完	114	74	42	573.9	粗粒輝石安山岩	

20区54号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	胴体R.Lの単節斜線文を縦位に施文した後、棒状工具による沈線で磨り消し。	
2	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	胴体L.Lの単節斜線文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線を2条垂下させる。	
3	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。灰ナリ褐色。	やや内彎する口縁。幅広い隆帯で口縁部文様帯を区画すると思われる。	
4	台付鉢	台部破片		砂粒を少量含む。普通。にぶい黄色。	内外面とも赤色塗彩。	

20区54号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
5	磨石	完	168	265	73	5000	石英閃緑岩	

第1章 発見された遺構と遺物

20区55号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	原形及しの単筋斜縄文を縦位に施文する。	
2	深鉢	胴部片		石英を少量含む。良好。明赤褐色。	断面三角の隆帯で文様を描出した後、棒状工具による斜縄文を施文する。	
3	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	棒状工具による浅い沈線を重ね下させ、縦砂文を施す。	
4	深鉢	胴部片		金雲母、石英を少量含む。普通。淡黄色。	棒状工具による浅い沈線を垂下させ、縦砂文を施す。	
5	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。不具。淡黄色。	断面平円の隆帯を1条廻らし、「の」字状の文様を描出する。隆帯の下位に沿って刺突文を施し、上位には沈線文を施す。	
6	深鉢	底部片		砂粒を少量含む。普通。浅灰色。	器面が寛れるが、低い隆帯が垂下する。底面は網代破か。	

20区55号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考			
7	打棒	基部欠	119	49	19	112.6	表貫安山岩	

20区56号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部一胴下半 底径7.8		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原形及しの熱赤文を縦位に施文した後、断面平円の隆帯を2条廻らす。	
2	深鉢	口縁部1/3 推定口径25.4		砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	口縁部は内彎し、口縁部は内側に彫琢する。断面平円の隆帯で口縁部に文様帯を区画する。内部には高き状の突起を付すとともに、隆帯で弧状、あるいは十字の文様を描出する。一部に熱赤文を施文。	
3	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	原形及しの単筋斜縄文を縦位に施文した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
4	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。赤褐色。	原形及しの単筋斜縄文を縦位に施文した後、半管状工具による平行沈線を2条廻らす。	
5	深鉢	胴下半部 底径8.8 最大径17.2		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	細線状の突起を貼付するとともに、横S字状の隆帯、刻みを付したU字状の隆帯を貼付した後、原形及しの熱赤文を縦位に施文する。	
6	深鉢	口縁一胴下半 推定口径28.0 残存高34.9		石英を少量含む。良好。赤褐色。	4単位の波状口縁を呈する。原形及しの熱赤文を縦位に施文した後、隆帯で口縁部の文様帯及び胴部に文様を描出する。	
7	深鉢	口縁一胴上半 推定口径36.8 残存高32.8		軽石粒、黒雲母を少量含む。普通。暗褐色。	4単位と思われる小さい波状口縁を呈する。波頂部の下に逆丁字形に刺突文が施される。口縁部は原形及しの熱赤文を縦位あるいは斜位に施文した後、隆帯を貼付して文様を描出する。胴部は原形及しの熱赤文を縦位に施文する。	
8	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	原形及しの単筋斜縄文を弧状に施文した後、沈線と磨り削し文を弧状に施文する。	
9	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原形及しの単筋斜縄文を縦位に施文した後、半管状工具による平行沈線で方形の区画をなし、区画内にも平行沈線を垂下させる。	
10	深鉢	胴部片		石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面平円の隆帯を高き状に貼付した後、原形及しの単筋斜縄文を施文し、隆帯に沿って沈線を施文する。	
11	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原形及しの単筋斜縄文を縦位に施文した後、断面平円の隆帯を貼付し、それに沿って沈線、刻みを付した隆帯を施文する。	
12	深鉢	口縁部片		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	原形及しの熱赤文を縦位に施文した後、断面平円の隆帯を貼付して文様を描出する。	
13	深鉢	口縁部片		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	原形及しの熱赤文を斜位に施文した後、断面平円の隆帯を貼付して文様を描出する。12と同一個体と思われる。	
14	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	原形及しの熱赤文を縦位に施文した後、断面台形の隆帯を貼付し、隆帯上に亀状工具による刻みを付す。	
15	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原形及しの熱赤文を縦位に施文した後、2条の隆帯を長楕円に貼付する。隆帯の間に押し引き文を施文する。	
16	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	原形及しの熱赤文を縦位に施文した後、断面平円の隆帯を貼付して文様を描出する。	
17	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	断面平円の隆帯を2条廻らした後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	

第2節 遺物観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
18	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面三角の隆帯を「ハ」字状に貼付した後、半載竹管状工具による平行沈線を施文する。	
19	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口縁部に沈線を1条高らし、その下位に沈線で文様を抽出する。	
20	深鉢	口縁部片		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	外反する口縁で、内面に屈曲の線を持つ。半載竹管状工具による平行沈線を高らした後、棒状工具による沈線で「ハ」字状の文様を抽出する。	
21	浅鉢	口縁部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口唇部は外折する。その下位から原体及の黒赤文を縦位に施文する。	
22	浅鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	口縁部に半載竹管状工具による平行沈線を高らす。屈曲部の頂部に隆帯を1条貼付し、その下位には沈線で文様を抽出する。	
23	深鉢	口縁部片		石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	円環状の突起から2条の隆帯が弧状に貼付され、帯形の文様帯を区画する。区画の内外には棒状工具による沈線を縦位に施文する。その後、隆帯に沿って端部が断片状の沈線を施す。	
24	浅鉢	口縁部片		金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	無文の口縁部に断面台形の隆帯が高る。	
25	浅鉢	口縁部片		石英、黒雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	外反する無文の口縁部。内外面とも磨き。	
26	浅鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口唇部は内折する。外部の突起が剥落しているものと思われる。内外面とも磨き。	
27	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	内側に屈曲する深鉢の口縁部と思われる。突起か沈線口縁の痕跡が看取できる。細い沈線が垂下している他は無文で、外面は磨きが施される。	
28	深鉢か	口縁部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	口唇部は内側に線をもち、外側にわずかに肥厚する。外面は磨き。	
29	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	彎曲状工具による沈線を縦位に施文した後、半載竹管状工具による平行沈線を横位に施文する。	
30	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	彎曲状工具による沈線を縦位に施文した後、半載竹管状工具による平行沈線を横位に施文する。2段と同一個体と思われる。	
31	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	棒状工具による沈線を縦位に施文した後、沈線を横位に施文する。	
32	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	キャタピラ文を施文した後、沈線を施文する。	
33	深鉢	胴部片		石英をやや多く含む。良好。赤褐色。	沈線で方形の区画をなし、区画内には沈線で三叉文状の文様を抽出する。	
34	深鉢	胴部片		石英と黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	沈線を横位に高らした後、縦位に施文し、それぞれの沈線の間に棒状工具による刻みを付す。	
35	深鉢	胴部片		白色軽石粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	沈線を縦位に施文するとともに、横円形のモチーフを基出し、沈線の間には刻みを付す。	
36	浅鉢	口縁部片		細かい金雲母を少量含む。非常に良好。にぶい黄褐色。	口唇部は内折状を呈する。内外面とも丁寧な磨きを施し、赤色塗彩の痕跡が残る。特に外面には黒色き状の塗彩の痕跡が認められる。	
37	深鉢	胴部片		黒雲母、石英を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	縦位の隆帯から放射状に隆帯を貼付し、その下位に隆帯で円形の区画をなす。区画内には円形の刺突文を施文する。	
38	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	平行沈線で楕円形の区画をなし、区画内には半載竹管状工具による交互刺突文で蛇行するモチーフを表現する。区画の外側にはキャタピラ文を施文する。	
39	深鉢	胴部片		黒雲母と石英をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	平行沈線を横位に高らし、互換な交互刺突文を施文する。	
40	浅鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	内外面とも丁寧な磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
41	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	頸部に高らす隆帯とそれに垂下する隆帯を貼付する。隆帯の下位には細沈線を横位に施文する。	
42	浅鉢	胴部片		黒雲母をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	隆帯で同心円状の文様を抽出する。この隆帯の間には赤色塗彩の痕跡が残る。無文の部分及び内面は磨きを施す。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
43	浅鉢	口縁部片		砂粒をわずかに含む。良好。赤褐色。	断面台形の幅広い隆帯を貼付し、その上に交互斜突文を施す。口唇部は内外にわずかに肥厚する。口唇部外面と隆帯上に赤色塗彩の痕跡が認められる。	

20区56号住居土器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考		
44	石皿	完	21.5 13	4.5	0.7	黒曜石	
45	スレイバー	完	103	50	14	75	地質頁岩
46	磨石	完	86	78	34	295.4	粗粒輝石安山岩
47	石钵か	一部欠	403	133	110	10210	粗粒輝石安山岩

20区57号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴下半		白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	口縁にはやや波状を呈する隆帯を1条貼付し、そこからS字状及び蛇行する隆帯を垂下させ、それらをつなぐU字状の隆帯を貼付する。その後、やや彎曲する沈線を横状に施す。口縁の隆帯に沿って棒状工具による刺突文を施す。	
2	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。褐色。	隆帯を貼付した後、原体R Lの早期斜縄文を縦位に施す。隆帯は剥落。	
3	深鉢	口縁部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	外反する無文の口縁部。胴部に断面台形の隆帯を貼付する。	
4	深鉢	口縁部 1/4 標定口径32.5		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	原体L Rの早期斜縄文を縦位に施した後、U字状の沈線と磨り削し文を施す。口縁部に沈線を1条垂下す。	
5	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	断面三角の隆帯を弧状に貼付し、沈線を横状に施す。内面は磨き。	
6	深鉢	胴部片		石英を少量含む。良好。暗赤褐色。	棒状工具による沈線を斜位に施す。	
7	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	断面台形の隆帯を垂下させた後、沈線を横状に施す。	
8	浅鉢	口縁～底部 口径21.2 底径7.0 器高10.5		軽石粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口唇部は外折し、内面にはわずかに肥厚する。胴部は無文。器面がやや荒れるが、磨きを施していたものと思われる。	

20区58号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	原体R Lの早期斜縄文を縦位に施した後、沈線と磨り削し文を垂下させる。	
2	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。黄褐色。	断面平円の隆帯を2条貼付し、その間には寛状工具による沈線を充填する。その後、彎曲する沈線を斜位に施す。	

20区59号住居土器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考		
3	石皿	1/4	194	250	85	2800	粗粒輝石安山岩

20区60号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部 1/4		黒雲母、石英を含む。普通。褐色。	隆帯2条と隆帯3条の腕帯文を交互に垂下させた後、棒状工具による横刺突文を施す。	
2	深鉢	胴部 1/4		砂粒を含む。普通。褐色。	2条の隆帯による腕帯文と浅い沈線を2条垂下させた後、横刺突文を施す。その後、2条の隆帯を横位に貼付する。	
3	浅鉢か	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	内彎する口縁。断面三角の隆帯で文様を区画し、区画内には原体L Lの早期斜縄文を縦位に施す。その後、隆帯に沿って沈線を磨り削す。	
4	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	原体R Lの早期斜縄文を縦位に施した後、沈線で文様を提出する。	
5	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	内彎する口縁。口唇部直下に沈線を1条高らし、これと隆帯によって口縁部文様帯を区画する。区画内には刺突文。	
6	深鉢	口縁部片		砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	口唇部上面に沈線を1条高らし、隆帯で沈線の口縁部文様帯を区画し、区画内には短沈線を充填する。その後、隆帯に沿って沈線を磨り削す。	
7	浅鉢	口縁部片		棒状をわずかに含む。精製された胎土。良好。褐色。	丸くふくらみ胴部から断面直して口縁は外反する。断面部外面には1条の沈線が張り、内面には強い隆帯を持つ。内外面とも赤色、黒色の塗彩がなされ、文様が提出されていたと思われる。	
8	深鉢	胴部片		黒雲母をわずかに含む。良好。明赤褐色。	手載竹管状工具による刺突文を連続させ、波形の文様を横位に施す。それを3段重なる。	

第2節 遺物観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
9	浅鉢	口縁部片		砂粒をわずかに含む。 構築された筋土。良好。にぶい黄褐色。	角筒状の口唇部で、内外面に肥厚する。両面ともよく磨かれ、両面とも赤色塗彩が施される。	
10	蓋形土器	1/5 断面径9.8 高さ2.9		砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	蓋部上位に緩やかな稜を持つ。径2mmの増修孔が穿孔される。内面に赤色塗彩の痕跡。	
11	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯3条による輪背文と沈線による鬚背文を並走させた後、横紗文を充填する。	
12	鉢形土器	胴部片		砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	胴部にはやや強めの稜を持つ。沈線を垂下、あるいは縦状の文様を提出する。内外面とも赤色塗彩。	
13	土偶	体部 残存高4.3 胴幅4.6 最大厚1.9		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	板状を呈する土偶。鹿伏工具による沈線で文様を提出する。瘤状の粘土を貼付して乳房を表現する。右手折損部に径2cmほどの細い穴が認められる。	

20X60号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
14	石鏡	完	16	14	3	0.5	黒曜石	
15	石鏡	完	15.5	15.5	4.5	0.7	黒曜石	
16	石鏡	完	24	15	5.5	1.4	黒色安山岩	
17	石鏡	完	16.5	10	2.5	0.4	黒曜石	
18	石鏡	基部欠	36	15	9.5	3.7	成紋岩	
19	ドリル	先端部欠	58	21	8	12	黒色安山岩	
20	ドリル	完	24	20	6.5	2.2	黒曜石	
21	ドリル	基部欠	23.5	6	4.5	0.5	黒曜石	
22	打斧	基部欠	95	53	25	143.1	細粒輝石安山岩	
23	磨石	完	326.5	290	85.5	10250	粗粒輝石安山岩	
24	石製品	完	39	52.5	19	7.7	緑石	

20X62号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体Rの単筋斜縄文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
2	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	原体Rの単筋斜縄文を方向を変えて羽状に施した後、浅い沈線を施文する。	
3	深鉢	胴部片		石英、小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体Rの単筋斜縄文を横位に施した後、鹿伏工具による沈線と磨り消し文を弧状に施文する。	
4	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	棒状工具による沈線で横紗文を施文する。	
5	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。普通。浅黄褐色。	原体Rの単筋斜縄文を縦位に施した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。内面は黒色。	外面は無文。内面は丁寧な磨きで、縦い稜を持つ。	

20X64号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴下半1/3 断面口径12.2		石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部に角筒状の小突起が付く。無文の口縁部の下位に平行沈線を縦位に施した後、5条1単位を平行沈線を2段返らす。	
2	浅鉢	口縁部片		砂粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は沈線を4条返らした後、半軟竹管状工具による刺突文とペン先状工具による刺突文を交互に返らす。胴部より下位は原体Rの単筋斜縄文を縦位に施文する。	
3	鉢形土器	口縁～胴上半 断面口径36.5 残存高12.7		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	角筒状を呈する原文の口縁部。その下位の胴部には傾けた交互刺突文を施文し、その間に半軟竹管状工具による刺突文を施文する。そこから断面三角の隆帯を弧状に貼付し、隆帯上には鹿伏工具による磨みを付す。隆帯の側には溝き状の突起を付し、その後、沈線で文様を提出する。	
4	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。非常に良好。にぶい褐色。	断面円形の隆帯を貼付して文様を区画した後、原体Rの単筋斜縄文を施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
5	深鉢	胴部片		黒雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体Rの単筋斜縄文を縦位に施した後、沈線を施文する。	

第1章 発見された遺構と遺物

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
6	深鉢	胴部片		石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい棕色。	原形Rしの単筋斜縄文を縦位に施した後、沈線は横位に施文する。	
7	深鉢	胴部片		黒雲母、石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原形Rしの単筋斜縄文を縦位に施した後、沈線を縦位に施文する。	
8	深鉢	口縁部片		黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。	口唇部は内側に肥厚する。原形Rの黒赤文を施した後、沈線を弧状に施文する。	
9	深鉢	胴部片		黒雲母、石英を少量含む。良好。にぶい棕色。	棒状工具による沈線を斜位に施した後、それよりも太い沈線で弧状に施文する。	
10	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。浅黄褐色。	断面台形の隆帯を1条巡らした後、沈線を縦位に施文する。	
11	深鉢	胴部片		白色鉱物粒を少量含む。精製された加土。良好。にぶい棕色。	有割隆帯を弧状に貼付した後、弧状の沈線を連続して施文する。それらの下位には沈線を巡らす。丁寧な作り。	
12	深鉢	胴部片		黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい棕色。	平行する隆帯の間に縦位の沈線文を施した後、隆帯に沿って磨り出し。	
13	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい棕色。	断面平円の隆帯を巡らした後、半軟竹管状工具による平行沈線を縦位に施文する。その後、隆帯に沿って平行沈線を巡らす。	
14	深鉢	胴部片		白色粒石粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい棕色。	断面平円の隆帯をU字形に貼付した後、沈線を縦位に施文する。	
15	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。棕色。	刻みを付した隆帯を貼付し、区画内に隆帯に沿った沈線とキタビラ文を施文。	
16	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。浅黄褐色。	刻みを付した断面台形の隆帯を2条巡らす。	

20区64号住居土器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(m)	②幅(m)	③厚さ(m)	④重量(g)	石材	備考
17	石皿	先端部欠	15	14	3	0.5	黒曜石	
18	磨石	ほぼ完	123	113	52	853.1	粗粒輝石安山岩	
19	磨石	一部欠	105	83	40	552.7	粗粒輝石安山岩	
20	石皿	1/3	187	265	59	2880	粗粒輝石安山岩	

20区65号住居土器計測表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。浅黄色。	断面台形の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原形Rしの単筋斜縄文を縦位に施文する。	
2	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	断面台形の低い隆帯を貼付した後、原形Rしの単筋斜縄文を方向を変えて施文する。その後、沈線で区画をなす。	
3	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面三角の隆帯を巡下させた後、原形Rしの単筋斜縄文を縦位に施文し、横行する沈線を施文する。	
4	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	垂下する2条の隆帯と弧状の隆帯を貼付した後、細い沈線を縦斜状に施文する。	
5	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	交差する斜位の沈線を施文する。	
6	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	磨擦状工具による沈線を弧状に施文する。	
7	浅鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	内外面とも丁寧な磨きが施され、赤色胎土の痕跡が良好に残る。	

20区65号住居土器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(m)	②幅(m)	③厚さ(m)	④重量(g)	石材	備考
8	石皿	基部欠	35	24	7	3.6	黒曜石	
9	石皿	基部欠	28	22	4	1.6	黒色安山岩	
10	石皿	基部欠	24	71	6.5	2.9	玉髓	
11	石皿	基部・先端部欠	9.5	8	2.5	0.2	黒曜石	
12	スタレイバー	完	15.5	14.5	7	1.4	黒曜石	

第2節 遺物観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(m)②幅(m)③厚さ(m)④重量(g)	石材	備考			
13	石柱か	—	43	64	24	65.6	黒色安山岩	

20区66号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	両耳壺	底定口徑16.0 口縁部、底部欠		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	2単位の楕状把手を持つ。口縁は外反気味に立ち上がり、無文で磨き。胴部に断面三角の隆帯が高る。胴部は原形R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、浅い沈線と文様を提出する。	
2	深鉢	胴上半～底部 底径5.5 残存高23.1		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	4単位の成状口縁を呈するものと思われる。原形L Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を八字状、あるいは「J」字に施文する。	
3	深鉢	胴部片		石英を含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤灰色。	原形L Rの単節斜縄文を縦位に施文するが、一部方向を変えて施文している。	
4	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	弧状の沈線を施文する。底部に近い胴部片と思われる。	
5	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。普通。黄褐色。	原形Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、弧状の沈線を施文する。	
6	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	低い隆帯を2条垂下させる。	
7	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい藍色。	断面台形の隆帯を貼付する。	
8	深鉢	胴部片		石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を垂下させた後、原形L Rの単節斜縄文を縦位に施文する。	
9	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	垂下する2条の沈線と弧状の沈線を施文した後、磨きする沈線を楕状に施文する。	

20区66号住居土器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(m)②幅(m)③厚さ(m)④重量(g)	石材	備考			
10	磨芥	万部欠	102	68	39	481.5	閃緑岩	再利用か
11	磨石	完	114	64.5	46	516.7	粗粒輝石安山岩	1面に凹穴
12	磨石	完	218	185	73	4211.9	石英閃緑岩	
13	多孔石	一部欠	153.5	167	72	1598.7	粗粒輝石安山岩	

20区67号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴下半～底部 底径9.0 残存高23.0		砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原形Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
2	深鉢	胴上半		石英、小礫を含む砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	1単位の楕状把手が付く。原形Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
3	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	口縁部に楕円形の刺突文。その下位から原形Lの単節斜縄文を縦位に施文する。	
4	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	太い隆帯で口縁部に文様帯を区画する。口唇部には原形Lの単節斜縄文を縦位に施文する。	
5	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	原形Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片		石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原形Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させるとともに、横行する沈線を施文する。	
7	深鉢	胴部片		石英を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で刺突文を提出する。	
8	深鉢	胴部片		石英、金雲母をやや多く含む。良好。褐色。	刺突文の下位に横位の隆帯を施文した後、棒状工具による刺突文を施文する。	
9	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	低い隆帯を2条垂下させる。外面には赤色磨り跡が良好に残る。内面にも赤色の痕跡あり。	

20区67号住居土器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(m)②幅(m)③厚さ(m)④重量(g)	石材	備考			
10	石皿	1/2	173.5	140.5	67	2233.7	粗粒輝石安山岩	

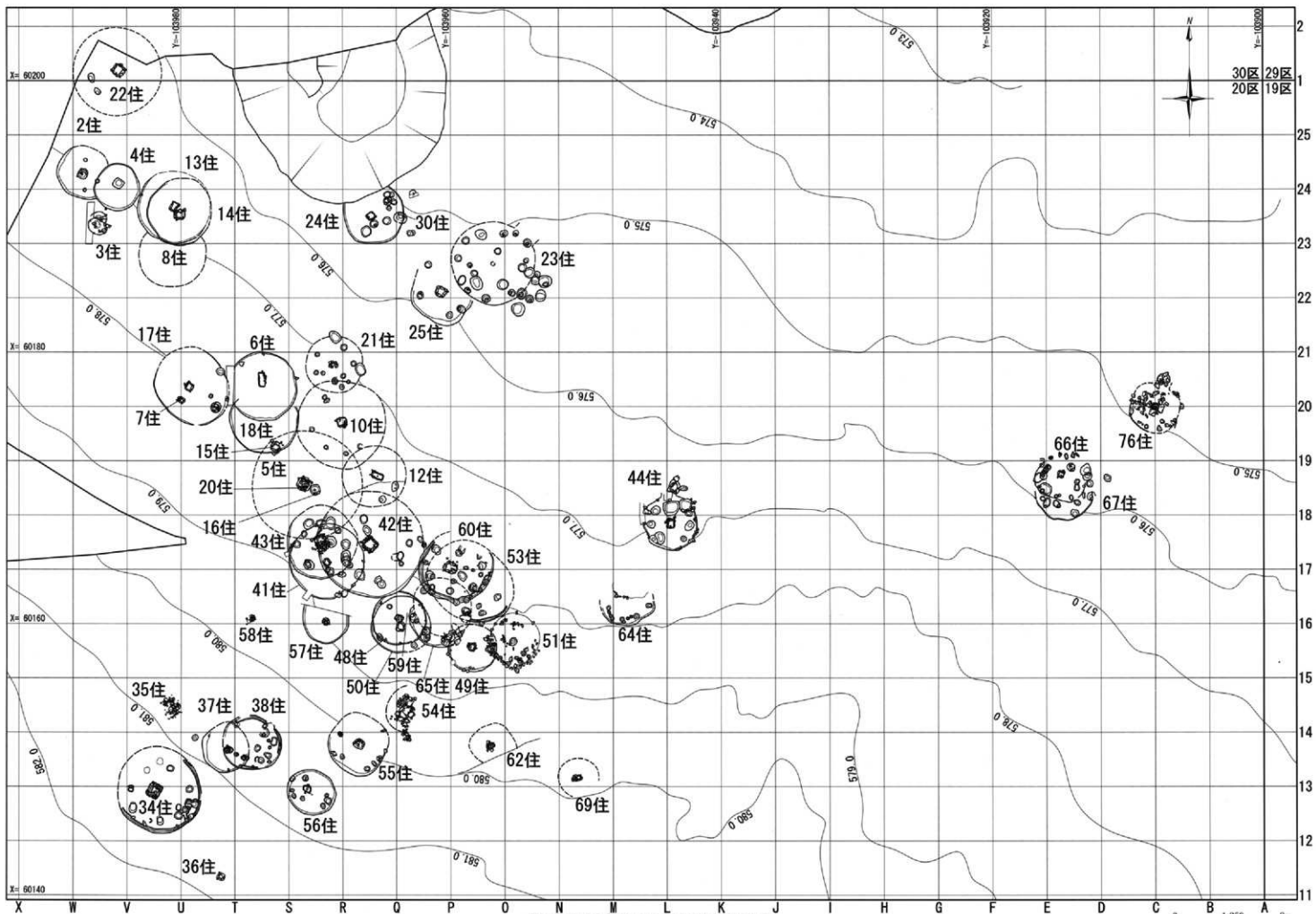
第1章 発見された遺構と遺物

20区76号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴上半1/3 釐定口径20.0		砂粒をやや多く含む。 普通。暗褐色。	樽形の器形。2条の沈線で大柄な渦巻き文を抽出した後、鹿伏工具による沈線を縦位に施文する。	
2	深鉢	口縁部片		石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原形Rの早期折縄文を口縁部は横位に、胴部は縦位に施文した後、口唇部に近る沈線と八字形の沈線を施文する。	
3	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	原形Rの早期折縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
4	深鉢	胴部片		石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	原形Rの早期折縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
5	深鉢	胴部片		黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	無文だが、縦方向に磨り消しの痕跡が認められる。	
6	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	断面三角の縁帯を2条垂下させる。	
7	深鉢	胴部片		小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	器面が荒れるが、原形不明の縄文を施文した後、沈線と磨り消し文を垂下しているものと思われる。	

20区76号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①伏さ(m)②幅(m)③厚さ(m)	④重量(g)	石材	備考	
8	ステイバー	完	18	14	4.5	1.1	黒曜石
9	磨石	完	100.5	75	35	393.2	粗粒輝石安山岩



横壁中村遺跡20区住居全体図

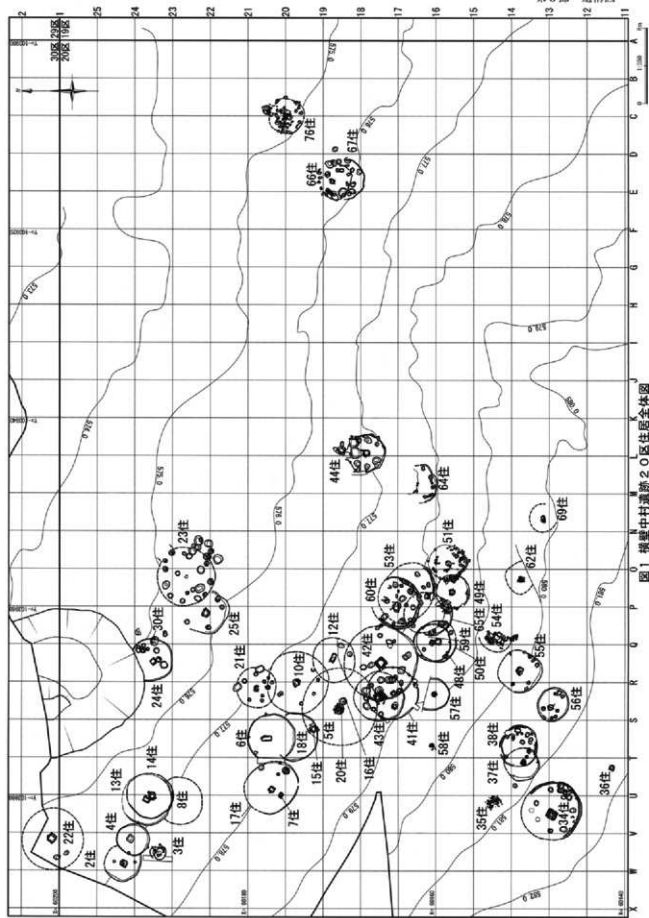
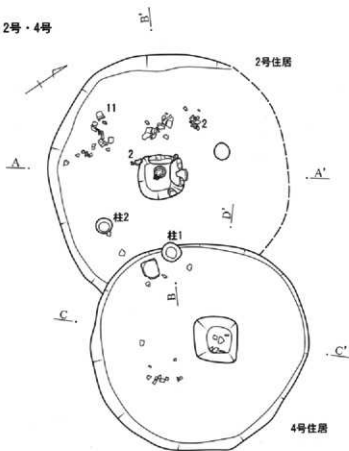


図1 横壁中村遺跡2-O区住居全体図

2号・4号



2号住居炉

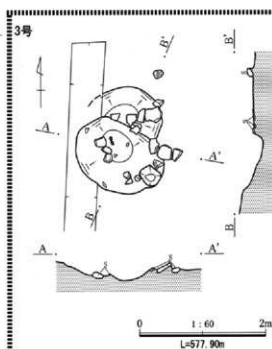
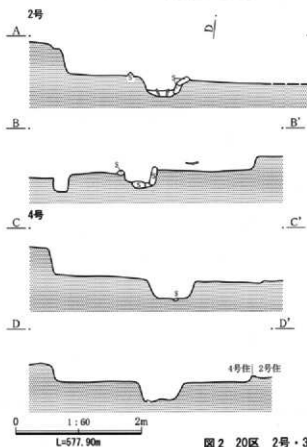
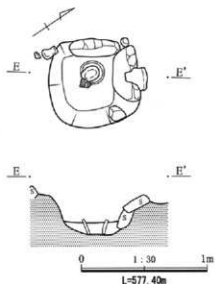


図2 20区 2号・3号・4号住居

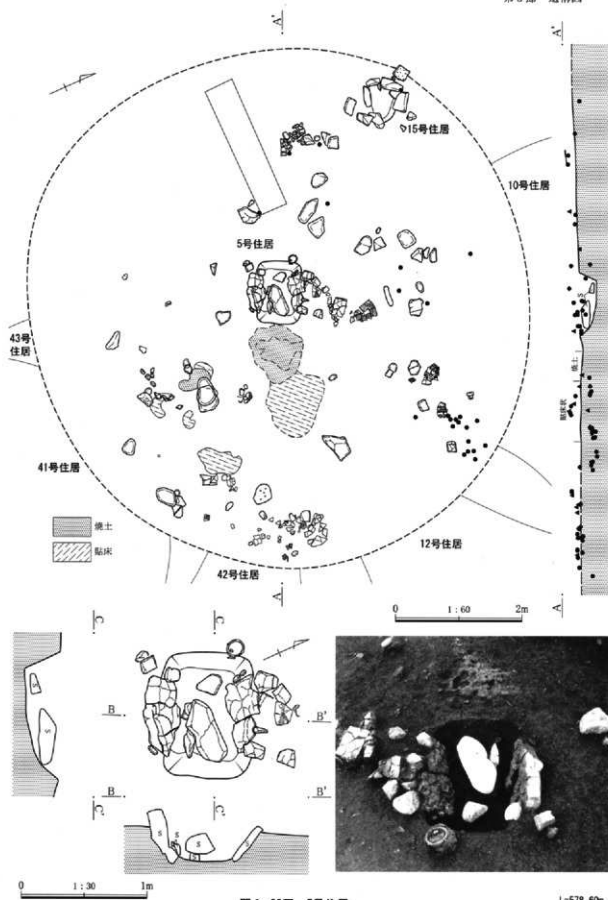


图3 20区 5号住居

第1章 発見された遺構と遺物

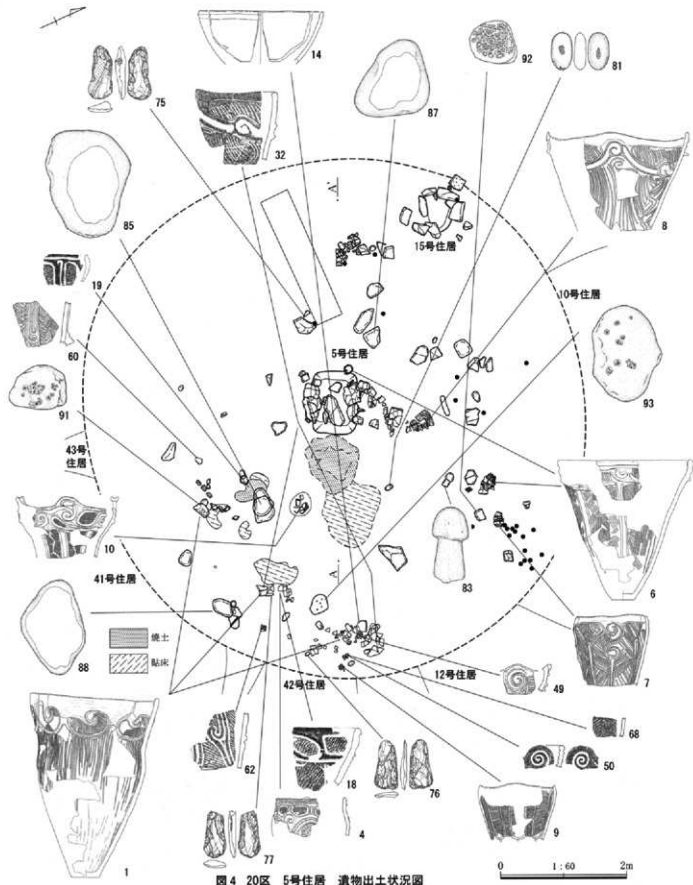
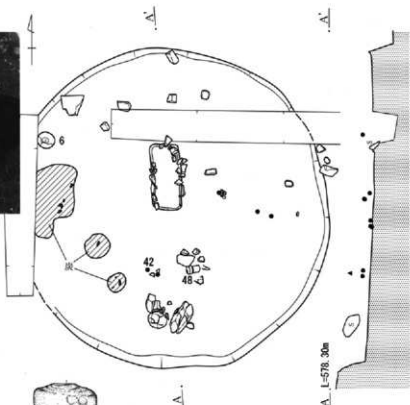


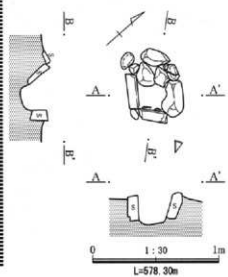
图4 20区 5号住居 遺物出土状況图

6号

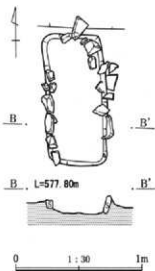


0 1:60 2m

A. L=578.30m



0 1:30 1m L=578.30m



0 1:30 1m L=577.80m



图5 20区 6号・7号住居

8号

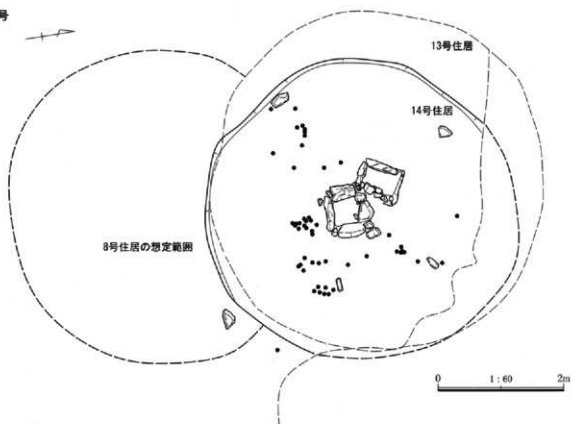


図6 20区 8号住居

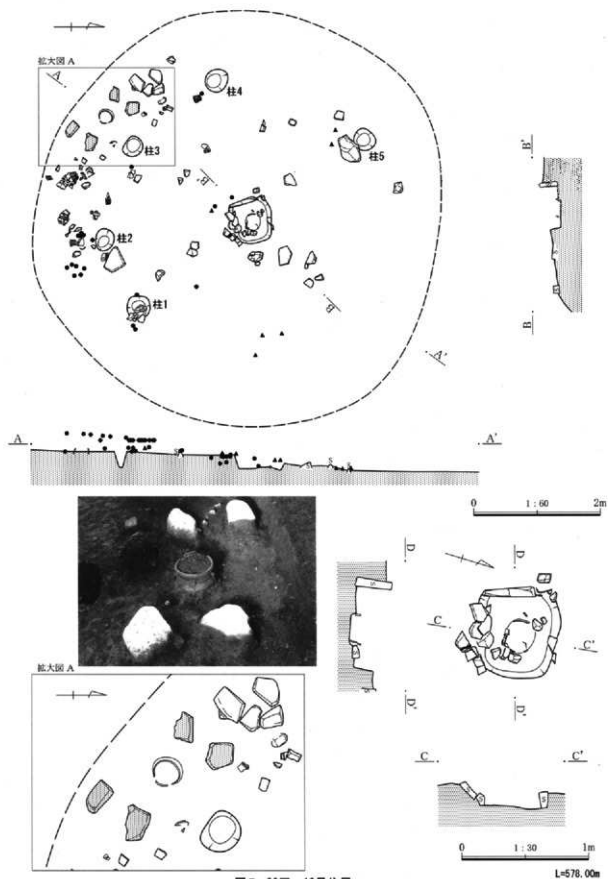


图7 20区 10号住居

L=578.00m

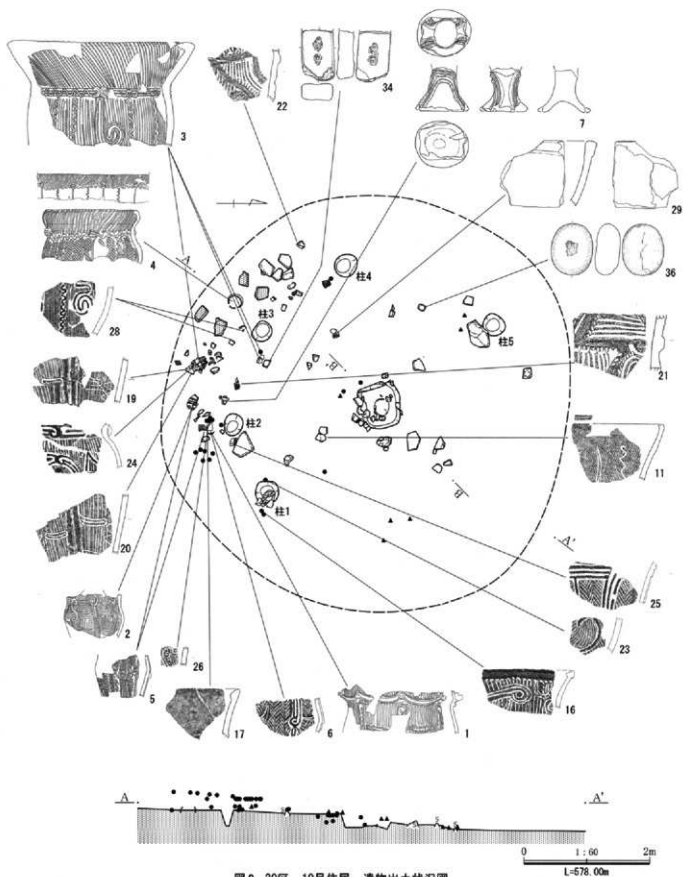


図8 20区 10号住居 遺物出土状況図

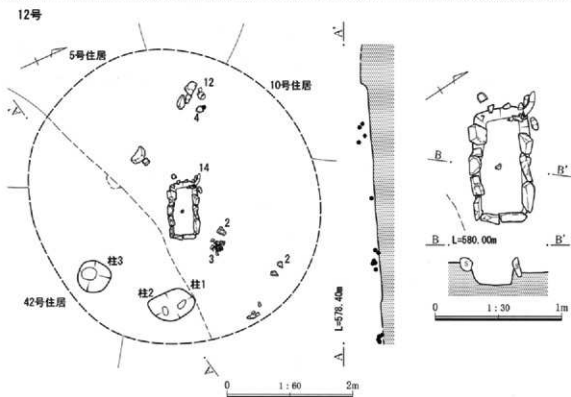
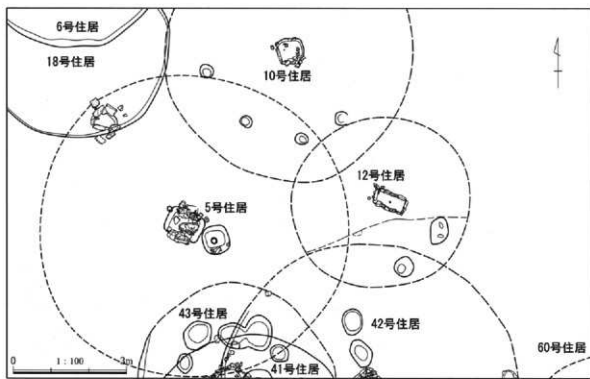


図9 20区 12号住居

第1章 発見された遺構と遺物

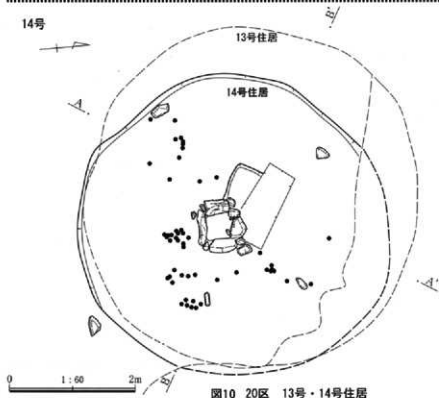
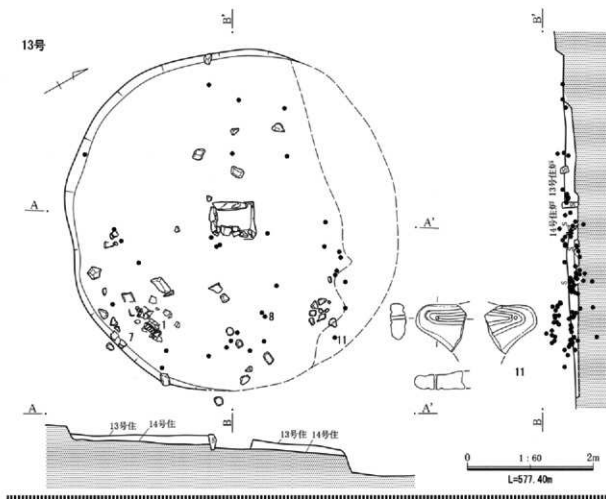
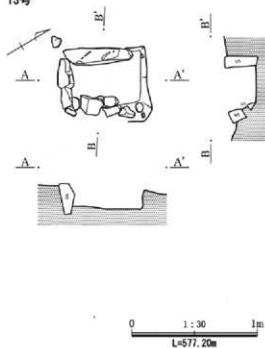
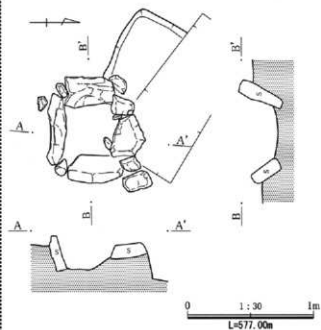


図10 20区 13号・14号住居

13号



14号



15号

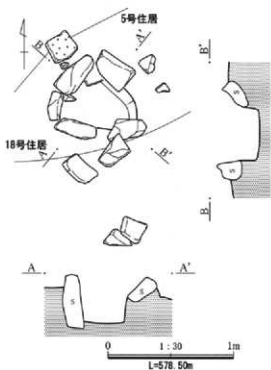
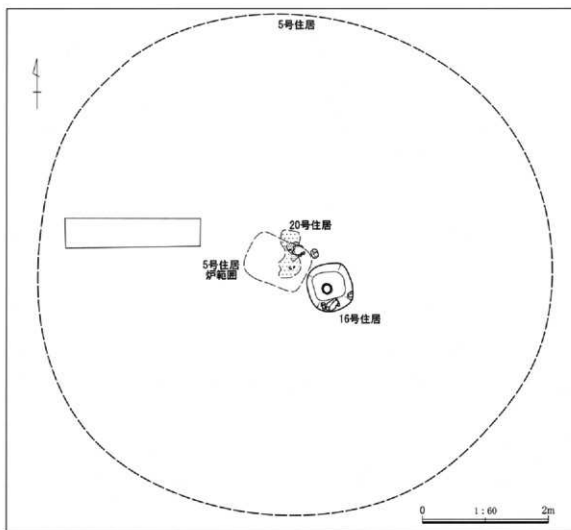


图11 20区 13号・14号・15号住居



20区 5号・16号・20号住居の重複関係

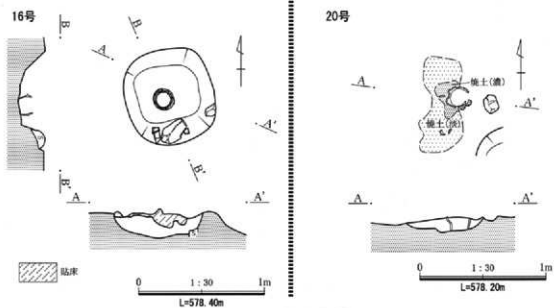


図12 20区 16号・20号住居

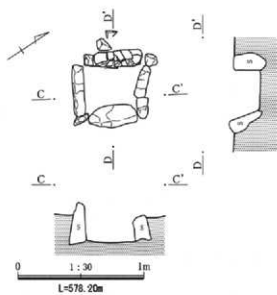
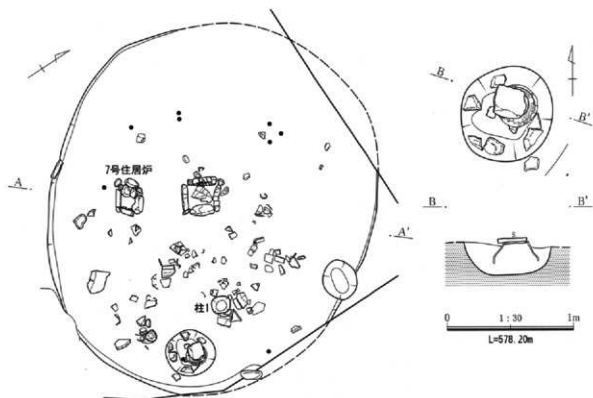


图13 20区 17号住居

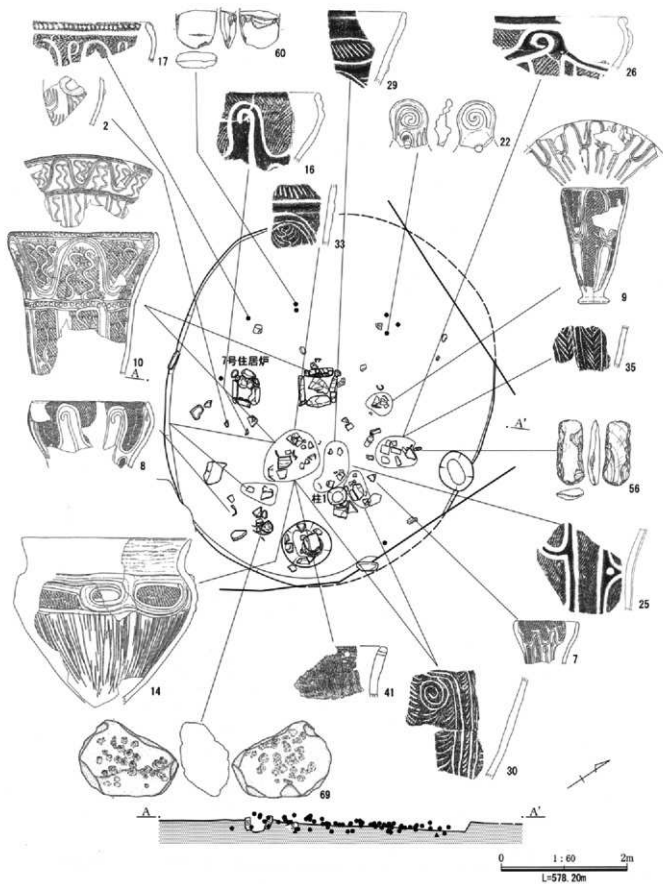


図14 20区 17号住居 遺物出土状況図

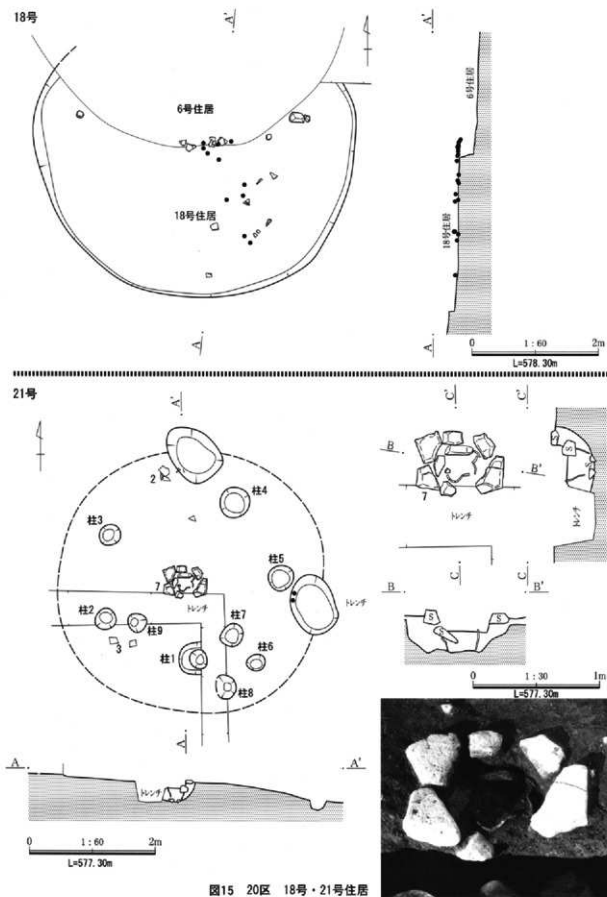


図15 20区 18号・21号住居

第1章 発見された遺構と遺物

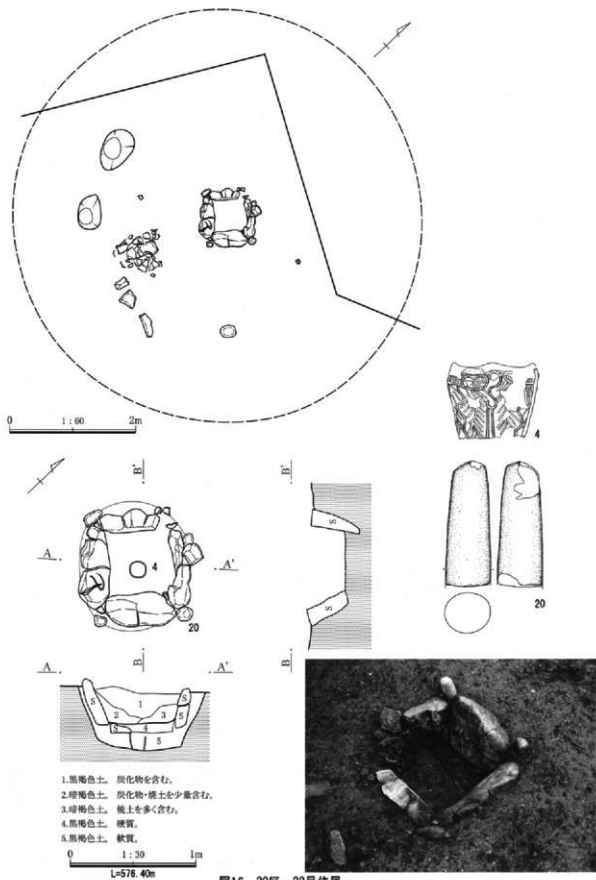


図16 20区 22号住居

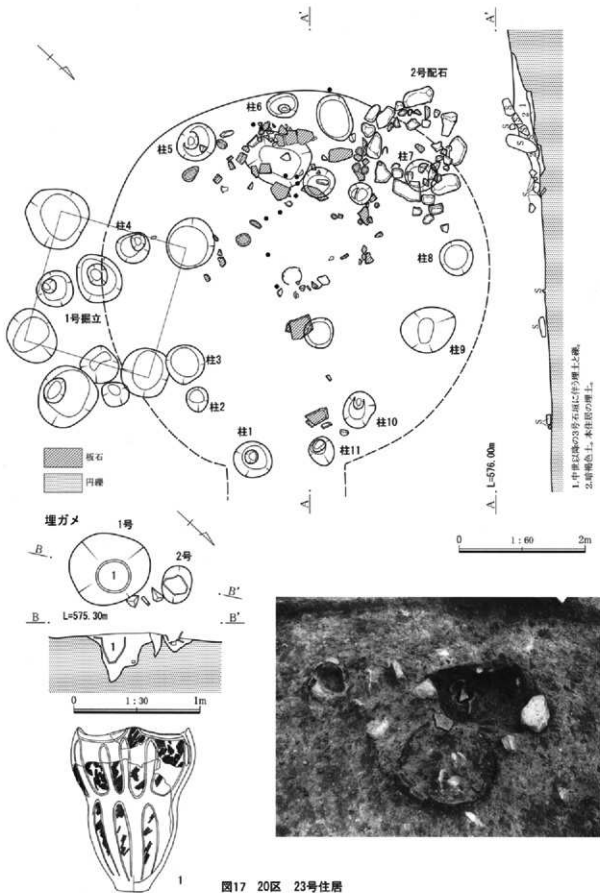


図17 20区 23号住居

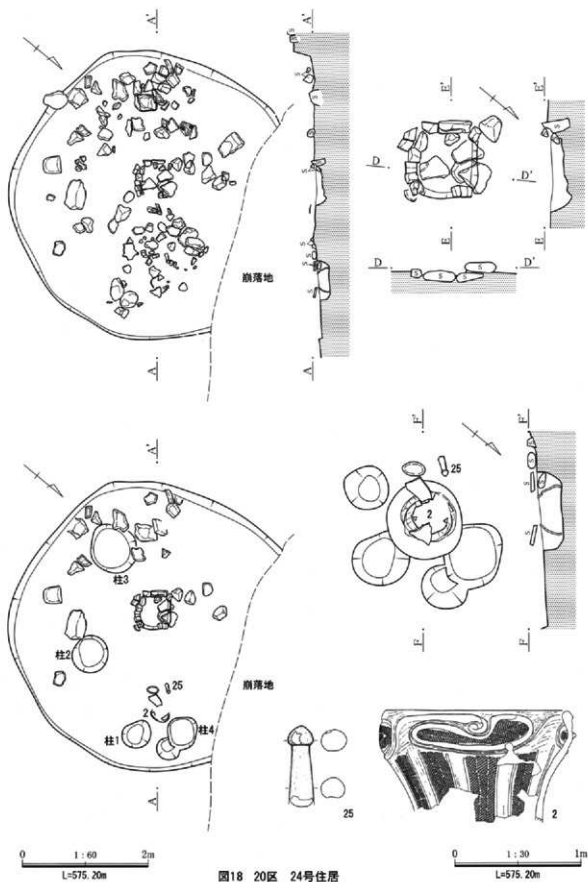


图18 20区 24号住居

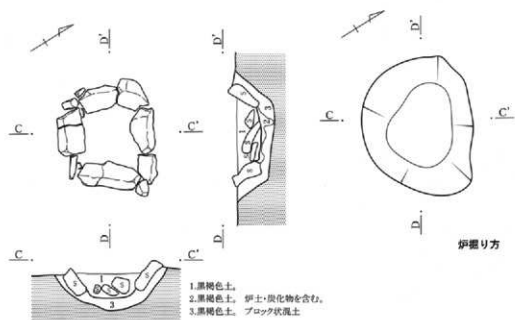
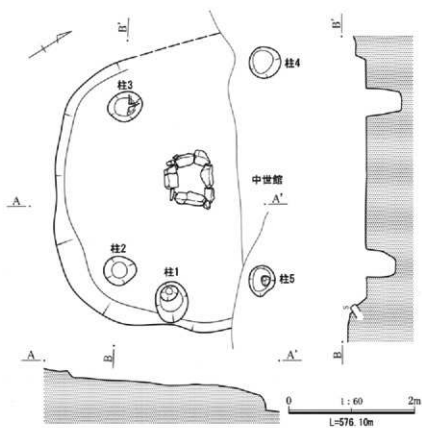
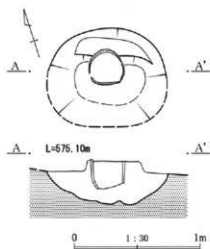
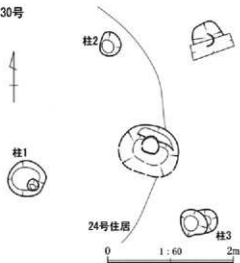


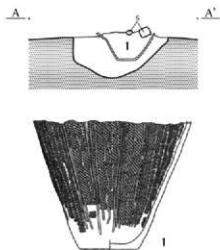
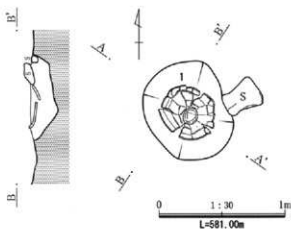
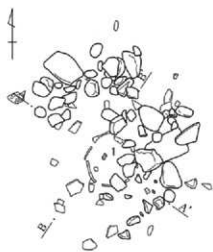
図19 20区 25号住居

第1章 発見された遺構と遺物

30号



35号



36号

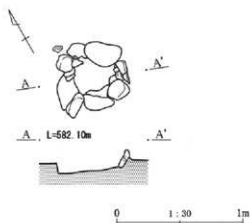
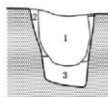
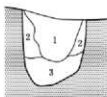
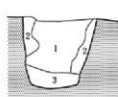
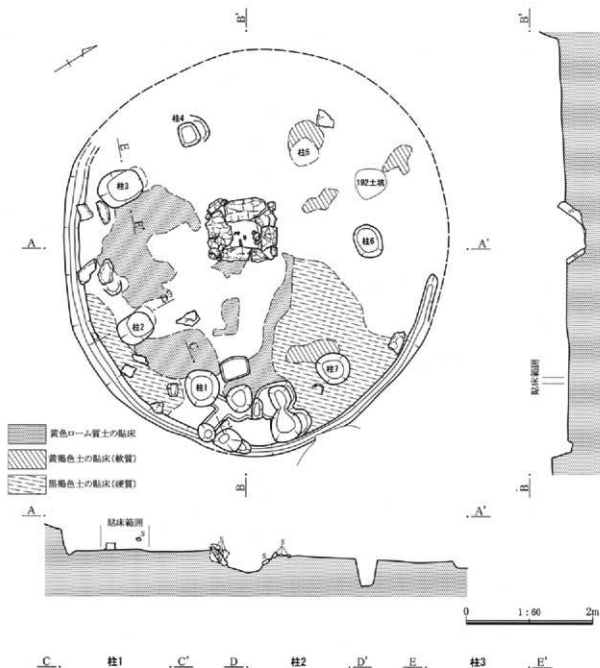


图20 20区 30号・35号・36号住居



1. 灰褐色土。住居覆土と同等。
 2. 1と地山のブロック混土。根がための糠を多く含む。
 3. 1と地山の混土。糠を含まない。

0 1:30 1m

L=581.70m

図21 20区 34号住居

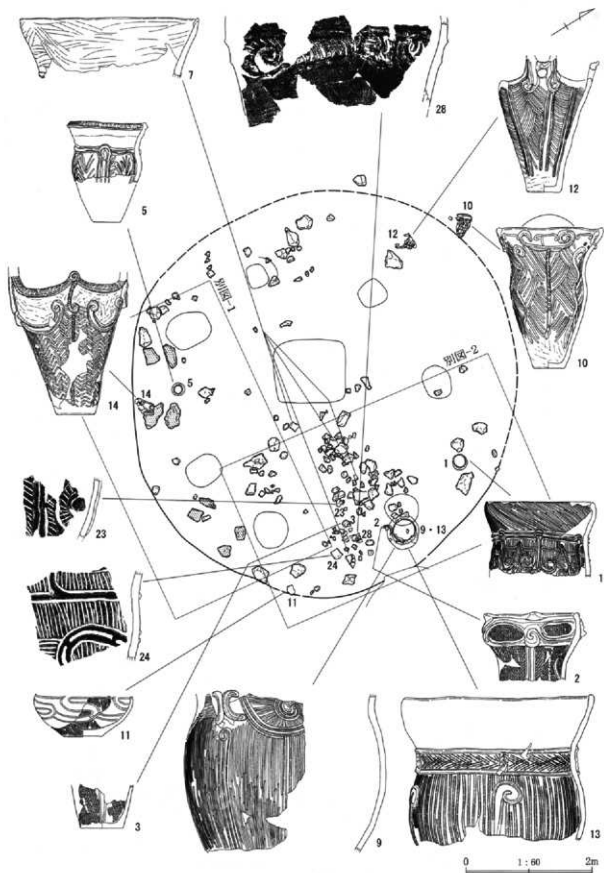


図22 20区 34号住居 遺物出土位置図

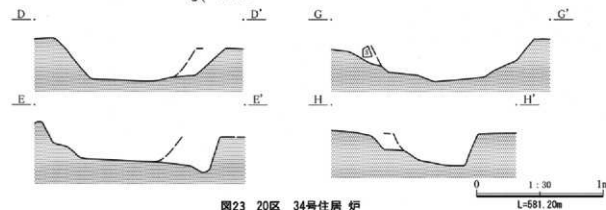
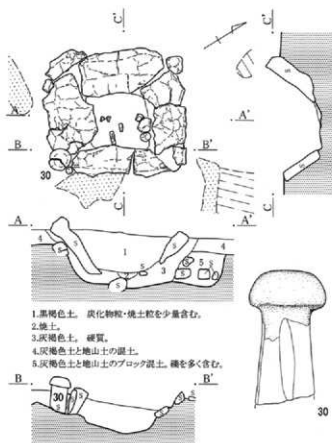


図23 20区 34号住居 炉

0 1:30 1m
L-681.20m

別図-1

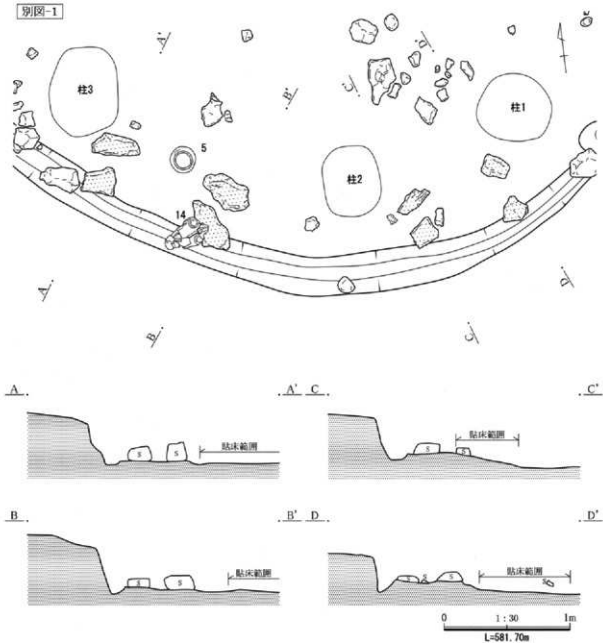


図24 20区 34号住居 配石と伏臺

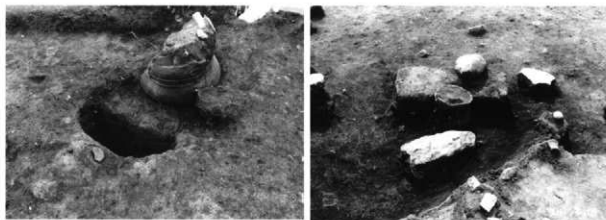
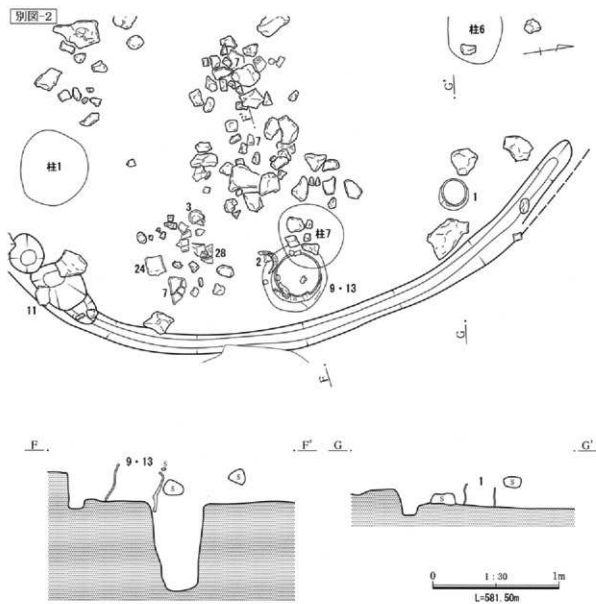
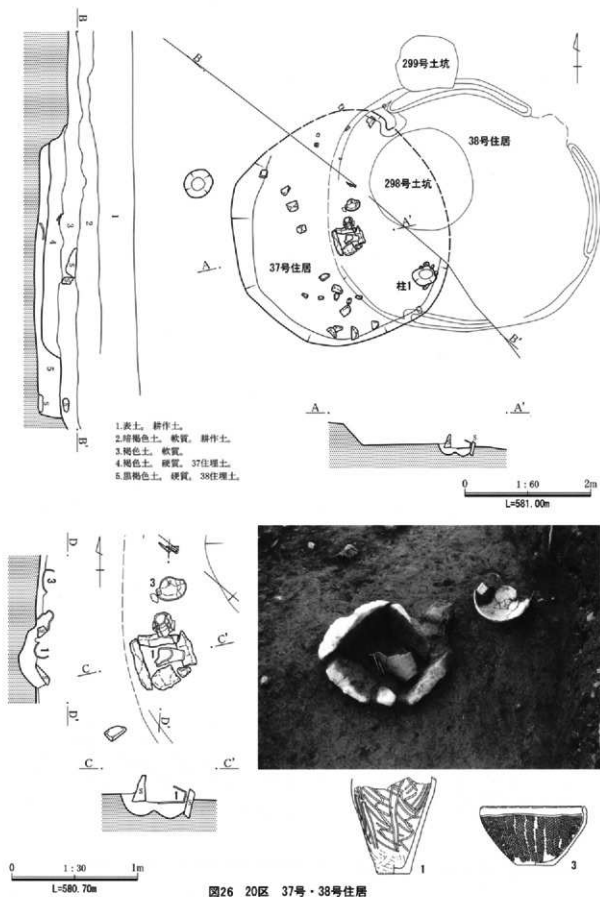


图25 20区 34号住居 配石・柱

第1章 発見された遺構と遺物



- 1.黄土、耕作土。
- 2.暗褐色土、軟質、耕作土。
- 3.褐色土、軟質。
- 4.褐色土、硬質、37号住居土。
- 5.暗褐色土、硬質、38号住居土。

图26 20区 37号・38号住居

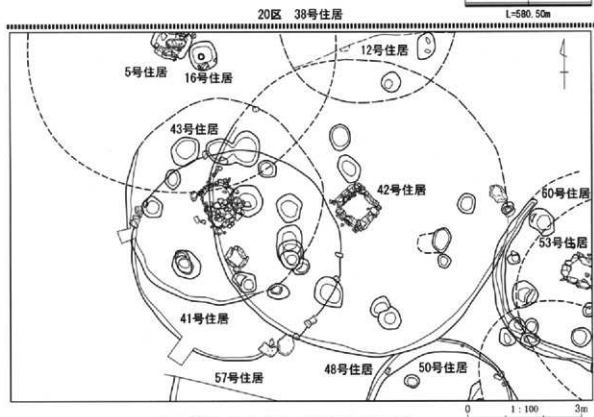
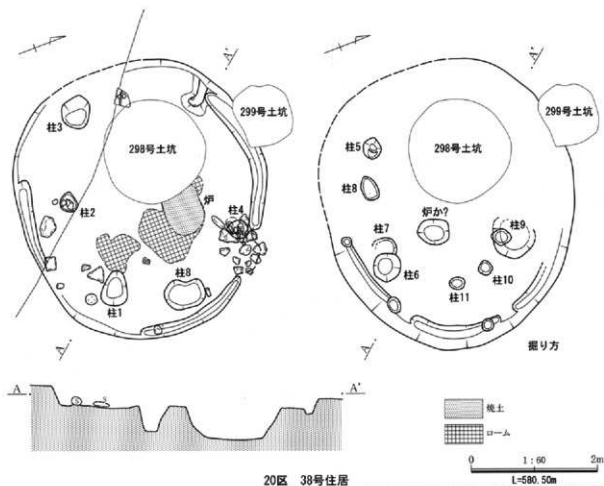


图27 20区 41号・42号・43号住居重複関係図

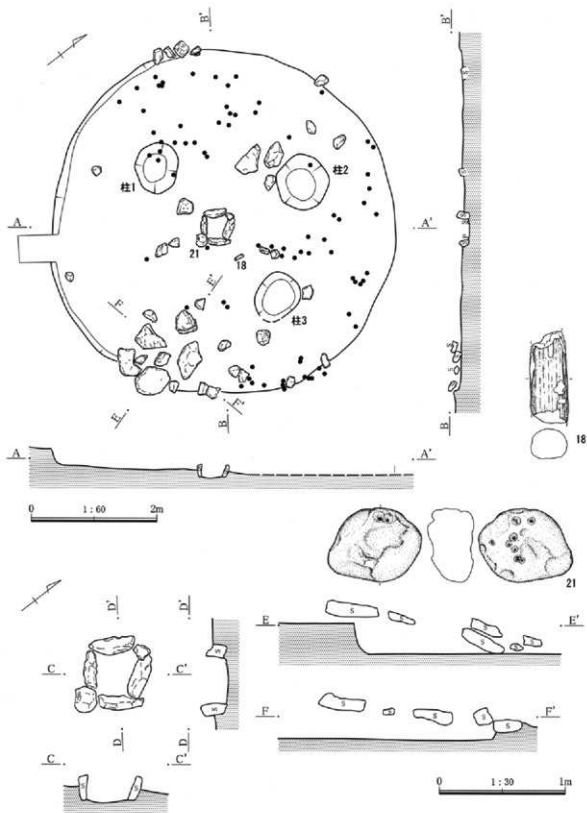


図28 20区 41号住居

L=579.00m

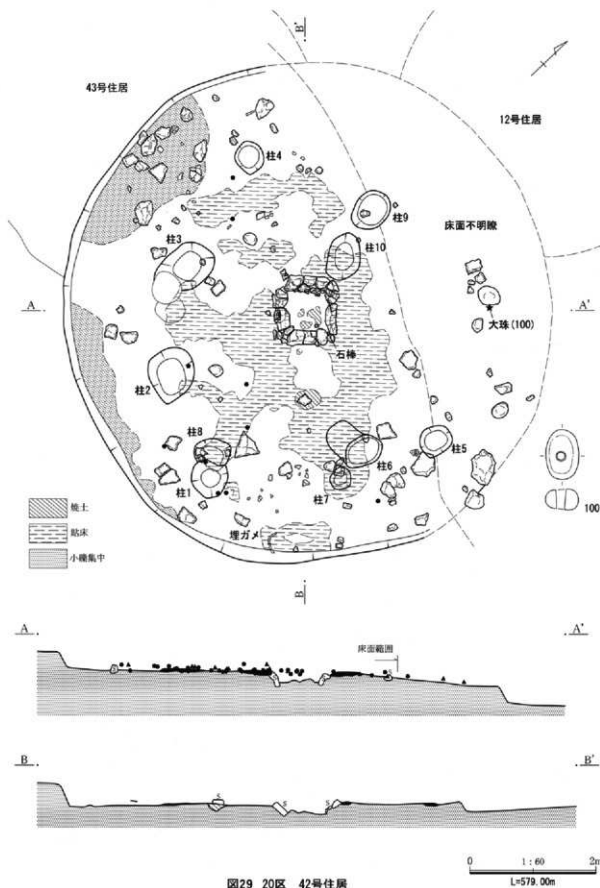


図29 20区 42号住居

第1章 発見された遺構と遺物

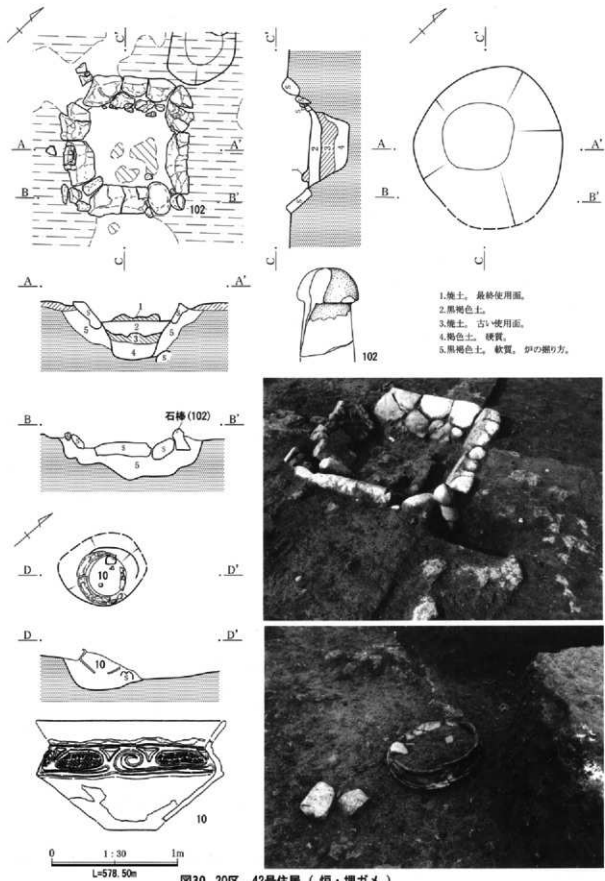


図30 20区 42号住居 (炉・埋ガメ)

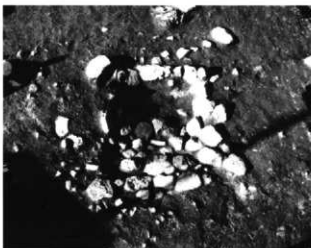
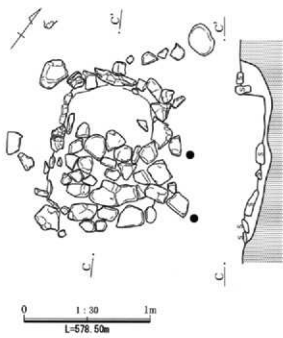
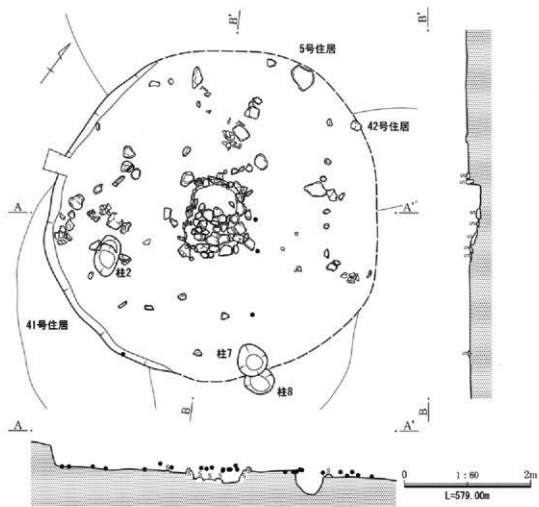


图31 20区 43号住居

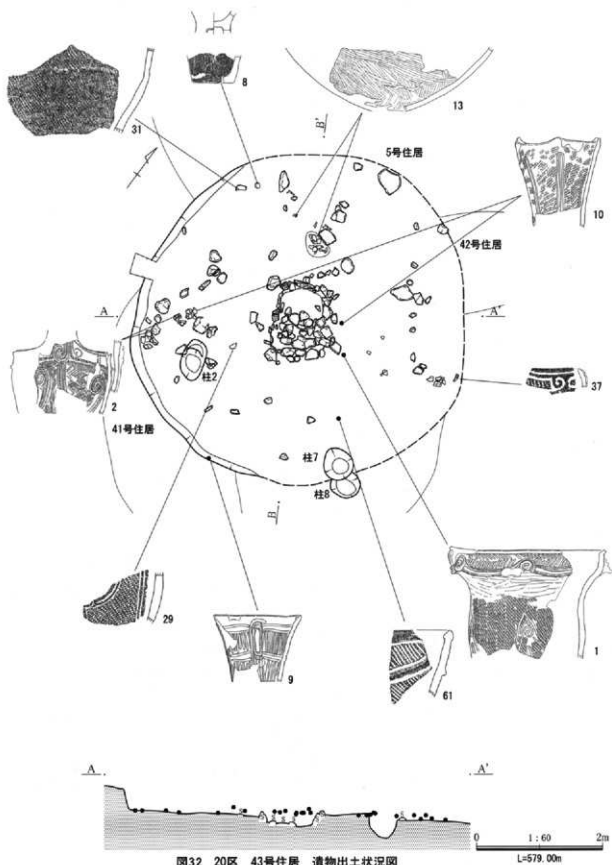


図32 20区 43号住居 遺物出土状況図

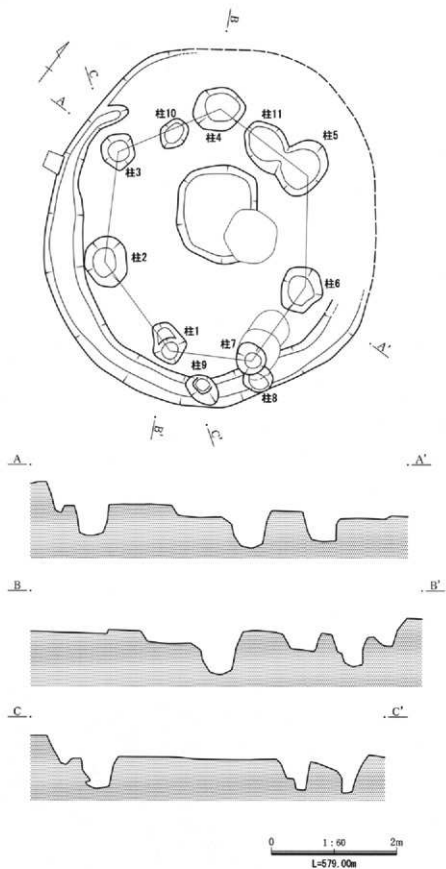


図33 20区 43号住居（掘り方）

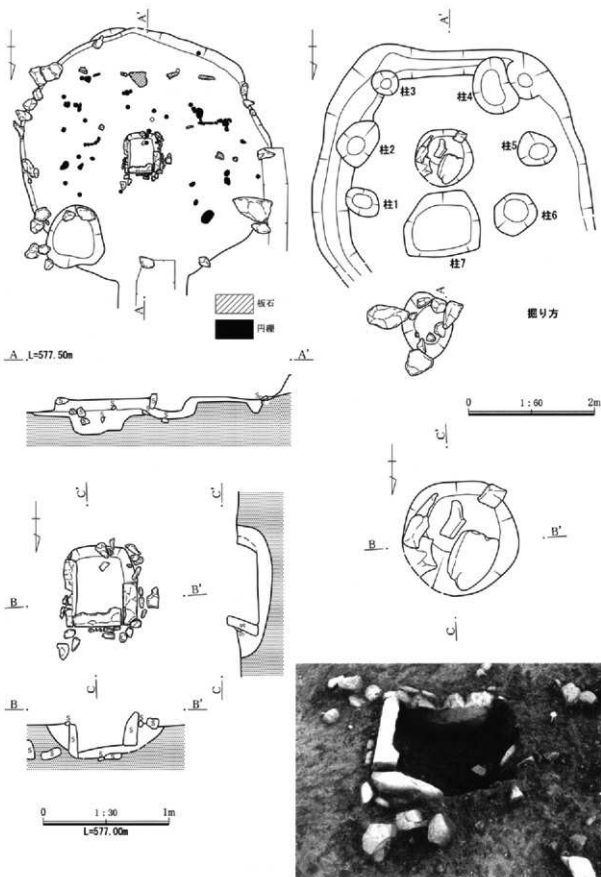


図34 20区 44号住居

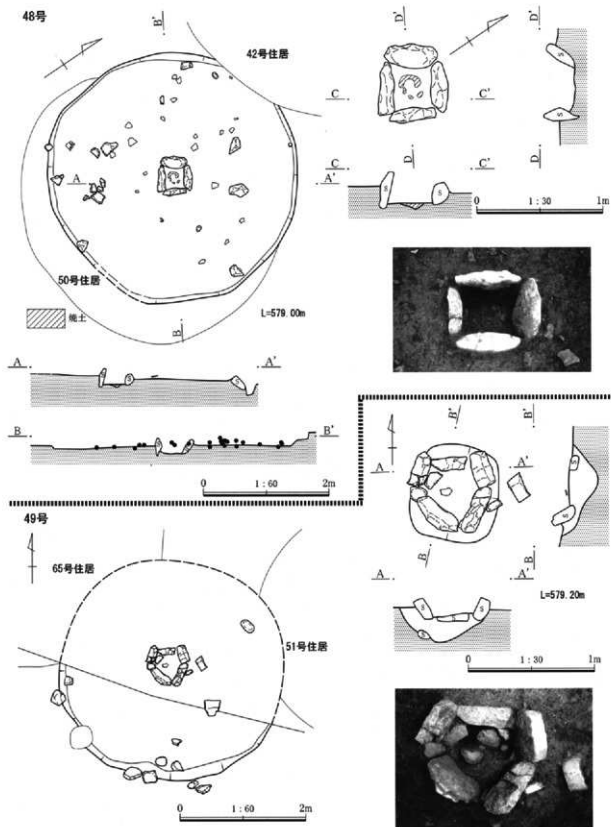
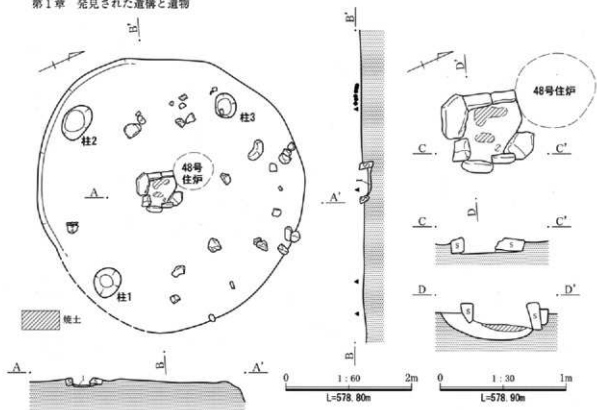
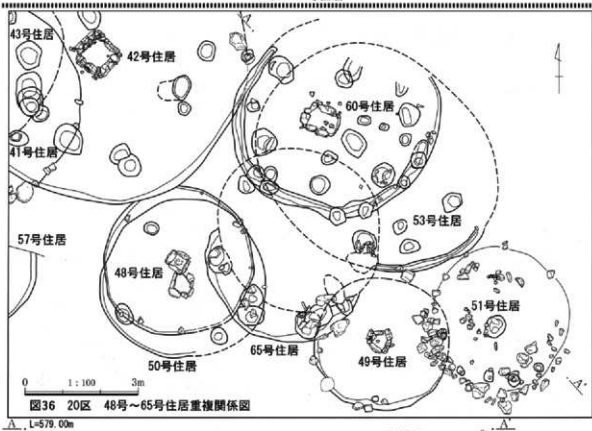
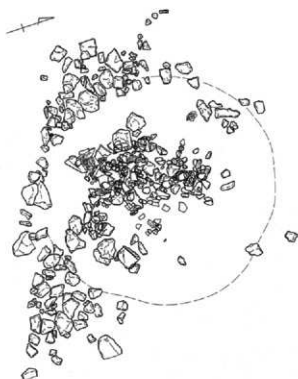


図35 20区 48号・49号住居



20区 50号住居





20区 51号住居遺物出土状況図

0 1:60 2m

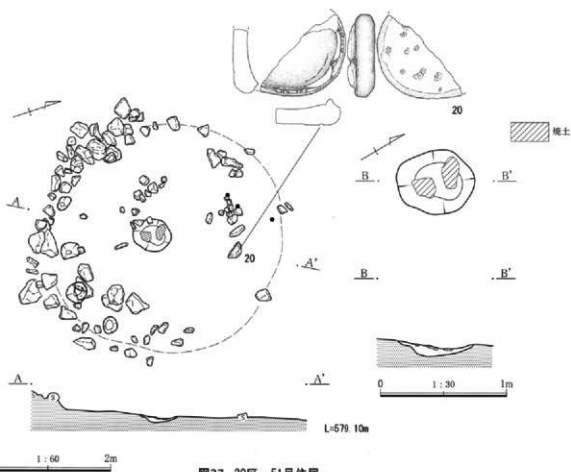


図37 20区 51号住居

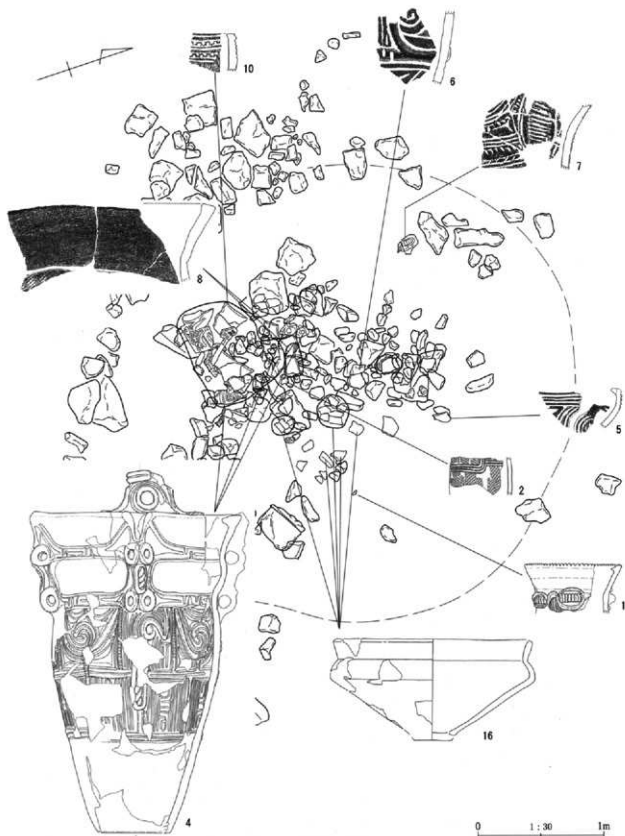
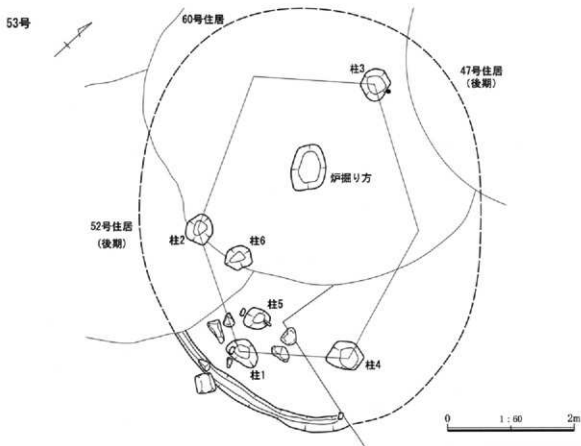


図38 20区 51号住居 遺物出土状況図



54号

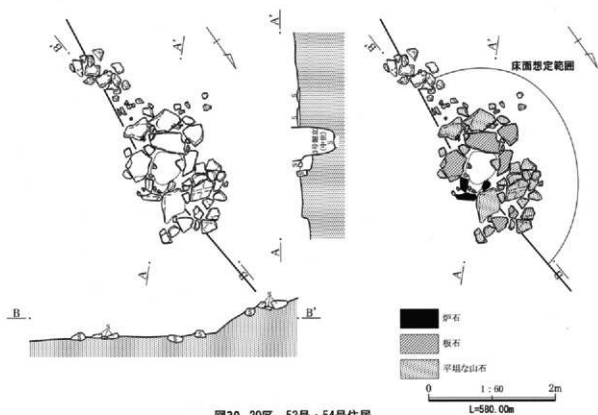


図39 20区 53号・54号住居

第1章 発見された遺構と遺物

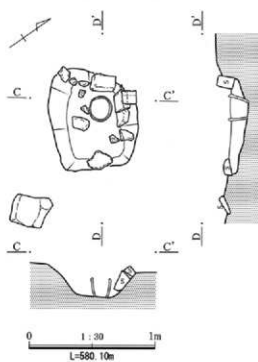
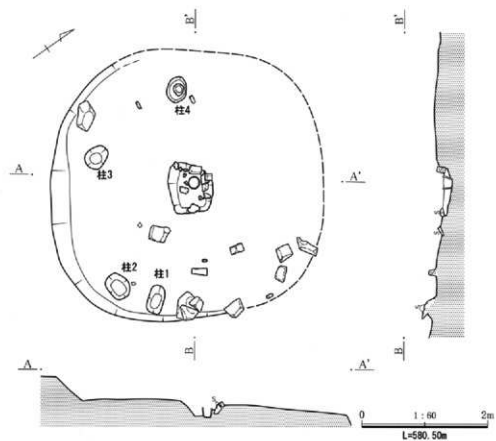


图40 20区 55号住居

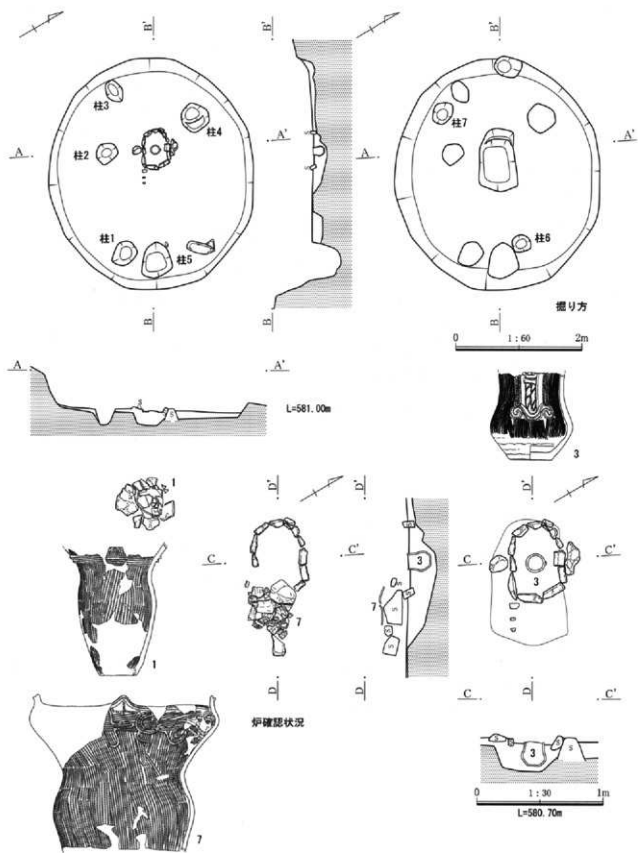
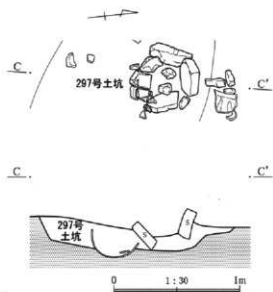
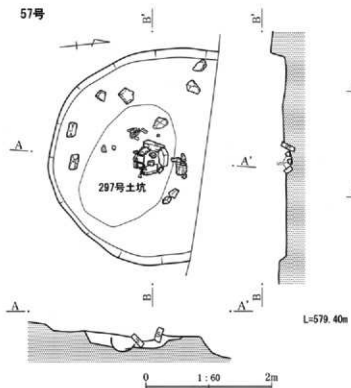


图41 20区 56号住居

第1章 発見された遺構と遺物

57号



58号

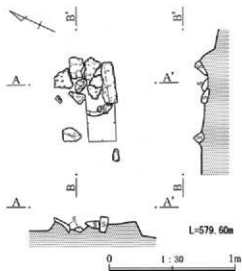


図42 20区 57号・58号住居

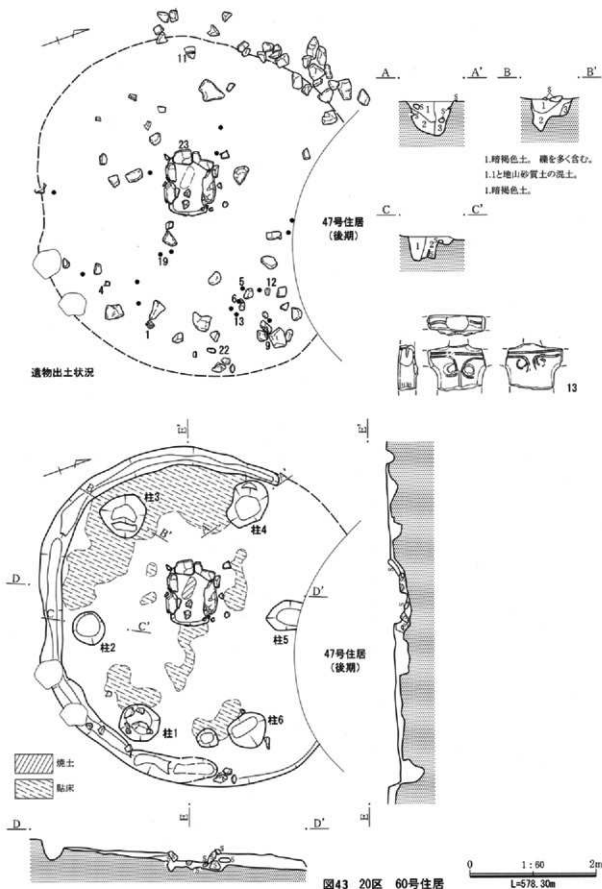
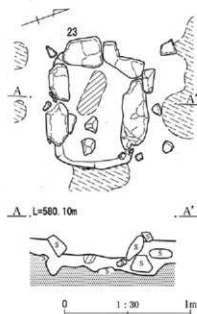
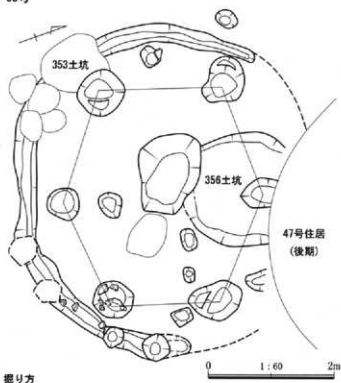
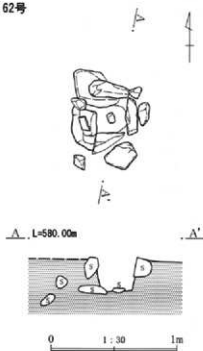


図43 20区 60号住居

60号



62号



64号

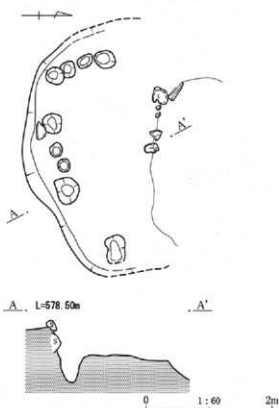


图44 20区 60号・62号・64号住居

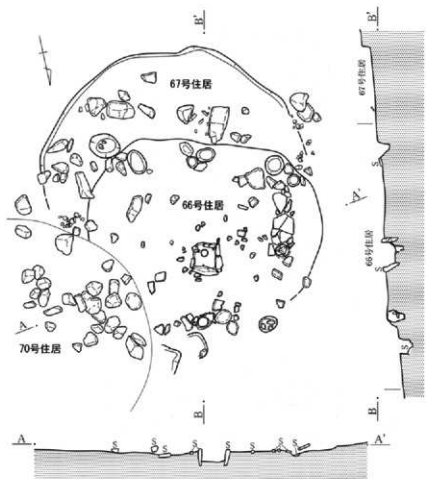


图45 20区 66号・67号住居

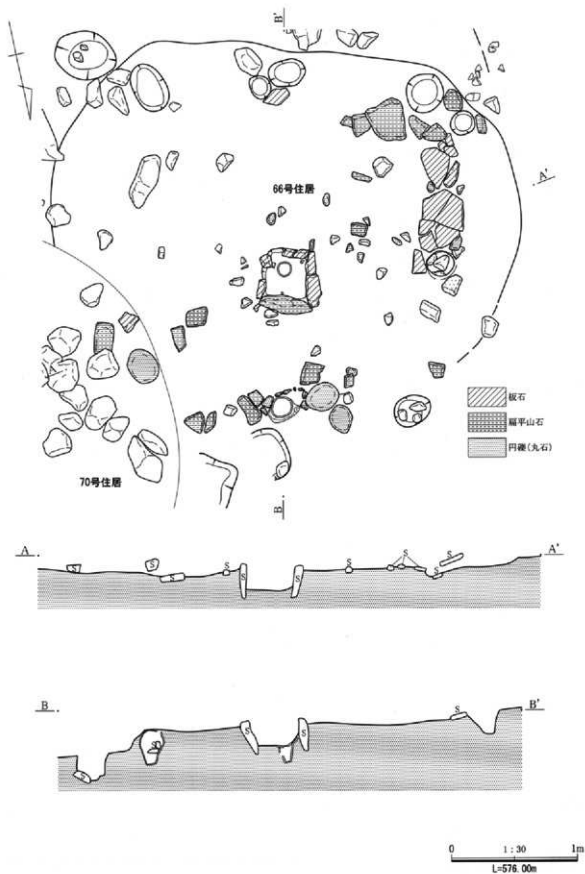


図46 20区 66号住居

第3節 遺構図

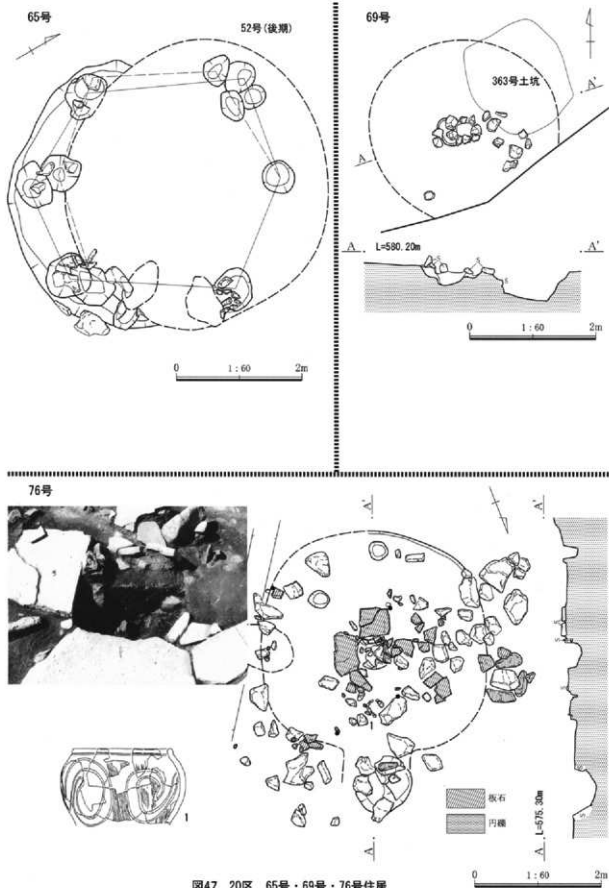


図47 20区 65号・69号・76号住居

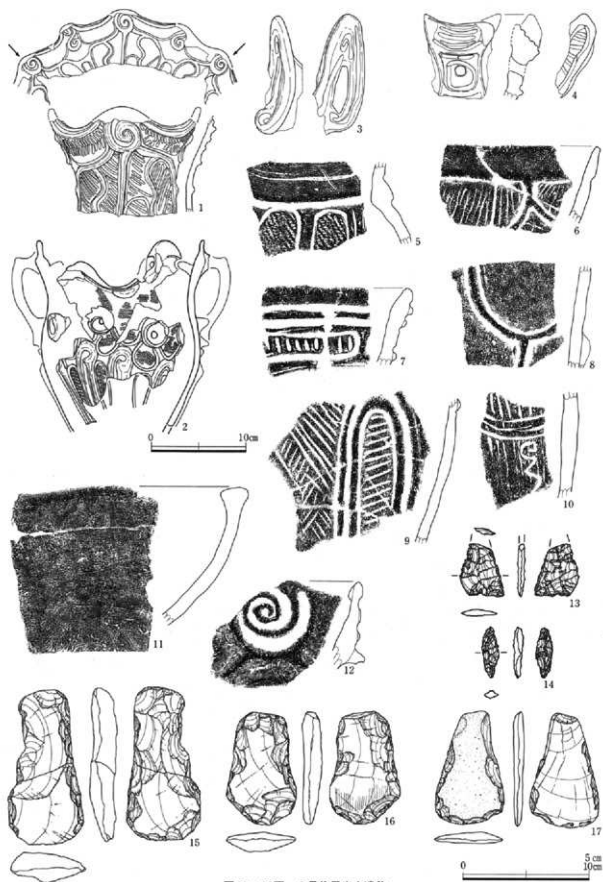


図48 20区 2号住居出土遺物

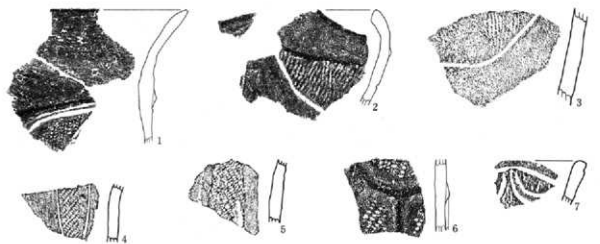


图49 20区 2号、3号住居出土遺物

第1章 発見された遺構と遺物

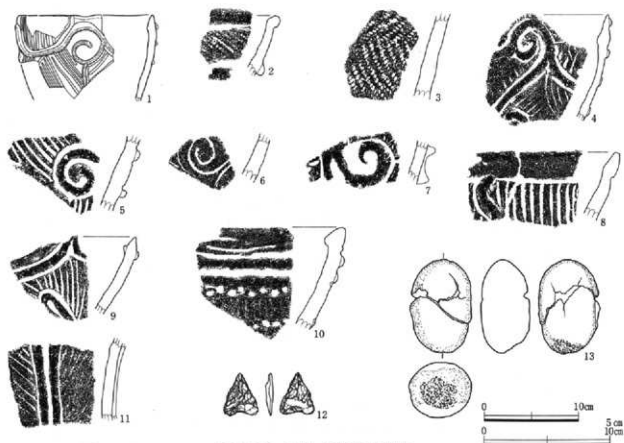
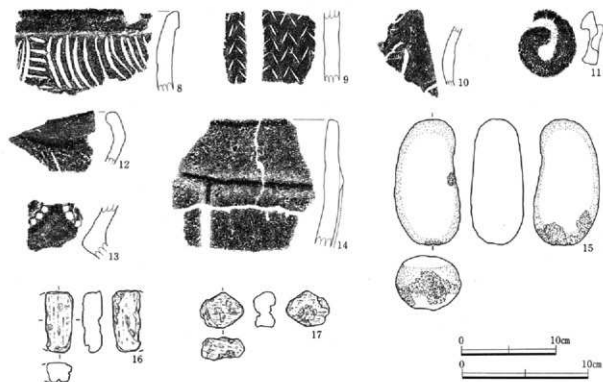


図50 20区 3号、4号住居出土遺物

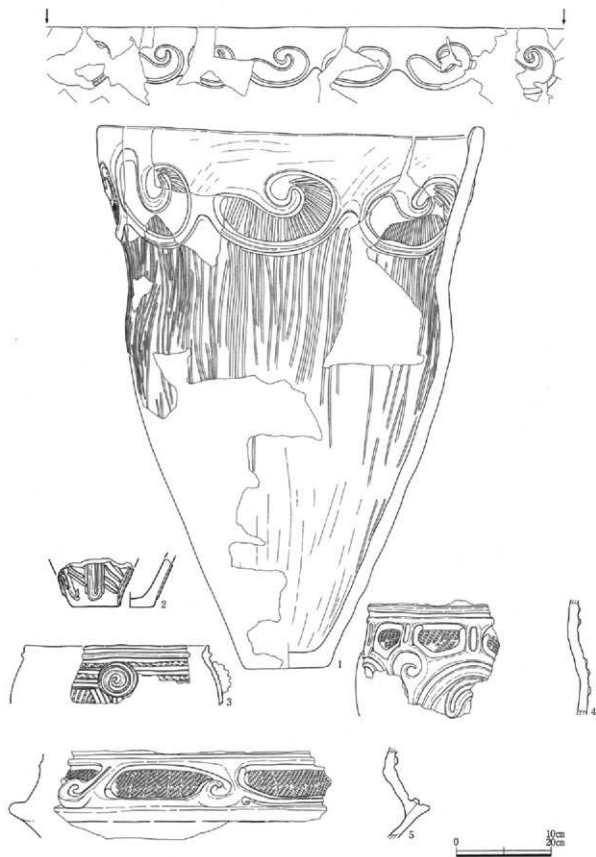


図51 20区 5号住居出土遺物

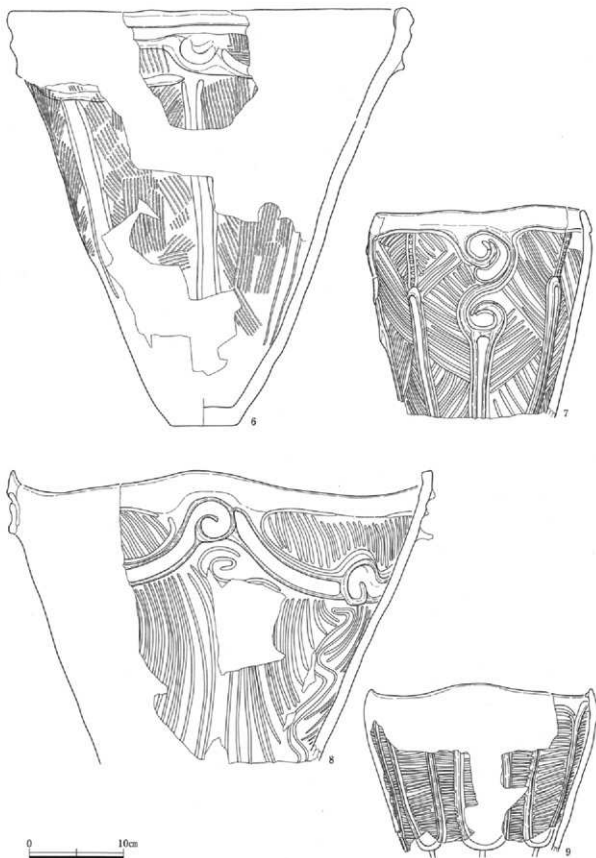


图52 20区 5号住居出土遺物

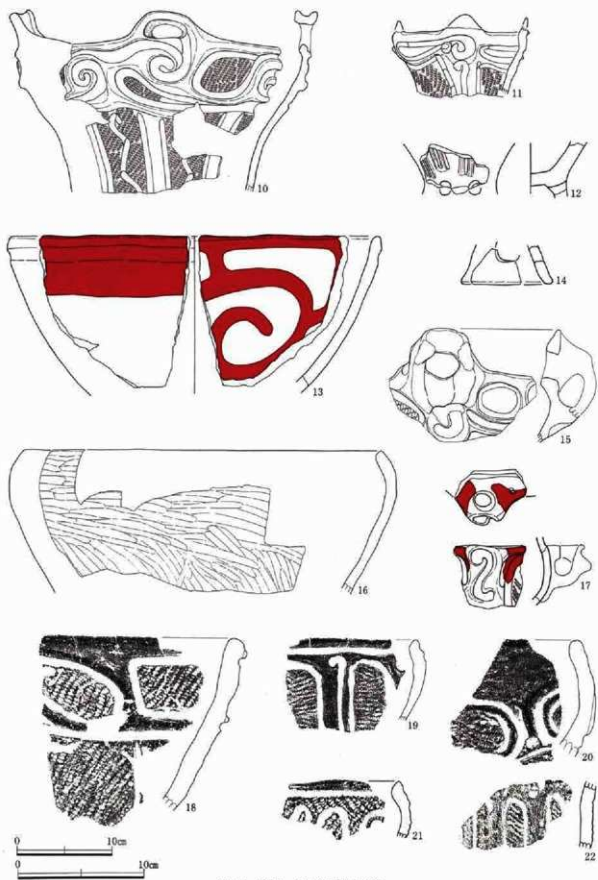


图53 20区 5号住居出土遺物

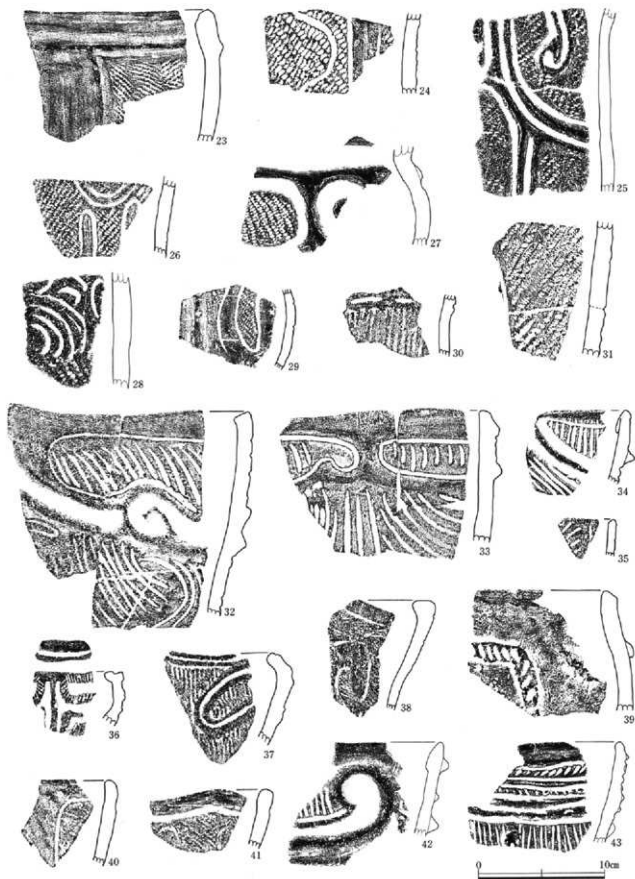


図54 20区 5号住居出土遺物



图55 20区 5号住居出土遺物

第1章 発見された遺構と遺物

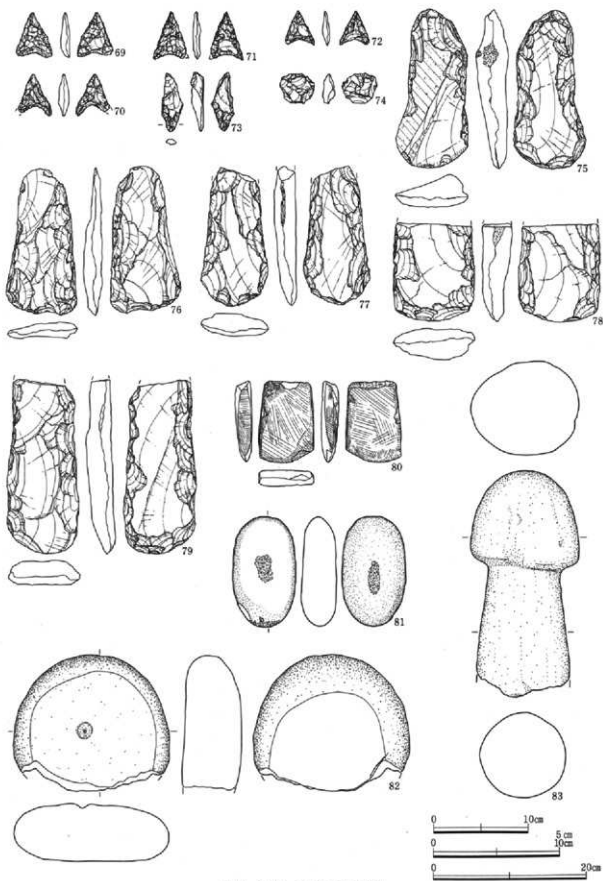
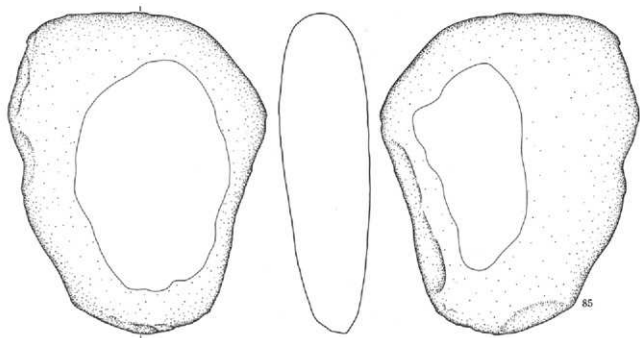
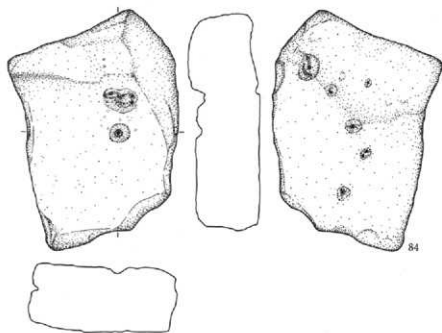


図56 20区 5号住居出土遺物



0 20cm

图57 20区 5号住居出土遺物

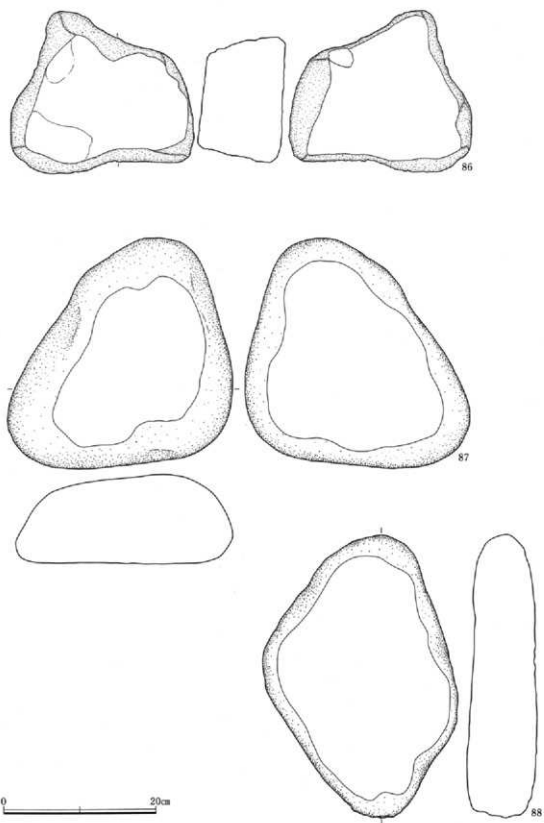


図58 20区 5号住居出土遺物

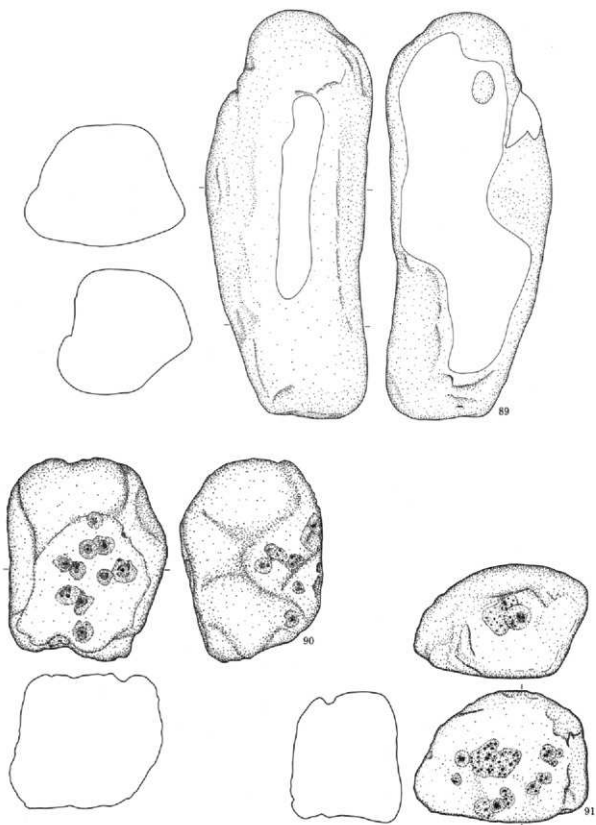


図59 20区 5号住居出土遺物

0 20cm

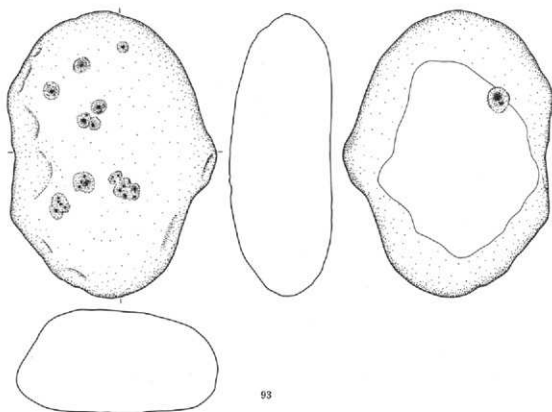
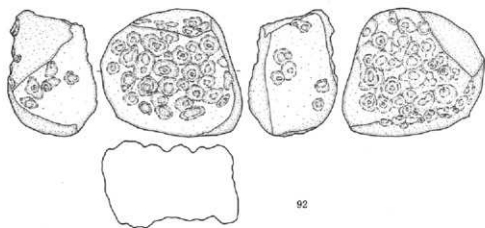


図60 20区 5号住居出土遺物



図61 20区 6号住居出土遺物



図62 20区 6号住居出土遺物



図63 20区 6号住居出土遺物

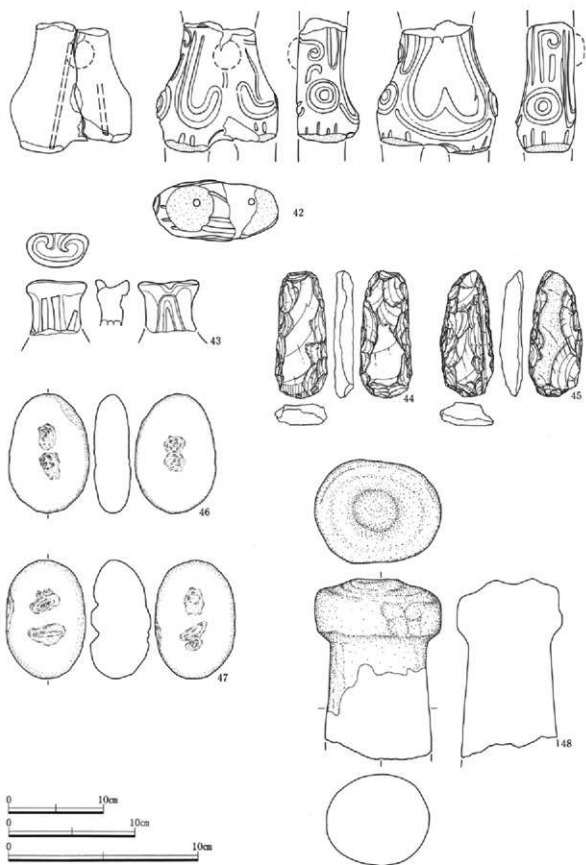


图64 20区 6号住居出土遺物



図65 20区 8号住居出土遺物

第1章 発見された遺構と遺物

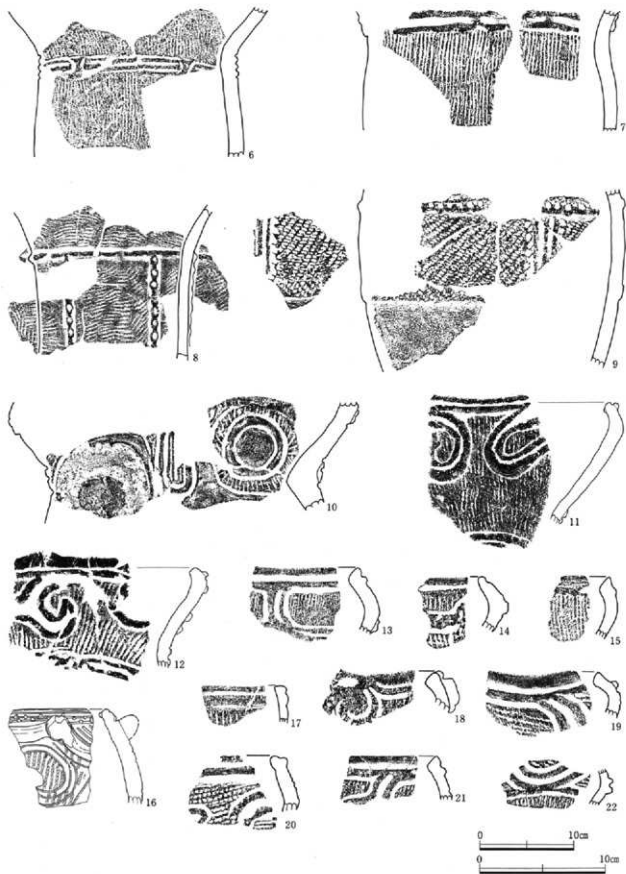


図66 20区 8号住居出土遺物

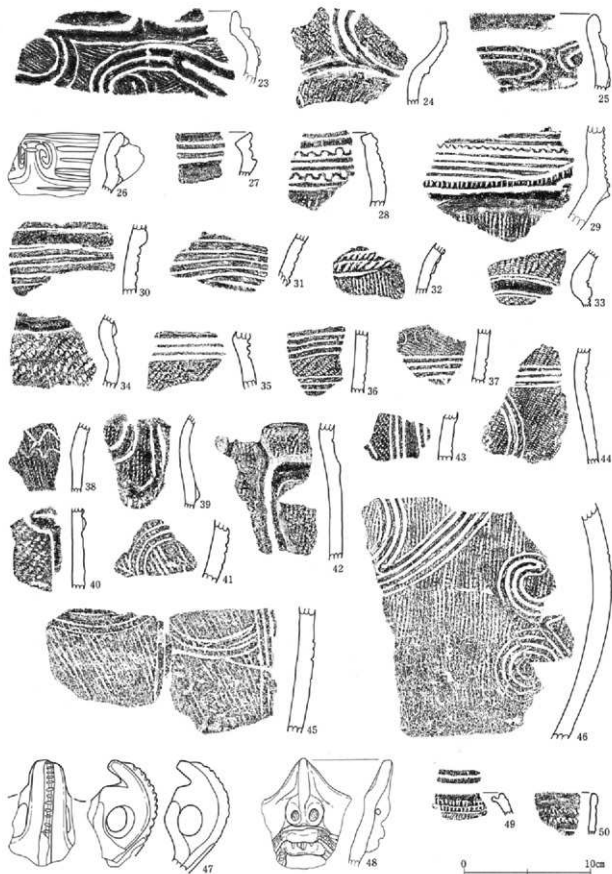


図67 20区 8号住居出土遺物



図68 20区 8号住居出土遺物



図69 20区 8号住居出土遺物

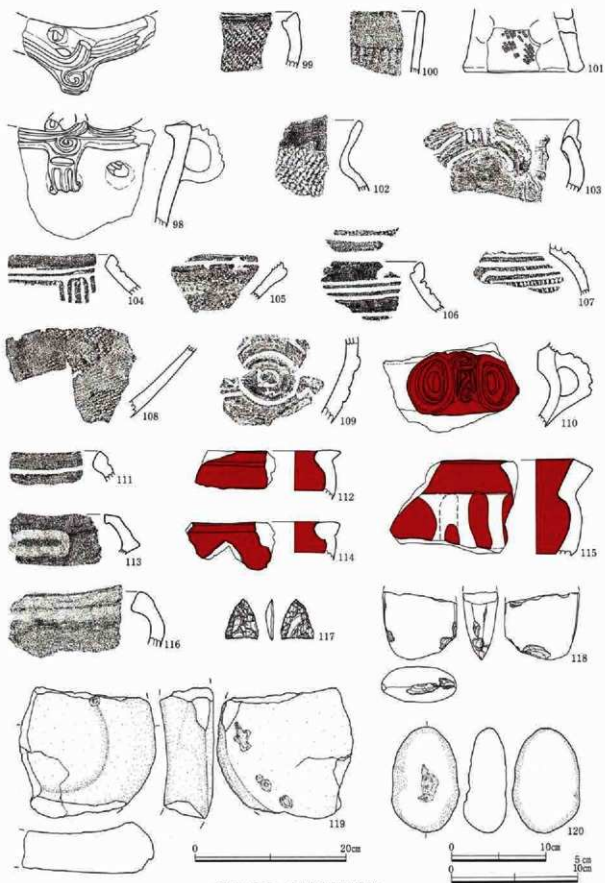


図70 20区 8号住居出土遺物

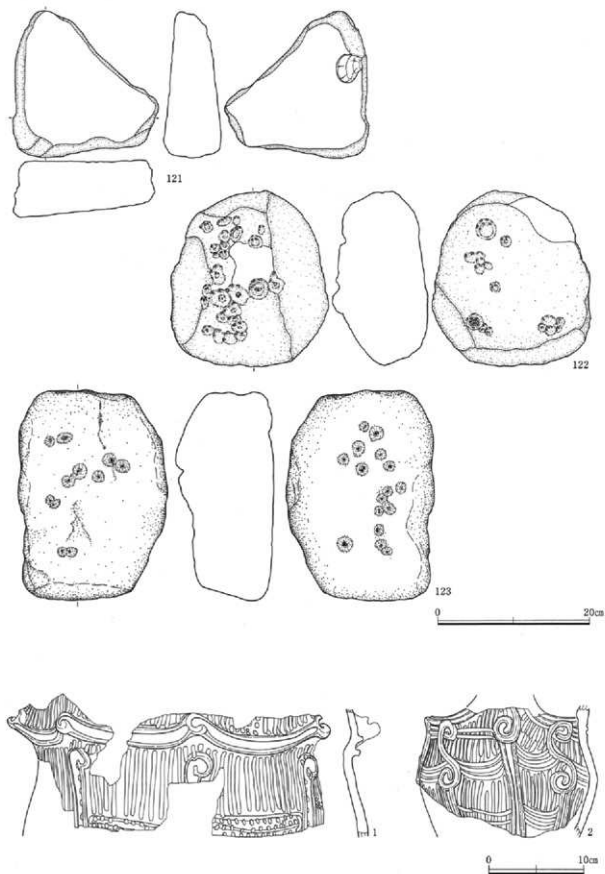


図71 20区 8号、10号住居出土遺物

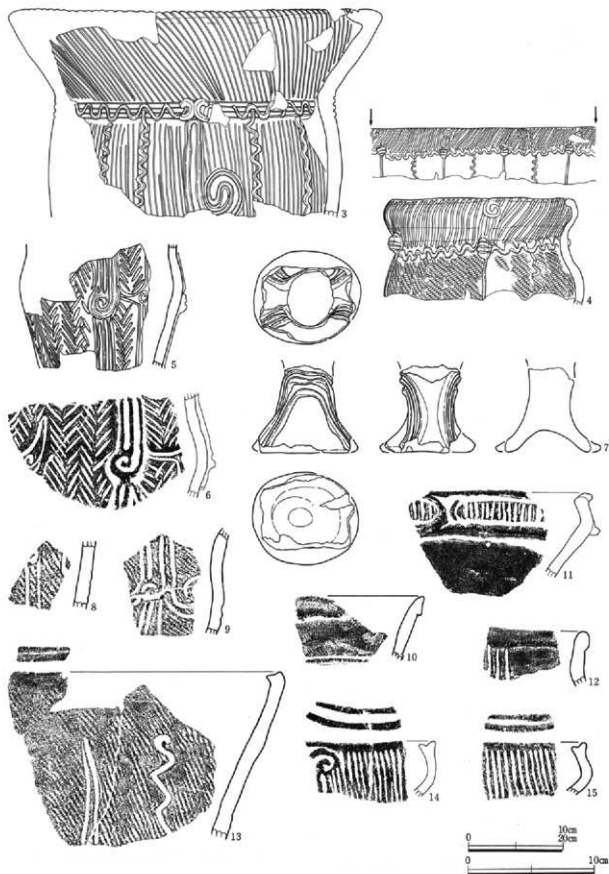


図72 20区 10号住居出土遺物



图73 20区 10号住居出土遺物

第1章 発見された遺構と遺物

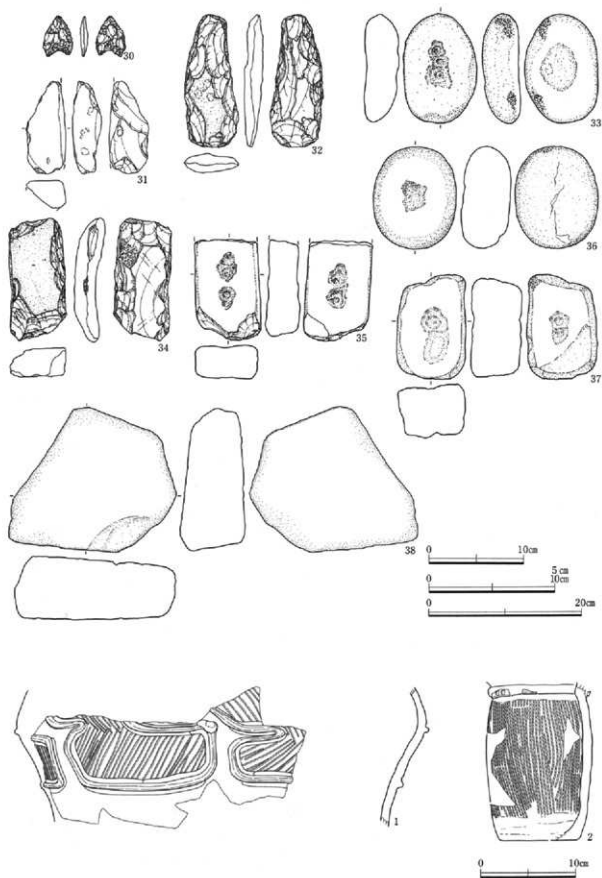


図74 20区 10号、12号住居出土遺物

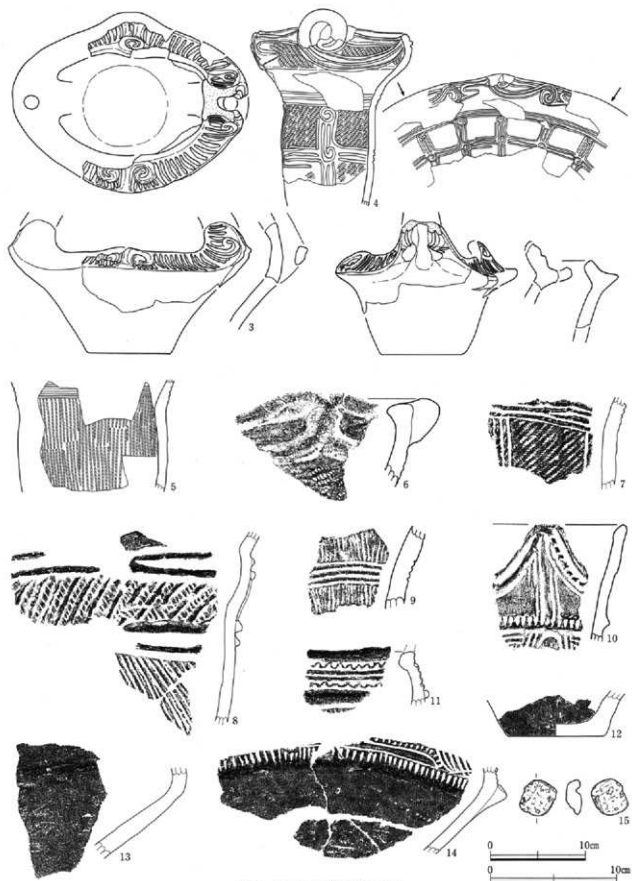


图75 20区 12号住居出土遺物



図76 20区 13号住居出土遺物

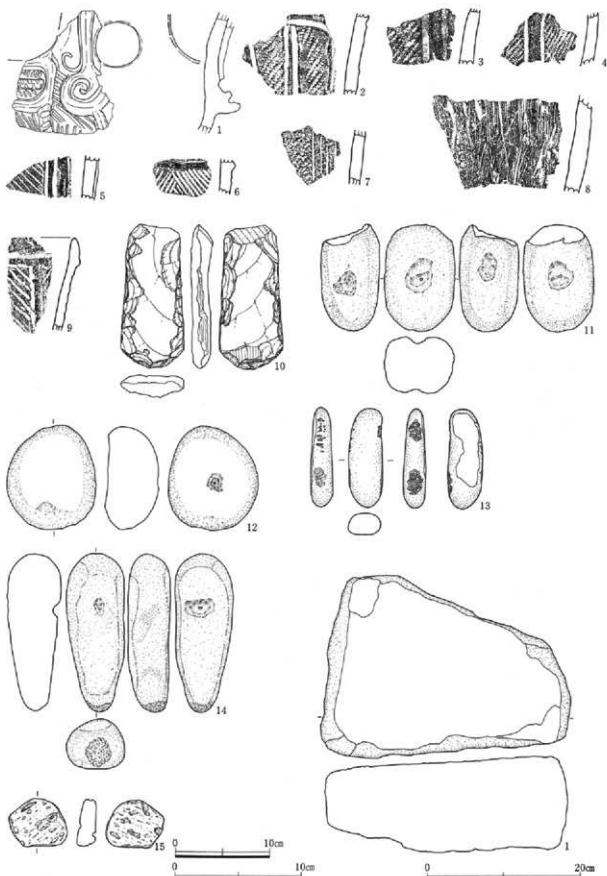


图77 20区 14号、15号住居出土遺物

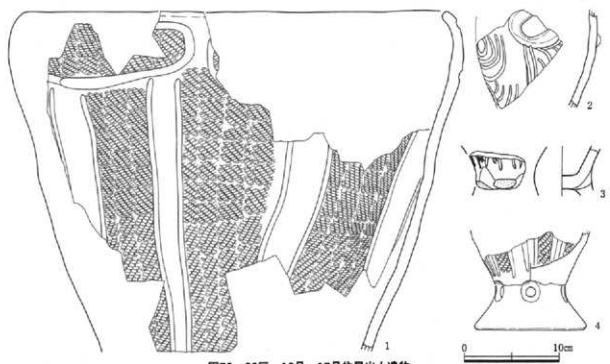
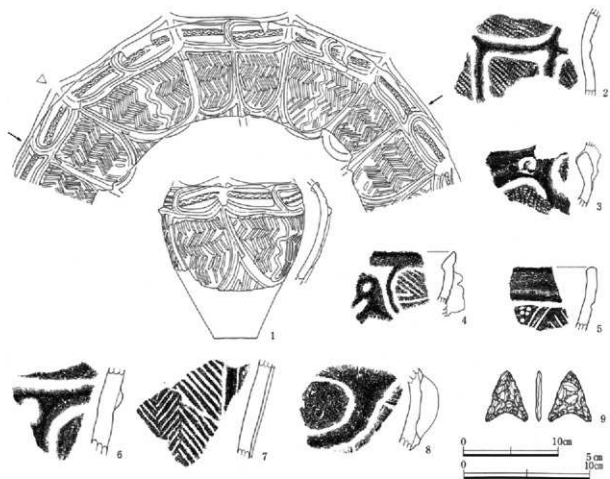


図78 20区 16号、17号住居出土遺物

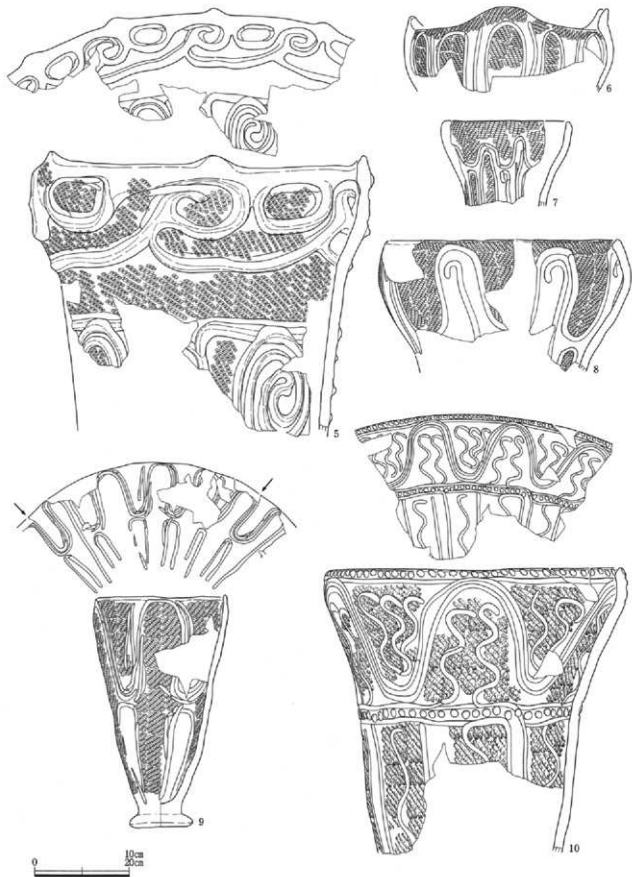


図79 20区 17号住居出土遺物



図80 20区 17号住居出土遺物

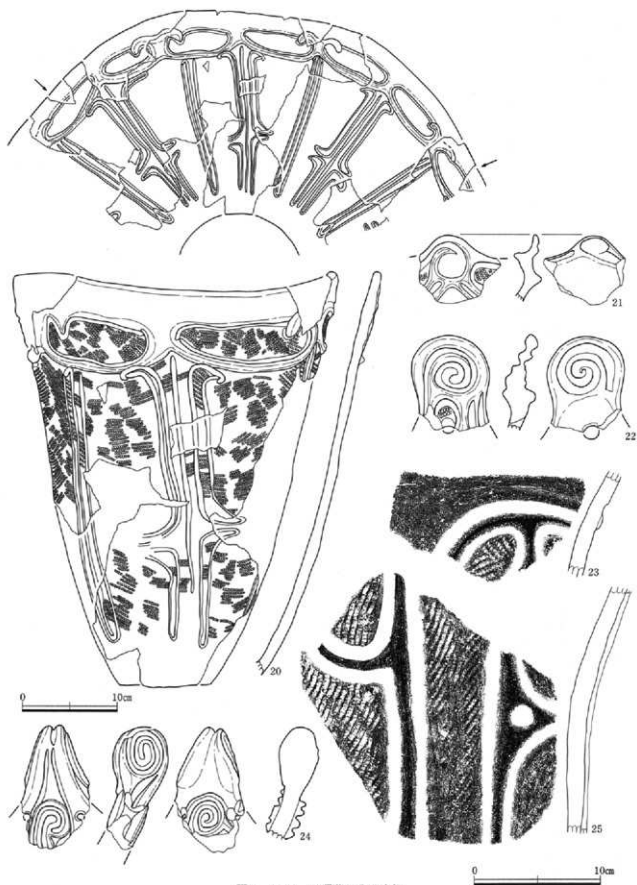


图81 20区 17号住居出土遺物



図82 20区 17住居出土遺物

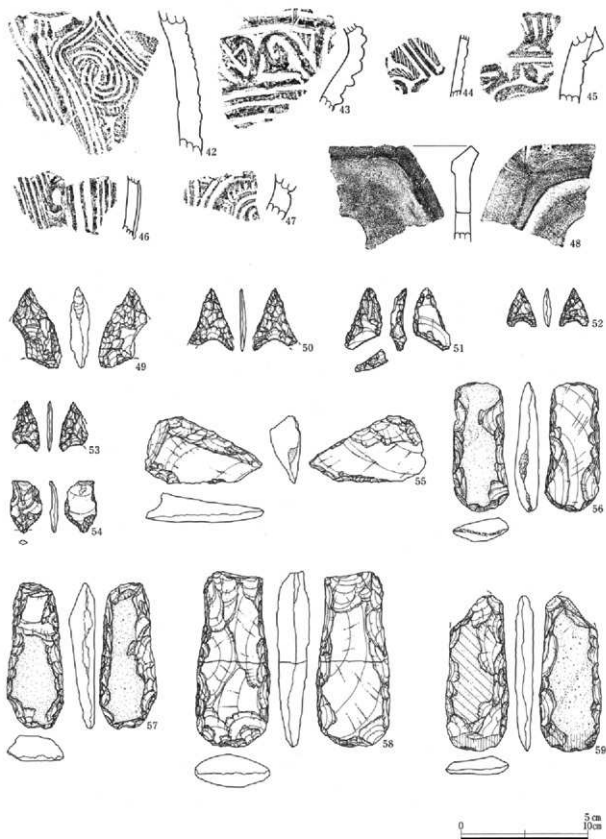


图83 20区 17住居出土遺物

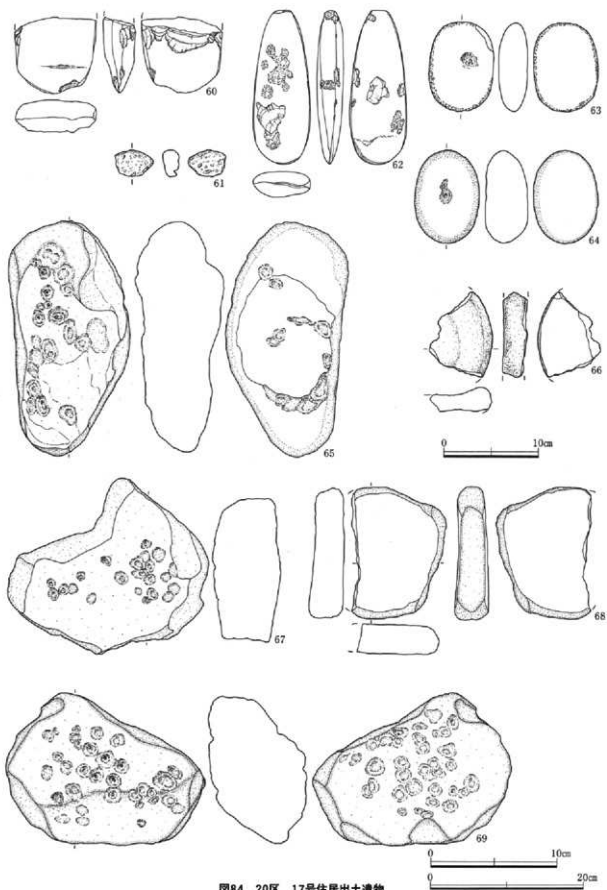


図84 20区 17号住居出土遺物

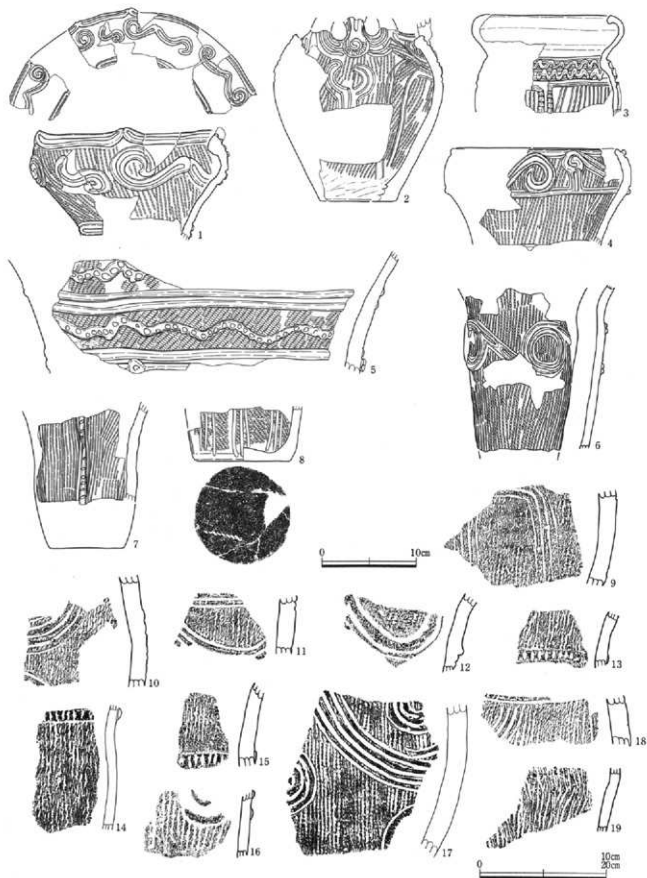


图85 20区 18号层出土遺物

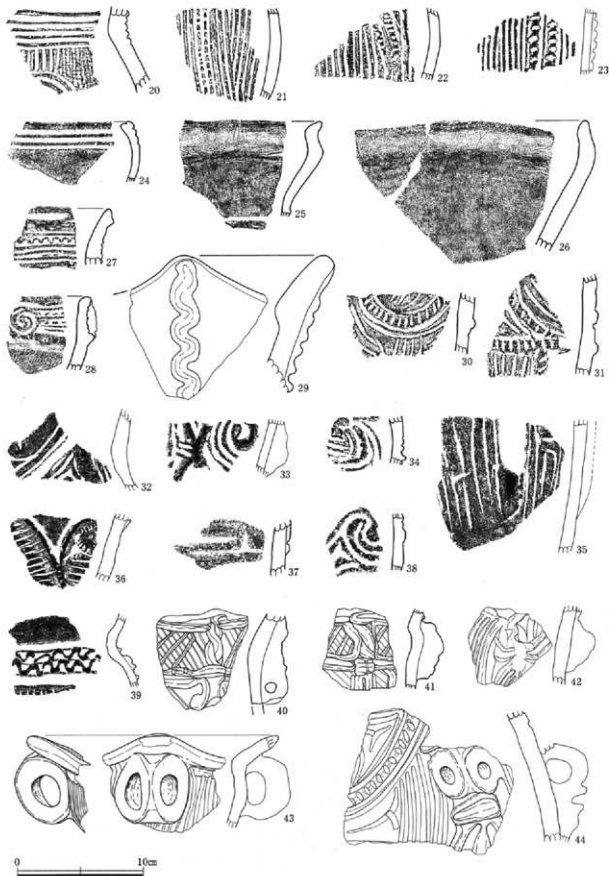


图86 20区 18号住居出土遺物

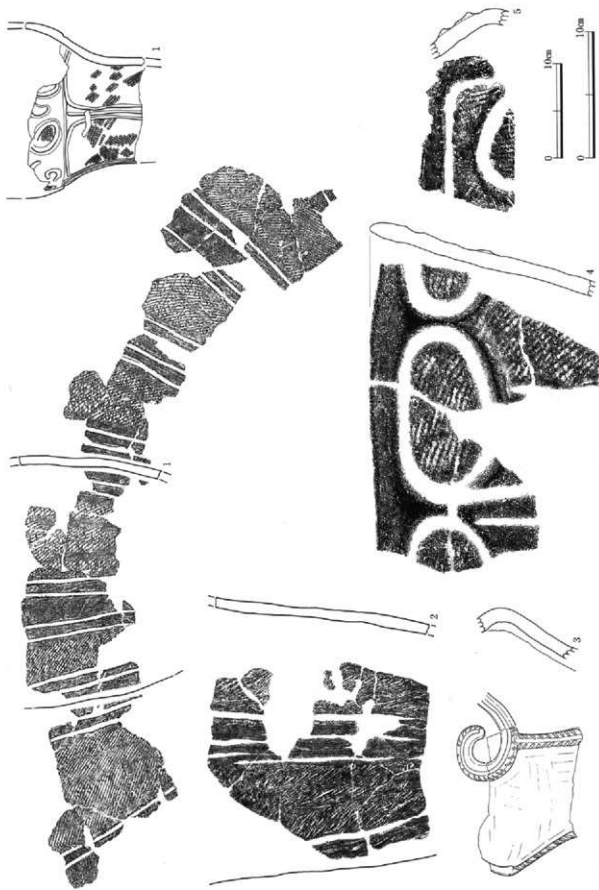


图87 20区 20号、21号住居出土遗物

第1章 発見された遺構と遺物

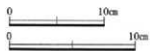
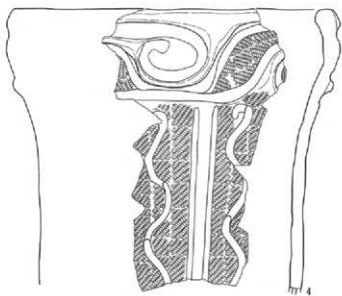
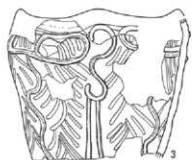
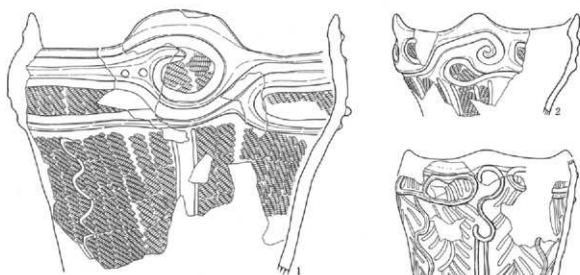
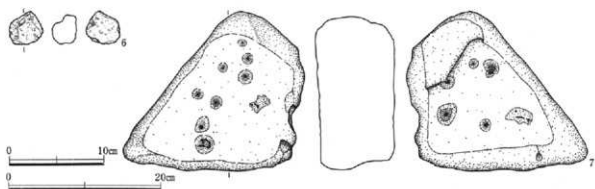


图88 20区 21号、22号住居出土遺物